



TITLE:

京都大学における国際交流の現状 と発展に向けての問題提起: 第3回 アンケート・インタビュー調査報 告書

AUTHOR(S):

京都大学国際交流センターアンケート調査班

CITATION:

京都大学国際交流センターアンケート調査班. 京都大学における国際交流の現状と発展に向けての問題提起: 第3回アンケート・インタビュー調査報告書. 2009

ISSUE DATE:

2009-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/79575>

RIGHT:

京都大学における
国際交流の現状と発展に向けての問題提起

第3回アンケート・インタビュー調査報告書

〔平成20年度京都大学全学共通経費 Ⅰ-2. 教育研究活動支援
「国際交流と留学支援体制に関する調査・研究」〕

京都大学国際交流センター
The International Center
Kyoto University

2009年（平成21年）3月

報告書の刊行にあたって

世界の経済の相互依存関係の深化やインターネットなどの情報技術の進歩など、いわゆるグローバル化の進展のなかで、大学を取り巻く環境も刻々と変化しています。日本の大学においても多くの国際学会が開催され、とめどもない巨大な知識の流れが国境を越えて起こっていることを実感できる時代となっています。海外での留学や研修を促すことが高等教育機関にとって不可欠な時代となり、欧州のエラスムス計画が進展し、中国では博士課程学生の大規模な海外派遣が進められ、米国でも学生海外派遣促進プログラムを国家的な規模で進める議論が行われています。

京都大学には、2008年5月現在で1353名の留学生がおり、また年間に少なくとも250名の学部生や院生が海外での留学や研究に出かけています。これらの学生達の国際交流は、研究者の国際交流と並んで、京都大学のキャンパス国際化の大きな力となっています。留学や海外研修は学生達にとってチャレンジであり、同時に大きなチャンスでもあります。学生達は勉学上の問題や経済的な問題を抱えながらもがんばっています。これら学生達の悩みや問題を理解し、彼らが学びやすい環境を作っていくことは、大学人にとって重要な責務です。

本冊子で指摘されている問題点の多くは、適切な学内施策の実施によりかなりの改善が期待できるものです。たとえばウェブによる留学前情報の内容や発信方法の変更です。一方で、一大学だけでは解決できない難しいものも多数含まれています。たとえば留学生に対する奨学金をいかに増やすか、あるいは日本人学生の海外留学の支障となっている、あまりに早い就職戦線の開始などです。

本調査報告は、京都大学のみならず、今後の日本の大学をはじめとする高等教育機関の国際交流に関わる施策決定に非常に重要なものを含んでいると思います。本冊子が学生の国際交流を取り巻く問題の理解と今後の施策立案に役立つことを願っています。京都大学国際交流センターでは、大学内外の諸機関のご協力を得て、これらの問題の解決のために努力をしていきたいと考えております。ぜひとも多くの方々のお力添えをお願いいたします。

2009年(平成21年)3月

京都大学国際交流センター
センター長 森 純一

目 次

はじめに	1
調査の方法	3
分析結果の概要	9
第Ⅰ部	留学生対象アンケート・インタビューの分析結果
第一章	留学先「第一志望」とされる京都大学の位置 木下 昭・・・17
第二章	留学生の生活実態 - 授業料非免除および 奨学金非受給留学生の計量的方法を用いた考察 - 小島 剛・・・41
第三章	留学生の満足度と要望 - 留学生対象アンケート自由記述の一考察 - 河上 志貴子・・・61
第四章	留学後の進路ーキャリアと日本留学ー 森 真理子・・・77
第Ⅱ部	日本人学生対象アンケート・インタビューの分析結果
第五章	京都大学生における留学志向の三層構造とその規定要因 野口 剛・・・91
第六章	海外留学の動機と制度的制約 - 日本人学生対象アンケート・インタビューの考察 - 河合 淳子・・・105
第Ⅲ部	資料編
2008年度	留学生アンケート (R票)・・・123
	アンケート調査票・単純集計
	各設問「その他」項目への回答
	自由記述

2008 年度 日本人学生対象アンケート (A 票)	227
--------------------------------------	-----

アンケート調査票・単純集計

自由記述

留学生対象インタビュー	279
-----------------------	-----

留学生対象「生活」インタビュー依頼文・質問内容

インタビュー対象者について

日本人学生対象インタビュー	283
-------------------------	-----

日本人学生インタビュー依頼文・質問内容

インタビュー対象者について

はじめに

本報告書は、2008 年度に実施した本学の国際交流に関する 2 種類のアンケート・インタビュー調査、すなわち留学生を対象とした『京都大学における留学生活に関する調査』（以下、留学生調査）及び、日本人学生を対象とした『国際交流と留学支援制度に関する調査』（以下、日本人学生調査）の結果を集計、分析したものである。

国際交流センターでは、2002 年度を初回として、3 年ごとに本調査研究を実施してきた。今回の調査で 3 回目の実施となった。過去 2 回の調査では、特に本学に在学する留学生の生活実態及び意向調査に関しては、実施規模を限らざるを得なかったが、今回は、平成 20 年度全学共通経費（I-2. 教育研究活動支援）の助成により大規模な調査を実現することができた。留学生調査においては、本学の留学生全員に調査票を配布し、全学の 42% の留学生から回答が得られた。また、留学生調査、日本人学生調査ともに、アンケートだけでなくインタビュー調査も取り入れ、より詳細なデータを得ることができた。

本報告書の執筆者は下記の通りである。いずれのメンバーも調査票の作成から、集計、分析、報告書執筆に至るまで本調査に関わり、討議を重ねてきた。

森 眞理子	京都大学国際交流センター
河合 淳子	京都大学国際交流センター
河上 志貴子	京都大学国際交流センター
木下 昭	京都大学人文科学研究所非常勤研究員 立命館大学文学部非常勤講師
小島 剛	京都大学大学院文学研究科グローバル COE 研究員
野口 剛	京都大学大学院教育学研究科博士後期課程 2 回生

（所属は 2009 年 3 月 1 日現在）

なお、蘭信三先生（上智大学）には本調査の企画及び調査開始当初の議論に加わっていただいた。

教育環境をめぐる急速な国際化への対応が急務となった現在、本学の留学生を対象とした定期的な調査及び客観的なデータの蓄積を通じて、本学の国際交流の推進に向けた現実的且つ長期的展望に立った議論を促進できれば幸いである。と同時に、過去 2 回の調査で、海外留学に対する本学学生の意向傾向も明らかになってきており、今回の調査ではより詳細にその実態を把握し、本学の教育環境の整備と国際交流の充実につなげていきたい。それぞれの問題の背景を理解し、また、中・長期的な展望を拓くためには、こうした調査の定期的実施は不可欠と考える。

調査の実施にあたり、調査票の配布・回収にご協力いただいた国際交流センター協議員の先生方、各学部の留学生担当教員の先生方のお力添えなくしては、実現は到底不可能だったであろう。この場を借りて深謝を申し上げたい。また、本学人間・環境学研究科在籍の朱銀花さん、高安真理子さん、教育学研究科在籍の岡田薪子さん、伊達平和さんには、調査実施及び報告書刊行に関わる様々な作業を補助していただいた。

最後に、多忙な中、貴重な時間を割いて本調査票への記入、インタビューに協力してくれたすべての皆様に、心より御礼を申し上げたい。皆様各々の学生生活のさらなる充実と発展へとつながるよう、本調査結果の幅広い活用を期待してやまない。

京都大学国際交流センター アンケート調査班

調査の方法

本年度は、2種のアンケート調査（1）留学生を対象とした『京都大学における留学生生活に関する調査』、（2）日本人学生を対象とした『国際交流と留学支援制度に関する調査』を実施した。さらに、両者を対象としたインタビューも行った。

【表1】

（1）2008年度 留学生対象アンケート（R票）の実施方法

回収部数 569

調査対象	実施期間	配布・実施方法	配布対象	回収部数	配布数	回収率		備考
							全体	
京都大学に在籍する全留学生	2008年6-7月	1)国際交流センター実施票：授業内又は留学生課経由で配布。回収は授業内回収又は回収箱に投函	a)文部科学省国費留学生日本語予備教育集中プログラム学生 b)日本語日本文化研修留学生 c)KUINEP学生 d)一般交換留学生	51	109	46.8%	42.1% (全留学生数の42.1%)	各部局への配布依頼数は2008年5月1日現在の統計による。
		2)部局実施票：各部局事務に配布を依頼。回収は回答者による学内便返送又は各部局回収箱に投函	各部局に在籍する全留学生(上記a)-d)を除く)	518	1244	41.6%		

（2）2008年度 日本人学生対象アンケート（A票）の実施方法

回収部数 511

調査対象	実施期間	配布・実施方法	配布対象	回収部数	配布数	回収率		備考
							全体	
京都大学に在籍する日本人学部生・大学院生（正規学生）	2008年6-7月	1)国際交流センター実施票：センター教員によるKUINEP, 多文化交流課教育クラス, ポケットゼミ, 全学共通科目, 大学院担当科目などで配布・回収又は回収箱へ投函	左記授業の受講生	123	130	94.6%	61.6% (全学生数の2.2%)	各部局への配布依頼数は昨年度(2007年度)の所属学生統計により700部を配分。
		2)部局実施票：全学の国際交流委員会及び国際交流センター協議委員会により各部局の担当講義内などで配布回収	左記委員から配布を受けた学生・大学院生	388	700	55.4%		

1. アンケート調査について

(1) 2008 年度 留学生対象アンケート (R 票) の実施方法

留学生アンケートは、まず日本語で作成し、英語訳を用意した。アンケート中の記述式設問に対しては日本語、英語、中国語、韓国語のどの言語でも回答可能とした。

内容は 2005 年度アンケートをほぼ踏襲しているが、変更点が二点ある。

一点目は、できるかぎり留学生の生活実態を把握するため、留学生活の経済的側面に関する設問を追加したことである。それらは、問 11「一ヶ月の収入」、問 14「日本に留学するための貯金額」、問 15「国元の家族・親類による留学費用の支援の有無、家族親類の年収」、問 19「一ヶ月の支出」、そして問 20「生活用品の中で一番欲しいもの」である。

二点目は、問 21「日本を留学先に選んだ理由は何ですか」、問 22「京都大学を留学先に選んだ理由は何ですか」という設問を、理由となる 12 項目それぞれにつき 4 段階スケール¹を用いた回答方法に変更したことである。また、問 23b「京都大学が第一志望でない場合、第一志望の大学はどのような点で京都大学より優れていますか。」という問いも用意した。こうすることで、今回の調査テーマの一つである世界の留学市場における京都大学の位置づけへの接近を試みた。

アンケートの配布・回収は 2008 年 6、7 月に実施した。調査対象は、京都大学に在籍中の留学生（研究生や研修員などを含む）全員である。配布および回収は以下の 2 つの方法で実施した。（【表 1】を参照のこと）

1) 国際交流センター実施票：

a)文部科学省国費留学生日本語予備集中プログラム、b)日本語日本文化研修留学生プログラム、c)KUINEP 留学生、d)京都大学との学術交流協定による留学生（一般交換留学生）に対しては、国際交流センターの授業内あるいは留学生課を経由して配布した。回収は授業担当教員による直接回収、もしくは留学生課前に設置した回収箱への投入を依頼した。配布数は 109 部、回収は 51 票で回収率は 46.8%であった。

2) 部局実施票：各部局事務の協力を得て、京都大学に在籍中の全留学生に配布した。各部局への依頼数は、2008 年 5 月 1 日現在の在籍留学生数に数部の予備を含めたものとした。各部局から留学生への配布方法は各部局の判断に任せた。

¹ 同様の設問は 2002 年度、2005 年度調査にも含まれている。しかし、過去 2 回の調査では、理由となる 12 項目から重要だったと思うものを 3 つまで選ぶというものであったため、それぞれの理由について詳細な分析が難しかった。今年度調査で用いた 4 段階スケールとは「非常に重要である」「ある程度重要である」「あまり重要でない」「重要でない」から、回答者が最も自分にあった番号を選ぶというものである。

回収は回答者による学内便での返送、もしくは各部局に設置した回収箱にて行った。配布数（実際に対象となった留学生数）は 1244 部²、回収は 518 部で、回収率は 41.6%であった。

（２）2008 年度 日本人学生対象アンケート（A票）の実施方法

今年度は従来の調査票にいくつかの設問を加えた。新たに加わった設問は、問 7 及び問 8「外国語能力に関する自己評価」、問 10「回答者の出身高校の進学率、出身地の人口規模、世帯収入」、問 11「子どものころの文化的経験」、問 13「両親の海外留学経験」である。問 10、11、13 を加えることにより、日本人学生の留学志向に影響を与える要素を特定するにあたって、大学がかかわることのできる要素（「大学内要素」と大学がかかわることが難しい要素（「大学外要素」）とに分けて分析することが可能になると考えたためである。

アンケートの配布・回収は 2008 年 6、7 月に行った。調査対象は、京都大学に在籍中の日本人学部生と大学院生である。配布および回収は以下の 2 つの方法で実施した。（【表 1】）

- 1) 国際交流センター実施票：センターの教員が提供する授業のうち、日本人学生が受講している KUINEP 英語講義、多文化間交流教育クラス、ポケットゼミ、全学共通科目で配布した。回収は教員による直接回収、若しくは留学生課前に設置した回収箱にて行った。配布数は 130 部、回収は 123 票で回収率は 94.6%であった。
- 2) 部局実施票：国際交流委員会委員、及び国際交流センター協議員の先生方に依頼し、各学部・研究科でのそれぞれの担当講義内で配布・回収してもらった。配布数は 700 部で、回収は 388 票、回収率は 55.4%であった。

いずれのアンケートにおいても、サンプリングを厳密に行ったわけではないことを予め断っておきたい。回収票の属性などに見られる偏りについては、本章 3. において述べる。

設問の多くは多肢選択あるいはスケールになっており、回答者は自分にあった番号を選ぶというものである。回収票の数値データはすべて統計的に処理した。また留学生アンケートにおいて英語、中国語、韓国語で書かれた自由記述回答は日本語に訳し入力していった。本調査に使用した調査票と単純集計、および自由記述回答は、本報告書に【資料編】として掲載した。

² 各部局に依頼したアンケート票の数は合計 1309 部である。これは数部の予備を含んでいる。そのためここでは、5 月 1 日現在の全留学生数 1353 人から、国際交流センター実施票の対象者 109 人を除いた数、すなわち 1244 人に配布したとみなし、回収率を算出した。

2. インタビューについて

今回の調査では、インタビューを取り入れた。アンケートの回答結果の分析から重要と思われる論点を絞り、それらを基にインタビュー対象者を決め、依頼した。インタビューにかかる時間は、一人につき 30 分～1 時間であったが、時には 1 時間をかなり超えることもあった。インタビューは、日本語か英語のどちらかインタビュー対象者が答えやすい言語で行った。インタビュー対象者の許可が得られた場合に、IC レコーダーで録音した。

(1) 留学生対象インタビューの実施方法

留学生に対しては観点の違う 2 種類のインタビュー、すなわち a) 留學生活の実情の把握を目的とした「生活インタビュー」、b) 日本そして京都大学を留學先に選んだ理由・その選定過程についての聞き取りを目的とした「動機インタビュー」を行った。インタビューの質問事項及び対象者の簡単な属性は【資料編】に記載した。

インタビュー対象者はすべてアンケート調査の回答者の中から選んだ。インタビュー対象者決定の手順は、次の通りである。(i)a),b)それぞれの論点から対象者を絞る³。(ii)アンケート票の最後に設けられた任意で氏名・連絡先を記入する欄に、記入のあった対象者に対し E メールでインタビュー依頼をする。(iii)場所、日時を決め、インタビューを実施する。その結果、「生活インタビュー」9 名、「動機インタビュー」14 名に対し、インタビューを行うことができた。偶然ではあるが、2 種のインタビューの対象者に重複はなかった。

「生活実態インタビュー」では、留學生活の経済的な側面を中心にいくつか予め質問事項を決め、それらに緩やかに沿いつつ、インタビュー対象者の自由な発言に任せてインタビューを進めた（第 III 部資料編）。「動機インタビュー」では、質問内容の概要は事前に設定したが、その質問事項や順序に厳格には沿うことなく、調査者とインタビュー対象者の会話の中でインタビューを進めるスタイルで行った。結果的にインタビューの内容は「生活インタビュー」「動機インタビュー」間で重なる部分も多くなり、双方の観点からの分析と考察に有効で、示唆に富んだインタビューとなった。

(2) 日本人学生対象インタビューの実施方法

日本人学生に対しては、アンケート回答者の中から対象者を絞り⁴、その中で承諾の得られた 5 名と、アンケート回答者ではないがセンター教員の依頼に応じて協力を申し出てくれた 11 名に対してインタビューを行った。この追加の 11 名は理系部局に所属する学生である。インタビューに当たって、アンケートにも答えてもらった。インタビューの質問事項及びインタビュー対象者の簡単な属性は本報告書の第 III 部資料編に記載した。

³ 「生活インタビュー」の対象者の選定方法については本報告書の小島論文、「動機インタビュー」については、木下論文を参照のこと。

⁴ 日本人学生インタビューの対象者の選定方法については、本報告書の野口論文に詳しい。

3. 京都大学全体の統計から見たアンケートデータの概要

(1) 留学生対象アンケート (R 票)

【表 2】

	①R票における回答数		②京都大学全体 2008年5月1日現在		R票比率
	(人)	(%)	(人)	(%)	(②に占める ①の割合)
出身地域					
アジア	422	74.2%	1075	79.5%	39.3%
欧州(NIS諸国を含む)	62	10.9%	124	9.2%	50.0%
中南米	27	4.7%	48	3.5%	56.3%
アフリカ	20	3.5%	41	3.0%	48.8%
中東	14	2.5%	28	2.1%	50.0%
北米	12	2.1%	28	2.1%	42.9%
大洋州	4	0.7%	9	0.7%	44.4%
その他	8	1.4%	0	0.0%	—
全体	569	100.0%	1353	100.0%	42.1%
京都大学における身分					
学部正規生	53	9.3%	142	10.5%	37.3%
大学院正規生	359	63.1%	891	65.9%	40.3%
研究生・聴講生	120	21.1%	256	18.9%	46.9%
KUINEP学生	24	4.2%	32	2.4%	75.0%
交流協定による一般交換留学生	3	0.5%	13	1.0%	23.1%
日本語・日本文化研修生	6	1.1%	19	1.4%	31.6%
その他	4	0.7%	—	—	—
全体	569	100.0%	1353	100.0%	42.1%
文系／理系／融合系※					
文系	152	26.7%	460	34.0%	33.0%
理系	343	60.3%	670	49.5%	51.2%
融合系	46	8.1%	223	16.5%	20.6%
未定	4	0.7%	—	—	—
無回答	24	4.2%	—	—	—
全体	569	100.0%	1353	100.0%	42.1%

※文系／理系／融合系の別は R 票では回答者個人の回答に拠ったが、京都大学全体の統計は、学部・研究科単位で文系／理系／融合系に分類し、所属学生はすべてその分類に属するものとして算出した。従って、実際とは若干の差があると考えられるが、全学における留学生の文系／理系／融合系比率の概要を示すものとして掲載した。

分析に入る前に、回収したアンケートデータの偏りを把握しておく必要がある。

上記【表 2】は出身地域、京都大学における身分、文系／理系／融合系の別について、アンケートデータと京都大学全体の統計を比べたものである。「R 票比率」は、アンケートデータの偏りを表すのに便利な指標である。総回収数は 569 部で、これは全学の留学生の 42.1%にあたるので、R 票比率が 42.1%より大きい項目は、分析結果に必要以上の影響を与える可能性があり、逆に 42.1%未満の項目は分析結果に十分な影響を与えられない可能性があるということになる。これを基に考えると、まず出身地域に関しては、どの地域も

42.1%からそれほど遠くない割合を示しており、比較的バランスよく回答が集まったことが示されている。次に、京都大学における身分に関しては、KUINEP 学生の多くがこのアンケートに答えている反面、一般交換留学生からの回答が少なかった。また、実態がつかみ難いとされている学部正規生は 53 名から回答があった。文系／理系／融合系については、全学統計に比して理系の占める割合が高くなっていることに留意して分析を進めたい。

(2) 日本人対象アンケート

【表 3】

	①A票における回答数		②京都大学全体 2007年5月1日現在		A票比率
	(人)	(%)	(人)	(%)	(②に占める ①の割合)
所属学部・研究科					
文学部・文学研究科	76	14.9%	1,584	7.0%	4.8%
教育学部・教育学研究科	15	2.9%	554	2.4%	2.7%
法学部・法学研究科	50	9.8%	2,363	10.4%	2.1%
経済学部・経済学研究科	23	4.5%	1,580	6.9%	1.5%
理学部・理学研究科	19	3.7%	2,567	11.3%	0.7%
医学部・医学研究科	51	10.0%	2074	9.1%	2.5%
薬学部・薬学研究科	26	5.1%	654	2.9%	4.0%
工学部・工学研究科	164	32.1%	6,300	27.7%	2.6%
農学部・農学研究科	47	9.2%	2,266	10.0%	2.1%
総合人間学部・人間環境学研究科	10	2.0%	1277	5.6%	0.8%
エネルギー科学研究科	2	0.4%	314	1.4%	0.6%
アジア・アフリカ地域研究研究科	2	0.4%	175	0.8%	1.1%
情報学研究科	11	2.2%	574	2.5%	1.9%
生命科学研究科	11	2.2%	348	1.5%	3.2%
地球環境学堂	2	0.4%	128	0.6%	1.6%
研究所・センター	1	0.2%	—	—	—
無回答	1	0.2%	—	—	—
全体	511	100.0%	22,758	100.0%	2.2%
京都大学における身分					
学部の正規生	367	71.8%	13,216	58.1%	2.8%
修士課程の正規生	117	22.9%	5,432	23.9%	2.2%
博士課程の正規生	15	2.9%	3,796	16.7%	0.4%
研究生・聴講生・科目等履修生	1	0.2%	314	1.4%	0.3%
研修員	1	0.2%	—	—	—
その他	0	0.0%	—	—	—
無回答	10	2.0%	—	—	—
全体	511	100.0%	22,758	100.0%	2.2%

A 票比率は【表 3】の通りである。人数が多い工学部・工学研究科、農学部・農学研究科、法学部・法学研究科から基準値に近い回答が集まり、全体のバランスに大きな問題はないと
いってよいだろう。しかし分析に当たっては、十分な回答が得られていない部局（理学部・
理学研究科、総合人間学部・人間環境学研究科など）があることに留意する必要がある。

(河合淳子)

分析結果の概要

国際交流センターでは、2002 年、2005 年と 3 年毎に外国人留学生、日本人学生を対象にした全学的なアンケート調査を実施してきた。今回はその 3 回目として、2008 年 7 月に外国人留学生及び日本人学生を対象としたアンケート調査を実施した。その後アンケート調査では計ることのできない学生の意見を知るため、数か月を費やしてインタビュー調査を行なった。それらの調査をもとに、過去に行なってきた調査結果も踏まえ、調査班が分析を行ない、各自が論稿にまとめた。ここでは、今回掲載された 6 本の調査論稿の概要を記す。それによって、現在京都大学の中で、「留学」や「国際交流」の視点から、留学生や日本人学生がどのような位置を占め、どのような要求を持ち、日々の研究・勉学活動が続けているかを見ていく。

6 本の論稿は、大きく二つに分類することができる。留学生を対象とした論稿として 4 本が掲載されている。また京大生の留学志向を対象としたものとして 2 本の論稿が載せられている。

ここでは、これら 6 本の論稿を内容上大きく三つにグループ分けを行ない、各グループの分析から見えてくる、現在の「留学」・「国際交流」の実状・課題を概括し、それぞれの提言について紹介する。

(1) 留学生における京都大学留学の意味と将来

木下昭「留学先「第一志望」とされる京都大学の位置」(第一章)

森真理子「留学後の進路－キャリアと日本留学－」(第四章)

(2) 留学生の生活実態調査・意識調査

小島剛「留学生の生活実態－授業料非免除および奨学金非受給留学生の計量的方法を用いた考察－」(第二章)

河上志貴子「留学生の満足度と要望

－留学生対象アンケート自由記述の一考察－」(第三章)

(3) 京都大学生の海外留学志向

野口剛「京都大学生における留学志向の三層構造とその規定要因」(第五章)

河合淳子「海外留学の動機と制度的制約－日本人学生対象アンケート・インタビューの考察－」(第六章)

(1) 留学生における京都大学留学の意味と将来

木下昭論文「留学先「第一志望」とされる京都大学の位置」(第一章)は、「彼らはな

「京都大学を選択したのか」という問いから始まった。そして京都大学が彼らの第一志望だったのか、もし第一志望でない場合、どのような理由で京都大学が選択されたのかについて分析する。

京都大学への留学理由として、1)「質の高い学問研究」と2)「日本文化・社会への関心」を重要と考える学生とを抽出した。1)の学生は、工学部・工学研究科に多く見られ、2)は、経済学部・経済学研究科及び欧米諸国の学生に特徴的であると分析する。

「第一志望」か「非第一志望」かについては、第一志望として京都大学を選択する学生は大学院正規学生と研究生・聴講生で9割近い。非第一志望の比率は、学部正規学生が高い。所属別に見ると、工学部・工学研究科と経済学部・経済学研究科が比較的第一志望率が低い。これら二学部は学内でも留学生数の多いとされる学部であり、その学部で相対的に第一志望率の低いことの意味が問われる。全体的に見ると、中国人学部・正規学生が非第一志望として京都大学に進学してきた留学生の中核といえると結論づける。

京都大学が第一志望でない理由・問題点として、母国での知名度の低さが挙げられる。さらに経済学部・経済学研究科の正規学生は、就職の有利性の面で東京大学と比較して劣っていると考えていることが指摘されている。京都大学に入学してくる留学生が、必ずしも世界の諸大学と比較した上で京都大学を第一志望としているわけではないという実態がこれらの分析によって示されたといえる。

森真理子論文「留学後の進路－キャリアと日本留学－」(第四章)は、現在京都大学に在籍中の留学生を、学部・正規学生、修士課程学生、博士課程学生、研究生(聴講生)の身分別に分類し、それぞれの身分層が、留学後の将来像をどのように描き、研究及び就職を希望しているのかを、詳細に見ていく。森論文では、1)留学生が研究・就職を選択する段階で、どのような流れで進路選択を行なうのか、その動態を知ること、2)日本で就職しようとする留学生に支援を行なうには、どの層に向け、どのような支援をすればよいのかという支援体制構築の方法を探ることの目的を立て、分析を行なう。

2005年度調査時と今回調査との結果比較から、就職希望者が増加していることがわかるが、その増加には上のどの層が大きく関わっているのかを、分析する。分析の結果として、1)学部学生には、大学院進学を視野に入れている層が多く、4年の在籍ではなく、修士課程を含め6年の在籍を希望している学生が多い。2)修士課程大学院生の新しい傾向として、研究継続より就職を選択する学生が明らかに増加している。3)博士課程大学院生には、修士→博士を一貫して京都大学に在籍するのではなく、博士課程期間だけを京都大学で研究する層がいること、就職は従来通り母国での就職が最も多いことを指摘した。

これらの学生層に対する支援の形として、1)学部学生が6年間の勉学・研究を継続できる基盤、特に経済的基盤を強化すること 2)修士学生の日本での就職活動支援の実施、また彼らの日本での就職期間がどの程度かなど、今後の調査の必要性 3)博士課程学生

は、母国以外にも日本またはその他の国に就職して研究職に従事するグローバル化傾向が見られることから、就職後京都大学とのパイプをどうつなぎ、連携していくかの道筋を京都大学側から積極的に作っていく必要があること、研究生の動向についても、今後詳細な調査が必要であるとの問題提起を行なった。

（２）留学生の生活実態・意識調査

今回のアンケート調査が以前と異なる特徴は、留学生の生活実態に関するアンケート項目を盛り込んだ点である。これは、2005 年度アンケート分析において、『非スカラシップ層』に焦点をしばった調査が必要であるとの指摘を受けた調査でもある。

小島剛論文「留学生の生活実態—授業料非免除および奨学金非受給留学生の計量的方法を用いた考察」（第二章）では、留学生の生活実態の中で、経済状況、特に奨学金支給の有無と留學生活について詳細な分析を行なった。

今回の分析結果として、奨学金または授業料減免を受けていない、全くの『非スカラシップ層』は、全体の 1.8%と大変少ないことがわかる。これら困窮層の生活状況は、インタビューを通して、非常に厳しいことが明らかになった。

さらに、経済的満足度と研究・教育の満足度には完全な相関は見られないものの、経済的不満を述べた層は、研究・教育にも不満を持っている可能性が高いことも示唆されている。

また多くの学生が、奨学金について不満を持っている現状も明らかになった。これは、『非スカラシップ層』ではなく、既に奨学金を支給されている層からの不満であることから、奨学金の額に対する不満だけでなく、多様性があることが指摘されている。

奨学金に対する不満は、１．奨学金選考の不透明性、２．奨学金情報の少なさ、３．他大学との比較で京大は不利ではないか、等到大別される。

これらの留学生の不満に対して、京都大学がなし得るサポートは、選考基準の提示、奨学金情報の公開等であろう。これらのサポートを充実することが提言として挙げられる。留学生は情報網を駆使して情報を交換している実態もある。これらの分析を踏まえ、小島論文では次の提言を行っている。傾聴すべき提言である。

- １．留学生の生活に対するきめ細かな援助
- ２．奨学金選考の基準や結果の根拠に対する大学側の説明責任
- ３．就職時期など、京都大学だけでは対応しきれない問題を学外に訴えていくこと

河上志貴子論文「留学生の満足度と要望 —留学生対象アンケート自由記述の一考察—」（第三章）では、今回のアンケート中の自由記述部分を分析した。留学生の渡日以前から、渡日直後、滞在期間中の生活など、留学生生活のほとんどが網羅された記述の中から、彼らの要求・満足している点・不満点を様々な角度から拾い上げ、簡潔に図表化して提示し

た。

1) 渡日前情報

留学生が望む内容は、カリキュラムや授業内容・専攻分野で必要な日本語能力・奨学金情報・入学試験情報・生活面、特に住居に関する情報・サークル関連情報等、充実した留学関連情報である。入手方法は京都大学ホームページ掲載を望む学生が最も多く、ウェブでの情報発信が不可欠であることを示している。しかし、現在の京都大学の留学・国際教育へのリンクが悪く、アクセスに問題があることも指摘されている。

日本での研究・日常生活で必要とされる日本語能力に関する情報提供についても情報の不足がある。特に、指導教員が必要と考える日本語能力と留学生が実際に使用しなければならない日本語とにずれがあることが指摘された点は、学内関係者への働きかけの根拠となる。

2) 渡日後の留学生活

渡日後の生活・研究状況では、1. 教員の指導・人的支援・人間関係、2. 環境の設備・整備に肯定的な意見が見られる。カリキュラムや学風、研究水準については、1、2ほど高くないものの、満足を感じている。

一方不満点として、日本人との交流の難しさ、カリキュラムや講義内容に対する不満、人的支援の不足などが挙げられる。

これらの不満点に共通して現れる点として、日本語能力不足のために、研究・日常生活で不利益を被っている、または英語が使えないことから生じるもどかしさを挙げる学生がいることが指摘される。「ことばの壁」の問題である。それ以外に、経済支援充実の問題、特に奨学金制度の透明化を求める意見が見られる。

留学生の生活実態についての全学的調査はこれまでに例がない。その意味で、この調査は資料的価値も大きいといえる。またそこに加えられた考察によって、留学生にとって最も重要な経済問題が鮮明化されたことは、今後留学生を受け入れる際の経済基盤を考える上で意義深い。またアンケート調査では計りにくい留学生の生の声は、記述や聞き取りによって知ることができる。アンケートによる数値とは必ずしも一致しないが、留学生の多彩な要求が窺え、少数意見であると思っていたものが、自由記述の中に何度も出現することから、実は留学生の大きな問題点であることも見えてくる。

(3) 京都大学生の海外留学志向

野口剛論文「京都大学生における留学志向の三層構造とその規定要因」（第五章）は、2005年度調査報告書で挙げられた留学志向に関する京大生の三層構造（積極派・浮動層・消極派）という分類を下敷きにして、留学志向と三層構造をなす京大生の属性・能力との関連付けを考察するものである。

アンケート調査結果のまとめとして、次のような属性・能力を有する学生が留学志向の積極層と関連することがわかる。

- ・なじみのある外国語能力がどの技能においても高い
- ・専門的外国語と話す技能が高い
- ・出身地の人口規模は大きいほど積極的、また小さいほど積極的という二極化が見られる
- ・文化資本的経験が多い
- ・今後海外への志向がある
- ・留学経験がある
- ・留学生から受ける影響が高い

野口論文は、このような学生を確定し検証することが、効率的な支援につながることを指摘する。この指摘は、今後学生を送り出そうとしている大学の施策に生かされるべきものである。

さらに野口論文では、上記のうち外国語能力と留学志向について着目し、同程度の留学志向がありながら外国語運用能力が高い／低い差が生じる理由について、インタビューを通して調査した。その結果として、外国語運用能力の差が生じるのは、個人に関連づけて語学を学習する必要がある場合であり、一般論として語学学習をしようというものではないことが導き出される。このことから大学への提言として、個々人が身近に留学を体験できる機会や施設の提供による留学へのバックアップの必要性を挙げた。

河合淳子論文「海外留学の動機と制度的制約－日本人学生対象アンケート・インタビューの考察－」（第六章）は、2005年度調査で課題として提示された「理系学生の留学志向に関する重点的な調査」を、1. 理系学生の留学志向の弱さが今回の調査でも見られるか 2. それが一つの傾向であるならその理由は何か 3. 外国語運用能力に関する京都大学生の状況と要望 4. 学生が大学の国際交流・留学支援体制に対して持つ印象の紹介の4点を通し、日本人学生の海外への送り出しの促進を考える手掛かりを提示する。

分析の結果、1. 理系学生は留学全般に対して消極的ではなく、学部留学に対して消極的である。2. その理由として、A. 動機の問題と、B. 制度的制約があることを挙げる。

動機の問題として、「留学は大学院になってするもので、学部留学は考えていない」理系学部学生がほとんどであるが、学部でしかできない交換留学を人生経験と捉える学生の存在もある。制度上の制約とは、京都大学のカリキュラムと留学との両立の難しさである。実験、単位互換、就職、進学などの問題がそこに絡んでくる。それが先入観となって、学部での留学をより実現不可能なものとしている傾向が見えてくる。

3. 外国語運用能力の状況では、語学力の不安が交換留学制度での留学の大きな障壁になっている点に焦点をあてる。その具体的な問題として、A. 実質的な側面（受け入れ校での語学能力の基準点）B. 心理的側面（語学力の自己評価が留学動機に影響する）の二側面

から考えていく。Aについては、京大学生が基準点に達するにはある程度の学習時間を要するので、大学側はその点を早い段階で学生に知らせ、語学学習の支援を行なう必要があるという結論を導く。Bについては、語学力の不足が学生を消極的にしているのであるから、入学後半年～一年で海外留学に応募できる基準に到達する語学運用力の強化策を講じるか、語学が少々出来なくても送り出せる状況を作り出すことが大学に求められると提言する。

4. 大学の留学支援体制に対する学生の印象の項では、情報提供の充実など、留学支援の必要が見えてくる。全体として河合論文では、次のような提言を行なう。

- 1) 交換留学は半年でも可能で、在学中に留学に適した時期があることを、早い時期に学生に説明する必要がある。
- 2) 留学志向の三層構造、学部生・院生、文系・理系さらには専攻別を考慮した支援体制、中でも情報提供が必要である。
- 3) 海外留学に対する動機を喚起すること、つまり学生に興味を起こさせることが最も重要かつ難しい問題である。学生の動機は極めて多様であり、大学としてなし得ることは未だ明らかにならないが、留学生との共学機会の充実などを通して国際性を養う環境を長期的に作りつつ、海外研修・海外留学を卒業要件にするなどの明快な方策を打ち出す必要が示唆されている。

以上6本の論文は、各自の問題意識に立ち、詳細な分析を通して、現在の京都大学の学生交流と留学生に関する提言や問題提起を行なっている。2005年度実施の調査報告が、今回の調査報告をまとめる上での基調となつて、調査の蓄積と展開を可能にしたことの意義は大きい。2005年時点でまだ萌芽的であつた諸問題が今回の調査で顕在化し、提言として形をなしたことは、国際交流センターの活動を遂行するうえで、きわめて有意義であるといふことができる。但し、今回の調査でも課題として残された問題は多々存する。

それらの問題を的確に把握し、国際交流センターとして、京都大学として何をなすべきかを考えるためには、個別の問題点・各学生層に焦点をしばった、目的別調査が必要となる。

2008年度現在、留学生政策は「30万人計画」へとステージを移した。新しい施策の中で、留学生受け入れ、日本人学生の送り出しの規模拡大を前提に、これまでに述べられた論点も、より具体的で実質的な議論に発展進化していくことが求められるであろう。その時には、また新たな視点から留学生の動向を見据えていくことが問われるに違いない。

(森 眞理子)

第 I 部

留学生対象アンケート・インタビューの分析結果

第一章

留学先「第一志望」とされる京都大学の位置

木下 昭

1 : はじめに

近年、日本のプレゼンスの相対的低下が指摘されて久しいが、留学先としての存在感もこの例に漏れない。日本は、アメリカ及びヨーロッパに次ぐ三番手グループ内での争い、すなわちオーストラリア、カナダ、シンガポール、中国などとの争いに終始せざるを得ない状況にあるとされる。したがって、日本に来る留学生は、アメリカやヨーロッパへの留学を果たせなかった者たちというイメージがある。

ところがこれまでの調査では、実際に留学している学生たちの大部分は、日本、京都大学が「第一志望」だったと答えている。例えば、2002 年の調査では、「日本は留学先として第一志望でしたか」という問に対して 82.7%が「はい」と回答している。2005 年度の調査でも「京都大学は留学先として第一志望でしたか」という質問には 87.4%が「はい」と答えている。これはなぜだろうか。そもそも彼らはなぜ京都大学を選択したのだろうか。本稿では、これらの問題の解明に寄与したい。

そこで、今回の留学生調査の中で、日本そして京都大学が留学先として選ばれた理由、そしてそのとき京都大学が第一志望だったのか否か、第一志望でなかったとすれば何が問題だったのかという設問結果を主に分析したい。これらの設問については、これまで詳しい分析が試みられてこなかったが、本稿では留学生の京都大学における所属や身分、そして出身国との関係に着目して議論する。またこのアンケート調査回答者の中から協力者を募り、インタビューを行った。このインタビューの中で、留学先の選定理由、そして選定過程について主に聞き取りを行った。こうした量的調査と質的調査を組み合わせることによって、留学生にとっての京都大学の位置を探るが、本稿では、とりわけアンケート調査の分析に重きをおき、インタビュー調査の結果をその補足として用いる。

2 : 調査の概要

調査の詳細については、本報告書の別稿「調査の方法」および資料編を参照していただくとして、ここでは調査対象者の基本的なデータを提示しておきたい。全参加者は 569 名で、そのうち男性 60.3%、女性 38.7%である。平均年齢は 27.24 歳で、これは後述するように、留学生の多くが博士課程所属者を中心とした大学院正規学生であることを反映している。所属学部・研究科に関しては、工学部・工学研究科に属する留学生が 22.7%と突出している以外は、9.7%の農学部・農学研究科から 0.2%の教育学部・教育学研究科まで分散している。文系理系の区分では、60.3%が理系に属している。

インタビューは留学生 14 名に対して、2008 年 10 月から 1 月にかけて、京都大学内に

において一人当たり 30 分から 1 時間で、半構造化スタイル¹で行った。インタビュー内容はインフォーマントの承認を受けてすべて IC レコーダに録音した。

3：日本および京都大学の選択理由

3. 1：全体的傾向

日本を留学先に選んだ理由

表 1：日本を留学先に選んだ理由

日本を留学先に選んだ理由	平均値※	回答者数※※
質の高い学問・研究	3.65	558
日本の文化・社会への関心	3.19	551
日本政府などの奨学金を得た	3.08	444
母国で高い評価を受けるから	2.74	512
母国の先生の推薦	2.39	430
日本語ができる	2.29	446
地理的に近い国だから	2.08	456
家族・親戚の推薦	2.08	422
母国に適当な大学がない	2.02	431
友人・知人の推薦	2.02	428
親・配偶者等が日本人・日系人	1.35	288

※「日本を留学先に選んだ理由は何ですか」という設問を用い、各項目において「重要でない」を 1 点、「あまり重要でない」を 2 点、「ある程度重要」を 3 点、「非常に重要」を 4 点として平均値を出している。※※無回答、又は「該当しない」を選んだ回答者を除く。

京都大学を留学先に選んだ理由

表 2：京都大学を留学先に選んだ理由

京都大学を留学先に選んだ理由	平均値※	回答者数※※
優れた教育研究指導	3.71	549
充実した施設・研究環境	3.61	543
京都で学びたい	2.96	511
就職に有利	2.87	483
カリキュラムがよい	2.75	474
母国の先生の推薦	2.46	417
入学試験に合格	2.46	388
文部科学省による指定	2.28	342
日本語が出来る	2.14	420
友人・知人の推薦	2.05	398
家族・親戚の推薦	1.91	390

※平均値の算出方法、及び※※無回答、又は「該当しない」の扱いは表 1 に同じ

¹ 半構造化スタイルとは、質問内容の概要は事前に設定するものの、その質問事項や順序に厳格には沿うことなく、調査者とインフォーマント（インタビュー対象者）の会話の中でインタビューを進めるスタイルのことを示す。

そもそも現在の留学生は、なぜ京都大学にいたのであろうか。まず表 1 では、日本を留学先として選択した理由を確認した。今回の調査からもっとも重要と考えられる項目は、表 1 にあるように 4 点満点中 3 点をかなり越える数値を示した「質の高い学問・研究」である。これに続いて、3 点を越えるのが「日本文化・社会への関心」と「日本政府などの奨学金を得た」である。

次に京都大学の選択理由（表 2）としては、「優れた教育研究指導」および「充実した施設・研究環境」が非常に重視されており、表 1 の日本選択で「質の高い学問・研究」が最も重要な理由であることと重なることが明示されている。これらに続く「京都で学びたい」も数値はやや低いですが、表 1 の「日本文化・社会への関心」との結びつきを検討する余地がある。

3. 2 : 出身国と所属・身分の関係

分析を始めるにあたり、留学生の「出身国」の概要、そして「出身国」と「所属部局」・「京都大学での身分」との関係を基礎データとしてみておきたい。これは、本稿 4.以降で、これらの項目別に、留学先選定理由を検討していくための基礎作業である。

表 3 は、本アンケート回答者の出身国の分布である。中国（36.4%）が突出しており、日本の近隣の東アジア及び東南アジアで 76.6%を占めていることがわかる。一方でヨーロッパ出身者が 10%を越え、またアジアでも日本から遠方地域（南アジア・中東など、これらの地域を総称して本稿では「アジアその他」と呼ぶことにする）からの出身者も少なくないことがわかる。これは、京都大学全体における留学生の地域別分布にほぼ一致している。

表 3 : 留学生の出身国

	人 数	回 答 総 数 に 占める割合
アジア※	436	76.6%
中国	207	36.4%
韓国	58	10.2%
タイ	34	6.0%
台湾	27	4.7%
インドネシア	19	3.3%
マレーシア	14	2.5%
ベトナム	12	2.1%
東南アジアその他	17	3.0%
アジアその他	48	8.4%
北米	13	2.3%
アメリカ※※	10	1.8%
カナダ	3	0.5%
中南米	27	4.7%
ブラジル	11	1.9%
中南米その他	16	2.8%
欧州	63	11.1%
フランス	13	2.3%
ドイツ	11	1.9%
欧州その他	39	6.9%
アフリカ	19	3.3%
その他（大洋州4、その他2）	6	1.1%
不明	5	0.9%
合 計	569	100.0%

※本稿では中東地域をアジアに含んでいる。

※※複数国を記入した場合は、その他とした。ただし、「アメリカ・日本」の回答はアメリカに含めた。

表 4：出身地域と京都大学における身分との関係

京都大学での身分	出身地域					
	アジア	北米	中南米	ヨーロッパ	アフリカ	その他
学部正規学生	11.0	0.0	3.7	3.2	5.3	0.0
大学院正規学生	67.2	53.8	74.1	38.1	52.6	16.7
研究生・聴講生	18.1	30.8	22.2	34.9	36.8	33.3
学術交流協定による留学生	0.2	7.7	0.0	0.0	0.0	16.7
KUINEP学生	2.1	7.7	0.0	19.0	0.0	33.3
日本語・日本文化研修生	0.9	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0
その他	0.5	0.0	0.0	1.6	5.3	0.0
合計(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(人)	436	13	27	63	19	6

表 5：所属と出身地域との関係

所属学部	出身地域					
	アジア	北米	中南米	ヨーロッパ	アフリカ	その他
国際交流センター	4.8	7.7	14.8	15.9	21.1	50.0
総合人間学部	0.5	0.0	0.0	1.6	0.0	16.7
文学部・文学研究科	5.1	7.7	7.4	22.2	0.0	0.0
教育学部・教育学研究科	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
法学部・法学研究科	3.9	7.7	0.0	1.6	0.0	0.0
経済学部・経済学研究科	9.0	7.7	3.7	14.3	0.0	0.0
理学部・理学研究科	4.1	7.7	11.1	7.9	0.0	16.7
医学部・医学研究科	5.8	7.7	11.1	6.3	5.3	0.0
薬学部・薬学研究科	4.8	0.0	0.0	1.6	5.3	0.0
工学部・工学研究科	25.3	7.7	29.6	4.8	26.3	16.7
農学部・農学研究科	11.3	7.7	11.1	1.6	5.3	0.0
人間・環境学研究科	4.4	7.7	0.0	1.6	0.0	0.0
エネルギー科学研究科	8.5	0.0	3.7	0.0	15.8	0.0
アジア・アフリカ研究科	1.6	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0
情報学研究科	4.6	15.4	0.0	14.3	10.5	0.0
生命科学研究科	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地球環境学舎・三才学林	1.6	0.0	7.4	1.6	5.3	0.0
その他	3.0	15.4	0.0	4.8	0.0	0.0
合計(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(人)	434	13	27	63	19	6

表 4 では、京都大学における身分と出身国の関係を見た。大学院正規学生が大部分を占めるアジア、南北アメリカ、そしてアフリカ諸国出身者と、その比率が相対的に小さく KUINEP 学生の比率が高いヨーロッパ出身者との差異があることがわかる。

一方、表 5 のように、所属学部を出身地域別に見てみると、多くの地域において、工学部・工学研究科が留学先の中核であることがわかる。この傾向と大きな差異があるのがヨーロッパ出身者である。彼らは文学部・文学研究科、そして経済学部・経済研究科に相対的に集まり、逆に工学部・工学研究科に少ない。

4：留学理由

以上の基礎データを踏まえ、留学先選定理由の分析を始めたい。

3. 1の全体的傾向の分析で明らかになった、日本への留学理由として最も重要と考えられる項目である「質の高い学問・研究」すなわち研究環境・教育水準、及び「日本文化・社会への関心」に焦点を当てつつ、議論を進めてゆきたい。

4. 1：研究環境・教育水準の重要性

4. 1. 1：身分との関係

表6：身分別に見た「日本を留学先にした理由（質の高い学問・研究）」の重要性

京都大学での身分	日本を留学先とした理由：「質の高い学問・研究」					合計	
	非常に重要	ある程度重要	あまり重要でない	重要でない	非該当	(%)	(人)
学部正規学生	67.9	30.2	1.9	0.0	0.0	100.0	53
大学院正規学生	73.8	24.2	1.1	0.6	0.3	100.0	351
研究生・聴講生	76.7	20.8	0.8	1.7	0.0	100.0	120
学術交流協定による留学生	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	100.0	3
KUINEP学生	12.5	41.7	16.7	29.2	0.0	100.0	24
日本語・日本文化研修生	66.7	16.7	0.0	0.0	16.7	100.0	6
その他	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	4
全体(%)	70.8	24.8	2.0	2.0	0.5	100.0	561

まず、研究環境・教育水準が留学先選定の理由としてどれほどの意味を持つのかを見てみたい。

表6の「全体(%)」欄から分かるが、回答者全体の傾向は、「質の高い学問・研究」を重要と考える者が **95.6%**（「非常に重要」**70.8%**＋「ある程度重要」**24.8%**）と非常に高くなっている。すなわち、研究環境・教育水準の高さが日本を選択するにあたって要であったことがわかる。これを京都大学における身分との関係で見ると、大学院レベルの学生（大学院正規学生と研究生・聴講生）で最も高く、これに若干数値が低い学部正規学生が続いている。これらの学生と比較して、KUINEP学生においては、研究環境・教育水準の高さの重要性は低く解釈されていることが分かる。

4. 1. 2 : 学部・研究科との関係

表 7 : 所属学部別に見た「日本を留学先にした理由 (質の高い学問・研究)」の重要性

所属部局	日本を留学先とした理由:「質の高い学問・研究」					合計	
	非常に重要	ある程度重要	あまり重要でない	重要でない	非該当	(%)	(人)
国際交流センター	65.1	27.9	2.3	2.3	2.3	100.0	43
総合人間学部	0.0	50.0	0.0	25.0	25.0	100.0	4
文学部・文学研究科	62.5	30.0	5.0	2.5	0.0	100.0	40
教育学部・教育学研究科	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	1
法学部・法学研究科	77.8	16.7	0.0	5.6	0.0	100.0	18
経済学部・経済学研究科	<u>50.0</u>	34.0	8.0	8.0	0.0	100.0	50
理学部・理学研究科	74.1	25.9	0.0	0.0	0.0	100.0	27
医学部・医学研究科	74.3	25.7	0.0	0.0	0.0	100.0	35
薬学部・薬学研究科	68.2	27.3	0.0	4.5	0.0	100.0	22
工学部・工学研究科	<u>82.8</u>	14.8	2.3	0.0	0.0	100.0	128
農学部・農学研究科	68.5	31.5	0.0	0.0	0.0	100.0	54
人間・環境学研究科	52.4	47.6	0.0	0.0	0.0	100.0	21
エネルギー科学研究科	77.5	22.5	0.0	0.0	0.0	100.0	40
アジア・アフリカ研究科	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	100.0	7
情報学研究科	72.7	24.2	3.0	0.0	0.0	100.0	33
生命科学研究科	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	100.0	6
地球環境学舎・三才学林	54.5	36.4	0.0	9.1	0.0	100.0	11
その他	88.9	5.6	0.0	5.6	0.0	100.0	18
全体(%)	70.8	24.9	2.0	2.0	0.4	100.0	558

表 7 からは、「質の高い学問・研究」を「非常に重要」とする学生は、若干理系部局が高いが、文系・理系では大きな差はないことがわかる。しかし、個々の部局を見ると、80%を超える工学部・工学研究科と 50%しかいない経済学部・経済学研究科との間に大きな差があることが注目される²。

4. 1. 3 : 出身地域

研究環境・教育水準の位置づけについては、地域及び国によって大きな相違が見られる。表 8 から分かるように、日本を留学先と選んだ理由として「質の高い学問・研究」を「非常に重要」とした者の割合は、アフリカ、アジアが高く、それに中南米が続く。北米及び

² ここでは、在籍留学生が 25 名以下の部局については、結果を表で提示するにとどめ、部局の傾向としては言及していない。なぜなら、所属学生が少数の場合、個々の回答の影響力が大きくなり、全体的傾向としては捉えにくいためである。

ヨーロッパでは、この要素が相対的に重視されていないことがわかる。この点を、京都大学の選択理由において確認してみたものが表9であるが、やはり、同様の傾向がみられることが分かった。すなわち、北米及びヨーロッパで、京都大学に留学した理由として「優れた研究教育指導」を重要視する者の割合は、他地域と比較して低いことが確認できるのである。

表8：出身地域別に見た「日本を留学先にした理由（質の高い学問・研究）」の重要性

出身地域	日本を留学先とした理由：「質の高い学問・研究」					合計	
	非常に重要	ある程度重要	あまり重要でない	重要でない	非該当	(%)	(人)
アジア	75.1	22.4	1.2	1.2	0.2	100.0	429
北米	53.8	23.1	15.4	7.7	0.0	100.0	13
中南米	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0	27
ヨーロッパ	47.6	41.3	4.8	6.3	0.0	100.0	63
アフリカ	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	100.0	18
その他	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	100.0	6
全体(%)	70.9	24.8	2.0	2.0	0.4	100.0	556

表9：出身地域別に見た「京都大学に留学した理由（優れた教育研究指導）」の重要性

出身地域	京都大学を留学先とした理由：「優れた教育研究指導」					合計	
	非常に重要	ある程度重要	あまり重要でない	重要でない	非該当	(%)	(人)
アジア	79.5	18.2	0.9	0.5	0.9	100.0	429
北米	61.5	15.4	7.7	15.4	0.0	100.0	13
中南米	74.1	11.1	3.7	7.4	3.7	100.0	27
ヨーロッパ	55.7	26.2	8.2	3.3	6.6	100.0	63
アフリカ	88.9	0.0	0.0	5.6	5.6	100.0	18
その他	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0	100.0	6
全体(%)	76.2	18.2	2.2	1.6	1.8	100.0	554

以上のように、北米、ヨーロッパにおいて、研究環境・教育水準が日本留学や京都大学留学の誘因になりにくいことが明らかになった。また別に行った分析では、「優れた研究教育指導」や「充実した施設・研究環境」に関して、東アジアの先進国、台湾と韓国、とりわけ韓国出身者が他のアジア諸国と比較して、重視していないこと（「非常に重要」が、前項に関して 63.2%、後項に関して 48.2%）が明らかになっている（表は省略）。これは先

進国となった韓国が、欧米諸国と類似した日本留学の意味づけを保持するようになったためかもしれない。彼らについては、他項目の結果も踏まえて、最後にまとめたい。

さらに、個々の学生が留学先を決定するにあたって、「留学したい国をまず決定し、次にその国の大学の中から所属先を選ぶ」という手順がとられているとの想定があるが、それには当てはまらないケースもあることが示唆されている。表 8 に戻るが、中南米においては、アフリカ、アジアに比べると日本を留学先に選ぶ理由として「質の高い学問・研究」を重要視する者の割合が小さいという結果が見て取れる。これは、ブラジルを除く中南米諸国出身者がこれを比較的重視しないためと考えられる。別に行った分析では、「質の高い学問・研究」を「非常に重要」とするのは、ブラジル出身者は 81.1%であったが、ブラジルを除く中南米諸国では 56.3%にすぎないという結果となった（表は省略）。興味深いのは、京都大学に留学した理由として「優れた研究教育指導」を「非常に重要」とする者の割合は、ブラジルを除く中南米諸国出身者が 75.0%となっており、72.7%のブラジルを上回っており（表は省略）、先の「質の高い学問・研究」に関する結果と矛盾する。つまり、ブラジルを除く中南米諸国出身者の留学先決定過程において、重視すべき研究環境・教育水準を、国単位ではなく、大学単位で検討していた可能性が高い。

4. 1. 4：総合分析—ヨーロッパ出身者と経済学部・経済学研究科所属留学生の特徴

以上、4. 1. 1～4. 1. 3では、留学先の選定において、「質の高い学問・研究」、すなわち研究環境・教育水準がどの程度重要なのかについて、身分、部局、出身地域別に検討を加えてきた。これをまとめると、注目すべき結果として下記の点をあげることができる。

（1）ヨーロッパ出身者

まず出身地域別で北米及びヨーロッパ出身者が、「質の高い学問・研究」を重視しない傾向が見られた。特にヨーロッパ出身者でこの傾向が強い。この理由として、これらの地域からの留学生が、専門性を要求されない学部レベルに偏っているためとの仮説が考えられるが、実際にはこれは適合しない。彼らは、全体としてはこの項目を重視する傾向のある大学院正規学生でも、これを「非常に重要」とするのが 54.2%となっており、アジア出身者（同 76.6%）と比べて大きな差がある。つまり、京都大学における身分に関わりなく、この項目を相対的に重視していないことがわかる。したがって彼らの場合、別の要因を重要視していることが察せられ、その解明が必要である。

（2）経済学部・経済学研究科と中国人留学生

所属部局別では経済学部・経済学研究科の留学生において、「質の高い学問・研究」が相対的に重視されないことが明らかになった。これは、ここに所属する留学生の半数を占める中国出身者の影響が大きい。すなわち、経済学部・経済学研究科に所属する中国出身者の

52.0%しか「非常に重要」と回答していないのである。中国人留学生全体では 75.7%がこの項目を「非常に重要」としていることを念頭に置くと、割合の低さが際立っている。さらに、経済学部・経済学研究科所属の中国人留学生は、いかなる身分でも数値が低いことが分かっており（学部正規学生 50.0%、大学院正規学生 66.7%、研究生・聴講生 45.5%）、非常に特徴的である。彼らの留学要因についても、後段においてさらに検討を深めたい。

4. 2：日本・京都の位置づけ

次に日本や京都で学ぶことが、留学生の渡航先選定にどの程度影響を与えているのかを考えてみたい。日本・京都の位置づけに関連がある項目のうち、「日本を留学先に選んだ理由：日本文化や社会への関心」への回答を中心に分析を進めたい。併せて、同様の意味合いを持つと思われる「京都大学に留学した理由：京都で学びたかったから」に対する回答についても考察する。

4. 2. 1：身分

表 10：身分別にみた「日本を留学先にした理由（日本の文化・社会への関心）」の重要性

京都大学での身分	日本を留学先とした理由： 「日本の文化・社会への関心」					合計	
	非常に重要	ある程度重要	あまり重要でない	重要でない	非該当	(%)	(人)
学部正規学生	26.4	50.9	20.8	1.9	0.0	100.0	53
大学院正規学生	32.2	48.9	13.8	3.7	1.4	100.0	348
研究生・聴講生	50.0	38.1	11.0	0.8	0.0	100.0	118
学術交流協定による留学生	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	100.0	3
KUINEP学生	70.8	20.8	4.2	4.2	0.0	100.0	24
日本語・日本文化研修生	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	100.0	6
その他	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	4
全体(%)	37.8	45.1	13.3	2.9	0.9	100.0	556

京都大学における身分との関係を見ると、留学先の選定にあたって「日本の文化・社会への関心」を重視しない正規学生（学部生、大学院生）と、重視する日本語・日本文化研修生や KUINEP 学生ほかで二分されることがわかる。京都大学の選択理由のうちの「京都で学びたかったから」についても、これほど明確な差はないが同様の傾向が見られる（表は省略）。

4. 2. 2 : 所属

表 1 1 : 所属学部別に見た
「日本を留学先にした理由（日本の文化・社会への関心）」の重要性

所属部局	日本を留学先とした理由： 「日本の文化・社会への関心」					合計	
	非常に 重要	ある程度 重要	あまり重要 でない	重要で ない	非該当	(%)	(人)
国際交流センター	62.8	34.9	2.3	0.0	0.0	100.0	43
総合人間学部	<u>75.0</u>	0.0	0.0	25.0	0.0	100.0	4
文学部・文学研究科	<u>60.0</u>	27.5	10.0	2.5	0.0	100.0	40
教育学部・教育学研究科	<u>100.0</u>	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	1
法学部・法学研究科	<u>60.0</u>	26.7	6.7	6.7	0.0	100.0	15
経済学部・経済学研究科	<u>61.2</u>	26.5	10.2	2.0	0.0	100.0	49
理学部・理学研究科	<u>40.7</u>	40.7	11.1	0.0	7.4	100.0	27
医学部・医学研究科	<u>22.9</u>	54.3	20.0	2.9	0.0	100.0	35
薬学部・薬学研究科	<u>27.3</u>	59.1	13.6	0.0	0.0	100.0	22
工学部・工学研究科	<u>21.9</u>	59.4	12.5	5.5	0.8	100.0	128
農学部・農学研究科	<u>22.6</u>	49.1	24.5	1.9	1.9	100.0	53
人間・環境学研究科	38.1	52.4	4.8	0.0	4.8	100.0	21
エネルギー科学研究科	25.0	42.5	30.0	2.5	0.0	100.0	40
アジア・アフリカ研究科	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	100.0	7
情報学研究科	51.5	36.4	6.1	6.1	0.0	100.0	33
生命科学研究科	16.7	66.7	16.7	0.0	0.0	100.0	6
地球環境学舎・三才学林	27.3	54.5	18.2	0.0	0.0	100.0	11
その他	38.9	44.4	16.7	0.0	0.0	100.0	18
全体(%)	37.8	45.0	13.4	2.9	0.9	100.0	553

所属別に見ると、「日本の文化・社会への関心」に関しては、文学部・文学研究科、経済学部・経済学研究科、法学部・法学研究科といったこれを重視する傾向がある文系の部局と、そうでない理系とで二分された（表 1 1）。一方、表は提示していないが、「京都で学びたかったから」という項目に関して同様の分析を行ったところ、全般的に重要性は低く、文理の差も明確ではなかった。

4. 2. 3 : 出身地域

先に研究環境・教育水準を重視しないことが明示された欧米諸国は「日本の文化・社会への関心」を他と比較して重要視していることが表 1 2 でわかる。ヨーロッパ出身者の全員が、「非常に重要」「ある程度重要」と答えている。

表 1 2 : 出身地域別に見た
「日本を留学先にした理由（日本の文化・社会への関心）」の重要性

出身地域	日本を留学先とした理由： 「日本の文化・社会への関心」					合計	
	非常に重要	ある程度重要	あまり重要でない	重要でない	非該当	(%)	(人)
アジア	30.8	48.5	16.2	3.3	1.2	100.0	425
北米	61.5	30.8	7.7	0.0	0.0	100.0	13
中南米	48.1	37.0	11.1	3.7	0.0	100.0	27
ヨーロッパ	69.4	30.6	0.0	0.0	0.0	100.0	62
アフリカ	50.0	44.4	0.0	5.6	0.0	100.0	18
その他	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0	6
全体(%)	37.7	45.2	13.2	2.9	0.9	100.0	551

この点をヨーロッパの中で国別に検討したところ、ドイツ出身者の 90.9%、フランス出身者 69.2%が「非常に重要」としており、この傾向が顕著に見られる。京都大学を選択した理由としての「京都で学びたかったから」についても、「非常に重要」とした学生が、全体では 37.0%なのに対して、60.0%いるドイツと 53.8%いるフランスは目を引く結果となっている（表は省略）。

逆にアジア諸国出身者はこうした点を重視しない傾向がある。典型的なのは韓国であり、「日本の文化・社会への関心」や「京都で学びたかったから」を「非常に重要」とする学生が、それぞれ 18.2%、21.4%しかいない。もっともアジア諸国が一様の反応を示しているわけではなく、「日本の文化・社会への関心」や「京都で学びたかったから」を比較的重視するタイ（前項を「非常に重要」とするのが 47.1%、後項については 51.5%）のような東南アジアの国々もある（表は省略）。

4. 2. 4 : 総合分析—文学部・文学研究科と経済学部・経済学研究科の相違

以上、4. 2 では、留学先の選定において「日本の文化・社会への関心」が、どの程度重要かについて、身分、部局、出身地域別に検討を加えてきた。これをまとめると、注目すべき結果として下記の点をあげることができる。

(1) ヨーロッパ出身者と文学部・文学研究科

これまで見てきたように、ヨーロッパ出身者は全般的に、「日本の文化・社会への関心」を重視する傾向がみられるが、これは彼らの中に多い KUINEP 学生ら非正規学生に限ったことではない。大学院正規学生であっても「非常に重要」とするものが 45.8%おり、全体の 32.2%を 10%以上上回っている。つまり、専門的な学習・研究をする学生たちにも大きな意味を持っているのである。所属部局別ではヨーロッパ出身者の場合、文学部・文学研

究科では「非常に重要」とするものが 14 人のうち 13 人（92.9%）と顕著である。もっともこのうち、ドイツ人 4 人全員を含む 9 人は非正規の学生である。

（2）経済学・経済学研究科のアジア人留学生

注目されるのは、相対的にこの項目を重視しないアジア出身者の中でも、経済学・経済研究科所属者では「非常に重要」とするものが 38 人のうち 63.2%、大学院正規学生でも 70.6%（17 人中 12 名）と、全般的な傾向と反する比較的高い値を示していることである。これは中国人を中心に、日本経済への専門的なレベルを含めた関心が衰えていないためと解釈しうる。

（3）「京都で学ぶ」という動機

京都大学の選択理由として、「京都で学びたかったから」という項目について分析を行った結果、ヨーロッパ出身者の場合、大学院正規学生にも「非常に重要」とするものが 45.8% おり、全体の 32.9% を 10% 以上上回っていて、専門的な学習・研究する学生たちにも意味を持つことが相対的に多いことが明らかになった。しかし全体的には、アジア出身者を中心に「日本の文化・社会への関心」と同程度の重要性は保持していない。これは、先述のようにアジア出身者の「日本の文化・社会への関心」の中心が経済面にあることが原因の一つであろう。

4. 3：奨学金

これまでとりわけ重要と考えられる二つの項目を見てきたが、ここでは補足として奨学金の影響を見てみよう。というのも、平均値ではその重要性は 3 番目の項目だが、「非常に重要」とする比率は 44.2% と「質の高い学問・研究」に次ぐ高さにあるからである。このことから特定のグループにとって、決定的な重要性を「奨学金」が保持していることが想定される。また留学のための経済的基盤に関わる以上、この内実を明らかにする必要があると考える。

4. 3. 1：身分

奨学金を重視しているのは、専門性の高い大学院正規学生、及び研究生・聴講生である（表 1 3）。

4. 3. 2：所属

所属別に奨学金の重要性を見ると、文系理系別では、相対的に理系の部局で重視されていた。（表は省略）

表 1 3 : 身分別に見た

「日本を留学先とした理由（日本政府などの奨学金を得た）」の重要性

京都大学での身分	日本を留学先とした理由： 「日本政府などの奨学金を得た」					合計	
	非常に重要	ある程度重要	あまり重要でない	重要でない	非該当	(%)	(人)
学部正規学生	17.0	15.1	22.6	22.6	22.6	100.0	53
大学院正規学生	46.0	16.9	7.1	10.0	20.0	100.0	350
研究生・聴講生	45.6	13.2	7.9	13.2	20.2	100.0	114
学術交流協定による留学生	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	100.0	3
KUINEP学生	20.8	16.7	8.3	37.5	16.7	100.0	24
日本語・日本文化研修生	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	100.0	6
その他	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0	100.0	4
全体(%)	42.2	15.7	8.7	13.5	19.9	100.0	554

4. 3. 3 : 出身地域

表 1 4 : 出身国別に見た

「日本を留学先にした理由（日本政府などの奨学金を得た）」の重要性

	日本を留学先とした理由： 「日本政府などの奨学金を得た」					合計	
	非常に重要	ある程度重要	あまり重要でない	重要でない	非該当	(%)	(人)
中国	19.2	11.1	15.7	18.2	35.9	100.0	198
韓国	37.5	21.4	3.6	19.6	17.9	100.0	56
タイ	70.6	11.8	5.9	5.9	5.9	100.0	34
台湾	37.0	14.8	11.1	25.9	11.1	100.0	27
インドネシア	63.2	26.3	5.3	0.0	5.3	100.0	19
マレーシア	64.3	14.3	7.1	7.1	7.1	100.0	14
ベトナム	75.0	8.3	8.3	0.0	8.3	100.0	12
東南アジアその他	76.5	23.5	0.0	0.0	0.0	100.0	17
アジアその他	73.9	19.6	2.2	2.2	2.2	100.0	46
アメリカ	30.0	30.0	0.0	10.0	30.0	100.0	10
カナダ	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0	3
ブラジル	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0	100.0	11
中南米その他	68.8	18.8	6.3	0.0	6.3	100.0	16
フランス	46.2	15.4	0.0	38.5	0.0	100.0	13
ドイツ	9.1	18.2	9.1	27.3	36.4	100.0	11
欧州その他	55.3	21.1	5.3	10.5	7.9	100.0	38
アフリカ	33.3	11.1	5.6	11.1	38.9	100.0	18
その他	50.0	0.0	0.0	16.7	33.3	100.0	6
不明	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	100.0	5
全体(%)	42.2	15.7	8.7	13.5	19.9	100.0	554

奨学金に関しては、必ずしも欧米と非欧米のような区分はあてはまらない。しかも地域内の差異が大きいことが、前頁の表 1 4 で見ることでできよう。アジアの中でも多様性は大きく、東南アジアで重要な意味を保持しているのに対して、中国や韓国は非該当者も多く、これらの国からは社会的に多様な層から日本に来ていることがわかる。またアフリカからの留学生にも同様の傾向が見られることから、彼らにも比較的恵まれた社会層の出身者が含まれていることが予想される。一方先進国は全般的に「非常に重要」の選択率が低いが、ドイツとフランスの相違に見られるように、一様ではない。

これまでのデータを組み合わせると、奨学金をとりわけ重視するブラジル出身者の中でも、大学院正規学生（「非常に重要」とするのが 89.9%）にとって、その重みは際立っている。加えて奨学金を重視する学生が比較的集まっているのは、工学部・工学研究科に属する大学院正規生の「アジアその他」の留学生（「非常に重要」とするのが 74.3%）である。このような学生たちの場合、インタビューをしてみると留学先決定過程で、指導教員ならびに大学の選択と表裏一体で奨学金申請が行われ、その実現の要になっていることがしばしばあることがわかった。

4. 4：他の要因の影響について—日本語能力と地理的要因

本章の最後に、これまで検討していないいくつかの項目について若干触れておきたい。まず日本語能力は、日本を選択した理由としても、京都大学を選択した理由としても重視されていないことを確認しておきたい。その中で相対的に重要視しているのが、中国と台湾で、この能力を「非常に重要」とする者が 30%前後となっている。日本語教育が比較的盛んな韓国が、これらの諸国と比して重要性の認識が著しく低く（「非常に重要」とするのが 3.6%）表れているのが興味深い。また、「地理的要因」、すなわち地理的に近いことが留学先選定に影響したかに関しては、当然のことながらアジアの留学生にとって意味を持っているが、これも決定的な要因とはいえない（表は省略）。

5 : 「第一志望」と「非第一志望」の意味

これまで、日本および京都大学への留学理由を見てきた。いずれの理由であれ、それぞれの思いを胸に京都大学に籍を置くようになったのだが、その中には希望に沿わない形で入学した者もいる。今回の調査においても、京都大学は85.2%の学生たちから「第一志望」の留学先とされているが、13.2%は「第一志望」ではない。この第一志望、そして「非第一志望」に関するアンケート調査の結果から、示唆するところを見てみよう。まず手がかりとして差異の出た変数を中心として分析したい³。

5. 1 : 身分・希望学位との関係

表15 : 京都大学における身分と京都大学が第一希望か否かの関係⁴

京都大学での身分	京都大学は第一希望か		合計	
	第一希望	非第一希望	(%)	(人)
学部正規学生	64.2	35.8	100.0	53
大学院正規学生	89.6	10.4	100.0	355
研究生・聴講生	88.8	11.2	100.0	116
学術交流協定による留学生	66.7	33.3	100.0	3
KUINEP学生	79.2	20.8	100.0	24
日本語・日本文化研修生	100.0	0.0	100.0	6
その他	100.0	0.0	100.0	3
全体(%)	86.6	13.4	100.0	560

$$\chi^2 = 29.786^{***5}$$

表15によれば、「非第一志望」比率が高いのは、学部正規学生と学術交流協定による留学生であることがわかる。逆に大学院正規学生、そして研究生・聴講生では、90%近くに及ぶ人々が、第一志望で京都大学に所属している。

³ 変数として大きな差異が生まれなかったのは、男女、文系・理系、奨学金の有無である。

⁴ 留学生の身分の内訳は、大学院正規学生が63.1%、続いて研究生・聴講生が21.1%で、これらで80%を越え、学部正規学生は9.3%にすぎないことは念頭においておく必要がある。

⁵ χ^2 値に添付してある「*」、「**」、「***」は、それぞれ、5%、1%、0.1%水準で有意であることを示している。以下同じ。

表 1 6 : 取得希望学位と京都大学が第一希望か否かの関係

取得希望学位	京都大学は第一希望か		合計	
	第一希望	非第一希望	(%)	(人)
博士	90.7	9.3	100.0	311
修士	87.7	12.3	100.0	146
学士	55.6	44.4	100.0	27
全体(%)	87.8	12.2	100.0	484

$$\chi^2 = 28.630^{***}$$

また、表 1 6 が示すように、専門性が高まるとともに京都大学を第一志望とする比率が高まっていることもわかる。学士取得希望者は少数ではあるが、第一志望とした学生が博士学位希望者と比較して約 45% も低いことは目を引く。本調査によれば、京都大学では学位取得希望者が留学生全体の 86.3% を占め、そのうち博士希望者が 64.2%、修士希望者が 35.1%、学士希望者が 6.4% であり、博士学位希望者の比率の高さが、第一志望者率の高さを支えている。

5. 2 : 学部・研究科

表 1 7 : 所属と京都大学が第一希望か否かの関係

所属部局	京都大学は第一希望か		合計	
	第一希望	非第一希望	(%)	(人)
国際交流センター	82.9	17.1	100.0	41
総合人間学部	75.0	25.0	100.0	4
文学部・文学研究科	87.5	12.5	100.0	40
教育学部・教育学研究科	100.0	0.0	100.0	1
法学部・法学研究科	94.7	5.3	100.0	19
経済学部・経済学研究科	77.6	22.4	100.0	49
理学部・理学研究科	92.9	7.1	100.0	28
医学部・医学研究科	85.3	14.7	100.0	34
薬学部・薬学研究科	86.4	13.6	100.0	22
工学部・工学研究科	79.1	20.9	100.0	129
農学部・農学研究科	90.7	9.3	100.0	54
人間・環境学研究科	85.7	14.3	100.0	21
エネルギー科学研究科	97.6	2.4	100.0	41
アジア・アフリカ研究科	100.0	0.0	100.0	8
情報学研究科	93.8	6.3	100.0	32
生命科学研究科	83.3	16.7	100.0	6
地球環境学舎・三才学林	100.0	0.0	100.0	11
その他	94.1	5.9	100.0	17
全体(%)	86.5	13.5	100.0	557

調査に参加した学生の所属ごと⁶の相違を見ると、全体の第一志望率 86.5%を下回っているのは、工学部・工学研究科（79.1%）、そして経済学部・経済学研究科（77.6%）であることがわかる。工学部・工学研究科は全留学生数の 22.7%を受け入れており、突出して所属学生が多い。また経済学部・経済学研究科は、文系で最も留学生の多い部局である。つまり数的に見れば京都大学でもっとも留学生をひきつけているはずの学部・研究科が、相対的に留学生からの「評価が低い」ように見える。

5. 3 : 出身国

表 18 : 出身国と京都大学が第一希望か否かの関係

出身国	京都大学は第一希望か		合計	
	第一希望	非第一希望	(%)	(人)
中国	83.0	17.0	100.0	206
韓国	93.1	6.9	100.0	58
タイ	91.2	8.8	100.0	34
台湾	92.3	7.7	100.0	26
インドネシア	89.5	10.5	100.0	19
マレーシア	85.7	14.3	100.0	14
ベトナム	83.3	16.7	100.0	12
東南アジアその他	100.0	0.0	100.0	17
アジアその他	80.4	19.6	100.0	46
アメリカ	100.0	0.0	100.0	10
カナダ	100.0	0.0	100.0	2
ブラジル	100.0	0.0	100.0	11
南アメリカその他	87.5	12.5	100.0	16
フランス	84.6	15.4	100.0	13
ドイツ	80.0	20.0	100.0	10
欧州その他	81.1	18.9	100.0	37
アフリカ	94.4	5.6	100.0	18
その他	83.3	16.7	100.0	6
不明	80.0	20.0	100.0	5
全体(%)	86.6	13.4	100.0	560

表 18 で、出身国別に傾向を分析してみよう。すべての国の出身者において第一志望率が 80%を越えており、極端に評価の低い国は見られない。ただアジアでは中国とベトナム、そして「アジアその他」といった地域、およびヨーロッパ諸国で相対的に第一志望率が低い。

⁶ ここでは、少なくとも 10 名以上のデータが得られている部局について言及する。在籍留学生が 10 名以下の部局については、結果を表で提示するにとどめ、部局の傾向としては言及していない。

5. 4 : 総合分析－中国人留学生と工学部・工学研究科

以上、本章では京都大学が留学先として第一志望であったかどうかについて、身分、部局、出身地域別に検討を加えてきた。これらの結果を横断的に分析するとどのようなことがいえるのだろうか。

(1) 中国人学部正規学生

まず出身国別の第一志望率を、さらに京都大学における身分によって分類してみた。その結果、中国出身の学部正規学生の第一志望率が **57.6%**と著しく低いことがわかった。これは韓国の学部正規学生 **85.7%**が京都大学を第一志望としていること、あるいは同じ中国出身の大学院正規学生の第一志望率が **86.9%**、研究生・聴講生が **92.5%**であることを考えても特徴的である。京都大学を第一志望としない学部正規学生の中で、**62.3%**を中国出身者が占めている。つまり中国人学部正規学生が京都大学に不本意ながら進学してきた留学生の中核といってよい（表は省略）。

(2) 工学部・工学研究科と農学部・農学研究科の相違

この中国人学部正規学生の **23 人**、**69.7%**が集まるのが工学部なのである（中国人学部正規学生がいるのは他に経済学部と農学部のみである）。工学部の中国人学部正規学生の第一志望率は、**56.5%**とさらに低い。ただ、工学研究科に所属する中国人大学院正規学生の第一志望率が **75.0%**と中国人大学院正規学生全体の第一志望率と比較して **10%以上**低いことを見ると、第一志望率の低さは工学部・工学研究科という部局にあつまる中国人全般に伴う特徴といえる。経済学部・経済学研究科に属する中国人も、人数は学部生 **4 人**、院生 **9 人**とはるかに少ないながらも、同様の傾向が見られる（第一志望率は、学部正規学生 **25.0%**、大学院正規学生 **77.8%**）。これと異なるのが、農学部・農学研究科で学部正規学生 **6 人**の第一志望率は **83.3%**、大学院正規学生 **12 人**は **83.3%**である（表は省略）。

「中国出身で学部正規学生」が非第一志望者の中心になっていることに関しては、単一の要因では説明できないと考えられるが、インタビュー調査の結果、一つの理由として次のようなことをあげることができる。すなわち、中国人学部正規学生の中に、中国の著名なエリート高校出身者が多数存在していることである。同校は東京大学や京都大学に多くの学生を送り込んでいる中高一貫校として知られる。その日本語コースで学んだ学生の多くは、卒業後まもなく来日し、日本社会における一般的な序列にそって、上位大学から受験し進学してゆく。その結果、東京大学の受験に成功しなかったことが、京都大学の主要選択理由になっている者が少なくない。彼らのような学生の存在が非第一志望率上昇の無視し得ない要因となっている。

6：第一志望大学と京都大学との差

6. 1：知名度

第一志望が京都大学でなかった学生は、京都大学のどこに問題点を見出しているのだろうか。京都大学が非第一志望となる理由で突出して指摘されているのは、母国での知名度評価（65.3%）であり、以下施設研究環境（44.0%）、教育研究指導（40.0%）、母国における就職のしやすさ（36.0%）と続く（表は省略）。本稿では、知名度を軸に議論したい。

表 19：取得希望学位と第一希望校が京都大学に勝る点（母国での知名度）との関係

取得希望学位	第一志望校が京大に勝る点： 「母国での知名度」		合計	
	あてはまる	あてはまらない	(%)	(人)
博士	60.7	39.3	100.0	28
修士	73.7	26.3	100.0	19
学士	83.3	16.7	100.0	12
全体(%)	64.5	30.5	100.0	59

$$\chi^2 = 2.259$$

この母国での知名度に関しては、専門性が下がるほど、すなわち、博士、修士、学士の順で問題視される度合いが高くなる。これは、先述の身分別ないし、希望学位別の第一志望率に対応している。しかしながら、これが大学院レベルでも決して無視されているわけではないことは、念頭に置くべきであろう。

表 20：出身地域と第一希望校が京都大学に勝る点（母国での知名度）との関係

出身地域	第一志望校が京大に勝る点： 「母国での知名度」		合計	
	あてはまる	あてはまらない	(%)	(人)
アジア	76.3	23.7	100.0	59
南アメリカ	0.0	100.0	100.0	2
ヨーロッパ	18.2	81.8	100.0	11
アフリカ	100.0	0.0	100.0	1
その他	0.0	100.0	100.0	1
全体(%)	64.9	35.1	100.0	74

$$\chi^2 = 19.967^{***}$$

では知名度を問題にしているのは、どこの地域の出身者なのだろうか。表 20 にも見られるように、アジア諸国出身者とヨーロッパ出身者において、認識が大きく食い違うことがわかる。アジア諸国で国別に見ると、中国人は 85.0%、そのうち学部正規学生 14 人中 100.0%、大学院正規学生 17 人中 70.6%と、非常に多くがこの点をあげている（表は省略）。

京都大学の知名度がアジア以外の地域で、ほとんど問われないのは、おそらく日本の大学そのものが無名であるから、知名度がそもそも問題視されないためと想定される。一方アジア地域では、日本の大学についてある程度の情報があり、京都大学が比較の俎上に載せられるために知名度が意識されると考えられる。ことにインタビューをしていると中国人や韓国人から「京都大学は知られていない」と聞かされ、とりわけ東京大学と比して知名度が劣ることが痛感させられる。次の中国人学部正規学生のインタビューはその典型的な例である。

学生：東京大学、中国で有名なんですよ。京都大学、やはり、知らない人、案外多いですよ。

著者：それは为什么呢？

学生：なんででしょうね。東京だったら、皆知っているはずですね。京都は知らない人多いし、それで京都大学知らない人も…。

著者：それはあるなあ。やっぱり、ヨーロッパの人と違って、中国の人にとっては、あんまり京都って魅力的な街ではないってということですかね？

学生：まあ、皆知らないですからね。あんまりそういう宣伝とかもないんですよ。

著者：京都自体の宣伝がないということですか？

学生：もちろん、人によるんですけど、多分、皆東京は知っているんですよ。京都知っている人は、どんぐらいいるんですかね。結構、少なくとも2割以上は知らないと思いますね。

このインタビューでも明示されるように、京都大学が無名である原因の一つは京都に存在するという点にもある。このように京都に東京のようなネーム・ヴァリューが存在しないこと、そのこともあって京都大学が無名であることは、韓国人などからも聞かれる。

6. 2：第一志望大学—どこの国のどの大学に行きたかったのか

第一志望の国は、日本が 62.7%と圧倒的に高く、続くアメリカ合衆国が 30.7%、そのほかはごくわずかにカナダやドイツなどである。具体的な第一志望校としては、東京大学が圧倒的に多い⁷。

これを京都大学における身分で分析すると、学部正規学生の場合、第一志望先を明示している 19 人のうち 94.7%が日本をあげていることが分かった。これに対して、大学院正規学生の場合は、35 人のうち 48.6%が日本、42.9%がアメリカをあげており、明確な対照をなしている。つまり、学部レベルの留学の場合は、京都大学が比較検討される競争相手

⁷ 本報告書 第 III 部 資料編 2008 年度留学生アンケート調査表・単純集計表 問 23a を参照のこと。

は東京大学であり、大学院レベルでは競争相手は日本国内の大学（多くは東京大学）の場合とアメリカの大学の場合とで二分されているのである（以下、表は省略）。

では学部・研究科別に特徴があるのだろうか。以下では、10名以上の非第一希望者が存在する工学部・工学研究科と経済部・経済学研究科に絞って議論を展開したい。まず「母国の知名度」の低さに関しては、工学部・工学研究科では、該当者28名のうち82.1%、経済部・経済学研究科では11名のうち72.7%がこの点をあげている。ただ、母国での就職に関しては、京都大学が劣っているとする学生が両部局所属者とも全体の比率（36.0%）と大きな差がなく、知名度に関する認識との乖離が見られることは注目される。両部局の相違が明確に現れるのが、「日本における就職」についての認識であり、経済学部・経済研究科では63.6%が京都大学の劣位を指摘しているのに対し、工学部・工学研究科では14.8%にすぎない。

両部局の相違は、双方の京都大学非第一志望者の、そもそもの第一志望先を見ることでさらに明確になる。経済学部・経済学研究科で第一志望先を明示している10名のうち1名の学生を除く9名（5名が学部正規学生、3名が大学院正規学生、1名がKUINEP学生）は、日本の大学、そして大部分が東京大学をあげている。したがって日本における就職の有利不利というのがより問題となるのであろう。一方工学部・工学研究科では、第一志望先を明示している学部正規学生11名のうち10名（90.9%）が日本の大学が第一志望であったが、大学院生14名のうち9名（64.3%）がアメリカの大学を第一志望にあげている。つまり、工学研究科には京都大学をアメリカの大学と比較した大学院留学生が一定程度存在している。彼らの留学先決定過程において、留学先としてまず国を選定し、次にその国の中の大学選択という過程をとっていないことが伺える。インタビューなどから考えられるのは、彼らは留学先を決めるにあたって、あくまで自らの専門テーマに相応しいか否かが要であり、渡航先の国や大学名などの重要性が相対的に低いということである。

7：おわりに

最後に、これまでの議論を総括するとともに、留学生獲得にあたって今後考慮すべき点を明示したい。

「京都大学が選ばれる理由」

本稿では、まず留学生が京都大学を選択した理由を分析した。今回の調査においても、留学理由としては、「質の高い学問・研究」が非常に重要視されていることが示された。これは、日本および京都大学のもつ研究・教育水準の高さが、とりわけ専門性が深まる博士学位取得希望者に認知されているためと考えられる。しかし、こうした全般的な傾向はあるとはいえ、出身地域別に見ると、留学理由でヨーロッパ出身者とアジア・中南米・アフリカ

出身者では比較的明確な差が見られる。各地域内の多様性があることをあえて無視して単純化すると、日本ないし京都大学の研究・教育環境を重視し、日本社会・文化への関心が低い傾向のあるアジア・非ヨーロッパ出身者と、逆に日本社会・文化への関心が高く、日本ないし京都大学の研究・教育環境を重視しない傾向があるヨーロッパ出身者というように大別することができる。

また、こうした出身国・地域だけではなく、京都大学における所属による特徴も無視できない。この点については、法学部・法学研究科のような例外もあるが、日本ないし京都大学の研究・教育環境を重視せず、日本社会・文化への関心が高い傾向のある文系と、逆に工学部・工学研究科のように日本社会・文化への関心が低く、日本ないし京都大学の研究・教育環境を重視する傾向がある理系というように分けることができる。なかでも経済学部・経済学研究科の留学生は、「質の高い学問・研究」を比較的重視せず、「日本文化・社会への関心」が重要な留学動機となっている。一般的には逆の傾向がある中国人留学生も、同学部・研究科に属する者には、この傾向への適合が確認できる。

これまでの知見から、留学動機として「質の高い学問・研究」と「日本文化・社会への関心」は、負の相関関係にあるとあってよいのかもしれない。この点で興味深いのが、韓国からの留学生である。彼らの場合は、「最も重要」としたのが 37.5%を占めた「日本を留学先にした理由：日本政府などの奨学金を得た」があえていえば目立つ程度であり、特定の留学理由が明確には現れない。これは、日本への対抗意識のようなナショナリズムが「質の高い学問・研究」や「日本文化・社会への関心」といった項目の選択を抑制させていることによるのかもしれない。ただ異なる見方を指摘するとすれば、安易な一般化はできないものの、彼らにとって日本への留学が精神的にも物理的にも負担のかからない道であることも影響しているのではないだろうか。インタビュー（2名）で見出せるのは、大学のレベル、語学面、資金、地理的距離、親族・知人の存在などの便宜さが、彼らへの日本留学を促している側面である。この点とも関わるが、彼らには、留学にあたっての研究テーマや将来目標の相対的不明確さも見られる。したがって、韓国人に明瞭な留学理由が表出しないのは、日本への留学が彼らにとって、相対的に敷居の低いものとなり、いわば「意志薄弱」であっても実現するからではないだろうか。

「京都大学が選ばれる上での障害」

これらの理由を核に京都大学に留学してきた学生たちは、本年度も 85%を超える学生が京都大学を第一志望としており、大学院正規学生にいたっては 90%近くと、専門性が高まるとさらにその比率は上昇する。京都大学における留学生の多くが大学院生であることを考えると、このことが京都大学の第一志望率を高めている。興味深いのは先にあげた留学理由のうち、「質の高い学問・研究」をとりわけ重視する工学部・工学研究科と「日本文化・社会への関心」が重要な留学動機となっている経済学部・経済学研究科の留学生が、ともに

第一志望率が他部局と比して低いことである。双方は、京都大学の中でも留学生を集める部局だけにこれは注目に値する。

この要因の一つは、とりわけ工学部・工学研究科に、中国人学部正規学生が多く所属していることである。こうした非第一志望で京都大学に入学した留学生が問題とするのが京都大学の母国における知名度の低さであるが、アジア出身者、なかでも中国人学部正規学生の多くがこれを指摘する。この点で、彼らを含むアジア出身者とインタビューをして痛感させられるのは、京都の吸引力、あるいは知名度のなさである。京都は世界的に知名度があり、それが京都大学を選択する理由の一つとなっているとするのは、あまりに単純な見方といってよい。むしろ京都は留学先選定にあたって、とりわけ中国人や韓国人は無関心、あるいは低評価であり、これが京都大学の知名度のなさの原因となっていることがしばしばあった。京都に存在する京都大学が留学生をさらにひきつけるためには、留学生の大部分を占める近隣アジア諸国に京都の魅力を訴える必要があるのではないだろうか。これは専門性の低い学部レベルの学生に関してはとりわけいえよう。実際に京都に居住した後は、その魅力を認める学生が多いのであるから、宣伝に努めることは無意味でも、不可能でもないと考えられる。

京都大学留学生の非第一志望者の多くは、日本の大学を第一志望としていたが、工学部・工学研究科と経済学部・経済学研究科では明確な相違が見られた。前者に属する学部正規学生は大部分が日本の大学を第一志望先としてあげるが、大学院正規学生は過半数がアメリカの大学である。日本以外の大学が比較対象にあがっていることは、専門に関係する「質の高い研究・教育」を求める彼らに、日本に拘泥する必然性がないことを示しているだけではない。やや皮肉ではあるが、この領域では京都大学が、ある程度世界的な比較対象になりうるステイタスにあることを示しているのではないだろうか。一方経済学部・経済学研究科の留学生は、大部分が日本の大学を第一志望としている。これは彼らが日本を選択した理由が「日本の文化・社会への関心」であり、日本での就職も意識している以上、自然な結果といえよう。

「求められる留学生獲得戦略」

これまで見てきたように留学理由としては、出身地域、出身国、そして所属や身分によって相違はありつつも、「質の高い研究・教育」と「日本の文化・社会への関心」が重要な意味を持っていた。したがって今後、これらを核としつつ、大学そして国としての細やかな戦略的広報が必要となる。「日本の文化・社会への関心」については、日本の経済面を中心としたプレゼンスは今後さらに後退してゆくことは確実であるから、日本の新たな側面のアピールがなされなければならない。これは個々の大学の努力を越える部分があり、「留学生 30 万人計画」を掲げた以上、国家的な事業として取り組む必要がある。

「質の高い研究・教育」について努力することは言うまでもない。むしろ「知名度」の

低さが問題とされていることでもわかるように、京都大学として研究成果や社会的実績の海外へのアピールは十分とはいえない。これが留学生の大部分を占める近隣アジア諸国の留学生に、日本の大学と比較して指摘されているのであるから、事態は深刻といえる。

最後に「第一志望」としての京都大学の位置についてふれておきたい。数字上は、京都大学の留学生の圧倒的多数が第一志望として入学していることになっている。しかし、これまでの議論を見るとわかるように、これは「日本は三番手の留学先」という定説を完全に覆すものではないことがわかる。京都大学が第一志望でない場合でも、日本の他の大学を第一志望とする学生が多いことから示されるように、彼らの多くが進路の決定過程で、卒業生の慣例（OBやOGが当該大学に多いこと）、指導教員のネットワーク、日本への関心や奨学金などの理由で、京都大学と結びついたため、この結果が出ているのである。したがって、工学研究科に見られるように世界の大学を俎上に載せて、比較検討のうえ京都大学を選択した学生は多くないと予想される⁸。ゆえに、より幅広く、質の高い留学生を招くためには、第一志望率の高さに惑わされることなく、ますます苛烈になる留学生争奪戦に挑まなくてはならないだろう。

参考文献

京都大学国際交流センター 2006、『京都大学における国際交流の現状と可能性―第2回アンケート調査報告書』

⁸ この点に関しては、別稿でインタビューの結果を主に用いて論じる予定である。

第二章

留学生の生活実態

－授業料非免除および奨学金非受給留学生の計量的方法を用いた考察－

小島 剛

前回の調査で、「留学生の受入れ体制の問題点を明らかにするためには『非スカラシップ層』にポイントを当てた調査が必要であることが明確になった。すなわち奨学資金を受けていない、あるいは少ない層は最低限度の生活を送っており、この層の比率は小さくない」(蘭 2006)ということが分かっている。また、竹内(2006)は調査を踏まえ、奨学金を得ている層とそうでない層との間には「京大の教育・研究環境の満足度」の差がないこと、ただし、自由記述欄では奨学金をめぐる不安や不満が多く表明されていることに注意を促している。今回の調査では留学生の経済的側面を重点的に調査し、特に経済的に不満足を表明している留学生の意見も参考にすべく、記述欄の見解も重点的に検討し、インタビュー調査も行なった。

本アンケートの有効票の総数は 569 票であり、これは京都大学的全留学生総数 1,353 名の内 42%を占める。

1. 経済状況

まず、留学生がどのような生活を送っているのか、経済的側面について概観するために、問 11 収入、問 19 支出、問 13-a アルバイト時間、問 12 奨学金、問 16 授業料免除の有り無し、問 14 留学に向けて準備した貯金・国元からの支援、についてアンケートの集計結果を示して行きたい。留学生の収入と支出の状況を以下に挙げる。

(1)収入・支出

調査票(本報告書資料編参照)からわかるように、今回の留学生アンケートにおいては、回答者に一ヶ月の収入と支出の金額を書いてもらうようになっている。なお、支出には授業料を含んでいない。そこで、収入と支出が著しく異なる場合には調査の信憑性が疑われるわけであるが、表 1、表 2 のように著しい収入と支出の矛盾は見られない。もちろん計算違いや貯金をしている場合もあり、慎重にデータ処理する必要があるが、ほとんどの回答には、収入・支出に大幅な矛盾は見られず、分析に問題はないものとして扱った。

表1 問11、一ヶ月の収入

	人数	パーセント
0～5万円	37	6.6%
5～10万円	117	20.9%
10～15万円	79	14.1%
15～20万円	301	53.8%
20～30万円	22	3.9%
30～40万円	4	0.7%
合計	560	100.0%

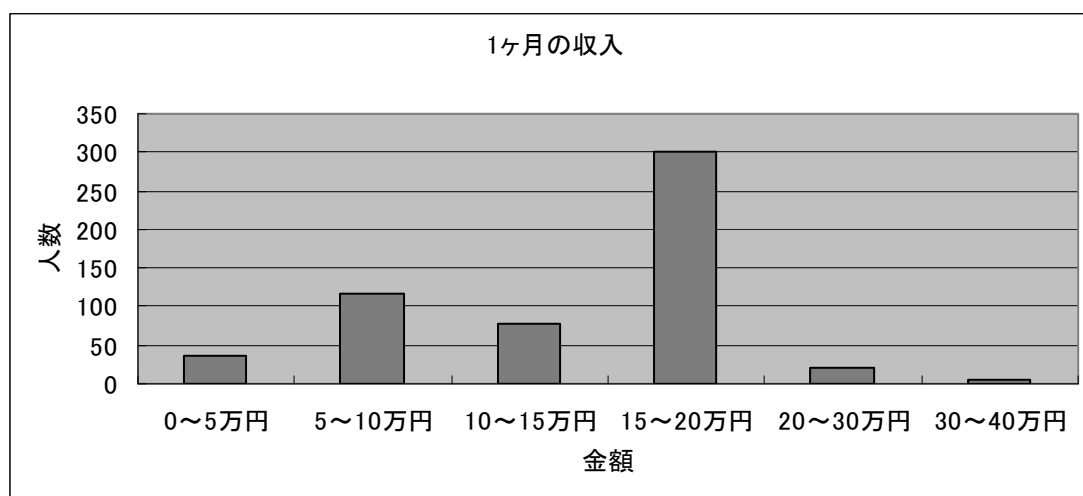
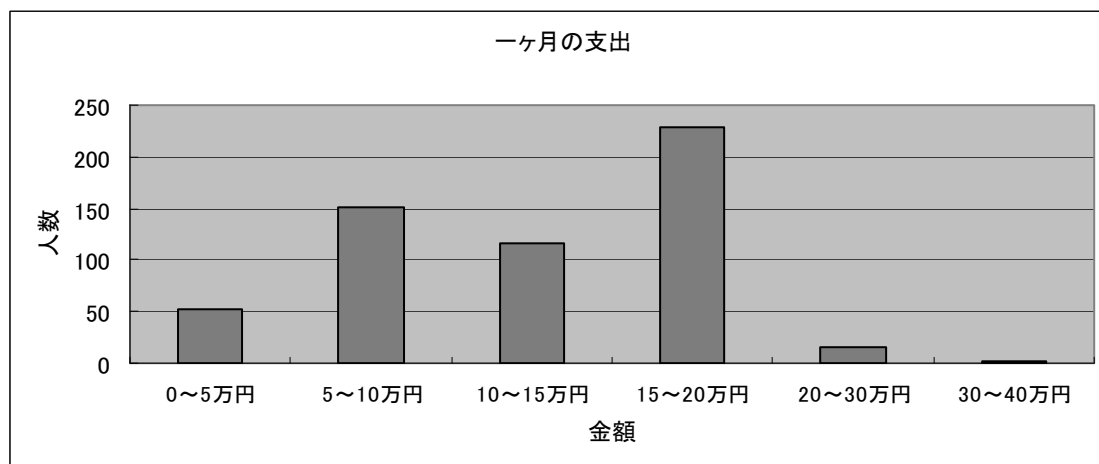


表2 問19、一ヶ月の支出

	人数	パーセント
0～5万円	52	9.2%
5～10万円	151	26.8%
10～15万円	116	20.6%
15～20万円	228	40.4%
20～30万円	16	2.8%
30～40万円	1	0.2%
合計	564	100.0%



(2) アルバイト

一ヶ月のアルバイト時間については以下のものであった。問 13-a は、アルバイトをしていると答えた者に対して、一ヶ月あたりの平均アルバイト時間をたずねた結果である。全体の 70.3%が「アルバイトをしていない」あるいは無回答の者なので、約 3 割の留学生が何らかのアルバイトをしていることが分かる。

表 3 問 13-a、一ヶ月あたりアルバイト時間

アルバイト時間	人数	パーセント
～15時間	56	9.8%
15～30時間	49	8.6%
30～45時間	23	4.0%
45～60時間	19	3.3%
60～80時間	15	2.6%
80時間～	7	1.2%
アルバイト無し・無回答	400	70.3%
合計	569	100.0%

表 3 は 15 時間ごとに時間間隔を取ってあるが、長時間アルバイトをする留学生は少ないので、長時間になるほど間隔を長くしてある。これを見ると分かるように、ほとんどの留学生は月に 45 時間以内であるが、45 時間以上の者が 41 名（回答総数の 7.2 %、アルバイトをしている者の 24.2%）存在する。中には一週間に可能なアルバイト時間の 28 時間ぎりぎりまでアルバイトをしている者も見られる。

(3) 奨学金

次に奨学金の受給状況についてみてみよう。

表 4 問12、奨学金の有り無し

	人数	パーセント
奨学金有り	421	74.0%
奨学金無し	120	21.1%
無回答	28	4.9%
合計	569	100.0%

表 5 問12、支給されている奨学金

奨学金の種類	人数	パーセント
出身国・在籍大学からの奨学金	34	7.9%
日本側からの奨学金	344	80.0%
京都大学からの奨学金	7	1.6%
その他	45	10.5%
合計	430	100.0%

※ 重複して奨学金を受け取っている者もいる。

※ 授業料免除は奨学金には含まない。

表4で見られるように、74.0%の者が奨学金を受給しており、支給されている奨学金の種類は表5のとおりである。つまり、約8割の学生にとっては多寡はあるもののなんらかの収入源が確保されていることになるのだが、残り2割にあたる120名の学生は奨学金を受けていないのである。それでは、この2割の学生は必ず、授業料免除が得られているといえるのだろうか。この点を以下に分析する。

(4)授業料の減免

次に授業料免除の状況についてみてみよう。

表6 問16、授業料免除の有り無し

	人数	パーセント
受けたことがある	193	33.9%
出願したが免除されなかった	26	4.6%
出願しなかった	184	32.3%
該当しない	156	27.4%
無回答	10	1.8%
合計	569	100.0%

表6によると、「出願したが免除されなかった」留学生は4.6%で、極めて少ない。この「出願したが免除されなかった」26名について、先ほど表4で見た「奨学金の有無」を確認したところ、10名が奨学金も受けていないことが判明した。このように、奨学金・授業料免除の両方とも全く受けていない学生が10名いることが判明した。本報告では、これらの留学生を「非スカラシップ層」と呼び、次節2.以降で詳細な考察を試み、生活の様子を知ることが最終的な目標としている。

さらに表6からは、33.9%は授業料免除を受けていることが分かるが、授業料免除だけでは生活費はまかなえないので、何がしかの収入源が必要になるだろう。

(5)留学のための貯金・家族からの支援

留学に向けて国元で準備した貯金の額を挙げてみよう。

表7 問14、準備した貯金

	人数	パーセント
10万円以下	40	7.0%
11～20万円	65	11.4%
21～50万円	82	14.4%
51～100万円	83	14.6%
101万円以上	60	10.5%
無回答・貯金無し	239	42.0%
合計	569	100.0%

約 6 割の留学生が、日本への留学にあたって貯金を準備していることが分かる。中でも 101 万円以上用意したという学生も 1 割存在する¹。日本に留学するに際して、多額の貯金を要する場合があることが分かった。留学生の国元の家族の収入が決して多いとは限らないことを考えると、注目に値する数字だろう。以下に国元の収入を挙げる。

表8 問15、国元の家族・親族からの留学費用支援の有無

	人数	パーセント
援助有り	154	27.1%
援助無し	392	68.9%
無回答	23	4.0%
合計	569	100.0%

表9 問15-a、留学支援を受けている家族・親族の年収

	人数	パーセント
2000万円以上	4	2.5%
1200～2000万円	0	0.0%
900～1200万円	11	7.1%
600～900万円	12	7.7%
300～600万円	15	9.7%
200～300万円	15	9.7%
100～200万円	28	18.1%
30～100万円	50	32.4%
30万円以下	19	12.3%
合計	154	100.0%

家族の支援を受けている者の中で、国元の年収が 30 万円以下は 12.3%(全体では 3.3%)、100 万円以下を含めると 44.8%(全体では 12.1%)となる。これでは貯金をしたり、仕送りを受けるのが難しい留学生もいると考えられる。なお、このデータは著しく欠損値が多く 154 人しか答えていない。また、選択肢「1200～2000 万円」を選択した者は一人もいなかったの以下表からは省略する。貯金と国元の年収のクロス集計表を以下に挙げる。

表10 問14・問15-a、留学支援を受けている家族・親族の年収と貯金のクロス表

国元の年収	貯金の額					合計
	10万円以下	11～20万円	21～50万円	51～100万円	101万円以上	
2000万円以上	0	0	1	0	1	2
900～1200万円	0	0	2	3	2	7
600～900万円	0	1	0	4	4	9
300～600万円	1	3	0	4	5	13
200～300万円	0	1	1	4	4	10
100～200万円	1	0	4	5	7	17
30～100万円	1	1	9	17	12	40
30万円以下	1	0	6	6	2	15
合計	4	6	23	43	37	113

表中の数字は人数

¹ 101 万円以上貯金した学生 60 名の内訳は、101～200 万が 41 名（回答総数の 7.2%）、201～300 万が 15 名（回答総数の 2.6%）、301 万円以上が 4 名（回答総数の 0.7%）となっている。

表10を見ると、年収100万円以下の収入でありながら、100万円以上、ないしは50万円以上も貯金をして留学に来ている者も多いことが分かる。国元も含めて貯金に頼りながら生活する留学生がどのような経済認識をしているのかを考慮する必要もあるだろう。たとえば、数万円程度の出費でも、彼らにしてみれば、国元での家族の年収の数パーセント程度を占める大きな出費となるのだから、家電製品を一つ購入することや、アパートの1ヶ月の家賃を払うのにも、身を切られる思いをする者がいても不思議ではないのではないだろうか。

2. 非スカラシップ層の分析

すでに本論のはじめで述べたように、2005年の調査で残された課題は、奨学金を受けておらず、かつ授業料免除も受けていない「非スカラシップ層」の分析である。彼らはどのような生活をしているのであろうか。まず、奨学金、授業料免除ともに受けていない人々の数値を挙げよう。

表11 問12、問16 奨学金・授業料免除なし

	人数	パーセント
奨学金か授業料免除有り	553	97.2%
奨学金も授業料免除も無し	10	1.8%
無回答	6	1.1%
合計	569	100.0%

見ての通り、奨学金と授業料免除をともに受けていない者は全体の1.8%を占めるに過ぎず、大変少ないことがわかる。奨学金を受けていない者はほぼ必ず授業料免除を受けているという結果が読み取れる。もっともここで、この1.8%を「例外的少数者」として扱うということは適切ではない。本稿冒頭部で述べたように、本報告の問題関心は、経済的困窮層の状況の把握だからである。この10名が奨学金・授業料免除ともに受けていないからと言って、経験的に困窮しているとは限らないが、少なくとも経済的に注目すべき層であることは確かであろう。

このように、該当するものが少数であると、これらの者だけを取り出して分析を加えることが可能になる。ここで、この奨学金と授業料免除を受けていない留学生10人の基本的データとして、「収入合計(問11)」「支出合計(問19)」「留学するのに準備した貯金(問14)」「国元の家族の年収(問15-a)」「結婚・未婚(問18)」「住居(問17)」「アルバイト時間(問13-a)」「満足度(問28)」²を挙げた。「満足度」の14個の項目はa.指導教員の指導、b.研究水準、

² 「満足度」の算出のしかたであるが、今回のアンケートでは、問28に、a～nまでの14個の項目を設定し、「不満足」「やや不満足」「やや満足」「満足」の4段階に尺度化した。これらをそれぞれ1～4点とし、合計点数を「満足度」としてある。例えばある留学生が14個の項目全てに「満足」と回答していれば14×4=56点である。なお、本問に関して注意すべきことは、「わからない」という選択肢も加えたことであり、これは点には含んでいない。そこで、満足している者に関してはこの得点集計は妥当と思われるが、「わからない」と答えている者も、「不満足」層に加えてしまっている点で、不満足層の中に

c.授業や講義の質、d.研究室の雰囲気、e.所属学部の留学生担当教員、f.日本人学生との交流、g.チューターのサポート、h.国際交流センターの日本語授業、i.国際交流センターの留学生相談室、j.所属学部の事務サービス、k.留学生課の事務サービス、l.建物、図書館、実験設備、m.コンピュータ設備、n.地域との交流、である。

表 12 奨学金、授業料免除ともに受けていない者(10名)のデータ

※満足度(56点満点)								
ID	収入合計	支出合計	貯金	家族の年収	結婚未婚	住居	アルバイト	※
1	80,000	60,000	30,000	無回答	なし	その他	無回答	22
2	180,000	161,000	500,000	無回答	既婚子供なし	一戸建て	112	32
3	160,000	85,000	2,000,000	900～1200万円	なし	アパート	非該当	49
4	80,000	80,000	3,000,000	30～100万円	なし	アパート	非該当	28
5	90,000	81,000	2,000,000	200～300万円	なし	アパート	30	33
6	80,000	75,000	1,000,000	無回答	なし	アパート	非該当	40
7	40,000	42,000	1,200,000	無回答	なし	寮	40	21
8	120,000	126,000	300,000	無回答	既婚子供なし	アパート	100	33
9	100,000	100,000	1,000,000	600～900万円	なし	アパート	非該当	38
10	60,000	60,000	700,000	無回答	なし	アパート	50	32

まず収入合計・支出合計はともに多くない。彼らはつつましい生活をしているものと想像される。また、全体的な特徴として、国元で準備した貯金が多いことも指摘できる。ほとんどの者が 50 万円以上のカテゴリーに入るし、100 万円を大きくこえる者も多い。やはり、奨学金・授業料免除なしで生活していくためにはそれなりの備えが必要なことが裏付けられている。国元の収入については無回答が多いので、多くはいえない。ほとんどの者が独身・単身で留学している。次に重要なのがアルバイトであるが、非該当/無回答、つまりアルバイトをしていないと思われるものが多い一方、100 時間以上アルバイトをしているものも見られる。サンプルとしては少ないが、50 万円を国元で貯金している者が月に 112 時間、30 万円を貯金している者が月に 100 時間アルバイトをしている。これとは別に、長時間アルバイトをしていないものは、国元で少なくとも 100 万円以上は貯金をしてきていることが分かり、いずれにしても、彼らの経済状況は決して楽ではないことが想像できるのである。

3. 自由記述で経済的困窮を訴える者

さて、以上で、奨学金と授業料免除をともに受けていない留学生について述べたが、重要なのは、彼らのうちほぼ全てが、自由回答記述欄に経済的悩み・問題を記述していないということである。1 人だけ奨学金と授業料免除を受けていない者で、かつ経済的問題を「どういう点で困っていますか(問 40)」に「忙しいのに奨学金がないと、大量な時間でバイトをしなければならない。研究テーマがなかなか決まらない。就職に関していろいろ」

は必ずしも明瞭に不満を感じていない者も含んでいる可能性がある。なお、総回答箇所数は 569 人×14 問＝7966 箇所、そのうち、「無回答」「わからない」の個数は 1118 箇所、全体の約 14.0%を占める。

と書いた者がいたが、それだけである。他方、この問 40 と最後の「京都大学における留
学生活、教育、研究環境全般について、感想、要望などを自由にお書き下さい(問 45)」に
おいて、経済的問題に書いたものがほかに合計で 34 名いた。彼らについても分析を加え
たので以下の表 13 を参照していただきたい。

表 13 経済的問題を記入した者(34 名)のデータ

q40	「心配事や悩みに関して」に経済的不満を書いた人						※満足度 (56点満点)			
	収入合計	支出合計	家族の年収	貯金	結婚 (子)	住居	授業料 免除	奨学金	アルバイト 時間	※
1	170,000	157,600	無回答	20,000	既婚(3)	無回答	無回答	無回答	無し	20
2	70,000	70,000	100～200万	1,000,000	未婚	アパート	非該当	無回答	80	45
3	80,000	80,000	30～100万	3,000,000	未婚	アパート	非免除	無い	無し	28
4	40,000	45,000	30～100万	500,000	既婚(0)	アパート	非免除	無い	20	37
5	90,000	75,000	30万以下	500,000	未婚	アパート	ある	無い	無回答	55
6	80,000	90,000	600～900万	600,000	未婚	アパート	ある	無い	40	48
7	40,000	44,000	30～100万	無回答	未婚	寮	ある	無い	20	37
8	80,000	80,000	30～100万	300,000	未婚	アパート	ある	無い	無し	24
9	100,000	102,000	100～200万	1,000,000	未婚	アパート	ある	日本政府	9	44
10	90,000	81,000	200～300万	2,000,000	未婚	アパート	非免除	無い	30	33
11	150,000	150,000	30万以下	500,000	未婚	アパート	ある	日本政府	無し	32
12	45,000	65,000	無回答	900,000	未婚	アパート	ある	無い	70	25
13	45,000	45,000	無回答	500,000	未婚	アパート	ある	無い	無回答	42
14	50,000	50,000	無回答	500,000	未婚	宿舎	ある	無回答	80	50
15	110,000	88,000	30～100万	1,000,000	未婚	アパート	非免除	無回答	100	36
16	80,000	81,000	30～100万	600,000	既婚(0)	アパート	ある	無い	48	29
17	40,000	35,000	無回答	無回答	未婚	寮	非該当	無い	40	33
18	60,000	71,000	200～300万	0	未婚	宿舎	ある	無い	40	40
19	80,000	80,000	無回答	2,000,000	未婚	アパート	ある	無い	40	26
20	160,000	160,000	無回答	1,000,000	既婚(1)	アパート	ある	日本政府	無回答	47
21	80,000	80,000	30～100万	3,000,000	未婚	アパート	ある	無い	40	42
22	60,000	60,000	無回答	700,000	未婚	アパート	非免除	無い	50	32
23	40,000	49,500	30～100万	2,000,000	未婚	アパート	ある	無い	無回答	33
24	50,000	47,000	100～200万	1,000,000	未婚	アパート	非該当	無い	無し	37
25	20,000	25,000	30～100万	1,000,000		下宿(記述)	ある	無い	18	40

q45「環境全般についてご自由にお書き下さい」に経済的不満を書いた人							※満足度 (56点満点)			
	収入合計	支出合計	家族の年収	貯金	結婚 (子)	住居	授業料 免除	奨学金	アルバイト 時間	※
1	200, 000	170, 000	無回答	無回答	未婚	無回答	無回答	日本政府	無し	40
2	120, 000	200, 000	サポート無	800, 000	未婚	宿舎	ある	無い	無回答	22
3	180, 000	180, 000	サポート無	0	未婚	アパート	非免除	その他	無し	34
4	100, 000	100, 100	30～100万	100, 000	未婚	寮	ある	その他	無し	25
5	100, 000	112, 000	30～100万	500, 000	未婚	国際交流会館	ある	その他	無し	46
6	182, 000	194, 000	サポート無	150, 000	未婚	アパート	出願せず	日本政府	14	28
7	40, 000	44, 000	30～100万	無回答	未婚	寮	ある	無い	20	37
8	50, 000	30, 000	30～100万	1, 000, 000	未婚	寮	ある	無い	20	29
9	70, 000	65, 000	サポート無	900, 000	未婚	アパート	ある	無い	70	25

まず、収入と支出についてであるが、ばらつきが多いことが分かる。最少で2万円、最大で16万円の収入がある者がいる。収入が多いのにもかかわらず不満を抱えている者が見られることが分かる。また、国元の家族の年収が多くないのが特徴的であり、かつ、貯金が多いのも彼らの特徴である。もちろん例外もあるが、日本に留学するにあたり、相当な経済的準備を重ねてきた層であることがうかがえる。結婚している者は少数であり、多くの者がアパートに住んでいる。経済的に不満を抱えている者が、必ずしも最も安価な寮に住んでいるわけではないことが分かる。授業料免除を多くの者が受けており、奨学金を受けている者が少ない。さらに、授業料免除と奨学金を共に受けているのにもかかわらず、経済的に不満を述べている者もいるというのが意外である。実際に彼らの記述を見てみると、「高い日本の物価で、生活のことを時々ちょっと心配している」「私は今、奨学金を持っていますが、来年はどうなるか分かりません。京都大学の奨学金がちょっと少ないかなと考えています」「奨学金が毎年減っていることを悩んでいます。特に今年ことのほか減りました。奨学金が足りない感じがしました。研究のため、アルバイトをまだしていないので、以前の貯金をつかっています」などとなっており、奨学金が十分でない、や奨学金の経年的推移に関して不満を抱えている場合があることが分かる。ようするに、今は奨学金をもらっているが、来年以降は分からないのが不満だということである。最後にアルバイト時間であるが、ばらつきが多いことが特徴であり、全くアルバイトをしていない者もあれば、一ヶ月に100時間以上アルバイトをしている者もいる。アルバイトをしている回答者全体の65%が30時間以内であることを考えると、経済的不満を記述した者たちは比較的アルバイト時間が多いと考えられそうである。

「奨学金と授業料免除をともに受けていない者」と「記述欄に経済的不満を述べた者」が、1名の例外を除いて、ほぼ完全に異なるということは、前回の竹内(2006)の調査で、経済的状況と研究・教育に関する満足度に相関がないことが分かっていたとはいえ、意外な結果である。

ここで、全体の「満足度」および、この二つのグループの「研究・教育の満足度」を挙げる。

表 14 問 28、回答者全員の満足度

満足度	人数	パーセント
低満足層(～30)	104	18.3%
中満足層(31～42)	255	44.8%
高満足層(43～56)	210	36.9%
合計	569	100.0%

この表とグラフでは0～30点までを「低満足層」、31～42点までを「中満足層」、43～56点までを「高満足層」としてある。「やや満足」には3点が与えられており、問28に設定されている14個の項目すべてが「やや満足」である場合には42点、つまり中満足層であることを考えると、留学生の満足度はまずまず高いといえそうである。また、「わ

からない」と「無回答」を0点と換算して、これらの人々の満足度を低く見積もっていることも念頭に置かなければならない。「高満足層」も36.9%おり、以下に示す非スカラシッ層に比べて高くなっていることに注意が必要である。次に、「奨学金・授業料免除をともに受けていない者」と「自由記述欄に経済的不満を述べた者」について同様の分析を加えてみる。なお、「奨学金と授業料免除とにもない者」と「経済的不満を述べた者」についても、「わからない」と「無回答」を0点として換算し、満足度が低めに見積もられている。

表15 奨学金授業料免除とにもない人の満足度

満足度	人数	パーセント
低満足層(～30)	3	30.0%
中満足層(31～42)	6	60.0%
高満足層(43～56)	1	10.0%
合計	10	100.0%

表16 経済的不満を述べた人々の満足度

満足度	人数	パーセント
低満足層(～30)	11	32.4%
中満足層(31～42)	16	47.1%
高満足層(43～56)	7	20.6%
合計	34	100.0%

この表から言えることは、「奨学金と授業料免除とにもない者」と「経済的不満を述べた者」は全体に比べて、高満足層の者が少ないということである。高満足層の者は、全体が36.9%、「奨学金と授業料免除とにもない者」が10%、「経済的不満を述べた者」で20.6%となっている。また、低満足層の割合は全体が18.3%であるのに比べ、「奨学金と授業料免除とにもない者」が30.0%、「経済的不満を述べた者」が32.4%となり、パーセンテージがあがる。もっとも度数が著しく少ないので、確たることは言えない。この点については後のインタビューにおいてより詳しく分析を行う。ただ、経済的に問題がある者は研究に関しても不満を持っている可能性が示唆されている。

「経済的不満を述べた人々」の分析については、記述欄を参考にしている。留学生の経済的満足度は数値には表れにくく、数値を見ただけでは秩序だった傾向が見られるわけではなく、記述も参考にすべきだということは確かである。また、多くの収入を得ていればいほど経済的に満足しているとは必ずしもいえないことも明らかになった。留学生が国元で貯めた貯金についてどういう金銭感覚を持っているのかや、奨学金が得られていても、次の年度のことを深刻に心配する者がいるということなど、数字を見ただけではわからないことにも目をとめるべきである。

4. インタビュー

以上のように、留学生の経済的状態や京都大学における留學生活の満足度との関連にはわかりにくいことが多く、アンケートだけでは決め手となる要因を完全には抽出することができなかった。そこで、経済的に不満足、あるいは収入・支出が少額の留学生を選んで、インタビューを行うことにした。インタビュー対象者は問40と問45のいずれか、ないし両方に経済的不満を書いた者のうち、アンケート票の最後の「インタビューへのご協力のお願い」の欄に、e-mail アドレスもしくは電話番号を書いた人全員に連絡したうえで承諾が得られた人である。インタビューの方法は、一方的に質問のみをするのではなく、自然な会話になるような問答になっている。各インタビュー回答者の特徴を重視し、形式的にあらかじめ質問事項を決めておかなかったが、「生活状況」「奨学金・授業料免除」「京都大学への要望」についてはほぼ必ずたずねている。

インタビューを受けていただいた留学生のデータを以下に掲げる。

表 17 インタビュー対象留学生

経済的不満を記述した人(問40)						※満足度(56点満点)				
No.	収入合計	支出合計	家族の年収	貯金	結婚未婚	住居	授業料免除	奨学金	アルバイト時間	※
No.1	100,000	112,000	30～100万	500,000	未婚	国際交流会館	ある	その他	無し	46
No.2	100,000	102,000	100～200万	1,000,000	未婚	アパート	ある	日本政府	9	44
No.3	50,000	30,000	30～100万	1,000,000	未婚	寮	ある	無い	20	29
No.4	80,000	81,000	30～100万	600,000	既婚	アパート	ある	無い	48	29
No.5	40,000	35,000	無回答	無回答	未婚	寮	非該当	無い	40	33
No.6	80,000	80,000	無回答	2,000,000	未婚	アパート	ある	無い	40	26
No.7	160,000	160,000	無回答	1,000,000	既婚	アパート	ある	日本政府	無回答	47
No.8	20,000	25,000	30～100万	1,000,000	未婚	下宿(記述)	ある	無い	18	40

経済的不満を記述した人(問45)						※満足度(56点満点)				
No.	収入合計	支出合計	家族の年収	貯金	結婚未婚	住居	授業料免除	奨学金	アルバイト時間	※
No.9	90,000	81,000	200～300万	2,000,000	未婚	アパート	なし	なし	30	33

<授業料免除・奨学金>

まず、目に付くのは、奨学金の額と授業料免除が全額免除とならないことに対する不満である。以下、No.は上記のデータのNo.の番号、「イン」はインタビューアの発言である。

No.5：　そうです。奨学金とかは多少はあるんですが、ただ毎年あるんじゃないかと、あるとしても、金額的に本当に食べて、生活したら学費払えないとか。あと、学費の減免も、全部、全額減免とかじゃないので、半額が多くて。やはり生活が。普通に生活だけだったらいいですけど、まだ勉強のこととか、ずっと、ほとんど1日中、学校にいますので。帰るのも夜中で、それが本当につらいですね。

もっとも、額だけが奨学金の不満を招いているわけではない。前に見たように、収

入が多い層も、経済的不満を述べているわけであるから、経済的不満の度合いは奨学金の多寡だけで決定するわけではない。以下の人は授業料免除を受けているが、授業料免除のことに関して、悩みを抱えている。

No. 6: 困ったこと、身の回りの人の困ったことなんですけど。奨学金がもらえなくて、いろいろたくさんバイトして、そのせいで成績が悪くなって、そのせいで学費免除がもらえなくて、悪循環になっていて。そんな人は身の回りに、友だちが何人かいます。

イン: 何人かいるの。

No. 6: 学費免除を全額免除してほしいです。

イン: 奨学金もらえないと働くんですね。アルバイトが増えると、成績が落ちる。成績が落ちると、学費免除は、成績が関係しますからね。

No. 6: 「優」と「良」の数が、「可」の数より多くないともらえないです。

イン: もらえなくなると。

No. 6: もらえないと、もっとバイトをしなくちゃ。

イン: そういう人、何人かいますか。

No. 6: 私が知っている人は、3人か4人。

イン: 3人か4人か。逆に、そういう状況からうまく立ち直ったっていうような人はいますか。

No. 6: どういう感じですか。

イン: 奨学金がもらえないんでアルバイトが増えて、その成績が落ちる。そうすると免除がもらえないっていう悪循環から抜け出した人は……

…(中略)…

No. 6: いないです。みんな、学費のことに悩んでいます。

奨学金や授業料免除に関する不満には多様性があることが、インタビューの結果から見取れる。例えば、以下の例は、奨学金の選考に漏れて悔しい思いをしている留学生のものであるが、彼は奨学金の額が少ないことに不満を示しているのではなく、奨学金の選考基準の不透明さに疑問を感じ、自分が十分に評価されていないのではないかと感じている。

No. 8: 京大の中の激しい競争の中でずっと僕、負けている理由が何なのか分からないんです。一応京大の推薦もらったこと、博士になって大学の面接とかまで行っています。

No. 8 : それと、成績とか研究の成果、いいとは言えないですが悪くはないと思っています。だから、そう思うと悔しくなるだけです。今はもう年もこんな年になってきたし、振り返ってみたら人生のいい経験でしょうと思っているんですけど。ただ、将来のことを考えると、やっぱりお金がないといろんなことができないです。しっかり考えています。」

また、これと同様に、奨学金の選考理由が不透明であることへの不満が複数見られる。

No. 5 : ほかの財団の奨学金とかも、全部応募しています。全学で4～5人ぐらいでもチャンス、かなり確率低くても、一つのチャンスも逃したくなくて、全部、書類をそろえて毎回出しますね。なので、当たるのは、本当に。今、みんな、留学生の中で言うのは、奨学金をもらうとか、頂くじゃなくて、当たるんですよ。

イン : 当たる。

No. 5 : 当たるんですよ。当たる確率は、本当に低い。当たるんですよ。中国語の中では、何か運が良くて、例えば宝くじが当たるとか、そういうような熟語があるんですね。ことわざで、『空からおいしいあんまん』とか、そういうのが落ちてきて、自分に当たると。奨学金をもらうのはそれぐらいの確率で、かなり少ない。

No. 4 : 「奨学金をもらった人たちは贅沢な買い物をしている。」「いまでも納得がいけない」「選考基準を知りたい」

奨学金の情報が少ないことに、不満を漏らす者もいる。

No. 9 : それについて、ちょっと言いたいんですけど、実は奨学金の期間というのは2年間なんですけど、僕たちが合格したときから申し込みが可能なんです。だから、そのとき、全然、京都大学の事情を知らなくて、そういう連絡も一切なかったの。ですから、奨学金が受けられるということを知ったのは最近のことなんです。しかも、みんなこんな感じなんで、実際、受けるのは1年間しかないんです。

京都大学に比べ、他大学のほうが金銭的に有利なのではないか、という不満が持ち上がっている。特に、京都大学より東京大学や一橋大学のほうが奨学金獲得の上で有利なのではないかという疑念についても複数の者が声を上げている。

No.6： 東京の辺にいる友だちに話を聞くと、その奨学金がめちゃ多いうて。

No.6： 学習奨励費は、回生ごとに、2名だけしか推薦できないけど、ほかの大学でしたら推薦できる人数が京大より多いうて聞きました。

イン： それは、東大ですか。

No.6： はい。あと、一橋大学とか。

イン： ほかの奨学金もあるんでしょうかね。一橋は……

No.6： はい、東大の人の話を聞くと、あと二つ。一橋大学の友だちの話も聞くと、その大学で、学習奨励費を申し込む人はいない。全部、ほかのもっといい奨学金に申し込む。

No.8： 当時、悩んでいたんです。先生は恐らくご存知だと思いますが、東大の方の博士に対しては、留学生に対しては、取りあえず学費はいらない。いろんないいサービスというか、大学で＝(＝は判聴不能な箇所ー筆者注)。大学が違って、税制的な関係で違うと思うんですけど、向こうの方が圧倒的に当時比べてみたらよかったわけで。

総じて、授業料免除や奨学金に関しては、額以外の事項に関する不満が多々見られた。そこで、奨学金の額を増額するというだけでは、留学生の満足度を上昇させるのには不十分であるということが言える。奨学金を貸与・授与を行なう側が、選考の基準を十分に示し、情報の公開を徹底するというサポート面が充実しないと奨学金・授業料免除に関する留学生の満足度は上昇しないと思われる。また、大学ごとの奨学金の貰いやすさについては、本稿の筆者は客観的な比較は行っていないが、京都大学が他の大学より奨学金獲得が不利な状況にあるかどうか調査する必要があるだろう。奨学金獲得の上で不利であれば、京都大学は国内外の大学間競争に落伍してしまう可能性がある。また、留学生たちはこうした情報を交換する情報網を持っており、特に今回、インタビューを依頼する都合上、インタビュー対象者は全て中国人であったのでなおさらこのような情報網の重要性が浮き彫りになっている。この報告書の木下論文「留学先「第一志望」とされる京都大学の位置」でも触れられているが、留学生は常に網羅的に情報を交換しており、日本の大学事情について詳しいのである。

<留学生の暮らし>

また、重要なのは、少額で生活を行なっている学生の生活形態である。No.8の留学生は収入2万円、支出2万5千円で生活をしており、その生活の様子は一カ月の家賃が1万円、風呂なしである。シャワーについては以下のように話した。

No. 8 : ひどい暮らし

No. 8 : それもそうですが、シャワーはないんですけど、手作りで一応キッチンから湯沸しがあって、そこからホームセンターで 10 メートルぐらいのホースのチューブを買って、後ろにトイレがあるので、トイレまで引っ張ってきて、そういうふうにシャワーだけですがあるんです。

食事は生協で食べる。2 時半になったら半額の弁当が売っているのをそれを買うという。

No. 8 : 半額のお弁当が売っているんで、大体二つ買って、お昼と晩を。こういうことをよく、日常的にやっています。

この生活状況を見ると、少額で生活を行なっている学生の状況がよく見えてくる。具体的な話になるが、No.8 の留学生は入浴設備、食事に関して、十分な状況にあるとはいえない。貧困な生活といってよいのではないのだろうか。先に見たように、一ヶ月の収入が 5 万円以下の学生は 7.9%を占めており、決して無視してよい人数ではない。確かに、今回のアンケートでは経済的不満を述べた人々は少ないのだが、だからといって彼らが経済的に満足していると考えるのは早計であり、多くの留学生が厳しい生活を送っている事態を認識すべきである。

かといって、この事態に対して、単なる奨学金の増額や授業料免除の増員だけで十分なのか、という疑問がある。留学生の生活に関する悩みは驚くほど具体的なことがあるからである。

No. 5 : 本当に寮とかでも、全然、生活、汚いとかそういう問題じゃなくて、洗濯とか不便ですね。やはり、勉強には影響は出ますね。時間があれば本当に研究に使いたいのに、洗濯物を持って行って、ずっと待つ。待っている間に、ほかのことができるんですけど、また時間になったら、すぐ取りに行かないと、ほかの人に出されちゃうし。

イン : 出されちゃうんですか。

No. 5 : そうです。なので、洗濯でも 2 時間ぐらいですね、離れることができるのは。

イン : 家にあればね、回して勉強できますもんね。

No. 5 : なので、効率が違います。これが一番、ちょっと気になりますね。

このような例の場合、大学の福利厚生施設として、学習をおこないながら、洗濯と乾燥

をおこなうことができる施設を作ればそれで学生の懸念を払えることになる。留学生に具体的な支援が必要なことに関しては、洗濯のほかに、炊事、入浴、食事、運動、などが挙げられるのではないだろうか。

<留学生の健康>

こうした、生活上の無理が留学生にのしかかっていることを踏まえると、一番心配すべきは留学生の健康であろう。長時間のアルバイトや非健康的な生活が、彼らの学業の妨げになるとすれば、まず考えられるのは慢性的な病気である。気になるのは、複数の学生が病気の心配を述べていることである。

No.5： 結構、前の大学の時も、多分疲れで、心臓がいつも動悸、ときどきするんです。普通に座っていても動悸がくるので。検査とか、24 時間の心電図を付けたりとかして検査しました。結局、何もなくて。『夜は、ちゃんと寝てください』とか言われました。

No.7： 熱帯のインドネシアとか、暖かい国から来た人で、毎年しもやけができるとか。

イン： 寒すぎる。気候が合わない。

<アルバイト>

最後に、留学生の満足度を大きく左右すると思われる要因として、アルバイトと進路についてあげておく。

まず、アルバイトであるが、アルバイトが生活や学業の支障になっていると述べるものの声を挙げておく。

No.4： アルバイトをできなかった時期もあって、日本人の友達からお金を借りた。

No.8： 収入というか、お金をものすごい持っているわけでもないし、バイトとか全然する気もないです。動物実験をやっていますから、自分の時間というか実験に合わせないと駄目ですから。毎週何曜日というバイトをするのが、ちょっと難しいんです。

イン： 1,100 円。じゃあ、10 時間、働いたら 1 万円超えるんですね。奨学金とかお金の援助を得て、アルバイトを減らしてという気持ちはありますか。

No.9： そうしたいですね。

アルバイトを出来るだけ減らせれば、それだけ学業やレジャーに時間を割けるのだから、これは合理的な考え方のように思われる。そこで、気になるのは一体どのぐらいのアルバイト時間が限界なのだろうかということである。アルバイト時間が少ないほうが良いに越したことは無いように思われるが、その限界はいかほどなのだろうか。

イン： 大体、月に 40 時間、週に 8 時間ぐらいアルバイトをしているのですね。

No. 6： はい。週に 2～3 回ぐらい。

イン： それは、でも、勉強とどうですか。ちょうどいいバランスぐらいですか。

No. 6： ちょうどいいバランスですけど、僕は奨学金もらっていますから、もらっていない人はもっと多いから、多分、勉強に悪影響を与える。

イン： 与えますよね。今、悪影響がないぐらい、ちょうどぎりぎりぐらいの感じですか。

No. 6： そうですね。毎日、充実してます。

この留学生は、アルバイトに対して前向きな姿勢もうかがえるが、同時に多すぎるアルバイトが勉強に与える悪影響にも懸念を抱いている。40 時間ぐらいのアルバイトなら無理はないという態度が見られる。また、以下で見る留学生の一ヶ月のアルバイト時間も 40 時間である。

イン： アルバイトは、そんな感じで、あんまり今のところは負担ではないんですね。

No. 5： そうですね。

イン： 学習奨励費がなかったら、もっと働いていたんですね。

No. 5： それは、もちろん。特に、研究生の学費も、普通の \equiv よりも高いので、もちろん。

当然、職種によっても差があるし、このインタビューのみを以って、40 時間が一ヶ月の適正なアルバイト時間であるという気は毛頭ない。ただ、これらの発言から、少ない時間であれば必ずしもアルバイトは負担にはならないこと、および、多すぎるアルバイトが学業の妨げになることを留学生たちは恐れているということがうかがえる。さらに、上述のように、4%程度の学生たちが一ヶ月に 60 時間以上アルバイトをしている。留学生が一ヶ月に可能なアルバイト時間は 110 時間程度である。こう考えると、アルバイトが過重な負担となっている留学生は少なくないことが伺えるのである。

<進路>

次に進路について見てみよう。まず、一般企業への就職であるが、以下のような声が上がっている。

No. 9: 実は就職を考えてまして、日本で。その就職の始まる時期っていうのがすごい勉強とかかぶっていて、すごい難しい部分がありますね。例えば、僕の場合、修士1回生に入ってからすぐ就職活動が始まって。就職をやりながら勉強をするみたいなこと、すごい大変だと思いますが。日本人の学生からも、こういう苦情を聞いてます。

この学生が述べるように、日本の就職システムのうち、就職活動の開始時期が異常に早いことは、つとに批判の対象になっている。これが留学生にもあてはまるということである。こうしたことがらは京都大学という一つの大学の対応できる範囲を超えてしまっているが、国際的に優秀な留学生を獲得するための競争が激化している中、対策が求められることでもあろう。

さらに、研究職の就職について見てみよう。

No. 7: 日本だったらもっと就職が難しいと思います。ポスドクがいっぱいいるんで。

イン: ポスドクがいっぱいいますか。

No. 7: 多分。

イン: アメリカとか、ヨーロッパとか、ほかの国はどうですか？それも厳しいですか？

No. 7: ちょっとアメリカは遠いです。一応、応募はしましたが、ほとんどリジェクトされました。

イン: そうですか、厳しいですね。

No. 7: アメリカだけで43ぐらいの大学に応募しました。

イン: そうですか。アメリカだけで43。

No. 7: で、今、二十何件の大学はリジェクトされました。

No. 8: それが、今一番考えていることですけど。もしも当たらなければ、JSPSも年々厳しくなっていますし、僕も一応予測としては来年の10月ぐらいの申請ですので、そこで論文2本ぐらい通したいので。そこで、ちょっと競争できるような感じになるんじゃないかなと思うんですけど。もし、2本通らなければ、可能性としては厳しいと思います。

もしも駄目だとしても、次の＝に自分の描く道というか。もちろん、まだポスドクという＝就きたいんですけど、京大に残るのも、ちょっと今の研究室にそういうポストもないし。お金的なこともできないし。やっぱり、場所を移さないといけないですから。道としては結構いろいろあるんですけども、どれでも難しいんですが、あるにはあるんです。他の大学とか、国立〇〇研究センターとかそういうところの研究員の職があつて。挑戦というか。

特に留学生に限った話ではないのだが、研究職への就職は大変厳しい状況にあることが見て取れる。京都大学の学内で就職の世話は出来ない上に、国際的に就職活動を行なっている留学生にとっても、状況は厳しいようだ。分野によっても異なるだろうが、博士号をとっても就職が困難なケースもあることを事前に留学生に周知しておく必要があるかもしれないし、研究職に関してどのような公募があるのかを国際的に紹介する仕組みがあつてもよいだろう。

5. まとめ

以上、569名のアンケート調査に加えて、9名のインタビュー調査をまとめてきた。この調査から、以下のようなことが言えるだろう。

第一に、奨学金と授業料免除を受けていないいわゆる「非スカラシップ層」は少ないながらもいるということと、彼らが必ずしも経済的困窮を声に出して述べるものではないということである。もっとも、だからといって、彼らが日本での留学に満足しているとかたづけるのは誤りであつて、インタビューの中ですでに見たように、収入の少ない者の生活は厳しいといわざるを得ない。彼らは洗濯や入浴、食事にも問題がないとは言えない程度の生活を送っているからである。こうした状況は学生の満足度を上げるという課題を難しくしている。というのは、アンケートを作成し、自由記述欄を設けるというだけでは、十分にはこのような経済階層の声をくみ取るということが出来ないからである。今回の調査で、困窮者の状態の一端は垣間見えたものの、十分に認識できたとはいひ難い。大学に留学している人の中で、支援する必要性が高い層であると考えられるだけに、今後も継続してこの経済階層のきめの細かい調査が求められるだろう。

第二に、収入が多くても経済的に不満を述べている者もいるということである。上述のインタビュー結果を見れば分かるように、留学生の満足度は奨学金や授業料免除の金額だけから一義的に導き出せるわけではない。奨学金の選考理由や情報、経年的な給付の有無、大学ごとの配分の違いまでもが、満足度の形成に関係しているのであつて、奨学金の額を多くしただけで、満足度が上がるというものではない。留学生の満足度には弾力性があるので、厳しい生活をしていても、不満を述べない者もいれば、収入がある程度あつても不

満を感じている者がいるということである。奨学金の増額や授業料免除の増員は重要だが、これだけではなく、きめの細かい手当てが求められるところであろう。

第三に、インタビュー調査で見られたことであるが、京都大学の力の及ばない次元で、留学生の満足度が決まっている点があるということである。留学生の進路が特にそれに当たり、企業への就職活動が画一的に、しかもかなり早いうちから行われることや、世界的に研究職の就職の厳しい状況などが挙げられる。本稿の読者が必ずしも学内の者だけではないであろうと考えて書くのであるが、学外の者の協力もなければ、留学生の満足度を高めるのは難しいのである。

最後にいくつか提言を行う。

第一に、留学生へのきめの細かい援助が必要だということである。ここでは経済的・生活的な事柄だけに限るが、留学生が不満を感じていることの中には極めて具体的なことが存在する。医療や入浴、洗濯、食事などである。生活の基本に当たる部分なので、少額の援助で足りるかもしれないが、満足度を大きく左右する部分とも考えられる。学内で、安心して受けられる医療体制はもちろん、入浴場所やジム、安価な食堂、炊事場、洗濯場などを整備するというのはどうだろうか。

第二に、奨学金の選考などの競争に際しては、徹底した情報の公開が必要である。ある学生が落選してもなぜ落選したのか、現状では説明は皆無に近い。また、多くの留学生が述べているところであるが、選考された場合にしても、それは「幸運」や「僥倖」と理解されており、それを学問の評価とみなすことができない。これではたとえ奨学金の総量が多くても満足度は上がらないであろう。選考の基準や結果の根拠に関して、奨学金支給者や大学はもっと説明すべきである。

第三に、留学生に関しては京都大学だけでは対応できない問題があるということを学外に訴える必要があるということである。例えば一般企業の就職活動が始まるのが早すぎるために研究を圧迫しているということは日本では常識になってしまっているが、留学生（もちろん日本人学生にも）に対して大きな問題となっている。これは京都大学のみの努力で解決できる問題ではないが、学外の主体（この場合企業）に、「日本のある種の社会慣行が留学生の満足度を下げている」ということを訴えていくべきであろう。

文献

蘭 信三 2006 「分析結果の概要——国際交流の現状と課題」『京都大学における国際交流の現状と可能性—第2回アンケート調査報告書』京都大学国際交流センター、6-9頁

竹内里欧 2006 「留学生の生活実態と受け入れ体制への要望」『京都大学における国際交流の現状と可能性—第2回アンケート調査報告書』京都大学国際交流センター、12-24頁

第三章

留学生の満足度と要望

－ 留学生対象アンケート自由記述の一考察 －

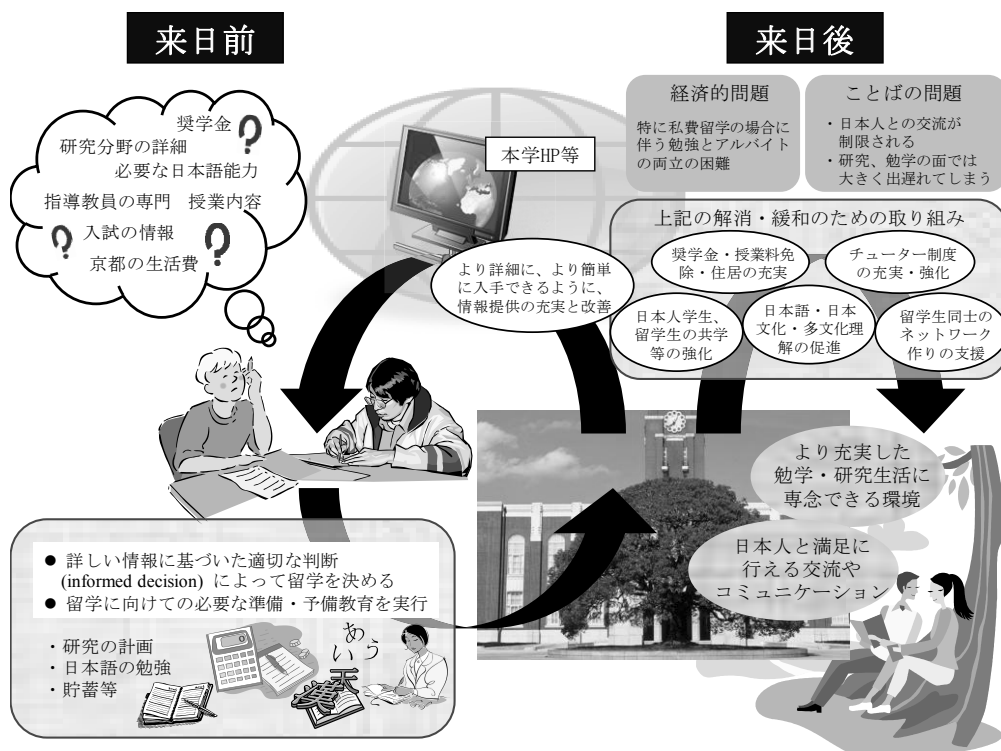
河上 志貴子

はじめに

本稿は、今回の調査に協力してくれた京都大学に学ぶ外国人留学生 569 名の回答者の中から、本学での留学生活について、自由記述の形で寄せられた様々な意見や要望を分析し紹介するものである。回答者本人によるこうした記述は、時として、選択形式の回答だけでは必ずしも十分に把握できるとは限らない彼らの考えや心情を、より詳細に把握することができる数々の重要な情報が呈示されている。

以下、1. では来日前における留学生の京都大学に対する意見や要望を、2. では来日後の日常生活や研究状況についての意見や要望を紹介すると共に、これらに見られるいくつかの共通点や傾向について述べることにする。特に、多くの回答者に充実や改善が必要と指摘された、留学情報及び提供方法（1. 3. ～1. 7.）、チューターなどによる人的支援（2. 2. 3.）、奨学金その他経済的支援（2. 2. 4. ～2. 2. 5.）、また、いわゆる言葉の壁による日本人との交流の難点や不足（2. 2. 5.）に関する記述内容に重きを置いて、枚数を割いている。なお、こうした要望を受けて本学として如何なる支援を提供できるか、あるいは環境づくりに取り組むことができるかについても適宜触れたいと思う（図 1）。

図 1 本学の留学生の現状に対処するための取り組み



結論から述べて、今回の調査で得られた様々な意見や感想を総合してみると、次のような結果になる。まず、京都大学での留学生活について、より多くの留学生が満足している点として挙げたのは、指導教員の指導や助言、周囲の学生やスタッフによる人的支援、本学の研究環境・設備・資料の充実度、カリキュラムの柔軟性や自由な学風、また、研究水準の高さである。

一方、不満や不安を感じている点として、より多くの学生が挙げたのは、経済的支援、日本人との交流や、情報提供が不十分なことである。具体的には、奨学金の充実・選考方法の透明化、日本人との交流の深さ、留学関連情報の充実や英文化の必要性を求める意見である。この他に、英語による講義の増加・充実、研究指導法や教員とのコミュニケーションの改善、チューター制度の改善などを希望する留学生も多いようである。

さらに、本学での研究生活及び日本での日常生活を送る上で、如何に日本語能力が必要であるかを来日してから初めて知った、というケースが多数見られた。こうした言葉の壁は、専門研究の進度ばかりでなく、先に挙げた日本人との交流や、研究・日常生活の全面にかかわる情報収集にも影響を及ぼすものである。これらのことが、不満や不安を抱いている留学生にとってかなり深刻な問題であることは、後に紹介する記述例からもはっきりと見てとれる。

1. 京都大学への留学についての感想・意見 - 来日前

留学生の感想や要望を詳しく見ていくに当たって、来日前と、来日後とに分けて、述べることにする。つまり、留学する前に、母国において回答者はどのように京都大学を見ていたのか、そして、来日後、実際に本学で留学生活をはじめてから、どのようにその経験を考えているのか、考察してみるというわけである。

1. 1. 日本を留学先に選んだ理由

【表 1-a】日本を留学先に選んだ理由： 選択形式回答の結果（問 21）¹

日本を留学先に選んだ理由	非常に重要	ある程度重要	合計
質の高い学問・研究	69.8%	24.4%	94.2%
日本の文化や社会への関心	36.9%	44.1%	81.0%
母国で高い評価を受けるから	21.1%	37.4%	58.5%
日本政府などの奨学金を得た	41.1%	15.3%	56.4%

¹ 以下は、適宜【資料編】の「自由記述」を併せて参照されたい。また、※を付した質問番号の自由記述は、複数の選択肢の中から回答者が「その他」を選んで記述した内容を示すものである。なお、本稿で提示する自由記述のデータは、【資料編】の自由記述を基に分析し提示したものである。ただし、紙面の関係で内容の類似している回答が【資料編】では省略されている場合がある。また、【資料編】におけるデータが本稿とは異なる分類方法で提示されている場合もあることを予め断わっておく。

ここでは、まず、留学先に関する、選択形式の回答と自由記述とを順に見ていきたいと思う。「日本を留学先に選んだ理由は何ですか。」(問 21)を質問したところ、表 1-a に見られる四つの理由について、回答者の半数以上が、重要度が「非常に重要」あるいは「ある程度重要」と答えた。

【表 1-b】日本を留学先に選んだ理由：「その他」の主な記述内容と回答数 (問 21※)

記述内容	回答数
日本文化・日本語を学びたかったから/研究が日本と関連があるから	20
海外で生活をしてみたかった、経験を積みたかったから	11
研究分野での京都大学の知名度、教授陣の水準が高いから	7
日本の研究水準が高いから	5

同じ問 21 で「その他」を選択し、理由を記述した回答者の場合も、やはり日本の文化に興味を持ったから、日本語を勉強したかったから、あるいは自分の研究が日本に関連があるからという回答がもっとも多く見られた (表 1-b)。日本語の勉強をしたかったからという理由については、平成 9 年から実施している、京都大学国際教育プログラム(KUINEP: Kyoto University International Education Program)の学部短期交換留学生にこの傾向があるようである。² この他に、海外での生活を経験したかったから、日本の研究水準が高いから、また、研究分野における京都大学の知名度や、教授陣の水準が高いから、などの意見も散見された。

1. 2. 京都大学を留学先に選んだ理由

次に、「京都大学を留学先に選んだ理由」(問 22)について見てみよう。問 23 で第一志望の大学について尋ねたところ、回答者の 85.2%が京都大学と答えており、2005 年度調査時の 87.4%とほとんど変わっていない。次の表 2-a は、本学を留学先に選んだ理由に関する重要度を示したものである (表 1-a と同様、回答者の過半数が、重要度が「非常に重要」あるいは「ある程度重要」と答えた項目に限る)。

【表 2-a】京都大学を留学先に選んだ理由：選択形式回答の結果 (問 22)

京都大学を留学先に選んだ理由	非常に重要	ある程度重要	合計
優れた教育研究指導	74.3%	18.3%	92.6%
充実した施設・研究環境	66.8%	22.1%	88.9%
京都で学びたかったから	35.7%	25.5%	61.2%
就職に有利だから	29.7%	28.8%	58.5%
カリキュラムがよいから	22.5%	30.1%	52.6%

² 本学と学生交流協定を締結している 15 カ国 28 大学 (2007 年) から、毎年約 40 人の短期交換留学生が一年ないし半年間の勉強のために京都大学へ留学して KUINEP に参加している。

また、表 2-b で示したように、本学を留学先に選んだ理由についての自由記述では、優れた指導教員がいるから、京都大学の知名度が高いから、学風や学習プログラムがよいから、京都の町が魅力的だからなど、表 2-a の結果を反映するものや、強調するものが多かった。このうち、10 人の留学生（うち院生が 9 人）は優れた指導教員がいるからなどと記述している。これについて、「私が研究したいことについてよく分かる先生がいるから」、「指導教員が自分の研究分野の専門家だから」、「〇〇先生と研究がしたかったから」、「興味のある専門分野を研究する先生がいたから」などのコメントを見ると、指導教員と研究テーマが一致したことに重きを置いていることが読み取れる。

【表 2-b】京都大学を留学先に選んだ理由： 主な記述内容と回答数（問 22※）

記述内容	回答数
優れた指導教員がいるから	10
学風や学習プログラムがよいから	8
京都大学の知名度が高いから	7
京都の町が魅力的だから	4

また、7 人の学生は本学の知名度を理由として挙げている。この人数は全体から見ると少数だが、表 2-a にあるように、回答者の 6 割弱が就職における有利さを重要視していることと考え合わせると、本学の国内ないし国際ブランドを意識して、留学先に選んでいる様子が窺える。京都大学が第一志望でなかったという回答者においても、「第一志望の大学は京都大学と比べてどの点で優れていますか」（問 23-b）に対し、「母国における知名度、評価が高い」と答えた留学生が 65.3%で最多で、また 36.0%が「母国における就職がしやすい」と答えている（複数選択可）。これらの結果からも、回答者の意識が留学後の進路に向けられていることが明らかであろう。

1. 3. 京都大学に関する情報源

【表 3-a】京都大学に関する情報源（問 24）

情報源	回答率
ホームページ	52.9%
母国の先生	36.2%
知人や友人	23.4%

【表 3-b】自由記述（問 24※）

記述内容	回答数
他大学の教員、他機関	19
インターネット	10
学術出版物	6

【表 4-a】教員に関する情報源（問 26）

情報源	回答率
ホームページ	42.4%
母国の先生	21.8%
論文を読んで	16.0%

【表 4-b】自由記述（問 26※）

記述内容	回答数
以前に会った	21
他大学の教員、他機関	12
インターネット検索など	7

次に、留学前の京都大学に関する情報源及び入手方法についての質問に移りたい。問 24 で質問した情報源に関しては、「ホームページ」、「母国の先生」と「知人や友人」がもっとも多く、票数を集めた（表 3-a）。うち、「ホームページ」を選んだ学生が 52.9%であった。いかにウェブでの情報発信に頼っているかがはっきり分かる。また、自由記述では、他大学の教員の紹介、あるいは日本語学校、JICA、JASSO など、他機関からの紹介などと答えた留学生が 19 人でもっとも多かった（表 3-b）。

「指導教員をどのように探しましたか」（問 26）に関しては、「ホームページ」（42.4%）と「母国の先生」（21.8%）がもっとも多く、次いで「論文を読んで」が 16.0%であった（表 4-a）。自由記述では、大学、学部、または文部科学省に指定されたなどと答えた学生を除き、以前に母国、学会、連携プロジェクト、あるいは説明会などで指導教員に会ったと答えた留学生が 21 人、また、他大学の教員やスタッフの紹介で、と答えた学生が 12 人で、本学の教員の国内外での学術活動の効果が表れている（表 4-b）。この他に、インターネットで検索した、あるいは本学以外のサイトで見つけたという回答も見られた。

1. 4. 提供を希望した情報

次に、「留学前にどのような情報をどのような方法で提供して欲しかったか」（問 27）に対する自由記述（回答率 64.1%）について述べることにする。まず、どのような情報が求められているかについては、表 5 を参照されたい。

【表 5】留学前に提供して欲しかった情報：主な記述内容と回答数（問 27 より抜粋）

記述総数： 228 件* *複数の情報を求める記述（例、「出願方法、指導教員と専攻、奨学金」）含む

記述内容	回答数	記述内容	回答数
教育・研究の内容に関する情報		生活に関する情報	
カリキュラム、授業内容	26	住居	28
研究分野・専攻	20	日常生活、京都での生活	25
研究室、教育研究環境	15	生活費・物価	18
教員	14	交通・アクセス、地図	15
日本語クラス、必要な日本語能力	13	日本の文化・習慣	8
学位取得条件、単位など	11	卒業生、他の留学生、サークル	8
英語によるカリキュラム	2	銀行口座、保険などの手続き	4
計	101	計	106
入試・入学に関する情報		その他	
出願方法、入試の流れ	28	奨学金に関する情報	16
入試過去問、試験の内容	6	英語による情報提供を希望	11
研究生になる方法	4	計	27
授業料	3		
計	41		

本調査で「京都大学に関する次の情報は充分でしたか。」(問 25)を尋ねたところ、「指導教員」と「専攻分野」の2項目に対して、いずれも回答者の70%以上が「充分」または「ある程度充分」と答えている。一見、この類の情報に対する満足度は高いように見えるが、表5を見れば分かるように、教育・研究の内容に関する情報を希望する留学生は決して少なくない。中でも、カリキュラムや授業の内容を求める意見が26件を数える。事前にシラバスなどを通じて、学習プログラムや授業の詳細を知りたかったなどという意見である。また、研究分野・専攻(20件)、研究室・研究教育環境(15件)、指導教員(14件)、あるいは学位取得条件(11件)に関する情報があればよかったとの記述も多数見られた。この他に、各自の専攻分野において必要とされる日本語能力、また、日本語クラスについての情報提供を望む声が13件あり、これについては後に詳しく述べてい。

さらに、表5を見れば、入学試験に関する情報の希望も多いことが分かる。問25では、「入学試験の方法」の情報提供に関して、回答者の71.8%が「充分」または「ある程度充分」と答えているが、自由記述では、むしろ、出願方法、入学試験や過去問の情報を求める声をもっとも多く、34件にも上っている。

奨学金の情報提供については、問25では、回答者の36.2%が「あまり充分でない」または「不充分」と答えており、3人に1人が情報の充実を求めている。自由記述においても、奨学金に関する情報を提供して欲しかったとの記述が16件あった。

生活面に関しても、情報提供を求める意見が多く見られた。問25では「住居(学生寮など)」について、回答者の43.6%が「あまり充分でない」または「不充分」と答えており、9項目中、もっとも情報の充実が求められている項目となっている。自由記述でも、やはり住居の情報を希望するコメントが顕著であった(28件)。次いで、日本・京都での日常生活(25件)、生活費・物価(18件)、交通・アクセス(15件)に関する情報提供を求める意見が見られた。³ その中に、「日本での生活費がこんなに高いことを知っていたら、日本に来て最初の数か月をもっと快適に過ごすために、もっとお金を持てることができたのに。」のようなコメントも見られた。今回のアンケート調査は2008年6月下旬～7月中旬に行われ、回収も7月下旬にはすでに終了しているため、その数週間後、世界中に広まった金融危機による本調査への影響は少ないと考えられる。しかし、円高や日本国内の物価の上昇が長期化すれば、住居その他生活費に関する最新の情報提供を求める留学生が増えてくることは確実であろう。

回答数は比較的少ないが、卒業生や他の留学生の連絡先、サークル関連などの情報があればよかった、との記述も散見された。情報交換などのためのネットワーク作りや交流への関心が表れていると言えよう。問45でも、「もしできれば、学期が始まる前に、留学生

³ 現在、本学の国際交流会館など、留学生に入居可能な宿舎の一部に関する情報や、生活費、交通・アクセスについての情報は、すでに本学のウェブサイトに掲載されている(大部分は英語版のページにも掲載されている)。

の会があれば、いいなと思っています。そうすると、新入生の留学生は先輩たちと交流できて、色々な情報が得られると思います。」との提案も寄せられている。卒業生を含め、学生の連絡先などの提供については、個人情報の管理の問題もあるため、慎重に検討しなければならない。しかし、学期初めに新規・現役の留学生全員を対象にした「顔合わせ」イベントなどの開催は実現可能ではないだろうか。日常生活に関しても、研究生活に関しても、情報が特に必要な来日直後に、できるだけ早い段階で情報交換の機会を与える意味は大きいと考える。また、宇治、桂など、分散キャンパスで研究生活を送る留学生には、一層このような機会は必要であろう。

なお、上記に加えて、11 人の留学生から、英語で情報を提供して欲しいなどと明記した意見も見られた。これについては、後に触れることとする。

以上のように、様々な面で情報提供の充実が求められているわけであるが、次に、回答者が希望する情報入手方法についての結果を表 6 にまとめておいた。

1. 5. 希望する情報入手方法

【表 6】希望する情報入手方法：主な自由記述と回答数（問 27 より抜粋）

記述総数： 332 件* *複数の手段での情報提供を求める記述（例、「郵便、ホームページ」）含む

記述内容	回答数
本学のホームページに掲載	176
郵送	66
電子メール	42
その他（電話、説明会など）	8

希望する入手方法について、回答を得た 332 件のうち、5 割以上（176 件）が本学のホームページに掲載して欲しいというものであった。以下に、その代表的な意見を挙げておく。

<ホームページによる情報入手に関する意見>

- ・ホームページの内容をより充実してほしい。
- ・ホームページの内容の更新が、もっと早くできればよかったと思います。一週間前はちょっときびしかったです。
- ・ホームページのインターフェース及びアクセス方法が不便で、情報調べにも不便である。
- ・大学のホームページは情報提供にはいちばんの資源だ。
- ・京都大学のホームページでもっと情報を探しやすくしてほしいです。

特に来日前の段階の留学生に対しては、いかにウェブでの情報発信が必要不可欠であるかを物語っている。次いで、必要な情報を郵送して欲しかったとの回答数が 66 件で、意外に多かった。また、電子メールで受け取りたかったなどの記述が 42 件あった。

先にも述べたように、留学生から求められている生活面に関する情報の大部分は、すでに本学のホームページに掲載されている。また、研究・教育面に関して、留学生向けに、入学試験、出願方法、専攻分野や教員の情報を提供している部局（大学院、学部、研究分野など）もあり、英語による情報がかなり充実しているところも見られる。しかし、留学生向けの情報が限られており、あるいは英語ページへのリンクが無効になっているなど、出願方法、入学試験、研究分野、教員に関する情報が欠如しているケースも少なくない。徐々にこうした情報を完備していくことが強く望まれる。また、本学の現在のホームページでは、留学・国際教育の情報へのリンクがトップページにないため、必要な情報に辿り着くのに困難を覚える可能性がある。

1. 6. 経済的支援についての情報提供

ウェブ、また各種刊行物を通じて、京都大学への留学を決定する前に、本学での留学生活に必要な情報を、より多く、より簡単に入手できるようにすれば、留学後の勉学・生活上の困窮、またそれに起因する期待外れや落胆を防ぐことも可能である。本学の場合、一部の奨学金を除き、奨学金・学習奨励費は原則として、入学してからはじめて応募できる仕組みになっている。そのため、来日前に提供できる情報が必然的に限られてくることも事実である。しかし、留学生にしてみれば、留学計画を立てる段階においてこそ、こうした来日後の厳しい現状を知る必要があるのである。たとえば、奨学金の推薦・採用について、本学推薦者の平均採用率、推薦・採用に至るまでの平均応募回数・期間、奨学金・奨励費などを受けて完全に自費で勉強している留学生の比率、留学生の平均アルバイト時間数など、今後は、より具体的な情報提供を検討する必要があるだろう。研究・日常生活の両面において、次に述べる必要な日本語能力に関する情報提供についても、同じことが言える。

1. 7. 必要な日本語能力についての情報提供

必要な日本語能力については、留学生の記述の中に、「日本では日本語でコミュニケーションをとらなければいけないので、母国で日本語の勉強をしておく必要があったことを強調して欲しかった」、「日本語能力のレベルについてはきちんと知らせるべき」、「特定のプログラムや学科では日本語が必要であること」、「ここで勉強するにあたって求められる日本語能力についての詳細」などの意見が数多く挙がっている。各々の専門の研究や勉学に充分に取り組めるようになるために、まずこうした言語の壁を乗り越えなければならないわけである。問 34 の「あなたは日本語能力について、どのような必要性を感じていますか」に対し、ある大学院生から得られた次の回答からも、この問題の対処の必要性が明らかである。

「理論上は卒業には必要ないが、実際は研究室のゼミは日本語で行われるので、日本語ができないことで私は多くの機会を失っている。」

これらの感想には、二通りのパターンに分かれているように思う。一つは、専門分野における必要な日本語能力についての情報不足を訴えるものである。もう一つは、公式には日本語能力は求められていないものの、教室や研究室内においては教員や他の学生とのやりとり、ディスカッションは日本語で行われているため、留学生は後れを取るようになる、というパターンである。日本人の学生と同様に研究生活に参加できるようになるまでには、相当な時間を要することが予想される。

また、留学生全員に対して、自身が必要だと思っている日本語能力のレベル（問 34）だけでなく、指導教員が期待しているレベル（問 37）についても尋ねた。その結果を表 7 にまとめておいた。まず、自身が必要だと思っているレベルについては、回答者の 48.5%が「論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度」を選んでいる。ところが、同じレベルの日本語能力を指導教員に求められていると思うと答えた留学生は 38.5%で、1 割少なかった。反対に、「日本語は必要ない」、「日常生活ができる程度」は、いずれも、自身が必要だと思っている留学生の割合より、教員に求められていると思っている留学生の割合の方が大きかった。留学生本人は比較的レベルの高い日本語能力が必要だと思っているのに対し、指導教員は必ずしもそこまで高度な日本語能力を求めているとは限らないようである。つまり、留学生本人たちが日々、研究・日常生活の中で直に触れている日本語の量と範囲が、教員側から見て課程修了に必要なと思われる日本語能力の量と範囲を、大きく上回っているということになる。

【表 7】必要な日本語能力（問 34、問 37）

必要な日本語のレベル	留学生本人がこの程度の日本語が必要だと思っている	指導教員にこの程度の日本語を求められていると思っている
1. 日本語は必要ない	3.0%	6.9%
2. 日常生活ができる程度	20.2%	23.6%
3. 教科書を読み、授業が理解できる程度	15.6%	11.1%
4. レポートを書き、授業で質疑ができる程度	8.1%	9.5%
5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度	48.5%	38.5%

本学としては、ホームページを通して、分野・専攻ごとに、講義・ゼミ・研究室内で実際に使用されている言語、また、論文・レポート・試験などに関しては使用を認められている言語など、より詳細に情報を提供することができれば、大いに参考となるはずである。

入学試験の情報に関しても、専門科目の試験については使用可能な言語、また、日本語の試験を要する場合は出題問題の日本語のレベルなど、ある程度具体的な目安を示しておく必要はあると考える。留学生に対する所属学部・大学院からの連絡や通知についても、日本語のみによって行われる場合は、予めその旨を明記しておくことも重要であろう。

2. 京都大学における留学生活についての感想・意見 - 来日後

次に、来日後の生活・研究状況についての感想や意見を紹介していきたい。表 8 には問 29「本学の教育・研究環境について満足している点」（回答率 71.7%）に対する主な記述、また、表 9 には問 30「不満を感じている点」（回答率 64.7%）に対する主な記述を挙げておいた。

【表 8】 本学の教育・研究環境について満足している点（問 29 より抜粋）

記述総数： 472 件* *複数の点について意見を述べた記述含む（表 9 同じ）

記述内容	回答数
指導・人的支援・人間関係	
教員からの指導・助言に満足	93
研究室等の学生やスタッフが協力的である	26
交流の機会がある	11
留学生課が協力的	5
計	135
環境の設備・整備	
図書館の蔵書や、研究資料が充実している	75
研究室など、研究環境・雰囲気がい	73
研究・実験の設備がい	27
PC、ネット環境がい	10
計	185
カリキュラムや学風、研究水準	
柔軟なカリキュラム・システム、自由な学風がい	39
研究水準がい	36
計	75

2. 1. 満足している点

表 8 を見れば分かるように、回答者の満足している点については、1) 研究指導など人的支援、あるいは人間関係、2) 教育・研究環境の設備や整備、3) カリキュラムや学風、研究水準について述べた意見がほとんどである。

この中で、もっとも多く見られたのは、「教員からの指導・助言」（93 件）に対する満足感を述べた意見である。次いで、「図書館の蔵書や、研究資料が充実している」（75 件）という意見が多数見られた。「研究室など、研究環境・雰囲がい」（73 件）との記述については、表 8 では「環境の設備・整備」に含めてあるが、研究室などの雰囲気に関する評価は、普段接している周囲の学生、教員とのコミュニケーションや人間関係の如何に大きく左右されるものでもある。これらの結果から、人的支援（とりわけ研究に関する指導や助言）が満足に受けられることや、健全な人間関係が如何に本学に学ぶ留学生に重視されているかが読み取れる。以下に、いくつか、回答者から寄せられたコメントや感想を紹介したい。

＜満足している点に関する意見＞

- ・ 研究室の雰囲気もいいし、分からない時、みんな一緒に相談する。
- ・ 指導教員は非常にいい。研究をととても熱心に教えてくれる。
- ・ 自分の好きな研究ができる点。先生たちが学生の人格・意見を尊重している点。
- ・ 指導教員と研究室の仲間たちがいつもとても助けになってくれること。
- ・ 指導の先生の責任感。研究室の人間関係。勉強・研究の雰囲気。
- ・ 指導教員は専門家だけではなく、教育家であること。
- ・ 学科での自由があることと、学科が共同指導体制をとっており、全ての教授が全ての学生に対してアドバイスができること。
- ・ 計画的思考を与えてくれることと、プロの研究者になるための準備をしてくれること。

問 28 においても、満足度を尋ねた a～n の 14 の項目のうち、「建物、図書館、実験設備」(91.3%)、「研究水準」(88.6%)、及び「指導教員の指導」(84.0%)⁴の項目に対し、比較的高い満足度を感じているという結果が出ており、表 8 に見る肯定的な意見は、これらの結果を大凡反映していると言える。

2. 2. 不満な点

では、反対に、不満を感じている点について意見を述べた留学生は、どういうところに注目して、またどのような改善を望んでいるのだろうか。これについては、表 9 を見れば分かるように、1) 日本人との交流、2) 講義・カリキュラムの内容、3) 指導・人的支援、4) 事務関係の手続き・情報が不十分あるいは不便だと感じている留学生が多い。

2. 2. 1. 日本人との交流やコミュニケーションの難点・不十分な点への不満

まず、日本人との交流における難しさ、あるいは交流の少なさを感じているとの記述が 61 件で、このうち、自己の日本語能力が足りない、あるいは相手との会話の中で英語が使えないなどがその原因だと考えている留学生が約半数であった (31 件)。問 28 でも、満足度を尋ねた a～n の 14 の項目のうち、やはり「日本人との交流」に対する不満が比較的大きく (35.5%)、また「地域との交流」(34.6%)、「チューターのサポート」(29.7%)⁵に対しても不満を感じている留学生が多いという結果が出ている。

2. 2. 2. カリキュラム・講義内容への不満

次に、カリキュラムや講義の内容に対する不満の声が 42 件あり、大きく分けて、英語による授業が少ないなどが 14 件、講義が専門と関係が薄い・多様性に欠ける・理解しにくい

⁴ () の%は各項目に対して「満足」または「やや満足」と答えた留学生の比率を示したものである。

⁵ () の%は各項目に対して「不満足」または「やや不満足」と答えた留学生の比率を示したものである。

などが 13 件、また、KUINEP 講義の内容が不充分、分かりにくいなどが 15 件見られた。

【表 9】 本学の教育・研究環境に対する不満な点（問 30 より抜粋） 記述総数 316 件

記述内容	回答数
日本人との交流	
日本人との交流が少ない・難しい（日本語能力が足りない、英語が使われないため）	31
日本人との交流が少ない・難しい（言語の問題によるかどうかを明記していない）	30
研究室内の交流や、他の研究室・機関との交流・共同研究の機会が少ない	10
地域の人々との交流が少ない	5
計	76
カリキュラムや講義の内容	
KUINEP 講義・プログラムの内容（物足りない、教員の話が分かりにくい、専門・レベルに合っていないなど）	15
英語による授業が少ない	14
講義内容（専門と関わりがない、多様性に欠けている、分かりにくいなど）	13
計	42
指導・人的支援	
指導教員の指導（不充分、会う回数が少ないなど）	13
チューターを希望、サポートの改善を望む	10
学風が自由すぎる、放任的※	7
事務窓口等の支援の改善を望む	5
計	35
事務関係の手続き・情報	
事務手続き、書類は日本語のみによって行われて（書かれて）いるため不便	17
留学生向けの情報が足りない	6
計	23
その他	
図書館関連（利用時間・貸出期間の延長、蔵書の充実、検索システム）の改善を望む	21
経済的支援の不足（奨学金の充実を望む）	17
分散キャンパス（桂、宇治など）における生活が不便、本部へのアクセスが不便	15
インターネットの速度、アクセスが不便、パソコンが足りない	14
研究・勉強する場所が足りない	8

※「学風が自由すぎる、放任的」との意見が指導・人的支援の項目に含まれている理由については、本学の自由な学風や柔軟なカリキュラムに対し、肯定的な意見が挙がっている一方（表 8 参照）、「学風が自由すぎる。学生と研究に対して教授の組織力が足りない。」「全体的に見れば、自由すぎる感じで、教授たちはあまり指導してくれない。」「母国の授業より自由な講義、考え方に最初はとまどいました。」などの意見も見られ、これらでは、本学の「学風」の「自由」な面には否定的で、指導方法に問題があると捉えられているからである。

2. 2. 3. 指導教員・チューターによる人的支援への不満

人的支援を満足に受けていないという記述も見られ（35 件）、このうち、教員の指導あるいは教員と接する機会が不充分と感じている学生（13 件）、チューターを希望するまたはチューターによるサポートの改善を求める意見（10 件）が目立った。また、指導教員との関係や、研究指導に関する意見については、問 36-a で、「指導教員とうまくいっていない」、

「どちらかというとうまくいっていない」と答えた留学生に対して、「どういう点で困っているか、またどのように解決しているか」（問 36-b, c）を尋ねた。この間に回答した 34 人のうち、圧倒的に多く見られたのは教員が多忙なため会う機会・時間が少ないとの答えである（25 人）。また、言葉の壁によるコミュニケーションの難しさを指摘する学生が 7 人で、研究分野の不一致のため話し合いが少ないというケースも 2 人見られた。

また、チューター制度に対する意見に関しては、問 41-b、41-d で具体的な記述が得られたので、ここで紹介しておく。まず、チューターと会う（会っていた）頻度については、69.8%の留学生が週に一回以上で、21.3%が月に一回以下から 4～5 ヶ月に一回程度と答えている（問 41-b）。回答者の大半は比較的頻繁にチューターと会っていることになる。しかし、同じ問 41-b の自由記述では、「ほとんど会っていない」、「会ったことがない」という回答が 17 件見られ、気になるところである。特に KUINEP の学生の中に、チューターと会う回数が少なく、制度が十分に機能していないと感じている学生が見受けられる。

【表 10】チューター制度：主な記述内容と回答数（問 41-d より抜粋）

記述内容	回答数
肯定的な意見 （役に立つ、継続して欲しい、効果がある、助かっているなど）	71
改善を要求する意見 （会う頻度が少ない、相談・支援内容に関する説明が足りない、ことばの壁があるため話しにくい、期間が短い、チューターの人選を見直して欲しい[責任感のある人がよい、英語ができる人が望ましい、留学生にTAになって欲しいなど]、私費留学生にもTAをつけて欲しいなど）	73
否定的な意見（役に立たない、効果がないなど）	18
チューターがいない、チューターを希望するなど	14
その他	20
計	196

さらに、表 10 にチューター制度全般についての主な自由記述を挙げておいた（問 41-d）。チューター制度についての回答は、200 件近くあり、肯定的な意見と、改善を望む意見に分かれる形となった。意見は多岐にわたり、「役に立つ」、「継続して欲しい」、「助かっている」など、満足や支持の声もあるが、改善を要求する声も多数挙がっている。それほどにこの制度に対する留学生の期待は大きいと言えよう。また、逆に、制度が十分に機能していると感じる場合には、それだけ大きな支えになるとも言えるわけである。

2. 2. 4. 事務手続き・図書館利用・経済的支援・分散キャンパスに関する不満

表 9 に戻り、大学の事務関係の手続き・情報に関して不満の意見が 23 件見られ、特に手続きや書類が日本語のみによって行われて（書かれて）いるため不便を感じていると訴える声が 17 件あった。この他に、図書館の利用に関して、利用時間・貸出期間の延長、蔵書

の充実、検索システムの改善（21件）、奨学金など経済的支援の充実（17件）を求める意見も比較的多く見られた。さらに、桂、宇治など、分散キャンパスにおける生活の不便、本部キャンパスから（へ）のアクセスの不便についての意見も15件見られた。

2. 2. 5. 心配や悩み

【表 11】 心配や悩み： 記述内容と回答数（問 40-b）

記述内容	回答数
奨学金など、経済的支援	30
ことばの問題	14
チューターなど、人的サポート	10
日本人との交流、人間関係	9
留学後の進路	8
異文化理解の難しさ	7
入試	4
その他	28
計	110
心配はとくにない、またはすでに解決している、解決中である	118
総計	228

問 40-b において、心配や悩みに関して尋ねたところ、回答を得た 228 件のうち、「心配はとくにない」、「すでに解決している」、「解決中である」、「まだ解決していないが何とかなる」などの記述が 118 件あり、前向きに生活を送っている様子が窺える。しかし、それ以外の、悩みや心配のあるという 110 件については、表 11 で示したように、やはり経済的支援の充実、日本語能力の向上、チューターなど人的サポートの充実、また、より密度の高い人的交流を希望する声が多く、表 9 の不満を感じている点についての結果と共通しているところが見られる。特に表 11 に関して注意すべきなのは、4 人に 1 人が、経済面に関する心配や不安を抱えている結果となっていることである。

以上のように、本学の教育・研究環境に対して留学生が不満を感じている点や、生活の中における心配や不安についての様々な意見・感想・要望を見てきた。その多くに、共通して現われている点として、日本語能力の力不足のために、研究・日常生活の中で損失を被っているという思い、あるいは英語が使えないことから生じるもどかしさや不満の気持ちを挙げることができる。以下に、こうした気持ちを切に訴える回答者の感想をいくつか紹介しておきたい。

<言葉の心配・悩みに関する意見(1) [問 40-b より抜粋]>

- ・言葉の壁があるので自分の望む程度には研究の話し合いができないこと。

- ・論文を日本語で書かなければならないので、自分の研究分野よりも、日本語の文法に時間や労力を費やさなければならないこと。
- ・自分が選んだプログラムは英語で受けられるプログラムだと思っていた。誤解を招く情報だった。京都に住むことは嬉しいし、研究室のみんなは素晴らしい。しかし日本語ができないという壁がある。ここでの生活を送るにあたって日本語の知識が非常に重要であるということを明確にした方がいいと思う。
- ・もし英語でのコースを設けてより多くの外国人教授を招けば、多くの学科で更なる国際化の利益を受けることができるだろう。
- ・京都大学は真の国際的の大学であることを売りにしているが、実際は授業や学会に関する情報が英語で提供されることは稀である。
- ・英語が話されていないので、学校の図書館や生協、事務を利用したいときは問題が多かった。

本調査最後の問 45 で、京都大学における留學生活、研究環境全般について感想・要望を尋ねたところ、次の例のように、ここでもやはり言葉の問題を指摘する声が多かった。

＜言葉の心配・悩みに関する意見(2)〔問 45 より抜粋〕＞

- ・京都大学に来る前と来た直後は、学業に日本語は必要ないと聞いていた。しかし、人間関係を築く上で大きな違いが生じることに気づいた。
- ・京都や京大に在ることを嬉しく思う。研究室も本当に良いところだ。しかしコミュニケーションも研究に関しても英語ですんなりできるものだと思っていたので、最初の年は本当に厳しいものだった。ゼミなどが日本語で行われるとは知らなかった。とにかく、研究室や卒業に必要なとされていても、入学前にある程度以上の日本語能力が求められるということを学生に知らせてあげることを薦める。

言葉の壁に関する記述の他に、やはり多く見られるのは奨学金など、経済的支援の充実や、選考方法・基準の見直しを求める意見である。特に、奨学金の選考に落ち、やむを得ずアルバイトをしながら学費や生活費の工面をしている学生からは、次のような、勉学との両立の困難を訴える声が多かった。

＜勉学・アルバイトの両立困難に関する意見〔問 45 より抜粋〕＞

- ・勉学と生活が両立できないことです。すごく悩んでいます。学校の奨学金に何回も申し込みをしたけど、なかなか推薦をもらえなかった。理由も一切教えてくれなかった。
- ・家が貧乏な留学生達は、アルバイトをしてお金を稼がなければならないので、勉強の時間は少なくなって、成績も他の人より悪くなるかもしれません。それで成績により授業料も免除されなくて、奨学金も受けられませんでした。そのため、ますますアルバイトしなければならないようになります。

- ・(前略)奨学金がないから、研究に没頭できないですが、研究がすごく忙しくて、バイトの余裕がなくなりました。生活を維持するため、バイトをやらなければならないが、いっぱい時間を投入してしまうと、勉強時間が少なくなり、成績が悪くなって、奨学金をとれない。したがって、いっぱいバイトをやるというふうに悪循環に陥ってしまいました。
- ・奨学金制度についてもっと透明化してほしいです。
- ・奨学金の選考方法を見なおす必要があると思います。

なお、問 45 では、情報提供の充実・改善、研究に関する指導方法の改善、チューター制度の改善、英語による講義の充実、事務書類の英語化、分散キャンパスの環境やサービスの整備・充実、また、学生寮など住居の整備・提供を求める意見も多数見られた。

3. 終わりに

以上のように、本調査で得られた回答者の自由記述を通して、京都大学の教育・研究環境に対する留学生の意見や要望を見てきた。今一度整理してみると、来日前においては、もっとも必要とされるのは、より充実した留学関連情報である。具体的には、カリキュラム・研究分野、入学試験、必要な日本語能力、奨学金、住居や生活費などの詳細である。また、これらに関して、特にホームページによる提供を求める意見が顕著であった。

来日後においては、より充実した勉強・研究に専念できる環境の整備を求める声が多く、経済的支援の充実がその重点となっている。さらに、日本人との交流が不十分という意見も多く、日本語学習支援、日本文化理解の促進、日本人学生との共学機会の増加が不可欠と考える。この他に、チューター制度など、人的支援の改善や強化の要望も多数見られた。

本調査を実施した 2008 年度では、1353 人の留学生 (90 カ国) が調査対象となった。⁶ この数は年々増加傾向にあり、「留学生 30 万人計画」⁷ の話も絶えない昨今の情勢を考え合わせると、さらに増えてくることはほぼ間違いない。また、留学生の層と彼らのニーズが徐々に変貌してくることも考えられる。本学として、在学中の留学生に加え、今後受け入れられる留学生に対し、如何に柔軟に且つ効率よく対応し、最善の支援を実施していくことができるか、重要な課題であることは言うまでもない。その議論をしていく上で、本稿で紹介してきた留学生の様々な声が有用な情報源となれば、無上の幸いである。

⁶ http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/issue/ku_profile/documents/gaiyo08_16.pdf

⁷ http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/07/08080109.htm

第四章

留学生の進路ーキャリアと日本留学ー

森 眞理子

〔1〕はじめに

留学生における入口が学部または大学院への入学であるとすれば、出口は卒業である。その時点で彼らは、次の段階で引き続いて研究を行なうか就職するかを選択を行わなければならない。留学生にとって、母国に帰るか、日本に残って研究または就職するかは、人生における大きな選択である。

留学志向について言及した木下昭論文「留学先「第一志望」とされる京都大学の位置」（第一章）では、留学を決める際の要素として、留学生は「就職」を視野に入れていると指摘している。さらに、他の掲載論文においても、研究と並んで就職が大きな将来の目的として留学生の意識の中にあることが述べられている。

本論考においては、母国または日本、その他の国での研究・就職を考える留学生が、実際はどのように動いていくのかを、学部正規学生／大学院正規学生／研究生（聴講生）に分類し、1）出身国別 2）学部・研究科別 にどのような傾向が表れるかを分析してみたい。（但し、研究生の傾向については、紙幅の関係により一項を設けることはせず、問題提起に留めることにする。）

この調査の目的は二つある。第一は留学生が研究・就職を選択する段階で、どのような流れで進路選択を行なうのか、その動態を知ることである。第二に、日本で就職しようとする留学生に支援を行なうには、どの層に向けたどのような支援をすればよいのかという支援体制構築の方法を探ることである。

現在学内の動きとして、アジア人財構想プログラムが工学研究科を中心に進められている。その背景には、現在日本で研究し、学んでいる留学生に、日本で就職する機会を増やすという国の大きな施策・方針がある。その他、文系研究科の専門職大学院の設置による留学生の受け入れもある。これらのプログラムで実施しているような日本における就職推進に、実際の効果が見られるのか。見られるとすれば、留学生のどの層が最もそれにかかわるのか。その場合、大学として行える就職支援のあり方とはどのようなものなのか。現在これらの動きは始まったばかりであり、この論考だけで結論を出すことは難しいが、将来京都大学での留学生教育の一つの大きな要素になることが予想される就職支援を視野に入れて、考察していきたい。

〔2〕留学後の進路ー2005年度調査との比較

今回の調査を考えていくための資料として、2005年度調査との比較から始めたい。2005年度調査に関する分析として、次のような内容が記述されている。

「学部生に関しては人数が少なく断定はできないが、傾向として、研究継続にせよ就職にせよ「日本で」ということを望んでいる者が多いと分かる。一方、院生は研究継続より「就職」を望んでおり、その際には「母国で」ということがもっとも望まれている。」（「留学生の生活実態と受け入れ体制への要望」竹内理欧 p 23）

表 1

表 2

		2005年度調査		2008年度調査		
留学後の進路		学部生	院生 <研究生・聴講生を含む>	学部生	院生	研究生 ・聴講生
研究継続	母国で	0.0% (0)	2.9% (2)	5.0% (2)	8.6% (30)	25.6% (33)
	日本で	47.4% (9)	13.0% (9)	32.5% (13)	5.5% (19)	13.2% (17)
	その他の国で	26.3% (5)	5.8% (4)	30.0% (12)	2.0% (7)	3.1% (4)
就職	母国で	0.0% (0)	49.3% (34)	15.0% (6)	37.6% (131)	25.6% (38)
	日本で	21.1% (4)	20.3% (14)	42.5% (17)	33.6% (117)	17.8% (23)
	その他の国で	5.3% (1)	8.7% (6)	0.0% (0)	12.6% (44)	10.9% (14)
合計		100.0% (19)	100.0% (69)	100.0% (50)	100.0% (348)	100.0% (129)

この時から3年を経過して、現在の京都大学では留学生数の増加のみならず、留学生の研究志向・就職志向に大きな変化が生じていることが、表1、2からはっきり見て取れる。表1と表2とを比較していえることは、以下の通りである。

- 1) 2005年度調査では学部正規学生のほとんどが、研究場所として「日本」を望んでいる。一方今回の調査では、「日本」ももちろん大きな選択肢であるが、「その他の国で研究継続」が「日本」と同じ程度に増加している。(但し、2005年度は回答総数が少ないため、傾向として述べるに留める。)
- 2) 学部正規学生の就職希望は、2005年度調査では「日本」が多いが、今回の調査では、母国1：日本3の比率で、母国が選択されている。
- 3) 2005年度調査では、大学院正規学生の研究継続場所として選択する「その他の国」は、欧米諸国(28.3%)が多い。今回調査では、「その他の国」は23.5%であり、いくらか低い数値となっている。
- 4) 2005年度調査では、大学院正規学生の就職場所として、「母国」と「日本」がほぼ2：1の比率で選択されている。今回調査では、約1：1の比率となり、「日本」での就職増加の傾向が見られる。「その他の国」の選択率も就職希望者の15%を占める。
- 5) 2005年度調査では、大学院と研究生・聴講生を便宜的に同じ項目に含めていた。今回調査では、研究生・聴講生は大学院生とは別項を立てなければならないほど留学生数が増加していて、しかも研究生修了後に「日本」で就職する層も少なくない。

さらに、今回の調査の問38[留学後の進路]の回答を、2005年の同じ質問の回答と単純比較してみる。表3からわかることは、この3年間で留学生の進路に対する考えが、研究志向から就職志向へいくらか推移しているということである。しかし、その内訳を見れば、研究継続・就職志向ともに大きく変化していることがわかる。

表 3

留学後の進路	2005年	2008年
学生として研究を続ける	28.4%	20.2%
就職する	67.9%	73.6%

表 4

希望する 場所	研究を続ける場合		就職する場合	
	2005年 n=92	2008年 n=115	2005年 n=220	2008年 n=419
母国で	30.4%	27.8%	61.4%	43.4%
日本で	27.2%	47.0%	15.9%	37.9%

表 5

(注：表 3、4、5 は、各年度の研究・就職の希望場所をパーセントで表した縦方向の表から、母国と日本の選択率を見るために一部を抽出したもので、合計 100%ではない。)

表 4 及び表 5 から、2005 年時点では母国での研究継続や就職を希望する者の比率が高かったが、2008 年では「母国」は減少傾向にあり、逆に「日本」志向は明らかな上昇傾向を示していることがわかる。

これらのまとめとして、研究継続であれ就職であれ、2005 年から 2008 年までで、留学後に「日本」を選ぶ層が増加していること、「その他の国」も選択肢として加わったことが挙げられる。ここでいう「その他の国」とは、留学生の母国でもなく、留学先の日本でもない第三国の意味であるが、自由記述によって特定すると、アメリカ、ヨーロッパ諸国、カナダ・オーストラリア・シンガポール等が挙げられており、中でもアメリカ、ヨーロッパ諸国に集中していることがわかる。

[2]の現状を踏まえ、次の項では、留学生の京都大学滞在時の身分（学部正規学生／大学院修士課程／大学院博士課程）別に、留学後の進路として研究継続を考えているか、就職を考えているかの分析を行ないたい。

大学院正規学生を修士課程在籍者と博士課程在籍者に分けた理由は、留学生が日本に留学して来る大きな目的の一つに博士学位取得があり、その資格が母国での就職、特に研究職への就職に大きく影響すると考えられてきたためである。しかし、修士学位取得後就職を考えている留学生数を計ることによって、学位取得の現在的な意味付けを見出すことができるのではないだろうか。それによって、現在の留学生全体の研究または就職志向が見えてくるのではないかと考え、身分別の分析を行なってみた。

[3] 学部正規学生の留学後の希望進路

[3]. 1. 学部正規学生の研究志向

京都大学の国費及び私費の学部留学生は 2008 年 10 月 1 日現在で、教育学部・医学部を除く全学部に在籍するが、中でも工学部・農学部・経済学部が学部留学生数の多い学部である。ここでは、主としてその 3 学部にしぼって、学部正規学生の留学後の希望進路について考察する。

表 6 留学後の希望進路 (学部正規学生)

	研究希望	就職希望	合計
工学部	42.9% (12)	57.1% (16)	100.0% (28)
農学部	66.7% (8)	33.3% (4)	100.0% (12)
経済学部	75.0% (6)	25.0% (2)	100.0% (8)
3学部合計	54.2% (26)	45.8% (22)	100.0% (48)

(注：その他の学部は、回答数 1 であり、傾向を知るには至らないと判断し除外した。)

表6からわかるように、工学部は、就職希望が研究希望をやや上回る程度であるが、農学部・経済学部では、研究希望の方が、就職希望に比較して2倍から3倍多く、学部正規学生の多くが学部卒業後、修士課程に進学することを、学部在学中から考えていることがわかる。

木下論文の、「なぜ京都大学を選択したか」の問題提起の中で、京都大学の知名度を取り上げ、それは「就職」に関係してくるとの指摘があった。そのこととの関連では、学部正規学生の約半分強は、「就職」を学部卒業直後のこととしてではなく、大学院修了後のこととして考えていることが見えてくる。

次に、研究をする場所として、学部正規学生は研究継続先として、どこを希望しているのかについて見ていく。表7によると、研究継続の場所は、「日本」と「その他の国」が13：12とほとんど同じ比率で選択されている。「母国」を選んだ学生が極端に低い数字を示しているのと対極的である。

学生として研究継続の場合、どこで続けるか。（学部正規学生の場合）

表7 所属別

	学生として研究継続の場合			
	母国で	日本で	その他	合計
文学部			1	1
経済学部		4	2	6
工学部	1	4	7	12
農学部	1	5	2	8
合計	2	13	12	27

表8 出身国別

	学生として研究継続の場合			
	母国で	日本で	その他	合計
中国		7	8	15
韓国		3	2	5
モンゴル		2		2
インドネシア			1	1
カンボジア		1		1
ケニア	1			1
セルビア			1	1
タイ	1			1
合計	2	13	12	27

[工学部の特徴]研究継続を、母国1：日本4：その他の国7の割合で希望している。日本で進学を希望する人より、その他の国で研究したい学生のほうが多い。

[農学部の特徴]研究継続を、母国1：日本5：その他の国2の割合で希望している。日本での進学希望とその他の国での進学希望が、5：2と工学部と逆転している

[経済学部の特徴]研究継続を、母国0：日本4：その他の国2の割合で希望している。日本での進学と他の国との比率が、4：2と日本が高い。母国での進学を考えていない（0）ことは特徴的である。

次に、以上の学部生はどの国の出身者が多いかについて見ていくことにより、研究継続を希望する学部正規学生の志向と分布をおおまかな傾向として把握することを試みたい。表8で学生の出身国が1である場合は除外して、数値の高い出身国を見ていくことにする。韓国5名、中国15名が、「日本」または「その他の国」を選択しており、「母国」での研究希望は0名となっている。このことから、韓国・中国学部学生の母国以外での進学志向が顕著であることがわかる。また、「日本」と「その他の国」での研究継続希望の比率がほぼ同じであることも特筆すべきことである。（モンゴルは2名中2名が日本での研究継続を希望している。これも上の国と同じ傾向の現れととれる。但し、モンゴル出身の学部生は、総数自体が韓国・中国に比べて少なく、大きな流れとしてはとらえられなかった。）

[3]. 2. 学部正規学生の就職志向

学部正規学生の就職志向が、大学院進学後の希望であることは、前項で述べたが、ここでは、彼らは就職場所としてどこを選択しているのかについてみていくことにする。ここでも、回答数1に対して傾向とみなすことは避け、回答数の多いものに注目していく。

学部正規学生の回答総数からおおまかな傾向を見ると、「母国」：「日本」が6：17の数値で上がり、約1：3の割合で、日本を就職場所にしたいと考えている学生が多いことがわかる。この内訳については下に述べる。

就職を希望する場所について（学部正規学生の場合）

表9 所属別

	就職する場合		
	母国で	日本で	合計
文学部	1		1
経済学部		2	2
理学部	1		1
工学部	1	14	15
農学部	3	1	4
合計	6	17	23

表10 出身国別

	就職する場合		
	母国で	日本で	合計
中国	1	16	17
韓国	2		2
シンガポール	1		1
タイ	1		1
ブラジル	1		1
不明		1	1
合計	6	17	23

所属学部別（表9）には、工学部・経済学部で、「日本」での就職を考える学生がほとんどであるのに対し、農学部では「母国」での就職希望の方が多いという傾向が見られる。

出身国別（表10）では、17名の「日本での就職希望者」のうち、16名が中国国籍を持つ学生である。他の国の学生は大半が「母国」での就職を希望しているのとは対照的である。

[3]. 3. まとめ

学部正規学生の研究志向・就職志向について見てきたところをまとめると、次のことがいえる。

- 1) 学部正規学生は研究志向が強く、卒業直後の就職より修士などの進学後の就職を考えている。
- 2) 研究の場として、母国、日本、その他の国のうち、母国は極端に少なく、日本とその他の国がほぼ同じ比率で選択されている。
- 3) 比較的 student 数の多い工学部・農学部・経済学部の学生を比較しても、1)、2)の傾向が窺えるが、理系学部の工学部と農学部では進学希望国に逆転現象（日本⇔その他の国）が見られる。
- 4) 就職先として、中国人学生以外では「母国」と「日本」とを半数ずつの割合で選択する学生が多い。その中で中国人学生が「日本」を選択する率は群を抜いて高く、全体として「日本」志向を押し上げている。所属学部では、母数の多さを反映して（75/142<部局別留学生数 2008・10・1現在>）工学部が「日本」を選択する比率が突出して多い。

[4] 修士課程大学院正規学生の留学後の希望進路

この項においては、今回のアンケートで大学院正規学生として分類した学生（問5）を、修士学位取得希望か、博士学位取得希望かを問う項目（問8）によって、さらに修士学生と博士学生とに分類し、身分によって、研究・就職志向にどれほどの差異と傾向が見られるかを検証する。

[4]. 1. 修士課程大学院正規学生の研究志向

表11に示す通り、修士課程大学院留学生の志望の顕著な傾向は、次項[4]. 2. に挙げる「就職」にあるといえる。そのため、この項では、研究志向の修士学生がどこで研究を継続したいと考えているか、どの国の学生に明らかな特徴が見られるかに焦点をしばって、大まかな研究継続傾向を見ていく。

回答総数15名のうち、母国での研究継続希望者2に対して、日本での研究希望10、その他の国を選択した者3で、「日本」が2/3の比率となるが、研究を選択した学生数が少ないため、ここでは参考として掲げるに留める。その他の特徴として、母国での研究継続を考える修士学生は、文学研究科・理学研究科に多い。日本で修士学位を取り、母国で博士学位を取得したいと望む学生であると考えられる。

出身国別で特徴的なものについて見ていくと、中国人学生の研究希望場所として、「母国」：「日本」：「その他の国」が1：4：3の割合で現れており、中国人留学生の進学の実績が増えている傾向が明らかに見てとれる。

留学・修了後の希望進路（修士取得希望者の場合）

表11 所属別

研究科	研究継続	就職希望	その他	合計
文	3	4	0	7
法	0	3	0	3
経	1	11	0	12
理	1	3	2	6
医	0	2	0	2
薬	1	7	0	8
工	3	15	3	21
農	1	8	0	9
人環	1	7	0	8
エネ科	2	1	2	5
情報	2	8	0	10
生命科学	0	1	0	1
合計	15	70	7	92

表12 出身国別

出身国	研究継続	就職希望	その他	合計
中国	8	41	2	51
韓国	1	6	1	8
マレーシア	1	3	1	5
台湾	1	2	1	4
タイ	0	2	1	3
ブラジル	0	3	0	3
合計	11	57	6	74

[4]. 2. 修士課程大学院正規生の就職志向

この項では、大学院修士課程に在学中の留学生の就職志向について、研究科別にどのような傾向が見られるかを見ていく。表11では、進学希望と就職希望の比率で、就職希望の高い研究科を取り上げてみた。この表から、ほとんどすべての研究科の修士学生が、研究継続・進学希望より就職を希望している数が多いことがわかる。特に、経済学研究科、工学研究科、農学研究科、人間環境学研究科の就職希望率が高い。反対に、文学研究科で

は、進学と就職の比率がほぼ 1 : 1 で、他の研究科に比べて研究志向が幾分高い。また理工系研究科で母国及び日本以外の国に行くことを考えている留学生が多いことは、特徴的であるといえる。

経済学研究科において、他の研究科とは比較にならないほど高い比率で「就職」が出ている理由の一つとして、専門職大学院（経営管理大学院）の開設が大きく関係していることが考えられる。2008 年 10 月 1 日現在 34 名の留学生が在学中である（留学生課統計調べ）。同じことが公共政策大学院についてもいえるであろう。（但し表では、それぞれの専門職大学院は、経済研究科・法学研究科に含まれているため、数値上の区別はつかない。）全体数を見ても、研究継続・進学希望者と就職希望者が、15 : 70 で、修士課程留学生には、就職希望者が多いことが明らかである。本論考[2]でも述べたとおり、2005 年度調査と比較して、修士修了後の就職希望者が増加していることが明らかである。

表 1 2 による出身国別に就職希望者を見ると、韓国、中国の比率が高い。タイ、マレーシア、ブラジルの場合も回答数こそ少ないが、就職志望の傾向が見られる。この中で、中国人留学生数の多さを考慮しても、その就職希望者は群を抜いて多い。中国人留学生の研究・就職志向については、今後の課題として個別に分析する必要がある。

次に修士修了後の就職希望者が、どこで就職したいと考えているかについて見ていく。就職希望場所として、「母国」：「日本」：「その他の国」の回答数の比率は、23 : 40 : 4 で、日本での就職希望者が母国希望者の 2 倍近いという傾向が見られた。数値上から見れば、母国に帰国して就職することを希望している修士学生が 23 名であるのに対し、研究継続希望者は 15 名であった。母国での就職希望者より、日本での就職希望者が 2 倍近い数であることを考えれば、修士学生にとって、「就職」選択が一つの大きな傾向をなしていることがわかる。これは、先に述べた学部学生の就職の傾向とも異なり、また次項で述べる博士課程修了者とも異なる、修士修了者の大きな特徴といえてよい。

就職を希望する場所について（修士取得希望者の場合）

表 1 3 所属別

研究科	就職する場合			合計
	母国で	日本で	その他	
文	2	2	0	4
法	2	1	0	3
経	0	7	2	9
理	2	0	1	3
医	2	0	0	2
薬	3	3	1	7
工	2	12	0	14
農	4	4	0	8
人環	3	4	0	7
エネ科	0	1	0	1
情報学	2	6	0	8
生命科学	1	0	0	1
合計	23	40	4	67

表 1 4 韓国・台湾・中国出身者の場合

出身国名	就職する場合		合計
	母国で	日本で	
韓国	3	3	6
中国	7	33	40
台湾	0	2	2
合計	10	38	48

表 1 3 から、どの所属学部の修士学生が、日本での就職を考えているかを見ると、経済学研究科・工学研究科・情報学研究科などが多いことがわかる。

工学研究科・情報学研究科などの理系学部では、指導教員の紹介による就職が多いと言われている。同じ理系学部であっても、農学研究科は、母国：日本が1：1の割合であり、就職先として日本が特に多いとは一概にいけない。このように、各研究科における留学生就職事情が異なることは確かであるが、それが何に起因しているのかについての調査はまだない。就職先企業が大学卒を持つケース等、詳細にはどのようなルートで就職が決まっていくのか、留学生の場合について追跡してみることも今後の課題であろう。

また、理系学部ほどには就職がたやすい文系学部、特に就職希望者の多い経済学研究科などの修士学生が、どのような方法で就職先を見つけるのかについても、今後調査していく必要がある。このような調査は、京都大学キャリアサポートセンターとの共同調査を行うことで、より実態に迫ることができるのではないかと考えている。

次に、出身国別の就職先希望の傾向を見ると、母国で就職を考えている修士学生が9カ国13名で、アジア諸国、欧米諸国にはほぼ満遍なくいるのに対し、韓国・台湾・中国の修士学生には、他の国の出身者とは異なった就職志向が見られる。

表14によれば、3カ国の修士学生のうち、韓国人修士学生は、母国と日本の就職希望が1：1であるのに対し、中国人修士学生は約1：5の割合で日本での就職を希望していることがわかり、全修士課程留学生の1：2の割合から大きく異なる分布になっている。台湾出身者は総数が少ないため、表から結論づけることは難しいが、傾向として「日本」選択の高さは窺える。

[4]. 3. まとめ

修士課程大学院正規学生（修士取得希望者）の研究・就職傾向では、2005年時点と比較して、就職志向の著しい伸びが見られる。特に、経済学研究科、工学研究科、農学研究科、人間環境学研究科でその傾向が強い。修士学生に、日本での就職を希望する層が多いことも特徴といえる。母国での就職希望との対比では約2倍に上る。中でも、留学生数の多い中国人学生を中心に日本への就職希望が高い。しかし、韓国などでは異なる傾向も見られ、多様さの一端を示している。

[5] 博士課程大学院正規学生の留学後の希望進路

[5]. 1. 博士課程大学院正規学生の研究志向

博士課程大学院正規学生の研究と就職に対する希望は、研究15：就職231の回答数が示すように、ほとんど全員が就職を希望していることがわかる（表15参照）。研究を続けると回答した者も、就職先として研究職を選択する、ポスト・ドクターとして研究するなどのケースが考えられるため、就職を射程に入れているのではないかと想像が容易である。このような事情から、博士課程修了者の、研究・就職志向は簡単に分類することは難しいが、就職志向が大勢を占めていることは明らかである。

表 1 5 留学・修了後の希望進路 (博士取得希望者の場合)

	研究継続	就職希望	その他	合計
文	1	13	0	14
法	3	8	0	11
経	0	10	0	10
理	0	16	0	16
医	2	22	1	25
薬	1	9	0	10
工	3	56	5	64
農	0	23	1	24
人環	3	10	0	13
エネ科	0	30	1	31
AA	0	7	0	7
情報	2	9	2	13
生命科学	0	4	0	4
地環	0	8	0	8
その他	0	6	0	6
合計	15	231	10	256

(注: アンケートでは、国際交流センターも所属部局として挙げられていたが、ここではその他とみなす。)

そのような傾向を踏まえた上で、研究職に就くか、新たな研究分野を選択するか、いずれにせよ、博士課程大学院修了者が、次にどこで研究しようと考えているかを見ていきたい。表 1 6 に見られるように、「母国」：「日本」：「その他の国」の割合は、1：9：4 であり、「日本」を研究場所として選択する博士取得希望者が多いことがわかる。「日本」を研究場所として選択する博士課程大学院生は、文系・理系ともに同じような割合を示していることから、一つの傾向とみなすことができる。博士課程修了者の研究継続については研究分野・博士後の在留身分を含めた個別調査の必要がある。

さらに表 1 7 から出身国別に研究継続希望者を見ると、「日本」を選択している学生が、中東アジア・東ヨーロッパ・東南アジアの出身者に偏在している点も見逃せない。また、中国人博士取得希望者は、母国での研究希望者は全くなく、日本とその他の国での研究希望が、ほぼ 1：1 の割合で見られる。中国人学生の選択肢の広がり傾向は、ここでも確認される。

学生として研究継続の場合、どこで続けるか (博士取得希望者の場合)

表 1 6 所属別

研究科	学生として研究継続の場合			
	母国で	日本で	その他	合計
文	0	1	0	1
法	0	2	1	3
医	0	1	1	2
薬	0	1	0	1
工	1	1	1	3
人環	0	1	1	2
情報	0	2	0	2
合計	1	9	4	14

表 1 7 出身国

出身国	学生として研究継続の場合			
	母国で	日本で	その他	合計
中国	0	4	3	7
韓国	1	0	0	1
インドネシア	0	1	0	1
シリア	0	0	1	1
スロバキア	0	1	0	1
バーレーン	0	1	0	1
マレーシア	0	1	0	1
ルーマニア	0	1	0	1
合計	1	9	4	14

[5]. 2. 博士課程大学院正規学生の就職志向

博士取得終了後の就職希望者数は、修士 77 名であったのに対し博士 233 名と、博士取得後の就職希望者が大幅に増加している。博士課程が大学の学歴の最終段階であることを考えれば、この回答数は首肯できる数値といえる。

次に、アンケート回答者の出身国を見ると、46 カ国を数える。修士取得希望者が 20 カ国であったのに比べれば、約 2.5 倍の多さである。これは、修士課程から引き続き博士課程に進学する学生ではなく、京都大学で学び博士取得を目的とするために、博士課程から京都大学に入学する学生が多いことを示していると考えられる。表 18 は、博士取得希望者の出身国 46 カ国を地域別に示したものである。表によれば、アジア地域が突出して多く、ヨーロッパ、中南米がこれに次いで多い。

さらに、博士取得希望者が、就職先としてどこを希望しているかについて見ていくと、「母国」：「日本」：「その他の国」が、107：76：38（回答総数 223）の割合で選択されており、修士取得希望者が母国で就職を希望する場合よりも、さらに母国での就職希望者数が増加していることがわかる（[4]. 2. 参照）。博士修了者の場合、帰国後元の職に復帰する予定者が 3 分の 1 以上いることも特徴的である。

表 18 地域別に見た修了後の進路（博士取得希望者）

出身地域	研究継続	就職希望	その他	合計
アジア	13	187	7	207
北米	0	4	0	4
中南米	0	15	0	15
ヨーロッパ	2	16	1	19
アフリカ	0	7	2	9
その他	0	4	0	4
合計	15	233	10	258

就職を希望する場所について（博士取得希望者）

表 19 所属別

所属学部	博士修了後の就職			
	母国で	日本で	その他	合計
文	7	5	0	12
法	2	6	0	8
経	4	4	1	9
理	4	5	7	16
医	12	3	6	21
薬	7	1	1	9
工	26	20	8	54
農	11	6	4	21
人環	3	6	1	10
エネ科	14	12	4	30
AA	5	1	0	6
情報	4	4	0	8
生命科学	1	0	3	4
地環	4	2	2	8
その他	3	1	1	5
合計	107	76	38	221

表 20 出身国別

出身国	博士修了後の就職			
	母国で	日本で	その他	合計
中国	30	25	5	60
韓国	11	15	6	32
タイ	8	4	6	18
インドネシア	9	2	2	13
台湾	4	3	4	11
ベトナム	5	3	0	8
ネパール	2	5	0	7
インド	1	2	2	5
エジプト	3	2	0	5
バングラデシュ	3	2	0	5
マレーシア	3	0	2	5
フィリピン	2	1	1	4
ブラジル	3	0	1	4
フランス	1	2	1	4
合計	85	66	30	181

次に、博士修了後就職をする時、出身国別にどのような流れがあるのか、特徴的なものについて見ていきたい。表 19 は、比較的学生数の多い国の博士取得希望者の、就職希望についての表である。（傾向のみを見る目的から、学生数 1～2 名の国は除外した。）

中国・韓国・台湾出身者は、母国、日本、その他の国のいずれも選択しているが、韓国人・中国人が、その他の国を選択する割合は多いとはいえないのに対し、台湾出身者の場合は、母国、日本、その他の国がほぼ同数で現われている。

上の 3 カ国以外で、母国での就職希望者が多い国は、インドネシア、タイ、ベトナムであるが、インドネシア、タイが日本でもその他の国でも就職を希望しているのに対し、ベトナムは、日本のみを選択し、その他の国への希望が見られない。

ベトナム型の就職希望は、エジプト、ネパール、バングラデシュにも見られ、一つの傾向を示している。それとは反対に、マレーシア、ブラジル出身者は、母国以外に、その他の国を選択するが、日本を就職先として選択しない。

回答総数が少ない中からの抽出なので、ここから結論を出すことは困難であるが、出身国によって、「母国 or 日本」の就職選択型と、「母国 or その他の国」の就職選択型の傾向がある程度見えるのではないかと考えている。就職希望に個々人の恣意的な側面があることも十分考慮した上で、そのような就職志向の型がどのような理由で生じ、各国または地域の諸事情によってどのように変化するかを考えていくことも、今後の重要な課題といえよう。

[5]. 3. まとめ

博士課程大学院正規学生（博士取得希望者）の研究・就職志向には、次のような傾向が見られる。

- 1) 博士課程留学生は、博士修了後母国で就職するという従来型の研究継続志向が多く、従って復職率も高い。
- 2) 修士学生の出身国が 20 カ国であるのに比べ、博士学生の出身国は 46 カ国に上り、博士課程期間のみを京都大学で研究する学生が増加している。このことから[修士課程→博士課程]の 5 年間はパッケージされているわけではないことがわかる。
- 3) 博士修了後の就職先として母国以外に、主として理工系研究科の学生を中心に、日本やその他の国を選択する傾向も少なからず見られ、研究者または研究のグローバル化が進んでいることも確認された。

[6]現状のまとめと課題

本章では、京都大学に在籍する留学生の研究・就職志向を、各階層別に分類し、所属と出身国を切り口として見てきた。その結果、以下の内容が明らかになった。

- 1) 学部学生には、修士課程の進学を前提に入学してくる者が多く、5 年間の勉学・研究期間を予定している傾向が見られる。

- 2) 修士課程学生は文系・理工系に限らず、この3年間で就職希望者が大幅に増加している。中でも日本での就職希望者が増加している。
- 3) 博士課程学生では、従来の研究型が大勢を占め、母国で就職するという傾向は変わっていないが、日本やその他の国を就職先として選択する者も増加しており、研究者及び研究自体のグローバル化が進んでいることが明らかである。

なお、研究生について一項を立てることはしなかったが、その傾向について簡単に触れておく。従来型の研究生は、大学院進学の前段階という位置づけがされてきた。研究を目的とする研究生である。しかし、今回の調査で、研究生層の志向に多様性が生まれつつあることがわづかではあるが見えてきた。研究生の出身国は41カ国を数え、博士課程出身国46カ国に近い。研究生の中には従来型の研究生も含まれるため、この数字は、ある程度説明がつけられる。しかし、研究生修了後の希望として日本で就職することを考えている研究生が相当数見られることは、一つの特徴といえるのではないだろうか。これらの研究生はまた、その他の国での就職も視野に入れている。もちろんこの中には、研究→就職という長期的な希望を述べた者もいると考えられ、その流れについての質問項目は設けられていないので、今回のアンケート調査から単純に結論を出すことは困難である。上に述べた傾向をさらに詳細に解明するために、追跡調査や聞き取り調査も実施して、研究生の将来設計にはどのようなパターンが見られるかを分析していく必要がある。今後の大きな課題の一つである。

最後に、冒頭で述べた大学として支援していく体制はどのようにあるべきか、国際交流センターが行うべきことは何かを述べて、この論考を締めくくる。

- 1) 学部学生に対して行うべき支援は、第一に6年間の勉学・研究期間を保証することである。そのためには、勉学・研究の基盤となる、奨学金の充実を含む経済的支援が求められる。
- 2) 修士課程大学院生に対する現在最も必要とされる支援は、彼らの日本での就職活動支援であり、全学的取組みが求められるところである。それに付随して、日本で就職した留学生が、実際に日本に滞在する期間はどれ程か、次にどのようなキャリアを重ねるのかについての動向調査を行なう必要がある。
- 3) 博士課程大学院生に対する研究上のサポートは各研究科が既に行なっていることであるが、国際交流センターはパイプ役として、ネット構築を始めとする方策を打ち出し、世界で活躍する彼らと日本とをつなぐために、もっと具体的な形で彼らへの働きかけを行わなければならない。なぜなら彼らは、次世代の質の高い留学生を、京都大学ひいては日本に送り出す強力な牽引車になるはずだからである。

第 II 部

日本人学生対象アンケート・インタビューの分析結果

第五章

京都大学生における留学志向の三層構造とその規定要因

野口剛

1. はじめに

全世界で国境を越えた学生の移動が加速するなか、日本では2008年に「留学生30万人計画」の骨子が策定された。そのなかでは、「日本を世界により開かれた国とし、アジア、世界の間のヒト・モノ・カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する一環として、2020年を目途に30万人の留学生受入れを目指す¹」とうたわれている。一方日本にとっては、こうして海外からの留学生を受け入れると同時に、日本の学生を留学生として外に出す方向にも重点が置かれることになっている。2003年12月16日づけで発表された中央教育審議会の「新たな留学生政策の展開について（答申）」では、「我が国の国際競争力の強化やグローバル化した社会で活躍できる人材を育成するという観点から、より多くの日本人学生が短期留学や学位取得を目指して海外留学を経験することが望ましく、国として、それを推進する必要がある²」という日本人の海外留学への支援方針が明確にうたわれた。ただし上記の目標や理念は、結論や数値目標が先行する嫌いがあり、詳細な研究や具体的なデータにもとづいているものとは必ずしもいえない。

2. 問題の所在

一方、京都大学では、2002年度から国際交流センターによる「国際交流の現状と課題」と題した調査が実施されており、海外からの留学生および京都大学生の留学志向について、一定のデータ蓄積がなされてきている。2005年度調査のレポートにおいては、すでに留学が決定している者以外の京都大学生をその留学志向から、積極派、消極派、浮動層の三層のクラスタに分類し、それぞれのニーズに応じた支援体制を確立することが提唱されている³。この分類は近森によれば、

積極派：「留学したいと思ったことがある」かつ「留学に向けた情報収集を行っている」

浮動層：「留学したいと思ったことがある」かつ「留学に向けた情報収集を行っていな
い」

消極派：「留学したいと思ったことがない」

¹ http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/07/08080109.htm

² http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/03121801/004.htm

³ 近森高明、2006、「留学志向の三層と留学支援のありかた—積極派・消極派・浮動層のプロフィールを手がかりに—」『京都大学国際交流センター 京都大学における国際交流の現状と可能性—第2回アンケート調査報告』（京都大学国際交流センター）。

という基準によってそれぞれ分けられている。本論でも、この留学志向の三層構造という分類を踏襲しながら、この三層構造と関連のある属性・能力はいかなるものなのかという問いを考えてみたい。上述のように、近年、日本人の海外留学支援が積極的に打ち出されているとはいえ、そもそも学生の留学志向とどのような属性・能力とがかわりを持っていてのかを明らかにしないままには、有効なサポートは行えないだろう。すなわち、大学による留学サポートを考えるうえでは、大学がサポートできることとできないことを峻別しておかねばならない、ということである。例えば、留学に対する志向が大学入学以前にすでに決定される性質のものであれば、大学による留学サポートは非常に限られたことしかできないことになる。逆に、大学が積極的にかかわることで学生の目を留学へむかせることができるのであれば、大学による留学サポートの余地は大きく残されていることになるだろう。そこで、第一の作業として、留学志向の三層構造と関連のある属性・能力を、大学がかかわることのできる要素（＝「大学内要素」）と大学がかかわることが難しい要素（＝「大学外要素」）とに分けて特定する必要がある（アンケート集計の分析）。続いて、第二の作業として、そこで特定された属性や能力がどのように形成され、最終的にどのように留学志向にかかわっているのかを明らかにする必要がある（インタビュー調査）。

3. 三層構造と関連のある属性・能力—アンケート集計から—

留学志向の三層構造と、種々の属性・能力をクロス表にしたもののうち、三層構造と関連のあるもののみを取り出したのが、3.1. から 3.6. である。なお、 χ^2 値⁴と γ ⁵に添付してある「*」「**」「***」は、それぞれ 5%、1%、0.1%水準で有意であることを示している。

3.1. なじみのある外国語（話す・書く・聴く・読む）

本稿で用いられる「なじみのある外国語」という言葉は、次の 2 点を含意している。第一に、アカデミックな場面でもちいる外国語とは区別される外国語という意味での「なじみのある外国語」。第二に、回答者のほとんど⁶にとって、「なじみのある外国語」は英語を意味するということ。この 2 点に留意して読み進められたい。

⁴ χ^2 値とは、期待値と観測値とのズレを表す値。このズレが大きくなるほど χ^2 値も大きくなる。 χ^2 値が有意であれば、母集団において二変数の間に関連性があると判定できる。 χ^2 値が有意でなければ、二変数の間に関連性はないと判定できる。例えば、表 3.1.1. では、 χ^2 値が 0.1%水準で有意と判定されている。これはすなわち、京都大学生全体において、「なじみのある外国語（話す）の熟達度」と「留学志向」との間には関連性がある、ということの意味する。

⁵ γ （ガンマ）とは、グッドマンとクラスカルの γ といい、一方の値が大きくなるほど他方の値も大きくなる（あるいは、一方の値が小さくなるほど他方の値も小さくなる）関連性を表す値である。 γ が有意であるか否かは、 χ^2 値の考え方と同じ。例えば、表 3.1.1. では、 γ が 0.1%水準で有意と判定されている。これはすなわち、京都大学全体において、「なじみのある外国語（話す）の熟達度」が高くなるほど「留学志向」も積極的になる、ということの意味する。

⁶ 「問 7. なじみのある外国語は何ですか？」という質問に対し、95.9%は英語と答えている。以下、中国語が 1.8%、フランス語が 1.2%、その他が 1.2%である。なお、計算上、パーセンテージには多少の誤差がある。

表 3.1.1. なじみのある外国語(話す)×留学志向⁷

問7a. なじみのある外国語(話す)	人数(N)	留学志向		
		積極層	浮動層	消極層
社会性の高い話題について話せる	18	44.4	38.9	16.7
日常生活での話題について話せる	142	21.8	62.7	15.5
身近なことについて話せる	256	11.7	51.6	36.7
ほとんど話せない	69	8.7	40.6	50.7
全体	485	15.5	52.8	31.8

 $\chi^2 = 46.1***$ $\gamma = .414***$

表 3.1.2. なじみのある外国語(書く)×留学志向

問7b. なじみのある外国語(書く)	人数(N)	留学志向		
		積極層	浮動層	消極層
社会性の高い話題について書ける	49	30.6	53.1	16.3
日常生活での話題について書ける	244	16.8	56.1	27.0
身近なことについて書ける	161	9.3	53.4	37.3
ほとんど書けない	30	10.0	23.3	66.7
全体	484	15.3	52.9	31.8

 $\chi^2 = 36.1***$ $\gamma = .343***$

表 3.1.3. なじみのある外国語(聴く)×留学志向

問7c. なじみのある外国語(聴く)	人数(N)	留学志向		
		積極層	浮動層	消極層
社会性の高い話題について聴ける	30	30.0	46.7	23.3
日常生活での話題について聴ける	150	19.3	59.3	21.3
身近なことについて聴ける	223	12.6	53.8	33.6
ほとんど聴けない	81	9.9	40.7	49.4
全体	484	15.3	52.9	31.8

 $\chi^2 = 26.1***$ $\gamma = .301***$

表 3.1.4. なじみのある外国語(読む)×留学志向

問7d. なじみのある外国語(読む)	人数(N)	留学志向		
		積極層	浮動層	消極層
社会性の高い話題について読める	229	17.9	57.2	24.9
日常生活での話題について読める	187	15.5	48.7	35.8
身近なことについて読める	57	7.0	54.4	38.6
ほとんど読めない	11	0.0	27.3	72.7
全体	484	15.3	52.9	31.8

 $\chi^2 = 19.7**$ $\gamma = .241***$

⁷ なお、三層それぞれに対して近森論文 (ibid.) では「積極派」「浮動層」「消極派」の用語を使っているが、本論および表では、「積極層」「浮動層」「消極層」といいかえてある。実際の学生は、積極・消極の二つの極の間に連続的に位置しているし、同じ学生でも時期によってその立ち位置は変化すると考えられる。しかし「派」という言葉にはどうしても固定化するニュアンスがつきまとう (e.g. 派閥, 党派)。また日常的な議論の際には「層」という言葉を用いることのほうが多いだろう。以上の観点から、「派」よりも「層」を用いるほうがより適当だと判断し、いいかえた。

なじみのある外国語リテラシーのすべてに関して、その能力が上がれば留学志向を積極的にすることがわかる。この傾向は、4 技能のなかでは「話す」が顕著である。

3.2. 学術専門的な外国語(話す)

表 3.2.1. 学術専門的な外国語(話す)×留学志向

問8. 学術専門における 外国語(話す)	人数(N)	留学志向		
		積極層	浮動層	消極層
できる	8	0.0	75.0	25.0
どちらかというとできる	56	14.3	62.5	23.2
どちらかというとできない	189	20.6	52.4	27.0
できない	231	11.7	50.2	38.1
全体	484	15.3	52.9	31.8

$$\chi^2 = 14.5^*$$

$$\gamma = .195^{***}$$

一方、学術専門的な外国語リテラシーにおいては、4 技能のうち「話す」のみが留学志向と関連している。しかしながら、3. 1. 1. から 3. 1. 4. でみたなじみのある外国語の能力とくらべれば、留学志向にたいする関連性はごく弱いといってよいレベルである。

分析結果1

外国語運用能力においては、学術的なやりとりを使用する外国語能力よりも、日常的なやりとりを使用する外国語能力のほうが、留学志向に関連している。4 技能のなかではとりわけ、なじみのある外国語を「話す」能力が留学志向と関連している。

3.3. 出身地域人口

表 3.3.1. 出身地域人口×留学志向

問10b. 出身地域人口	人数(N)	留学志向		
		積極層	浮動層	消極層
100万人以上	165	17.0	57.0	26.1
50万人から100万人未満	49	10.2	59.2	30.6
25万人から50万人未満	73	9.6	56.2	34.2
10万人から25万人未満	79	11.4	54.4	34.2
10万人未満	63	15.9	50.8	33.3
町・村	49	30.6	24.5	44.9
全体	478	15.5	52.5	32.0

$$\chi^2 = 24.2^{**}$$

$$\gamma = .076$$

出身（15歳までのすごしたところ）に関しては、留学志向が二極化する傾向がみられた⁸。都市規模が大きくなればなるほど、また小さくなればなるほど留学に積極的になる層が増加する（中規模に近づくほど留学には消極的になる）。解釈が難しい。

3.4. 文化的体験

表 3.4.1. 本を読んでくれた頻度×留学志向

問11b. 子どものころ家族が本を読 んでくれた	人数(N)	留学志向		
		積極層	浮動層	消極層
よくあった	216	21.3	51.9	26.9
ときどきあった	169	11.8	56.8	31.4
あまりなかった	68	8.8	45.6	45.6
なかった	33	9.1	54.5	36.4
全体	486	15.4	52.9	31.7
$\chi^2=16.2^*$		$\gamma=.222^{***}$		

表 3.4.2. 美術館や博物館へいった頻度×留学志向

問11c. 子どもの美術館や博物館 へいった	人数(N)	留学志向		
		積極層	浮動層	消極層
よくあった	96	22.9	51.0	26.0
ときどきあった	200	14.5	58.0	27.5
あまりなかった	128	11.7	46.9	41.4
なかった	62	14.5	51.6	33.9
全体	486	15.4	52.9	31.7
$\chi^2=12.7^*$		$\gamma=.160^{**}$		

幼少期の文化的体験は、その経験の頻度が高くなれば留学にたいして積極的になる傾向がみてとれる。なお、幼少期の外国文化に触れる機会（「子どものころ、日本人以外の人と交流する機会がありましたか」「小学生のころ、外国のメディア（本やテレビなど）にふれることがありましたか」）についてもたずねているが、それらと留学志向との関連はみられなかった。

分析結果2

幼少期の体験においては、直接的に外国人や文化とふれることよりも、より広い意味での文化的体験をしていることのほうが、留学志向に関連している。

⁸ グッドマンとクラスカルの γ をみると相関がないと判定されているが、これは γ が一方向の相関関係（一方の変数が大きくなればもう一方の変数も大きくなる、逆も同じ、という相関関係）しか検出できないためである。

3.5. 留学経験

表 3.5.1. 留学経験×留学志向

問12a-3. 留学経験	人数(N)	留学志向		
		積極層	浮動層	消極層
あり	72	20.8	62.5	16.7
なし	260	15.4	52.7	31.9
全体	332	16.6	54.8	28.6

$\chi^2 = 6.6^*$

$\gamma = .283^*$

留学経験があるほうが留学に積極的になる。これは当然といえば当然。ただし、問 12 において、「海外に行ったことがありますか（はい／いいえ）」という海外体験の形態を問わないままの質問では、その答えと留学志向とは関連性がみられなかった。海外体験の形態を、「出生」、「居住経験」、「留学」、「ツアー旅行」、「個人旅行」、「ボランティア活動」、「就業」という風に細分化した場合に、「留学」の項目のみが留学志向と関連あるという結果になった。

分析結果 3

留学経験と、留学志向とが関連している。

3.6. 留学生からの影響

表 3.6.1. 留学生からの刺激を受けている×留学志向

問15b-1. 留学生から刺激をうけている	人数(N)	留学志向		
		積極層	浮動層	消極層
あてはまる	45	22.2	55.6	22.2
どちらかといえばあてはまる	95	22.1	56.8	21.1
どちらかといえばあてはまらない	93	16.1	46.2	37.6
あてはまらない	76	7.9	52.6	39.5
全体	309	16.8	52.4	30.7

$\chi^2 = 14.4^*$

$\gamma = .253^{***}$

表 3.6.2. 外国文化に興味×留学志向

問15-b3 外国文化に興味をもつようになった	人数(N)	留学志向		
		積極層	浮動層	消極層
あてはまる	71	31.0	54.9	14.1
どちらかといえばあてはまる	116	19.8	55.2	25.0
どちらかといえばあてはまらない	76	7.9	47.4	44.7
あてはまらない	50	2.0	52.0	46.0
全体	313	16.6	52.7	30.7

$\chi^2 = 36.4^{***}$

$\gamma = .433^{***}$

表 3.6.3. 自国文化に興味×留学志向

問15-b4 自国文化に興味をも つようになった	人数(N)	留学志向		
		積極層	浮動層	消極層
あてはまる	40	30.0	52.5	17.5
どちらかといえばあてはまる	102	26.5	52.9	20.6
どちらかといえばあてはまらない	103	10.7	50.5	38.8
あてはまらない	65	3.1	53.8	43.1
全体	310	16.8	52.3	31.0

$$\chi^2 = 30.6***$$

$$\gamma = .385***$$

表 3.6.4. 留学生とともに受講×留学志向

問15-b5 留学生と一緒に授業 は興味深い	人数(N)	留学志向		
		積極層	浮動層	消極層
あてはまる	42	38.1	50.0	11.9
どちらかといえばあてはまる	106	16.0	58.5	25.5
どちらかといえばあてはまらない	83	16.9	47.0	36.1
あてはまらない	75	5.3	49.3	45.3
全体	306	16.7	52.0	31.4

$$\chi^2 = 30.3***$$

$$\gamma = .364***$$

学内の留学生と知り合ったことがある学生は、「留学生から学問的な刺激を受けている」「外国の文化に興味をもつようになった」「自国の文化に興味をもつようになった」「留学生と一緒に授業を興味深いと感じる」という質問に、あてはまればあてはまるほど、留学に積極的になる傾向がある。今回の留学生との相互作用をたずねた項目では、「学問的な刺激をあたえている」という項目のみが留学志向と関係なかった。

分析結果 4

留学生との相互作用においては、学問的な刺激をうけ、外国・自国文化に興味をもち、留学生と一緒に授業を興味深く感じる、という項目が留学志向に関連している。

3.7. アンケート調査のまとめ

ここまでのアンケート調査結果をまとめる。三層構造と関連のある項目（Ⅰ）、三層構造と関連のない項目（Ⅱ）とすると、それぞれの項目は以下のようになる。

（Ⅰ）三層構造と関連のある項目

- ・ なじみのある外国語（すべて）能力高い
- ・ 専門的外国語（「話す」のみ）能力高い
- ・ 人口規模、大きいほど積極的かつ小さいほど積極的という二極化
- ・ 文化資本的経験多い
- ・ 留学経験あり
- ・ 今後の海外志向あり
- ・ 留学生からうける影響高い

ほど、留学に積極的になる傾向がある。

（Ⅱ）三層構造と関連のない項目（表や数値は省略）

- ・ 本人海外経験（ただし、「留学」を除く）
- ・ 性別
- ・ 文系理系
- ・ 専門的外国語（ただし、「話す」を除く）
- ・ 進学校か否か（ただし、データが偏りすぎているのであまり参考にならない）
- ・ 世帯収入
- ・ 父母留学経験

となっている。よって、次のように結論づけられるだろう。

分析結果のまとめ

<p>留学志向と関連がないのは、大学外要素、すなわち大学のサポートや本人の努力ではどうしようもない項目（おおむね（Ⅱ）と一致）である。逆に、留学志向と関連があるのは、大学内要素、すなわち大学のサポートや本人の努力によって変化が期待される項目（おおむね（Ⅰ）と一致）である。</p>
--

4. インタビューの設計とねらい

本稿 3.7. の（Ⅰ）の項目のなかでは、特に、なじみのある外国語運用能力と留学志向の三層構造とがかわりが深い。そこで、（Ⅰ）の項目のなかで外国語運用能力以外の留学志向と関連がある項目を統制することによって⁹、外国語運用能力の違いと留学志向の違いとの関係を見ることができると考える。なお、外国語運用能力の（高）（低）は、それぞれの回答のスコアを足し合わせたものから算出した¹⁰。

表 4.1. 外国語運用能力×留学志向

	積極層	浮動層	消極層
外国語運用能力（高）	第 1 セル	第 2 セル	第 3 セル
外国語運用能力（低）	第 4 セル	第 5 セル	第 6 セル

ここで構成したクロス表のセルにあてはまる回答者のうち、コンタクトをとることができたものはそれぞれ以下のようにになっている（人数の後にあるアルファベットは仮名）。なお、7人全員ともにもっともなじみのある外国語は英語である。

第 2 セル「浮動層・外国語（高）」・・・3 人（A、B、C）

第 4 セル「積極層・外国語（低）」・・・1 人（G）

第 5 セル「浮動層・外国語（低）」・・・3 人（D、E、F）

消極層に該当する回答者からは全く協力がえられなかった点も興味深いが、今回インタビューに協力してくれた回答者の比較においては、さしあたって次の比較が可能になる。すなわち、第 2 セルと第 5 セルとの比較である。この比較によって、「留学志向は同じながらも外国語運用能力が違うことはどういうことを意味するのか」を知ることができる。理論的には第 4 セルと第 5 セルとの比較も可能であるが、第 4 セルにあてはまる回答者は一人と極めて少数であるため、今回はこの比較は行わない。とはいえ、第 2 セルと第 5 セルとに入る回答者人数もそれぞれ 3 人といずれも少ないため、ここでえられた結論は示唆にとどまる。どれほど一般化できるかは、さらなる検討を要する点に留意したい。それでは次節からこの作業に入ろう。

⁹ 統制した項目の具体的な値は、文化的経験スコア「4～6」、留学経験は「なし」、今後の留学志向「あり」、留学生からの影響スコア「10～15」。なお、人口規模は統制しなかったが、その理由は以下である。第一に、解釈が難しいためインタビューのなかで解釈の手がかりを得たかったから。第二に、この項目も統制してしまうと、インタビュー回答者がごくわずかになってしまう。そこで、他の項目にくらべて留学志向には間接的であろうと思われるこの項目をそのままにしておき、回答者人数を確保したいという手続き上の理由から。

¹⁰ 「外国語運用能力（高）」群の語学スコアは、「なじみのある外国語」能力合計 11～16（全体の 54.7%）、
「外国語運用能力（低）」群の語学スコアは、「なじみのある外国語」能力合計 4～10（全体の 45.3%）。

4.1. 「外国語運用能力の違い」

同じ程度の留学志向（「留学したいと思ったことがある」かつ「留学に向けた情報収集を行っていない」）をもちながら、外国語運用能力が異なることは何を意味するのか。

「浮動・外国語（低）」群には、自分のキャリアイメージをある程度明確にもっているものがおり、いずれが希望しているキャリアも留学することがプラスになりそうなキャリアであった。

D：私は外交官を目指しているので、国Ⅰ（国家公務員採用Ⅰ種試験—引用者注）をうけて、うまくいけば、国Ⅰをうけて、そのまま外務省に入れたらいいなと思っているんですけど。

F：（学びたい分野のデザインマネジメントを—引用者注）ある程度やっているのが、スイスとかオランダとか、あと北欧のいくつかの学校と、あとイタリアのいくつかの学校という、ヨーロッパでしか、まだ私の知っている限りではないので・・・。

2人ともに、具体的なキャリアイメージを持っている。自分の進むキャリアがある程度明確に決まっていて、その中に留学が位置づけられている。2人ともに「浮動・外国語（低）」群であるが、現時点での外国語運用能力がネックになって、留学についてしり込みするという態度はみられない。2人とも一様に、「（語学は）いまはできなくても留学すればなんとかなるだろう」と考えている。

D：多分、ついていけないのは当たり前っていうか、最初は。だんだん慣れてくるのかなという感じで。

インタビューア：じゃあ、慣れるだろうなという感じで、わりとポジティブにとらえている？

D：そうですね。

以上の2人と同じ「浮動・外国語（低）」群に属するEは、2人のようなはっきりした具体的な目標とくらべると幾分意味合いの広いものを留学にもとめている（E：今の段階だと、外から見る日本がどうなのかとか、自分の立ち位置というのをはっきり見たいなっているのは、強いところがあります。）が、求めるものは違えど同様に外国語がネックになっているというわけではなかった。目的がどうあれ、「留学したい」と思うことが外国語学習へと即つながるわけではないようである。

それに対し、「浮動・外国語（高）」群では、外国語学習の必要を自ら感じたり、外国語

学習の必要性にせまられたりして、学習にとりくむ姿がみられる。次にあげる B の例は、国際会議に参加してその必要性を強く感じた例である。

B：(国連主催の国際会議に参加して—引用者注) なかなかそこで自分がしゃべれなくてですね。これはあかんわと思ったのです。あとは、他の国の人はネイティブじゃないのに、自分より英語格段によくしゃべれますし、もちろんネイティブスピーカーよりもどう考えてもゆっくりしゃべっているし、たどたどしくあったりするんですけど、それでも自分は全然しゃべれなかったんで。その人らも英語が母国語じゃない人とかで、それでもやっぱ国際的な場所に行ったら使うのは英語だなんて。そのとき。外国語のイメージって英語に偏っていますけど。やっぱりそういう場所にいったら英語使えないとだめなんだなって強くおもって。

インタビュアー：そこに参加されて、英語の必要性を強く実感したということですね。

B：漠然と思うことはそれまでもあったんですけど、その時は一番。

次にあげる C の例は、日頃から継続して英語学習に取り組んでいるというケースである。

C：個人的に勉強したのは、ニュース日本語の NHK の毎日 9 時からやっているのが、毎日吹き替えで英語になるのでそれをビデオにとってみたり。

インタビュアー：聞き取りみたいな感じですかね。

C：そうですね。

インタビュアー：それはいつごろからですか？

C：二年くらい前から

次にあげる A も、「浮動・外国語（高）」群に属している。TOEIC が大学院入試に必要なため、その準備として外国語学習をしているという。A が語るように、授業以外の時間を使って外国語をある程度継続して学習するためには、自らその必要性に気づくか、(院試などで) 必要にせまられないと、なかなかうまくいかないという現実があるようだ。

インタビュアー：結構、割とコンスタントに（英語学習—引用者注）やっておられますか？一日どれくらいとか、それとも思いついたときにちょこちょこやっていると。

A：そうですね。NHK とかで、ラジオでやってるので。あれを 8 月、夏ごろにすぐモチベーションが高まったときに、毎日やってたんですけども、後期が

はじまってからすごく忙しくなってから、ちょっとおっくうになってる感じです。全然、今はあまりやってない感じになってます。

インタビュアー：ちょっと時間的に余裕ができたときに、語学やってみようかなという？

A：そうですね。あと、どこか外国にいった話を聞いたとか、そういう何かちょっと刺激があったり。忙しいときにやろうと思うと、僕はちょっと追い込まれないとやらない感じなので。やっぱり例えば、留学がきまったとかになったら、絶対にやるんだろかなとか思ったりもするんですけど、全然、実感もわからないなかで続けるのはやっぱり難しいかなと。

現実に A のような学生は多いと思われる。書店で語学学習の本を見かけるだけでも語学学習をやる気になったり、実際そこで学習書を購入したりするものの、結局長続きしないという結果になる場合である。「浮動・外国語（高）」群の場合、A は院試に向けて語学学習をする必要性がある。B には外国語学習に対する明確な動機づけを与えるエピソードがあった。国際会議で得た刺激が語学学習につながっていると当然考えられる。C の場合には、研究室で留学をする先輩も普通にいるので、留学が身近なものとして感ぜられ、語学学習にも継続的に取り組むことができている。また、C にとって読まねばならない論文の大半は英語であり、英語で論文を書く力も必要とされるため、外国語学習が必然となっている環境にあるといえる。留学したいから外国語学習をやっている、という単純なつながりではないようだ。

これらに対し、「浮動・外国語（低）」群においても、外国語の必要性は「浮動・外国語（高）」群と同様に認識されているが、実際になんらかの行動をとっているかという点、そうではない。「浮動・外国語（低）」群のうち D や F は、自らの外国語能力をふりかえって、先述のとおり「なんとかなる」と答えている（E にはこのような発言はみられなかったが、留学に言葉の重要性を認識しながら、授業以外で特別に外国語学習をしていないのは D、F と同じである）。

「浮動・外国語（低）」群と「浮動・外国語（高）」群との間で、「外国語は大事である」という前提は共通認識としてもちながらも、いざ外国語学習を継続しておこなっているかどうかという点に関して違いが出るのはなぜなのか。

すでに少し触れているが、インタビュー回答者自身と関連づけられる情報や体験の有無が、この違いを生み出しているように思う。「浮動・外国語（低）」群にとって、確かに外国語は大切であるが、それはあくまで一般論としての大切さであって、自分にとってどうこういうレベルでは考えていないようである。それは、事前に準備するものではなくて、「行けば何とかなる」ものなのだから。これに対して「浮動・外国語（高）」群にとっては、国際会議で衝撃的な体験を得てくるとか（B の場合）、自分の所属する研究室にロールモデ

ルとなるような人物がいる（C の場合）、外国語は大学院入試で自分にとって必要である（A の場合）、など、自発的な動機にしる強制的な理由にしる、一般論というよりは自分という具体的個人にとって外国語学習が必要となっているのだ。

自分と関連づけられる、という点が大切である。A の場合、研究室には中国や韓国からの留学生がいるが、いずれも日本語が上手で日本になじんでいるので英語でコミュニケーションをとる必然性は全くなく、かつ A の留学希望先もアメリカであるので、これらの留学生から自分にとっての留学に関して特段に刺激をうけるといったことはない。

以上を概観したうえで、「積極・外国語（低）」の G は、自らをおいている環境があらゆる種類の刺激をうけられるような環境である（模擬国連サークルに所属し、自分の大学の帰国子女や、他大学の帰国子女たちからさまざまな情報を得る。サークル OB に話を聞くなど）。

インタビュアー：割と今、海外で勉強している人とも連絡をとっていて、そういう影響はありますか。自分のなかで。モチベーションあがるとか、何でもいいですけど。

G：いいなって思います。あと、模擬国連のサークルに帰国子女の学生が結構いるから。あとは、スイスの何とか学校に行ってきたりちょっと帰ってきたとか。立命館にスイスの学校とかがあるらしくて。それで一回立命館に帰ってきて、また行っちゃった子とかもいるから。そういうのを見ていると「いいなあ」ってすごく思います。

こうした環境に身をおくと、自分に関係のない情報もある情報も豊富に流通することになるだろうから、G も今後のプランの中でかなり具体的に留学を位置づけていた。非常に多忙な学生生活を送っているため外国語学習は通学時間の間しかとれないとの事であったが、モチベーション面では、A が「実感もわからないなかで続けるのはやっぱり難しい」のとは正反対で、留学に対する実感を継続してもちつつ留学にたいする準備や限られた時間のなかでの語学学習を行っているようであった。

5. まとめと課題

本論でははじめに、留学生サポートは海外からの学生を受け入れるだけでなく、日本からの学生を送り出す側面も重要になってきているという潮流を確認した（1章）。つづいて、そのためのデータに基づいた議論をするために、いったいどのような能力や属性をもった学生が海外留学に親和的なのかを確定する必要があると問題提起をした（2章）。この点を検証しない限り、大学（や国）による留学生支援が全くの無駄になってしまう可能性さえあったからである。

そこでまず、前半の作業を通じて、留学と親和性の高い能力・属性を特定した（3章）。その結果、なじみのある外国語（読む・書く・聴く・話すすべて）能力が高く、専門的外国語を話す能力が高く、出身地の人口規模が大きい小さいかであり、文化資本を蓄積するような経験が多く、留学経験があり、今後の海外志向があり、留学生からうける影響が高いほど、留学に積極的になるということが分かった。また一方で、性別や本人が文系か理系か、世帯収入や父母の留学経験などは留学志向と関連性を示さなかった。したがって、次のように前半の作業を結論づけられる。留学に積極的になるのは、大学や本人にはどうしようもない属性・能力ではなく、大学のサポートや本人の努力でなんとかなる属性・能力である、と。

後半の作業は、今回質問紙に含めた項目のなかで留学と高い親和性をみせた、外国語能力に着目し、同じ留学志向を持ちながらも外国語能力が高い／低い差が生じるのはどういうことなのかについて、インタビュー調査を行った（4章）。ここでは、一般論として外国語が重要であると認識する以上に、回答者自身という個人にとって外国語の重要性が認識される契機や体験が、外国語学習の大きな動機づけになっていることがわかった。その例としては、大学院試験などの必要性に迫られること、同じ研究室に自分の興味関心と合致する形で交流できる留学生がいること、国際会議で自分と非ネイティブの英語運用能力の差に衝撃を受けたこと、などである。個別具体的なエピソードにはいくつもバリエーションがありうるだろうが、いかに学習者本人と学習内容、およびその先にある留学とを関連づけられるかが重要であった。

全体を総括したい。本研究から、大学にできることの余地は大きく残されていることが分かった。ただし、「〇〇人受け入れ」というような単純に数値目標が先行するような計画では、うまくいかないこともまた示唆されている。ただがむしやりに留学生を受け入れたとしても、このことが日本人学生一人ひとりの体験とうまく関連づけられるようなものを生まなければ、日本人学生にとって留学を促進する要因にはなりえないからである。また、一人ひとりの体験が重要であるということならば、個々人がより身近に留学を感じられるような形での、機会（交換留学の枠を増やすなど）や施設（海外キャンパスや留学生と交流できる施設を設置するなど）を提供できるよう大学を挙げてバックアップしていく必要があるだろう。

第六章

海外留学の動機と制度的制約

－日本人学生対象アンケート・インタビューの考察－

河合淳子

はじめに

日本人学生を対象とした『国際交流・留学支援制度に関する調査』は今回で3回目の実施となる。前回の2005年度調査で、今後の調査課題として、「日本人学生の留学志向の三層化を意識した的を絞ったピンポイントの調査、とりわけ理系学生の留学志向に関する重点的な調査」の必要性が挙げられていた（蘭 p. 8-9, 近森 p. 46, p. 54）。なぜなら、前回の調査において、理系学生は文系学生に比べ、留学に積極的でなく海外志向が弱いという結果が出たためである。そこで、本稿では、今回のアンケート調査に寄せられた全学の511名からの回答及び16名に対して行ったインタビューをもとに、1. 前回調査で確認された理系学生の留学志向の弱さが、果たして今回の調査においても見られるのか、2. もし一貫した傾向であると確認できるとするならばその理由は何か、について考察する。さらに、1. と2. の分析を行う中で外国語運用能力に対する意識が留学志向と深く関連していることが分かってきた¹。そこで、3. 文系理系共通の問題として、外国語運用能力に関する本学学生の状況と認識についても述べたい。

前回の調査では、留学志向の三層構造に注目し²、「学生のニーズに応じた留学支援体制の整備が必要である」として次の5つの提案を行った。それらは、(i)海外留学の動機づけのために、海外留学経験者や留学生と一般学生との交流を促進すること、(ii)留学情報が簡単に集められるシステムを作ること、(iii)積極層には意思を阻害しない適切な手段的サポートを提供すること、(iv)消極層には留学を魅力的にする情報提供と制度的手段を提示すること、(v)浮動層には分かりやすく利用しやすく制度化された「短期留学プログラム」などを開発し提示すること、の5点であった（蘭 p. 8）。実際に本学では(i)-(v)に関わる様々な活動が展開されてきており、それらの成果は詳細に検討されるべきであるが、学生が大学に対して抱く漠然とした「印象」も、成果を図る一つの指標であると考え。そこで、最後に、4. 学生が本学の国際交流や留学支援体制全般に対して抱いている印象の一例を紹介する。これらの考察を、大学の国際交流の活性化、特に日本人学生の海外への送り出しの促進を考える一助としたい。

¹ 本報告書 第五章 野口論文で詳しい分析が行われている。

² 近森(2006)は、日本人学生の留学志向を以下のように分類した。

積極派：「留学したいと思ったことがある」かつ「留学に向けた情報収集を行っている」

浮動層：「留学したいと思ったことがある」かつ「留学に向けた情報収集を行っていない」

消極派：「留学したいと思ったことがない」（本報告書、野口論文より再掲。）本稿では、「派」という語を使わず、三層とも「層」で統一して呼ぶことにする。その理由については野口論文を参照のこと。

1. 本学学生の留学志向—調査結果の概要（文系理系間³の比較）

【表1】留学志向について（文系理系間の比較）

			留学志向			合計	
			積極層(%)	浮動層(%)	消極層(%)		
学部生	文系	n=135	17.8	54.8	27.4	100.0%	
	理系	n=208	17.3	52.9	29.8	100.0%	
	学部生全体	n=343	17.5	53.6	28.9	100.0%	
大学院生	文系	n=17	5.9	58.8	35.3	100.0%	
	理系	n=103	9.7	46.6	43.7	100.0%	
	大学院生全体	n=120	9.2	48.3	42.5	100.0%	
全体			n=463	15.3	52.3	32.4	100.0%

学部生：文系理系間の比較⁴ $\chi^2=0.23$ 大学院生：文系理系間の比較 $\chi^2=0.93$

【表2】「留学するなら、いつ留学したいか」（学部生：文系理系間の比較）

学部生		留学するなら、いつ留学したいですか。			合計
		大学学部で	大学卒業後	修士課程以降	
文系	n=96	46.9	32.3	20.8	100.0%
理系	n=147	20.4	32.7	46.9	100.0%
全体	n=243	30.9	32.5	36.6	100.0%

 $\chi^2=23.99***$

【表3】「どういう目的で留学したいですか（第1の目的）」（学部生：文系理系間の比較）

学部生		どういう目的で留学したいですか（第1の目的）					合計
		専門分野での 勉強・研究	語学力を 高めたい	海外を経 験したい	異文化 交流	見聞を広げ たい	
文系	n=99	35.4	45.5	8.1	6.1	5.1	100.0%
理系	n=151	53.0	28.5	7.3	8.6	2.6	100.0%
全体	n=240	46.0	35.2	7.6	7.6	3.6	100.0%

 $\chi^2=10.45**$

³ アンケートでは、文系・理系・融合系の別を問うているが、分析は文系理系の比較が中心となっている。ただし、融合系の46名は表からは除いているが、すべてについて傾向は確認している。

⁴ 学部生、大学院生間の比較、及び文系理系の比較には χ^2 検定を用いた。 χ^2 値に添付してある「*」「**」「***」は、それぞれ5%、1%、0.1%水準で有意であることを示している。

まず【表 1】より、京都大学生の全体的な留学志向を見ると、15.3%が積極層、52.3%が浮動層、32.4%が消極層となっており、前回調査とほとんど差はなかった。前はそれぞれ16.3%、51.0%、30.0%であった。

さて、本題である文系・理系の差についてであるが、より詳しく考察するために、今回は学部生と大学院生（以下、院生）を分けて分析した。【表 1】は学部生・院生別に、文系・理系の傾向を比較検討した結果である。学部生、院生どちらにおいても、留学志向の文系・理系の差異は全く確認できなかった⁵。しかし、ここで注目すべきは、留学を希望する時期に大きな差が存在することである（【表 2】）。すなわち、文系の約半数（46.9%）が大学学部レベルでの留学（以下、学部留学）を希望しているのに対して、理系においては20.4%に留まり、逆に約半数（46.9%）が大学院進学以降の留学を志向している。これと連動し、留学の目的も、理系では「専門での勉強・研究」が第一位で53.0%、次いで「語学能力を高める」が28.5%となっている。一方、文系ではこの順序が逆になっている（【表 3】）。以上のことから、理系の学部生の過半数が「留学」と聞いて思い浮かべるのは、「大学院で専門の勉強・研究を行う留学」であるということになる。つまり、理系学生は、留学全般に対して消極的というわけではなく、学部留学に対して消極的というべきなのである。

このことは、本学の現状とも一致している。現在、海外の協定大学へ交換留学する本学学生数は年々増加している。しかし、年間50名程度にとどまっており、急激な盛り上がりを見せているとは言えない。交換留学制度を利用して留学する者の多くが、学部レベルへ留学することを考えれば、この伸び率の低さは、理系学生の学部留学志向の低さの影響があると考えられる。文系学生の学部留学志向も決して高いものではないが⁶、特に学部留学志向の低さが目立つ理系学生に注目することによって、留学志向を左右する理系特有の要因と文理を問わず影響を与える要因の双方を明らかに出来るようになる。

なぜ、理系学生は学部留学に対して積極的でない者が多いのであろうか。可能性としては二つある。まず(a)学部留学に対する動機が乏しいこと、さらに(b)理系学部ではカリキュラムがシステム化されており、海外への留学を選択するゆとりが少ないこと⁷、が考えられよう。以下、インタビューの結果⁸を用いながら、(a)「動機の問題」と(b)「制度的制約」を学生がどのように捉えているのかを検討していくことにする。

⁵ 前回調査で確認された文理差が今回確認できなかった理由は、前回調査と今回調査共にサンプリングの精度が十分に確保できていないことによる可能性がある。現時点では確認が難しいので本稿では触れない。

⁶ 2008年度交換留学生として海外留学した本学学生数は合計58名で、内訳は文系26、理系21、融合系11である。母数が理系の方が多いので、交換留学をした理系学生の割合は文系に比べて相対的にかなり少ないとはいえる。しかし、文理共、この制度で海外に送り出した学生数は、学生総数の0.5%にも満たない。

⁷ 蘭 2006, p.8

⁸ 本稿では、インタビューの引用が多くなるが、それぞれの論点に対する応答については、出来るかぎり掲載した。

2. 学部留学志向の低さの背景—特に理系の場合

2. (1) 動機の問題

インタビューから、まず京都大学生が「学部留学」に対する考えを述べた部分をいくつか紹介し、そこから動機の問題を考察する。(インは調査者を表わす。下線は筆者による。)

●「留学は大学院へ行ってから。」

ケース 1 (J7, 工学部 4 回生)⁹

イン： 2 回生の頃にスポーツマネジメントに興味を持って、今はアメリカ大学院留学を目指しておられるそうですが、それ以前は留学は考えませんでしたか？

学生： 全然考えてなかったですね。そのときは、まだそこまでどうしたらいいかっていう情報収集も充分ではなくて、部活のことをいつも考えていたっていうのがありました。TOEFL とか、レベルが高いぞってわかったのが、2 回生の終わりから 3 回生にかけてからなんで、そこから結構情報とか、大学では何をやるのかなと調べ出したんです。

ケース 2 (J11, 理学部 3 回生)

僕が 1、2 回生の時にアルバイトしていたのが、外国人のオーナーがシェフをやっているレストランで。その人が日本語を喋れなかったんで、キッチンでずっと英語でした。大学院に行ったら留学しようと思ってたんで、その役にも立つと思ったので。給料も入るし。おいしいんじゃないかなって。お金もらって、語学学校行くようなものだと思って。

ケース 3 (J8, 工学部 2 回生)

まだ、全然知識もついてないので、やっぱり海外に行くのは大学院に行ってからじゃないですか。きちんと基礎を固めてから行きたいので。日本語で理解していかないと分からないので、もっと知識を詰めないと。

ケース 4 (J10, 情報学研究科 D, 農学部卒, 交換留学経験者)

理系の友達で、学部の時に行きたいっていうのは少ないかもしれないですね。大学院に入ってから行けますし。例えば、研究室同士が仲がいいとかで、一年行くとかありますし。博士を取った後にポスドクで行くのもありますし。結局、そんなに学部でみんな行かないんじゃないですかね。

⁹ インタビュー対象者の属性は (インタビュー対象者 ID, 所属部局及び学年, 出身学部 (院生のみ記載), 交換留学経験者か否か (経験者のみ記載)) の順で記載している。詳細は本報告書資料編参照のこと。

● 学部留学を考えたこと自体がほとんどない

ケース 5 (J15, 工学部 3 回生)

(1、2 回生の時に留学を考えたことは一筆者注) あまりないですね。留学関連の情報を見たりはしていましたが、それほど興味はひかれなかったです。时期的に、もう 3 回生の終わりなので。学部の中の留学はもう無いかなという感じですかね。

ケース 6 (J12, 農学部 3 回生)

1、2 回生の頃は、留学っていうキーワードを思い浮かべないことはなかったんですけど、今よりは少なくとも考えてなかったですね。今もどれほど考えているとか怪しいところですけど。入学した当初は、一応大学院は海外で、とぼんやりと。でも、そういう情報を重要性があると認識してはいなかったです。いろんなサークルの情報や雑多な情報にまぎれて、留学情報も入っているには入っていた感じですね。その他大勢と同じ感じで。留学、おもしろそうだなあくらいは思うんですけど。

16 名のインタビュー対象者は、アンケート回答者の中から調査班の依頼に応じてインタビューに参加してくれた学生(5 名)と、アンケート回答者ではないがセンター教員の講義等の受講者で協力を申し出てくれた学生(11 名)である。任意のインタビューに参加を表明してくれたことや当センターに出入りがあることを考えると、比較的、国際交流に関心が高い者であると考えられる。この点を踏まえて先に掲載したインタビュー内容を検討すると、より鮮明に学部留学への動機の弱さが浮き彫りになる。

16 名の中で 12 名が理系学部・研究科の所属で、そのうち学部生が 8 名、院生が 4 名である。8 名の学部生のうち、上記に 5 名分のインタビュー内容(ケース 1, 2, 3, 5, 6)を挙げているが、次に紹介する留学経験者を除いて、他の学生も学部留学へはほとんど関心を持っていなかった。ケース 1 の工学部 4 回生の学生は、留学自体については具体的に考え始めている例であったが、1、2 回生の頃は全く念頭に無かったと答えている。ケース 2 の理学部学生も、大学院進学後の留学に向けて語学力の向上を図っていたとのことであり、そもそも学部での留学は考えていない。この二者は具体的に大学院留学を目指している例であるが、ケース 5、6 のように、「何となく」留学に興味がある程度の学生にとっては、学部留学はさらに遠い存在となっている。

このような状況の中で学部留学を果たす理系学生が存在する。以下に学部交換留学を経験した二人の話を載せた。彼らの動機はどんなものだったのだろうか。

● 「学部留学」の意味(1) 交換留学経験者の意見—専門分野の勉強・研究が中心でないからこそこできること

ケース 7 (J10, 情報学研究科 D, 農学部卒, 交換留学経験者)

学生： ポスドクに入ってからだと、仕事の感覚になりますよね。付き合う人というの、かなり限られてくる感じはあるかなと思ったんですよね。それに早いうちに行かないと、後になればなるほど、例えば専門分野の知識があることが前提条件になりますよね。そういう状況だと、ビジネス的な付き合いになりがちなのもあるかなあというのがありました。ゼロの状態、いろんな友達を作って、自由に勉強できるのは大学時代までかなあと感じたので、早めに行きたいと、学部時代に。

イン： そう感じられたのは、何かきっかけがありますか。

学生： ポスドクやドクターで行った先輩も、もちろん、ためにはなってそうでしたけど、基本的に研究室でずっとカタカタコンピューター打ったりとか、ずっと研究して、たまに研究の打ち合わせするとかというような状態だったそうなので、僕はもっと海外で普通の学生生活を送ってみたいっていうのがありましたね。

● 「学部留学」の意味(2) 交換留学経験者の意見—専門分野の勉強・研究も人生経験も

ケース 8 (J6, 農学部 4 回生, 交換留学経験者)

学生： 当時（1、2 回生の頃—筆者注）、僕が留学と言って思い浮かべていたのは語学留学だったので、拒否反応が出るようになっていたんです。拒否反応というか、日本でできることをなぜわざわざ海外に行って学んで来るんだって。それで、留学に関して、「別に行かなくてもいい」と思って、残念ながら、交換留学に 1 年早く行くチャンスを逃したんです。（中略）でも、その後も勉強していると、海外で勉強するのって結構いいかもしれない、みたいな気持ちになってきました。とりあえず、英語を使えるようになってきたので、もしかしたらそういう道もあるかもしれないと思い始めたのです。僕の友達にすごく日本語のうまい外国人がいて、日本語の授業を受けていたんですよ。それを見て、すごいな、と思って。よくよく考えたら、僕も留学して自分の専門をやることができるかもしれないみたいなことを思い始めた時に、交換留学制度が目についたんです。

イン： 語学を学ぶのではなくて、専門の内容を外国語で、外国で学ぶ、と。

学生： はい。外国で学ぶっていうのに興味が出始めた。留学っていう言葉が僕

の中でまた変わり始めて……。それに、自分が日本人や日本を分かってない、むしろ、留学生の友達に日本をもう一回思い出させてもらったみたいなのところがあって。というのは、僕の留学生の友達が、「日本人は竹みたいな人だ」みたいなこと言ったんです。竹っていうのはしなやか。潰されても折れない。どんなに圧力があってもそれをしなやかに切り抜けて、なおかつそれを受け入れながらも美を保っている、みたいなこと言って。「すごいな、こいつ」と思いました。そんなことを言ってもらったけれど、自分は日本人というアイデンティティがそんなにあるのかなっていったら、考えてもいなかったので。

ケース7, ケース8は、理系学部出身で交換留学を経験した者の意見である。「大学院留学＝専門分野での勉強・研究」という漠然としたイメージは一般的に多くの学生が持っているが、ケース7の学生は、それゆえに「いろんな友達を作って、自由に勉強できる」学部留学を選んだと主張している。また、ケース8は、専門分野での勉強・研究が可能であることに加え、様々な人々との出会いやアイデンティティを見つめ直す機会を得られると思ひ、学部4回生での留学を決意したと述べていた。出会いがあつて、人生経験が積めて、自己と日本を外から見られて、比較的自由な時間に恵まれ、且つ専門分野での勉強・研究も可能というところに学部留学の魅力を見出し、熱心に語られたコメントにはインタビューする側も勇気づけられる。しかし、日本人学生の海外留学を促進するためには、この状況を一部の学生にとどめるのではなく、どれほど多くの学生に対して生み出せるかが問題である。海外留学への「動機」の喚起に大学がどこまで、そしてどのように関与できるかということである。

比較のために文系学生の意見（ケース9）を紹介しておく。今回の調査では、文系学生は4名しかインタビューしていないので、これをもって文系学生特有の意見とすることは出来ない。しかし、一回生が抱く留学への自然な思いが表現された一例といえる。

●「学部留学」の意味(3)―文化に触れたい

ケース9（J5, 文学部1回生）

先輩によっては、「学部レベルの交換留学は、何か遊びみたいなのところがあるから、大学院にちゃんと行った方がいいよ」と言う人もいます。でも、私は、専門の勉強をしに行きたいっていうよりは、語学もできるようになりたいし、そういう文化とかに触れたいっていう思いの方が強いんで。だから、交換留学で行けたら本当にいいなあと思っています。

こうして動機をすでに持っている学生に対しては、次に述べる制度的な障害を取り除くことが重要になってくる。

2. (2) 制度上の制約—実験、単位互換、就職・進学

これまで述べてきた動機の弱さに加えて、多くの理系学生が指摘するのは、京都大学のカリキュラムと海外留学の両立の難しさである。理系に限らず、4年間の学部カリキュラムのどのタイミングで留学を入れられるかは、学生にとって慎重な検討を要することであろう。検討の緻密さには個人差があるが、大抵の学生は「学部での留学は難しい」との判断に至る。制度上は学部4年間のうちに留学することは可能である。しかし、動機づけの弱さと以下に述べる制度的制約を克服することの難しさ、あるいは難しいであろうという先入観が相まって、結局学部留学を志向しないことにつながっていくといえそうである。

制約の特徴は学年(回生)によっても異なる。以下では、学年による別を考慮しながら、留学を考える際に京都大学生が直面する制度上の制約を考察していくことにする。

● 3 回生は実験

ケース 10 (J16, 生命科学研究科 D、理学部卒)

一回生の時は留学したいと思っていましたけど、二回生くらいになった頃にはやはり無理かなと。実験があつて、取らないわけにいかないので。

ケース 11 (J6, 農学部 4 回生, 交換留学経験者)

農学部は実験が非常に多いです。僕の学科は、実験が全くない学科だったので、留学ができたんですけども、他の人たちを見ていると、週5日のうちの5日とも実験が2コマずつ入ってるくらいです。全く同じ実験を海外でできることは絶対にないので、それを単位として認めないというのが農学部の方針なのです。

ケース 12 (J15, 工学部 3 回生)

京大の研究室に配属されるんだったら、そこの下でやっている授業を受けないといけないと思いますね。きっと、ぴったり同じことをやっている海外のコースに交換留学するのは難しいと思います。絶対自分と多少はずれたことをやることになると思うんで。まわりにそもそも留学した人っていう人はいないですね。学部時代は、語学留学とか、あとはインターンとか短期で行く感じです。

ケース 10～12 の通り、理系学生が指摘するのは、3 回生で実験の授業がカリキュラムに組み込まれている場合が多く、この時点では海外に出るのは非常に困難であるという点である。ケース 12 の学生が端的に述べているように、たとえ単位互換が可能であったとしても、学生自身が実質的に京大以外では学べないと実感している科目を、海外の大学での類似の科目に置き換えてまで留学しようとは思わないであろう。留学時期として3 回生の時

期を除くとなると、2回生及び4回生ということになるが、学生の理解はどうであろうか。

● 3回生では無理だが、2回生なら可能か—準備の問題、就職・進学の問題

ケース 13 (J6, 農学部 4 回生, 交換留学経験者)

実験が入ってくるのは 3 回生くらいからだから、理系に関して留学を勧めるならば、2 回生。つまり、1 回生の後期に申し込めるか申し込めないか、が一番重要なポイントですね。相当意識が高くないと、理系では難しいでしょうね。1 回生後期の 10 月で TOEFL のスコアを CBT で 250、iBT で 100 くらい超えるっていうのは不可能に近いですね。特に、スピーキングに関して、iBT になったので。スピーキングで 30 点満点で 16 点くらいが 1 回生の平均らしいので。

ケース 14 (J10, 情報学研究科 D, 農学部卒, 交換留学経験者)

やっぱり 1、2 回生でいくというのはかなり難しいのが現状なので。1 回生の秋、9 月までに準備しなくちゃいけないから。

ケース 13、ケース 14 は、理系学生にとって 2 回生後期が留学に適当な時期であることは認めながらも、応募時期までに語学力強化が間に合わないことを指摘している。つまり 2 回生後期に出発するには、1 回生後期に応募することになるが、その時点で語学力が基準に達していないというのである。この点については 3. で詳しく述べる。

就職活動については、2 回生で 1 年間留学した場合、3 回生の夏に帰国することになり、ほとんど出遅れることはない。しかし、これに関しても特別なケアを望む声もある。「帰国直後は外国かぶれの状態で、就職してから『こんなはずじゃなかった』みたいになる可能性がある。落ち着いて将来について考えられる状態で就職する、もしくは就職活動を始めるのが一番。(農学部 4 回生)」というのである。就職サポートの際に考慮すべきであろう。

● 「『交換留学＝一年間』、だから留学は留年しないと無理」という先入観

ケース 15 (J16, 生命科学研究科 D、理学部卒)

学部時代に行ければ行きたいと思っていましたけど、単位的に無理です。休学はしたいとは思わなかった。(中略)でも、短期とか、半年とかだったら行けたかもしれないです。今思うと。

ケース 16 (J5, 文学部 1 回生)

文学部の授業は、単位が付くのは 1 年単位が多いんです。交換留学は、出発が 9 月でしたっけ？ 9 月から行くことになる、2 年間単位取れないことになって、結構、文学部で行くのは難しいのかなあと と思っています。文学部の先輩に聞いたら、「それで交換留学は無理だから、自費で行った」と言っていました。だから、厳しいのかなあと と思っています。何か、ちゃんと調べてないので分からないですけど。

ケース 17 (J2, 総合人間学部 1 回生)

私は 3 回生で留学する予定なので、5 回生までやることになると思います。私の単位の取り方は、単位を集めるという取り方じゃないから。(中略) 楽勝科目と呼ばれるものを後期、取ってみたんですけど、それもやめちゃったんです。行って感想書くだけだったら、自分で勉強していた方が時間の有効利用かなと思って。今のところ、友達の半分ぐらいしか単位は取っていないんですよ。そういう取り方をしているから、5 回生ぐらいまでのんびりやるしかないんじゃないかなって。浪人までしたし、いいかなって。

学生は、交換留学の期間を 1 年間と想定していることが多いと分かる。実際には、本学の交換留学制度においても半年間の留学は可能であり、むしろ世界では半年やセメスター単位で動く留学生が増えている。3～6 ヶ月という期間が、教育効果を十分得られる留学期間であるかどうかは別に議論が必要であるが、留学期間として半年を選択することが可能であることを、広報する必要があるのは明白である。

ケース 17 の学生は、留学に積極的な学生で、情報収集もかなり進めており、十分な判断材料を元に「留年も覚悟の上で、3 回生で一年間留学したい。」と希望している例である。対照的にケース 15、ケース 16 は、十分な判断材料を持っていない（あるいは持っていなかった）。先の分析（【表 1】）で見たように、全学の約 50% が浮動層に分類されると想定できる現状では、ケース 15、ケース 16 に似た学生が多いのではないと思われる。このままでは、結局「2 回生で行けなかったら留年しないと無理です。(農学部 4 回生)」という認識が広がり、「それで非常に沢山の人が留学を諦めている。(同)」状況が続くことになるだろう。

● 単位互換の問題

ケース 18 (J10, 情報学研究科 D, 農学部卒, 交換留学経験者)

単位の交換システムはかなり曖昧だったなあと感じました。どこまで交換してもらえるかは、いく前にはよくわかってなかったですね。同じような名前の授業が

こっちにないと、交換できないと言われました。逆に（留学先でとった授業は）内容は違う授業だったのに、もともと京大で履修済みの授業と名前が近いとなると、今度はかぶってしまっているから駄目だと。（中略）遅れないで卒業したい人があるなら、そこら辺のシステムをかなりきちんとした方がいいと思います。行く前に、例えば「こういう授業とる予定だ」というようなリストを学生が作れば、どれくらい単位が出ると換算してくれるとか、そういう風にしていただけると、かなりありがたい。

単位互換制度の整備は、大きな課題といえる。次に4回生からの留学について見てみよう。

● 4回生からの留学

ケース 19（J10, 情報学研究科 D, 農学部卒, 交換留学経験者）

4回生の4月から9月まで行った友達がいます。半年。3回生の後期だったかもしれません。その一学期だけ、三か月くらい行ったんです。期間は短くて残念かもしれませんが、一番いいかもしれない。大学の交換留学制度で、シンガポールだったかどこかに行ったんです。9月ごろに帰ってきて、卒論を書いて。（留年しないで）卒業して、そのまま、海外の大学院に行ったんですけど。（中略）これなら就職する人でもいけますよ。就職が決まって、4年の後期に行くか、4年の前期か後期のどちらかだけ行くか、両方可能かもしれないですね。4回生の前期に就職が決まりますんで、4回生の後期から、ちょっと行ってきて、帰ってきて、そのまま卒業するっていうのが一番。だいたい単位もみんな3回生か4回生の前期に終わってしまうので。

ケース 19 の発言に見られるように、4回生という時期は無理なく留学でき、且つ専門分野での経験も積んできているので、留学先での成果も期待できる時期であるようだ。しかも半年であれば、留年することなく卒業・就職も可能である。しかし、ほとんどの学生はこの点を認識していないのではないと思われる。今後は、単位交換のシステムをさらに整備し、「半年の交換留学が可能であること」「留学に適した（あるいは少なくとも留学が可能な）時期があること」を、学生に十分に説明する必要がある。

以上、理系学生に焦点を当てながら、学部留学の促進を阻害する可能性のある要因について考察してきた。(a)「動機の問題」と(b)「制度的制約」は双方とも学部留学の促進に深く関与していることが明らかになった。さらに、考察の過程で語学力向上の難しさが、海外留学実現の一つの障壁になっていることが示唆された。この問題は、文系理系を問わずに存在する。この問題について理系に特化せずに以下に議論を進めることにしたい。

3. 外国語運用能力の不足、語学力への不安—文系・理系共通の問題

外国語運用能力の問題は、二つの側面から海外留学の促進に関わる。すなわち、(1) 受入れ校で定められた語学能力の基準点がクリアできないと留学できないという実質的側面、(2) 語学力に対する自己評価は留学志向に大きく影響を与えるという心理的側面である。

3. (1) 「外国語運用能力の不足・語学力への不安」の実質的影響

まず(1)の実質的側面についてである。交換留学制度で留学する場合、海外の受入れ校から TOEFL iBT80 点以上などの基準点が示される。2. (2) で触れたが、読み書き中心の受験英語をこなして入学してきた京都大学生がこうした基準点に達するにはある程度の学習時間を要する。

アンケート結果によると、英語圏への留学を希望する者は 245 名であったが、その中で TOEFL を受験した経験を持つ者は 26.9% (66 名)、このうち英語圏の多くの大学・大学院で基準とされている点数 TOEFL iBT79 (CBT213, PBT550) 以上をすでに獲得している者は 10% 程度 (20 名) に過ぎなかった¹⁰。外国語運用能力の不足・語学力への不安は多くの者が自覚しているが、この結果からは、「不安はあるのに具体的な準備には入っていない」者が多いことを感じさせる。

インタビュー対象者の中で、海外経験が豊富でないにも関わらず、1、2 回生のころから準備を重ね、TOEFL iBT100 点を超えた工学部の学生は次のように話した。

ケース 20 (J15, 工学部 3 回生)

それでも、スピーキングは異常にできないんですよ。他のセクションは 90% 以上取れたのに、スピーキングは 60% っていう、ひどい状況で。(中略) X 先生のクラスで出会った人と、週一回きめて、授業が空いているときに会って英語でしゃべるっていう感じで。特に同じクラスに偶然 3 人もいたので、予定を組んでよく喋る練習をしましたね。(中略) 結構スピーキングで足切りっていうのが、多いんですよ。公式サイトを見ていると、たとえば、(30 点満点中) 22 とか 25 とれないとだめな大学院とかもありますね。

ケース 20 のエピソードは、我々に二つのことを示している。まず、受け入れ先の大学・大学院が示す語学力の基準点というのは、多くの京都大学生にとって努力すれば到達できるレベルであること、次にそのためには多大な努力と時間を要するということである。まずは、この二点だけでも学生に入学後の早い段階で知らせる必要があるだろう。

次に当然学生が求めるのはそのレベルに達するための方法であり、具体的な支援であろ

¹⁰ 詳しくは、本報告書「III 部 2008 年度日本人学生アンケート自由記述」問 9 TOEFL 成績統計表を参照のこと。

う。「努力せよ」と言うだけでは何もしていないに等しい。アンケートの自由記述で当センターや京都大学への要望の中で多いのが、語学学習への支援を求めるものである。「少人数の英会話クラスがあるといいと思う(学部/理学)」「言語能力の向上できる場を分かりやすく参加しやすい形で提供して欲しい(修士/工)」「英語Ⅰの授業だが、もう少し身近なところから始めてほしい。というか、身につく英語を教えて欲しい(学部/総人)」「英語を話す、聞くことに不安があるので、まずは語学留学をと思ってしまう。(中略)できれば語学→研究の二段階留学プランとか、学内での語学習得プログラム(できれば単位付)を用意してほしい。(学部/教育)」などである。運用能力に特化した外国語学習支援が求められており、全学を挙げて取り組むことを検討する段階にきているのではないと思われる。

3. (2) 「外国語運用能力の不足・語学力への不安」の心理的影響

次に語学力に対する自己評価と留学志向との関連であるが、本報告書第五章の野口論文でその関連が深さが明らかにされている。また、以下のアンケート結果(【表4】)からも語学力に対する不安が、留学に消極的になる大きな理由の一つであることが示されている。

【表4】留学したいと思わない理由について

	あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという と当てはまらない	あてはま らない	無回答
そもそも留学する必要を感じないから	39.2	32.0	20.3	7.8	0.7
外国語能力が不足しているから	37.0	30.5	21.4	9.1	1.9
お金が足りないから	33.8	36.4	16.9	11.7	1.3
時間が足りないから	27.3	36.4	22.1	13.6	0.6
そもそも留学について考えたことがない	22.7	35.1	20.8	20.1	1.3
手続きが面倒だから	22.1	35.1	18.8	22.7	1.3
京大での学業・研究と両立できない	16.2	35.7	23.4	23.4	1.3
京大の研究環境に満足しているから	14.9	48.7	18.8	16.2	1.3
京大の授業に満足しているから	10.4	40.3	27.3	20.8	1.3
海外経験は旅行などで充分味わえる	3.9	17.5	39.6	37.7	1.3
留学は海外での行動が制約されてしまうから	2.6	14.3	41.6	40.9	0.6

【表4】は、「留学したいと思ったことがない人(154名)」に対して、その理由を問うた設問への回答であるが、11項目の理由の中で「あてはまる」とした者が最も多かったのは、「そもそも留学する必要を感じないから」(39.2%)、次いで多かったのは「外国語能力が不足しているから」(37.0%)であった。

以上を総合して考えると、語学に関してのみ言えば、大学が現行の交換留学制度の下で、送り出す本学学生を増やそうとするならば、(a) 1回生入学後の半年から一年の間に、海外留学に応募できる基準に到達させる外国語運用能力の強化策を講じるか、(b) 語学が少々出来なくても送り出せる状況を作るか、ということになるだろう。

4. 大学の国際交流や留学支援体制全般に対する学生の印象

本学では本学学生の国際性を高め海外留学を推進するため、様々な活動を展開している。当センターが関わっているものを挙げれば、「国際交流科目」の開設¹¹、本学学生への留学支援科目の提供¹²、KCJS/SCTI 英語講義の聴講制度の開始・運営¹³、海外留学を希望する学生への相談サービスの充実¹⁴、そして留学説明会・留学推進フェアの開催¹⁵などがある。さらに KUINEP の改善、充実は常に全学的に検討されている。2002 年度調査、2005 年度調査が行われた 3 年前、6 年前と比較して、遥かに多くの教育機会、サービスが提供されているといえるだろう。学生の意見に好意的なものも少なくない。

ケース 21 (J7, 工学部 4 回生, 積極層)

やろうと思っている人が、色々学べる機会って多いと思うんですよ、京大は。結構自分でももったいなかったなあっていうのは最近感じているんですけど。

ケース 22 (J8, 工学部 2 回生, 浮動層)

身近な人が来年留学するんで、その人が 1 年留学して、帰ってきて、話を聞いてみたら、また色々自分の考えも変わっていくと思います。(中略) その人が、「お金をかけないで、大学でどれだけ英語力を上げられるかを、今、試している」と言っていたんです。今度、「KCJS の英語集中講義にも行く」と言っていました。そういう授業、そういう語彙力を高められる授業は、自分で求めたら、得られるんでしょうね、きっと。

ケース 24 (J5, 文学部 1 回生, 浮動層)

留学に限らず、国際交流科目とかも、そういうプログラムは有り難いです。いい経験になったので、またそういうプログラムがいっぱいあればいいなと思います。やっぱりベトナムとかって、自分でいきなり行こうと思っても、すぐには行けないじゃないですか。いろんなこと分からないし。それに、連れて行ってもらっているという安心感もあります。この間、京大にタイの留学生が来ていて、そ

¹¹ 国際交流センターが中心となって提案し、多くの部局の協力で、2005 年（平成 17 年）に全学共通科目「国際交流科目」を新設した。これは、1～2 週間の海外研修と事前事後の講義で構成される科目である。現在は各部局の主導の下、年間 3～4 科目が提供されている。昨年度（2007 年度）には 4 科目実施し、54 名の本学学生が参加した。

¹² センターでは、英語運用力向上のための講義、海外留学を推進するための「留学支援科目」を全学共通科目として年間 10 科目程度提供している。年間の受講者は 300 人を超える。

¹³ 京都にある米国大学の教育研究組織である KCJS（京都アメリカ大学コンソーシアム）、SCTI（スタンフォード技術革新センター）とセンター間で平成 17 年 3 月に部局間学術交流協定を締結した。KCJS/SCTI が提供する英語講義に本学学生が参加する聴講制度を開設し、現在年間 40～50 名が参加している。

¹⁴ 教員 2 名による本学学生に対する留学相談を行っている。年間相談件数は 100 件を越える。

¹⁵ 2004 年度（平成 16 年度）以降、毎年、留学説明会・留学フェア（「留学のススメ」）を継続的に開催している。年間でのべ 2,000 名程度の参加者がある。

の時もお手伝いさせてもらって、今でもメールを数人とやったりして。そういうきっかけがあったらすごいいいと思います。

前述のように、今回の調査では 15.3%が積極層、52.3%が浮動層、32.4%が消極層となっていることを確認した（【表 1】）。上記のインタビュー結果から見れば、15.3%の積極層や浮動層の上部層への働きかけ、すなわち本学で展開する国際性を高め海外留学を推進する様々な活動は、これらの比較的積極的な層の学生からは徐々に評価され始めていることが示唆されている。今後も、こうした各種活動の拡充が求められる。

こうした好意的な意見がみられる一方で、大学に対する要望も多い。多いものを挙げると、情報提供の充実、制度的サポートの整備、経済的支援、語学学習のサポートである。インタビューでは、大学院進学後に留学した先輩の留学後の進路についての情報を求める声が多かった。しかし、なによりも大きな問題と思われるのが、浮動層の大半そして消極層を合わせた 80%近くの京都大学生は、国際交流や海外留学に対する明確な動機が乏しいことである。一人の学生がインタビューの最後に、我々に逆に問いかけてきた。

ケース 25（J3、文学部 4 回生、浮動層）

学生： 京大生が海外に留学に行くっていうのが、少ないっていうふうに聞いたことがあるんですけど、実際はどんな感じですか？（中略）危機意識みたいなのはありますか？それはすごく問題だなっていうふうには。

イン： そうですね。その人に合ったいずれかの時点で出て行けたらいいとは思いますが、やっぱり送り出す数が 50 人程度というのは少なすぎだと思います。そういうことを聞かれますか？海外へ出て行く日本人学生が少ないと。

学生： 聞いたことがありますね。京大生・・・京大生というか、京都大学って、やっぱり日本の中で将来国をちゃんと率いていかなきゃいけないレベルの人たちが集まっているはずなのに、その割には海外に対する意識が低いんじゃないかっていうのを聞いたことがあって。「なるほど、そうか」と思って。

5. まとめ

本稿で明らかになったことをまとめると、1. 理系学生は、留学全般に対して消極的というわけではなく、学部留学に対して消極的であること、2. 学部留学に対する理系学生の消極性の背景にあるのは、(a)動機の乏しさ、(b)制度上の制約—京都大学のカリキュラムとの両立の難しさ、単位互換、語学準備、就職・進学—であること、3. 文系・理系共通の問題として外国語運用能力の不足と語学力に対する不安が海外留学促進の阻害要因とな

っていること、そして4. 学生たちは「京都大学は求めれば様々な機会を与えてくれる大学である」と考えている一方で十分に情報が行き渡っていないなどの不満を持っていることであった。以上から、今後の留学支援の課題について述べたい。

第一に、交換留学は半年間でも可能であり、留学に適した時期があることを、学生に十分に説明する必要がある。まず、2回生で留学のチャンスがくるが、それが難しくても4回生の前期か後期に可能であるし、進学する者なら大学院を含めた6年間に半年程度の海外留学・研修を入れることは充分可能であることを入学後早い時期に知らせる必要がある。

第二に、留学志向の三層構造（積極層、浮動層、消極層）はもちろん、学部生・院生別、文理別ひいては専攻別を考慮した支援体制、特に情報提供が必要であろう。そのために、情報提供に関しては、海外留学経験者と留学希望者・一般的な京都大学生をつなぐことが効果的である。

第三に、語学に関して言えば、大学が現行の交換留学制度の下で、送り出す本学学生を増やそうとするならば、(a) 1回生入学後の半年から一年程度の間に、海外留学に応募できる基準に到達させる外国語運用能力の強化策を講じること、(b) 語学が少々出来なくても送り出せる状況を作ることが大学に求められているといえる。

最後に、留学支援を考える際に、最も重要且つ難しいのは海外留学に対する動機の喚起についてである。海外留学に対して、特に学部レベルでの留学に関しては、明確な動機を持った学生が少ないことが明らかになってきた。さらに、動機を持つ学生に話を聞くと、そのきっかけは実に様々である。「国際学生会議に出席して、ネイティブじゃないアジア人学生が英語を話せるのを聞いて、ショックを受けた。自分も何とかしなければいけないと思った（農学部3回生）」「体育会に打ち込む中で、スポーツマネジメントという分野があることを知った（工学部4回生）」「高校の頃から国連で働きたかった（総合人間学部1回生）」「夏にインターンシップで7週間海外に行ったのが大きかった（工学部3回生）」等々である。個々の動機の多様性、そして全般的な動機の弱さを見れば、大学が意図的に一人一人に与えられるものとは到底思えなかった。現状を打開するには、留学生との共学機会の充実などを通して国際性を養う環境を長期的に作りつつ、海外研修・海外留学を卒業要件にするなどの明快な方策を打ち出す必要があるのではないだろうか。

参考文献

- 蘭 信三 2006 「分析結果の概要——国際交流の現状と課題」『京都大学における国際交流の現状と可能性—第2回アンケート調査報告書』京都大学国際交流センター、pp. 6-9
- 近森 高明 2006 「留学志向の三層と留学支援のありかた—積極派・消極派・浮動層のプロフィールを手がかりに—」『京都大学における国際交流の現状と可能性—第2回アンケート調査報告書』京都大学国際交流センター、pp. 43-56

第 III 部

【資料編】

【資料編】では、以下の順で、アンケート・インタビューの集計結果を収録した。

2008 年度 留学生アンケート (R 票)

アンケート調査票・単純集計
各設問「その他」項目への回答
自由記述

2008 年度 日本人学生対象アンケート (A 票)

アンケート調査票・単純集計
自由記述

留学生対象インタビュー

留学生対象「生活」インタビュー依頼文・質問内容
インタビュー対象者について

日本人学生対象インタビュー

日本人学生インタビュー依頼文・質問内容
インタビュー対象者について

返送先：京都大学国際交流センター アンケート調査班

京都大学における留学生生活に関する調査のお願い

2008年6月

留学生の皆様

国際交流センターでは、この度、本学に学ぶ留学生の皆さんの生活実態及び教育・研究環境に関する意識調査を企画しました。留学生の皆さんの日常生活、本学での教育・研究活動、国際交流センターの利用の仕方などについて、現状と率直なご意見をお教えください。この調査は、本学に学ぶすべての留学生の皆さんにお願いしています。

調査の結果は、報告書及び学術論文として学内外に公開し、教育・研究環境の改善に役立てます。調査票は無記名です。調査で得られたデータは記号化して統計的に処理しますので、皆さんのプライバシーが侵害されることはありません。

以上の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

本調査に関するご質問やご意見は下記までお寄せください。

京都大学国際交流センター

アンケート調査班

問い合わせ先：k52642+survey@sakura.kudpc.kyoto-u.ac.jp

回収について

回答が終わりましたら、下記のいずれかの方法で提出してください。

- (1) 添付の封筒に回答済みアンケートを入れ、「学内便」で国際交流センターまで御返送ください。学内便は、学科事務室か学部事務室などに願い出てください。「学内便です。」とお渡しくだされば、利用できます。
- (2) 留学生課の入り口にある回収ボックスに入れてください。
- (3) 授業内で実施した場合は、担当教員の指示に従ってください。

回答の締め切り

2008年7月15日（火）

記入上の注意

1. アンケートは、日本語／英語で作成されていますので、回答しやすい方を選んでお答えください。
2. 質問には、選択式の質問と記述式の質問があります。

選択式の質問について

- ① 該当する答えの番号を、直接○で囲んでください。

(例) 性別

1. 女性 2. 男性

(例) 不十分 あまり充分でない ある程度充分 充分 該当しない

1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 8

- ② 質問の中に、あなたにあてはまらないものや、よく分からないものがある場合は、「該当しない」「わからない」の番号を○で囲んでください。
- ③ 「その他」を選んだ場合は、具体的に御記入ください。

記述式の質問について

- ① 日本語、英語、中国語、韓国語のいずれかの言語でご回答ください。

3. どうしても答えにくい場合は、その質問をとばしていただいて結構です。
4. すでにこのアンケート調査に回答したことがある人は、何も記入せずに返却してください。

I. あなたご自身について伺います

問 1. 性別 n=569

1. 女性(38.7%) 2. 男性(60.3%) 無回答(1.1%)

問 2. 年齢 n=569 無回答(0.2%)

2008 年 4 月 1 日現在 平均 27.24 歳

問 3. 国籍

n=569、回答率 100.0%

問 4. 所属学部 n=569

【国際交流センター】

1. 国際交流センター (7.6%)

【学部・研究科】

2. 総合人間学部 (0.7%)
 3. 文学部・文学研究科 (7.0%)
 4. 教育学部・教育学研究科 (0.2%)
 5. 法学部・法学研究科 (3.3%)
 6. 経済学部・経済学研究科 (8.8%)
 7. 理学部・理学研究科 (5.1%)
 8. 医学部・医学研究科 (6.2%)
 9. 薬学部・薬学研究科 (4.0%)
 10. 工学部・工学研究科 (22.7%)
 11. 農学部・農学研究科 (9.7%)
 12. 人間・環境学研究科 (3.7%)
 13. エネルギー科学研究科 (7.2%)
 14. アジア・アフリカ地域研究科 (1.4%)
 15. 情報学研究科 (5.8%)
 16. 生命科学研究科 (1.1%)
 17. 地球環境学堂・地球環境学舎・三才学林 (1.9%)

【研究所・センター】(具体名をご記入願います)

18. ()

その他 (3.2%)

無回答 (0.5%)

問 5. 京都大学における身分 n=569

- | | |
|------------------------------|---------|
| 1. 学部の正規学生 | (9.3%) |
| 2. 大学院の正規学生 | (63.1%) |
| 3. 研究生、聴講生 | (21.1%) |
| 4. 京都大学との学術交流協定による留学生 | (0.5%) |
| 5. KUINEP (京都大学国際教育プログラム) 学生 | (4.2%) |
| 6. 日本語・日本文化研修生 | (1.1%) |
| 7. その他 (具体的に :) | (0.7%) |

問 6. 文系／理系 n=569

- | | |
|--------|---------|
| 1. 文系 | (26.7%) |
| 2. 理系 | (60.3%) |
| 3. 融合系 | (8.1%) |
| 4. 未決定 | (0.7%) |

無回答 (4.2%)

問 7. 専門の研究分野

n=569、回答率 95.8%

問 8. 学位の取得を目的とされていますか。 n=569

- | | | |
|-------------------|--------------------|-----------|
| 1. 目的としている(86.3%) | 2. 目的としていない(12.8%) | 無回答(0.9%) |
|-------------------|--------------------|-----------|

↓
↓

問 9. にお進みください。

問 8 - a. 学位の取得を目的とされている方にお尋ねします。

学位の種類は何ですか。 n=491

- | | |
|-------|---------|
| 1. 博士 | (64.2%) |
| 2. 修士 | (35.1%) |
| 3. 学士 | (6.4%) |

無回答 (0.4%)

問 9. 日本での滞在期間についてお尋ねします。

問 9 - a. 今回はいつ日本に来ましたか。 n=569

 年 月

2008 年	(15.1%)
2007 年	(28.8%)
2006 年以前	(49.0%)
不明	(0.4%)
無回答	(6.7%)

問 9 - b. 今回の滞在は初めてですか。 n=569

- | | | |
|-----------------|---------|------------|
| 1. 初めて | (68.9%) | |
| 2. 以前に滞在したことがある | (25.7%) | 無回答(5.4%) |

↓

以前の合計滞日期間はどのくらいですか。 n=146

 年 **平均 22.03** カ月

※無回答 5.4%を除く

問 10. 京都大学での留学期間はどのくらいの予定ですか。 n=569

- | | |
|--------------|---------|
| 1. 3ヵ月未満 | (1.2%) |
| 2. 3ヵ月～6ヵ月未満 | (3.2%) |
| 3. 6ヵ月～1年未満 | (8.1%) |
| 4. 1年～2年未満 | (9.5%) |
| 5. 2年～3年未満 | (22.0%) |
| 6. 3年～4年未満 | (23.6%) |
| 7. 4年～5年未満 | (14.8%) |
| 8. 5年以上 | (17.2%) |
| 無回答 | (0.5%) |

問 11. あなたの一ヶ月の収入の内訳を書いてください。

a: 奨学金・学習奨励費・助成金など	平均 109,424 円	n=556
b: アルバイト(TA、RAを含む)	平均 12,386 円	n=556
c: 家族(配偶者を含む)から	平均 11,569 円	n=556
d: 貯金を少しずつ使っている	平均 5,027 円	n=555
e: ローン・借金(家族以外)	平均 1,492 円	n=557
f: その他	平均 1,484 円	n=556

収入合計	平均 140,598 円	n=560
------	--------------	-------

詳細は p.147 に掲載

問 12. あなたが受けている奨学金の番号すべてに○をつけてください。奨学金を受けていない方は5に○をつけて問 13 にお進みください。 n=569

- | | |
|----------------------------|---------|
| 1. 出身国の公的奨学金もしくは在籍大学からの奨学金 | (6.0%) |
| 2. 日本政府など日本側からの奨学金 | (60.5%) |
| 3. 京都大学からの奨学金 | (1.2%) |
| 4. その他の奨学金(具体的に:) | (7.9%) |
| 5. 奨学金を受けていない | (21.1%) |
| 無回答 | (4.9%) |

問 12-a. 奨学金を受けている方にお尋ねします。

奨学金の支給期間はどのくらいですか。 n=418

- | | |
|---------|---------|
| 1. 一年未満 | (3.3%) |
| 2. 一年間 | (16.0%) |
| 3. 二年間 | (23.7%) |
| 4. 三年以上 | (56.9%) |

問 13. あなたはどのようなアルバイトをしていますか。該当するものにすべて
○をつけてください。アルバイトをしていない人は 10 を選んで問 14.に進んでください。

- | | |
|--|-------------|
| | n=569 |
| 1. 語学講師・塾講師 | (8.4%) |
| 2. TA (Teaching Assistant)・RA (Research Assistant) | (14.2%) |
| 3. 学内アルバイト (図書館など) | (1.4%) |
| 4. 通訳・ガイド | (3.0%) |
| 5. 飲食店・コンビニ | (7.7%) |
| 6. 配達 | (0.0%) |
| 7. 建設・土木などの肉体労働 | (0.5%) |
| 8. ホテルや旅館などのサービス業 | (3.9%) |
| 9. その他 (具体的に:) | (1.8%) |
| 10. アルバイトをしていない | (60.3%) |
| | 無回答 (6.7%) |

問 13-a. 一ヶ月に何時間ぐらいアルバイトをしていますか。 n=188

平均 32.97

時間
*無回答 18 名をのぞく

問 14. 日本に留学するに当たり、どのくらいの貯金を準備しましたか。 n=330

有効回答 (n=330) は、
無回答 124 及び「0」と回答した 115
を除く。

貯金を準備した人の平均	829,376 円	(n=330)
全員の平均	481,009 円	(n=569)

詳細は p.147 に掲載

問 15. あなたは国元の家族・親類に留学費用をサポートしてもらっていますか。 n=569

- | | | |
|---------------|----------------|------------|
| 1. はい (27.1%) | 2. いいえ (68.9%) | 無回答 (4.0%) |
|---------------|----------------|------------|

↓
↓

↓

問 16. にお進みください。

問 15-a. その家族・親類の年収はいくらぐらいですか。

該当する番号を一つ選んで○をしてください。 n=154

- | | | |
|----|--------------|---------|
| 1. | 2000 万円以上～ | (2.6%) |
| 2. | 1200～2000 万円 | (0.0%) |
| 3. | 900～1200 万円 | (7.1%) |
| 4. | 600～900 万円 | (7.8%) |
| 5. | 300～600 万円 | (9.7%) |
| 6. | 200～300 万円 | (9.7%) |
| 7. | 100～200 万円 | (18.2%) |
| 8. | 30～100 万円 | (32.5%) |
| 9. | 30 万円以下 | (12.3%) |

- 問 16. 授業料免除を受けたことがありますか。 n=569
1. 受けたことがある (33.9%)
 2. 出願したが免除されなかった (4.6%)
 3. 出願しなかった (32.3%)
 4. 該当しない (27.4%)
- 無回答 (1.8%)

- 問 17. 現在、どのような住居に住んでいますか。 n=569
1. 京都大学の国際交流会館 (17.2%)
 2. 上記以外の外国人留学生用宿舎 (8.1%)
 3. 京都大学の学生寮 (8.3%)
 4. アパート・マンション・文化住宅 (58.0%)
 5. 一戸建て (2.6%)
 6. その他（具体的に： (5.8%)

問 17-a. 現在の住居を決める際、誰に連帯保証人になってもらいましたか。保証人が必要でなかった方は 5. に○をつけて問 18 にお進みください。 n=569

1. 親戚、知人 (12.1%)
2. 指導教員 (36.4%)
3. 指導教員以外の教員及び大学関係者 (5.3%)
4. 京都地域留学生住宅保証制度を利用した (14.4%)
5. 連帯保証人は必要なかった (24.6%)
6. その他（ (3.5%)

無回答 (3.7%)

問 18. あなたは、家族といっしょに日本で生活していますか。 n=569

1. はい(17.4%)
 2. いいえ(81.7%)
- 無回答(0.9%)

↓

↓

家族同伴の方にお尋ねします。

家族同伴ではない方にお尋ねします。

問 18 - a. 家族構成をお答えください。

問 18 - b. 該当するものに○をつけてください。

n=99

n=465

成人 平均 1.16 人 ※無回答(2.0%)

子ども 平均 0.75 人 ※無回答(30.3%)

1. 単身（母国に配偶者がいる） (12.0%)
 2. 独身 (79.8%)
 3. その他 (3.9%)
- （具体的に (3.9%)
- 無回答(4.3%)

問 19. あなたの一ヶ月のお金の使い途をお答えください（授業料は除きます）。

a : 食費	<u>平均 41,094</u>	円	n=547
b : 家賃	<u>平均 32,459</u>	円	n=548
c : 食費・家賃以外の生活費（水道，光熱，交通，通信費など）	<u>平均 16,429</u>	円	n=548
d : 授業料以外の勉学費・書籍費	<u>平均 8,731</u>	円	n=547
e : 娯楽費・衣服費・嗜好用品費・雑費	<u>平均 13,677</u>	円	n=547
f : 剰余金・預貯金	<u>平均 10,415</u>	円	n=547
g : その他	<u>平均 6,139</u>	円	n=547

支出合計	<u>平均 125,670</u>	円	n=564
------	-------------------	---	-------

詳細は p.147 に掲載

問 20. 生活用品の中で、今あなたが一番欲しいものは何ですか。一つだけお書きください。

例：ビデオデッキ, DVD プレーヤー, 洗濯機, など

n=569、回答率 75.9%

次ページへお進みください。➡

II. 京都大学に留学する前の状況について

問 21. 日本を留学先を選んだ理由は何ですか。a~l の重要度について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。 n=569

	重要でない	あまり 重要でない	ある程度 重要	非常に 重要	該当 しない	無回答
a. 質の高い学問・研究	(1.9%)	(1.9%)	(24.4%)	(69.8%)	(0.5%)	(1.4%)
b. 日本の文化や社会への関心	(2.8%)	(13.0%)	(44.1%)	(36.9%)	(0.9%)	(2.3%)
c. 母国に適当な大学がない	(32.5%)	(18.8%)	(14.6%)	(9.8%)	(20.6%)	(3.7%)
d. 母国で高い評価をうけるから	(13.0%)	(18.5%)	(37.4%)	(21.1%)	(6.9%)	(3.2%)
e. 日本政府などの奨学金を得た	(13.2%)	(8.4%)	(15.3%)	(41.1%)	(19.3%)	(2.6%)
f. 母国の先生に勧められたから	(23.2%)	(14.9%)	(22.3%)	(15.1%)	(21.4%)	(3.0%)
g. 家族や親戚に勧められたから	(30.6%)	(15.8%)	(19.3%)	(8.4%)	(22.5%)	(3.3%)
h. 友人や知人に勧められたから	(30.4%)	(19.0%)	(19.7%)	(6.2%)	(21.6%)	(3.2%)
i. 地理的に近い国だから	(32.9%)	(15.3%)	(24.4%)	(7.6%)	(16.0%)	(3.9%)
j. 親・配偶者等が日本人（日系人）	(41.1%)	(4.0%)	(2.5%)	(3.0%)	(45.7%)	(3.7%)
k. 日本語ができるから	(28.8%)	(13.9%)	(19.9%)	(15.8%)	(17.8%)	(3.9%)
l. その他	(5.3%)	(0.0%)	(1.1%)	(10.0%)	(0.0%)	(83.7%)
(具体的に：						

次ページへお進みください。➡

問 22. 京都大学に留学した理由は何ですか。a~l の重要度について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。n=569

	重要でない	あまり重要でない	ある程度重要	非常に重要	該当しない	無回答
a. 優れた教育研究指導	(1.6%)	(2.3%)	(18.3%)	(74.3%)	(1.8%)	(1.8%)
b. 充実した施設・研究環境	(2.5%)	(4.0%)	(22.1%)	(66.8%)	(2.3%)	(2.3%)
c. 京都で学びたかったから	(10.9%)	(17.8%)	(25.5%)	(35.7%)	(6.7%)	(3.5%)
d. 母国の先生に勧められたから	(21.8%)	(13.0%)	(21.6%)	(16.9%)	(23.0%)	(3.7%)
e. 家族や親戚に勧められたから	(33.4%)	(14.9%)	(13.5%)	(6.7%)	(27.6%)	(3.9%)
f. 友人や知人に勧められたから	(30.1%)	(14.9%)	(16.2%)	(8.8%)	(26.4%)	(3.7%)
g. 就職に有利だから	(14.1%)	(12.3%)	(28.8%)	(29.7%)	(10.2%)	(4.9%)
h. 文部科学省に指定されたから	(25.8%)	(8.8%)	(8.4%)	(17.0%)	(34.6%)	(5.3%)
i. 入学試験に合格したから	(22.7%)	(10.0%)	(17.2%)	(18.3%)	(25.7%)	(6.2%)
j. 日本語ができるから	(29.0%)	(16.2%)	(18.3%)	(10.4%)	(20.7%)	(5.4%)
k. カリキュラムがよいから	(12.8%)	(17.9%)	(30.1%)	(22.5%)	(11.4%)	(5.3%)
l. その他	(4.4%)	(0.4%)	(1.2%)	(8.4%)	(0.2%)	(85.4%)
(具体的に :)

次ページへお進みください。➡

問 23. 京都大学は留学先として第一志望でしたか。 n=569

1. はい(85.2%)

2. いいえ(13.2%)

無回答(1.6%)

↓

↓

問 24 へお進みください。

↓

第一志望でなかった方にお尋ねします。

問 23-a. 留学したかった大学はどこですか。 n=75 回答率(100%)

国と大学名を志望順に 3つまで お答えください。

第一志望：国（ ） 大学名（ ）

第二志望：国（ ） 大学名（ ）

第三志望：国（ ） 大学名（ ）

詳細は p.p.149-150 に掲載

問 23-b. 第一志望の大学は、京都大学と比べて、どの点で優れていますか。該当するものにすべて○をつけてください。 n=75

- | | |
|----------------------------------|---------|
| 1. 教育研究指導が充実している | (40.0%) |
| 2. 施設・研究環境が充実している | (44.0%) |
| 3. カリキュラムが充実している | (21.3%) |
| 4. 母国における知名度、評価が高い | (65.3%) |
| 5. 日本における知名度、評価が高い | (26.7%) |
| 6. その大学で使われている言語が日本語よりできるから | (28.0%) |
| 7. 学生への支援(奨学金や授業料免除、住居など)が充実している | (28.0%) |
| 8. 母国における就職がしやすい | (36.0%) |
| 9. 日本における就職がしやすい | (21.3%) |
| 10. 大学が存在する国が良い | (9.3%) |
| 11. 大学が存在する都市が良い | (29.3%) |
| 12. 周囲の人に勧められた | (24.0%) |
| 13. その他(具体的に：) | (9.3%) |

次ページへお進みください。 ➡

問 24. 母国にいたとき、京都大学についての情報はどこから得ましたか。該当するものに3つまで○をつけてください。 n=569

- | | |
|-----------------|---------|
| 1. 家族や親戚 | (10.0%) |
| 2. 知人や友人 | (23.4%) |
| 3. 母国の先生 | (36.2%) |
| 4. 日本大使館 | (8.8%) |
| 5. 京都大学パンフレット | (9.3%) |
| 6. 京都大学に在籍中の留学生 | (15.5%) |
| 7. 日本から帰国した留学生 | (21.3%) |
| 8. ホームページ | (52.9%) |
| 9. 留学フェア | (3.2%) |
| 10. 京都大学の先生 | (18.5%) |
| 11. その他（具体的に： | (9.3%) |

無回答 (1.9%)

問 25. 京都大学に関する次の情報は充分でしたか。a～j について、あてはまる番号に○をつけてください。n=569

	不十分	あまり充分でない	ある程度充分	充分	該当しない	無回答
a. 入学試験の方法	(6.3%)	(12.5%)	(30.9%)	(40.9%)	(7.2%)	(2.1%)
b. 授業料	(5.1%)	(10.9%)	(29.0%)	(36.6%)	(15.6%)	(2.8%)
c. 指導教員	(6.5%)	(14.9%)	(29.5%)	(41.8%)	(4.7%)	(2.5%)
d. 専攻分野	(5.1%)	(12.5%)	(32.0%)	(41.5%)	(6.2%)	(2.8%)
e. 研究生になる方法	(9.3%)	(15.5%)	(28.6%)	(26.4%)	(16.9%)	(3.3%)
f. 学位取得の条件	(7.2%)	(17.9%)	(30.9%)	(34.1%)	(7.0%)	(2.8%)
g. 住居(学生寮など)	(16.7%)	(26.9%)	(25.8%)	(25.0%)	(3.0%)	(2.6%)
h. 奨学金	(13.2%)	(23.0%)	(25.7%)	(27.9%)	(7.4%)	(2.8%)
i. 大学の歴史や学風	(4.4%)	(13.5%)	(36.0%)	(38.0%)	(4.4%)	(3.7%)
j. その他	(4.0%)	(0.2%)	(1.2%)	(2.5%)	(0.0%)	(92.1%)

(具体的に：)

次ページへお進みください。➡

問 26. あなたは指導教員をどのように探しましたか。該当するものにすべて○をつけてください。 **n=569**

- | | | |
|----|-------------------|---------|
| 1. | 家族や親戚の紹介で | (2.6%) |
| 2. | 知人や友人の紹介で | (10.7%) |
| 3. | 母国の先生の紹介で | (21.8%) |
| 4. | 京都大学の先生の紹介で | (12.1%) |
| 5. | 京都大学のホームページで見て | (42.4%) |
| 6. | 京都大学のパンフレットを見て | (2.3%) |
| 7. | 論文を読んで | (16.0%) |
| 8. | その他(具体的に: _____) | (16.5%) |
| | 無回答 | (2.6%) |

問 27. 留学前にどのような情報をどのような方法(例:郵便、京都大学のホームページなど)で提供してほしかったですか。ご自由にお書きください。

n=569、回答率 64.1%

次ページへお進みください。➡

III. 京都大学の教育・研究について

問 28. 京都大学の教育・研究環境について、どのような印象をお持ちですか。

a～n について、あてはまる番号に○をつけてください。 n=569

	不満足	やや 不満足	やや 満足	満足	わからない	無回答
a. 指導教員の指導	(3.3%)	(7.7%)	(24.6%)	(59.4%)	(3.3%)	(1.6%)
b. 研究水準	(1.1%)	(3.0%)	(24.8%)	(63.8%)	(5.3%)	(2.1%)
c. 授業や講義の質	(4.9%)	(13.4%)	(39.5%)	(35.9%)	(4.2%)	(2.1%)
d. 研究室の雰囲気	(4.6%)	(7.7%)	(29.3%)	(46.6%)	(9.7%)	(2.1%)
e. 所属学部留学生担当教員	(6.3%)	(9.7%)	(25.0%)	(35.9%)	(19.7%)	(3.5%)
f. 日本人学生との交流	(10.9%)	(24.6%)	(36.2%)	(24.3%)	(2.1%)	(1.9%)
g. チューターのサポート	(13.7%)	(16.0%)	(24.4%)	(26.2%)	(16.2%)	(3.5%)
h. 国際交流センターの日本語授業	(3.2%)	(9.8%)	(32.9%)	(27.6%)	(24.4%)	(2.1%)
i. 国際交流センターの留学生相談室	(5.1%)	(9.3%)	(23.2%)	(19.9%)	(39.7%)	(2.8%)
j. 所属学部の事務サービス	(5.6%)	(8.8%)	(30.8%)	(45.0%)	(8.1%)	(1.8%)
k. 留学生課の事務サービス	(2.3%)	(6.7%)	(31.3%)	(47.5%)	(10.2%)	(2.1%)
l. 建物、図書館、実験設備	(0.9%)	(5.4%)	(27.2%)	(64.1%)	(0.5%)	(1.8%)
m. コンピュータ設備	(4.2%)	(9.0%)	(27.9%)	(53.3%)	(4.4%)	(1.2%)
n. 地域との交流	(10.7%)	(23.9%)	(27.9%)	(17.4%)	(18.1%)	(1.9%)

問 29. 京都大学の教育・研究環境について、あなたが満足している点は何ですか。具体的にお書きください。

n=569、回答率 71.7%

問 30. 京都大学の教育・研究環境について、あなたが不満を感じている点は何ですか。具体的にお書きください。

n=569、回答率 64.7%

問 31. あなたの母語は何ですか。

n=569、回答率 95.1%

問 32. 現在のあなたの日本語能力はどれくらいですか。一番近いものに 1 っだけ○をつけてください。 n=569

1. ほとんどできない (11.6%)
 2. 日常生活でのコミュニケーションができる程度 (34.3%)
 3. 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度 (17.8%)
 4. レポートを書き、授業で質疑ができる程度 (18.1%)
 5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度 (17.0%)
- 無回答 (1.2%)

問 33. 日本語能力試験を受けたことがありますか。 n=569

- | | | |
|--------------|----------------|------------|
| 1. はい(50.1%) | 2. いいえ(48.5%) | 無回答 (1.4%) |
| ↓ | ↓ | |
| | 問 34.にお進みください。 | |

日本語能力試験を受けた方にお尋ねします。

問 33-a. 最近いつ受けましたか。西暦で答えて下さい。

() 年 n=285

2008 年	(0.9%)
2007 年	(11.4%)
2006 年以前	(36.9%)
不明	(0.4%)
無回答	(2.3%)

問 33-b. 何級を受けましたか。 n=285

級 1 級(69.1%)、2 級(17.2%)、3 級(8.1%)、4 級(4.9%)、無回答(0.7%)

問 33-c. 合格しましたか。 n=285

- | | |
|--------|-------------|
| 1. はい | (87.4%) |
| 2. いいえ | (12.3%) |
| | 無回答 (0.4%) |

問 34. あなたは、日本語能力について、どのような必要性を感じていますか。あなたの考えに一番近いものに 1 っだけ○をつけてください。 n=569

1. 日常生活でも、授業・研究でも日本語は必要ない。 (3.0%)
 2. 日常生活ができれば、授業・研究では日本語はほとんど必要ない。 (20.2%)
 3. 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の日本語が必要である。 (15.6%)
 4. レポートを書き、授業で質疑ができる程度の日本語が必要である (8.1%)
 5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度の日本語が必要である。 (48.5%)
 6. その他（具体的に：) (3.9%)
- 無回答 (0.7%)

問 35. あなたの英語力はどのくらいですか。一番近いものに 1 つだけ○をつけてください。

n=569

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| 1. ほとんどできない | (5.1%) |
| 2. 英語で日常生活でのコミュニケーションができる程度 | (14.6%) |
| 3. 英語で教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度 | (16.0%) |
| 4. 英語でレポートを書き、授業で質疑ができる程度 | (13.0%) |
| 5. 英語で論文を読んだり書いたりし、専門的なことを議論できる程度 | (50.3%) |
| 無回答 | (1.1%) |

問 36. あなたの指導教員についてお尋ねします。あなたには指導教員がいますか。 n=569

1. はい (94.7%)

2. いいえ (4.6%)

無回答 (0.7%)

↓

↓

↓

問 38. へお進みください。

問 36-a. 指導教員との関係はどうですか。 n=539

あてはまる番号に○をつけてください。

うまくいっていない	どちらかといえば うまくいっていない	どちらかといえば うまくいっている	うまくいっている	無回答
1	2	3	4	
(1.8%)	(4.0%)	(26.5%)	(61.0%)	(6.7%)

↓

↓

↓

↓

↓

↓

3, 4 を選んだ方は問 37. へお進みください。

うまくいっていない、どちらかといえbaumくいっていないを選んだ方にお尋ねします。

問 36-b. どのような点で困っていますか。

n=33、回答率 100.0%

問 36-c. 困っている点をどのように解決していますか。

n=33、回答率 100.0%

問 37. あなたの指導教員は、研究活動をするための日本語能力について、あなたにどの程度のレベルまで期待していると思いますか。一番近いものに1つだけ○をつけてください。

n=569

- | | | |
|----|---|---------|
| 1. | 日常生活でも、授業・研究でも日本語は必要ない。 | (6.9%) |
| 2. | 日常生活ができれば、授業・研究では日本語はほとんど必要ない。 | (23.6%) |
| 3. | 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の日本語が必要である。 | (11.1%) |
| 4. | レポートを書き、授業で質疑ができる程度の日本語が必要である。 | (9.5%) |
| 5. | 論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度の日本語が必要である。 | (38.5%) |
| 6. | その他（具体的に：_____） | (4.7%) |

無回答 (5.8%)

問 38. 予定している留学が終わった後、こういった進路をとりたいと考えていますか。

1つだけ○をつけてください。

n=569

- | | | |
|---------------------|------------------|---------|
| 1. 学生として研究を続ける | →問 38-a にお進みください | (20.2%) |
| 2. 就職する（ポストドクターを含む） | →問 38-b にお進みください | (73.6%) |
| 3. その他（具体的に： | ） | (4.4%) |

無回答 (1.8%)

学生として研究を続けると答えた方にお尋ねします。

問 38-a. どこで研究を続けたいですか。1つだけ○をつけてください。

n=115

1. 母国 (27.8%)
2. 日本 (47.0%)
3. その他の国(具体的に：) (23.5%)

無回答 (1.7%)

就職すると答えた方にお尋ねします。

問 38-b. どこで就職したいですか。1つだけ○をつけてください。

n=419

1. 母国 → 問 38-c.へ (43.4%)
2. 日本 (37.9%)
3. その他の国(具体的に：) (13.8%)

無回答 (4.8%)

母国で就職すると答えた方にお尋ねします。

問 38-c.

n=182

1. 留学前に就いていた職に復職する (30.2%)
2. 新たに就職する (61.5%)
3. その他（具体的に： ） (8.2%)

問 39. あなたは、これまで京都大学で日本人学生と知り合う機会が充分ありましたか。 1
つだけ○をつけてください。 n=569

知り合う機会は、

ほとんどなかった	どちらかという と不十分	どちらかという と充分	充分	無回答
1	2	3	4	
(8.8%)	(32.2%)	(35.3%)	(22.7%)	(1.1%)
↓	↓	↓	↓	
問 39-b へ	問 39-b へ	↓	↓	

充分、どちらかというと充分と答えた方にお尋ねします。

問 39-a. どのような機会に日本人学生と知り合いましたか。

(すべてに○)

n=330

1. 授業 (授業名:)	(30.3%)
2. 部活・サークル活動で	(21.8%)
3. チューターとして	(15.5%)
4. 研究室で	(78.2%)
5. 学内のパーティ・イベントなどで	(26.1%)
6. その他 (具体的に:)	(8.2%)
無回答	(2.1%)

以下、全員お答えください。

問 39-b. 現在加入している学内の部活・サークル活動の種類は何ですか。あてはまるもの
すべてに○をつけてください。 n=569

1. 学術系	(2.3%)
2. 芸術系	(0.9%)
3. 社会活動系	(3.7%)
4. 趣味	(2.6%)
5. 娯楽系	(2.5%)
6. スポーツ系	(8.4%)
7. その他 (具体的に:)	(2.5%)
8. 入っていない	(77.3%)
無回答	(3.7%)

問 40. あなたの心配事や悩みについてお尋ねします。

問 40-a. 次のような心配事や悩みを誰に相談しますか。ア. イ. ウ. エについて、下記の選択肢 1～12 から最大 3 つまで選んで番号をご記入ください。「その他」を選んだ場合は、具体的に書いてください。

n=569、無回答(10.5%)

※回答が多かった上位 4 つの選択肢まで、回答率を掲載

ア. 専門の研究に関する心配事・悩み

- | | |
|------------------|---------|
| 1. 指導教員 | (69.9%) |
| 2. 同じ国からの留学生 | (30.4%) |
| 3. チューター以外の日本人学生 | (27.9%) |
| 4. 違う国からの留学生 | (16.2%) |

イ. 人間関係に関する心配事・悩み

- | | |
|------------------|---------|
| 1. 同じ国からの留学生 | (51.0%) |
| 2. 家族 | (39.7%) |
| 3. 違う国からの留学生 | (23.7%) |
| 4. チューター以外の日本人学生 | (22.3%) |

ウ. 日本での生活に関する心配事・悩み

- | | |
|------------------|---------|
| 1. 同じ国からの留学生 | (47.3%) |
| 2. 家族 | (31.6%) |
| 3. チューター以外の日本人学生 | (31.3%) |
| 4. 違う国からの留学生 | (23.9%) |

エ. 心身の健康に関する心配事・悩み

- | | |
|------------------|---------|
| 1. 家族 | (50.6%) |
| 2. 同じ国からの留学生 | (39.9%) |
| 3. チューター以外の日本人学生 | (14.9%) |
| 4. 違う国からの留学生 | (13.4%) |

問 40-a. の選択肢：

- | | | |
|-----------------|------------------|-------------|
| 1. 指導教員 | 2. 所属学部留学生担当教員 | 3. 所属学部の事務室 |
| 4. 留学生課 | 5. チューター以外の日本人学生 | 6. チューター |
| 7. 同じ国からの留学生 | 8. 違う国からの留学生 | |
| 9. 国際交流センターの相談室 | 10. 国際交流センターの教員 | |
| 11. 家族 | 12. その他 | |

問 40-b. 心配事や悩みは解決できていますか。心配事や悩みに関して、何かお書きになりたいことがあれば、御自由にお書きください。

n=569、回答率 41.1%

問 41. チューター制度を知っていますか。n=569

1. 知っている(73.8%) 2. 知らない(24.8%) 無回答(1.4%)

↓

↓

↓

問 42 へお進みください。

チューター制度を知っている方にお尋ねします。

問 41-a. 現在、あなたにはチューターがいますか。n=420

1. いる(36.0%) 2. 以前いたが今はいない(34.3%) 3. いない(29.0%) 無回答(0.7%)

↓

↓

↓

↓

↓

問 41- d へ

チューターがいる／いた方にお尋ねします。

問 41-b. どれくらいの頻度で会っていますか／会っていましたか。n=295

該当するものに 1つだけ ○をしてください。

- | | |
|-----------------------|-------------|
| 1. ほとんど毎日 | (19.3%) |
| 2. 週に 2 ～ 3 回程度 | (9.8%) |
| 3. 週に 1 回程度 | (40.7%) |
| 4. 月に 1 回程度 | (11.5%) |
| 5. 2 ～ 3 ヶ月に一回程度 | (6.1%) |
| 6. 4 ～ 5 ヶ月に一回程度 | (3.7%) |
| 7. その他（具体的に： | ） (7.8%) |
| | 無回答 (1.0%) |

問 41-c. チューターとはどのような相談をしていますか／しましたか。該当するものに 3つまで ○をつけてください。n=295

- | | |
|------------------------|-----------|
| 1. 日本語について | (45.1%) |
| 2. 専門の研究について | (48.1%) |
| 3. 大学生活について | (44.4%) |
| 4. 日本での一般的な生活について | (45.8%) |
| 5. 人間関係について | (13.2%) |
| 6. 生活費などの経済面について | (7.5%) |
| 7. その他（具体的に： | ） (10.2%) |

無回答 (1.7%)

問 41-d. チューター制度についての意見をご自由にお書きください。

n=569、回答率 36.7%

IV. 国際交流センター・留学生課の活動について

問 42. 国際交流センター・留学生課をどのように利用していますか。該当するものすべて○をつけてください。

n=569

- | | |
|-----------------------|---------|
| 1. 日本語授業 | (61.7%) |
| 2. 英語講義 (KUINEP) | (9.5%) |
| 3. 新聞・教材・図書の閲覧および借出 | (25.1%) |
| 4. 留学生相談室の利用 | (7.2%) |
| 5. 国際交流センター教員と面談 | (5.4%) |
| 6. 奨学金に関わる相談、情報収集 | (26.7%) |
| 7. 住居に関わる相談、情報収集 | (20.9%) |
| 8. アルバイトに関わる情報収集 | (7.4%) |
| 9. 催し物の情報収集 | (24.1%) |
| 10. 見学旅行に参加 | (27.6%) |
| 11. 他の留学生との交流を求めて | (20.7%) |
| 12. 日本人学生との交流を求めて | (7.6%) |
| 13. ラウンジ (Kizuna) の利用 | (32.7%) |
| 14. 国際交流センター主催の講演会 | (3.9%) |
| 15. 安全講習会 | (9.0%) |
| 16. その他(具体的に:) | (5.3%) |

無回答 (5.6%)

問 43. 国際交流センター・留学生課をどの程度利用していますか。該当するものに1つだけ○をしてください。

n=569

- | | |
|---------------|---------|
| 1. ほとんど毎日 | (3.5%) |
| 2. 週に2～3回程度 | (6.9%) |
| 3. 週に1回程度 | (14.6%) |
| 4. 月に1回程度 | (29.2%) |
| 5. 2～3ヶ月に一回程度 | (8.8%) |
| 6. 4～5ヶ月に一回程度 | (9.5%) |
| 7. ほとんど利用しない | (26.2%) |

無回答 (1.4%)

問 44. 国際交流センターの留学生相談室を知っていますか。 n=569

1. 知っている(50.8%) 2. 知らない(48.2%) 無回答(1.1%)

↓

↓

↓

問 44-c.へお進みください

留学生相談室を知っている方にお尋ねします。

問 44-a. 留学生相談室を利用したことがありますか。 n=289

1. ある(15.9%) 2. ない(84.1%)

↓

↓

↓

問 44-c.へお進みください。

留学生相談室を利用したことがある方にお尋ねします。

問 44-b. どのような方法で利用しましたか。 n=46

1. 面談 (84.8%)
 2. 電話で相談 (0.0%)
 3. email で相談 (10.9%)
 4. その他（具体的に：) (4.3%)

以下、全員お答えください。

問 44-c. 今後、留学生相談室を利用するとすればどのような場合でしょうか。相談したいと思われる項目にすべて○をつけてください。 n=569

1. 研究上の相談 (16.2%)
 2. 進学・転学（学部・研究科） (20.0%)
 3. 指導教員に関連すること (9.3%)
 4. 日本語の問題 (29.0%)
 5. 奨学金に関連すること (47.8%)
 6. 就職に関連すること (37.3%)
 7. 宿舎に関連すること (33.4%)
 8. 医療に関連すること (27.6%)
 9. 家族問題に関連すること (6.3%)
 10. 人間関係に関連すること (11.8%)
 11. 心理相談 (13.5%)
 12. 事故・事件に遭遇した場合 (26.5%)
 13. その他（差し支えない範囲で書きください：) (1.4%)
 14. 特に必要ない (9.7%)

無回答 (4.2%)

問 44-d. 留学生相談室についての感想、要望をお書きください。

n=569、回答率 22.0%

問 45. 京都大学における留学生活、教育、研究環境全般ついて、感想、要望などをご自由にお書きください。

n=569、回答率 51.0%

ご協力ありがとうございました。

インタビューへのご協力をお願い

京都大学での留学生活についてインタビューをさせていただく場合があります。ご協力いただける方は、差し支えない範囲で、お名前、御連絡先を御記入ください。下記の情報はインタビューのための連絡を取る以外には使用しません。

お名前：

Email または電話番号：

問 3. 国籍 n=569, 回答率 100.0%

	回答数	割合 (%)
中国	207	36.4
韓国	58	10.2
タイ	34	6.0
台湾	27	4.7
インドネシア	19	3.3
マレーシア	14	2.5
フランス	13	2.3
ベトナム	12	2.1
ドイツ	11	1.9
ネパール	11	1.9
ブラジル	11	1.9
アメリカ合衆国	9	1.6
インド	8	1.4
エジプト	8	1.4
フィリピン	8	1.4
バングラデシュ	6	1.1
メキシコ	6	1.1
イギリス	5	0.9
モンゴル	5	0.9
ロシア	5	0.9
ケニア	4	0.7
コロンビア	4	0.7
ミャンマー	4	0.7
イラン	3	0.5
オーストラリア	3	0.5
カナダ	3	0.5
シンガポール	3	0.5
スイス	3	0.5
スペイン	3	0.5
ハンガリー	3	0.5
ブルガリア	3	0.5
アフガニスタン	2	0.4
アルゼンチン	2	0.4
イスラエル	2	0.4
オランダ	2	0.4
アメリカ合衆国・日本	2	0.4
カンボジア	2	0.4
シリア	2	0.4
チュニジア	2	0.4
パキスタン	2	0.4
ペルー	2	0.4
ベルギー	2	0.4

	回答数	割合 (%)
アルジェリア	1	0.2
アルバニア	1	0.2
ウクライナ	1	0.2
オマーン	1	0.2
カナダ・中国	1	0.2
カメルーン	1	0.2
サモア	1	0.2
ザンビア	1	0.2
スウェーデン	1	0.2
スリランカ	1	0.2
スロバキア	1	0.2
セルビア	1	0.2
チェコ	1	0.2
チリ	1	0.2
トルコ	1	0.2
バーレーン	1	0.2
フィンランド	1	0.2
ベネズエラ	1	0.2
ポーランド	1	0.2
マケドニア	1	0.2
マダガスカル	1	0.2
南アフリカ	1	0.2
モザンビーク	1	0.2
ヨーロッパ	1	0.2
ヨルダン	1	0.2
ラオス	1	0.2
ルーマニア	1	0.2
ルクセンブルク	1	0.2
レバノン	1	0.2
無回答	5	0.9
合計	569	100.0

問 7. 専門の研究分野 n=569, 回答率 95.8%

	回答数	割合 (%)
文系	152	26.7
理系	343	60.3
文理融合系	46	8.1
未決定	4	0.7
無回答	24	4.2
合計	569	100.0
理系内訳		
工学	111	32.4
農学	50	14.6
理学	29	8.5
医学・薬学	51	14.9
エネルギー	33	9.6
情報	24	7.0
その他	45	13.1

問 11. 一ヶ月の収入 n=569, 回答率=98.4%

	回答数	割合 (%)
5万円以下	37	6.5
5-10万円	117	20.6
10-15万円	79	13.9
15-20万円	301	52.9
20-30万円	22	3.9
30-40万円	4	0.7
無回答	9	1.6
合計	569	100.0

問 13. 一ヶ月のアルバイト時間

	回答数	割合 (%)
1-15時間	55	32.4
16-30時間	49	28.8
31時間以上	65	38.2
その他	1	0.6
合計	170	100.0

※「その他」は「月によって様々」と回答した者

問 14. 日本留学にあたり準備した貯金

	回答数	割合 (%)
1-50万円	187	56.7
51-100万円	83	25.2
101万円以上	60	18.2
合計	330	100.0

問 19. 一ヶ月の支出 n=569, 回答率 99.1%

	回答数	割合 (%)
5万円以下	57	9.1
5-10万円	151	26.5
10-15万円	116	20.4
15-20万円	228	40.1
20-30万円	16	2.8
30-40万円	1	0.2
無回答	5	0.9
合計	569	100.0

問 17. 現在の住居（その他）

		回答数
市営・府営		16
シェアハウス		4
学生センター・留学生会館	国際女子センター	1
	国際女子留学生センター	1
	向島学生センター	1
	民間の留学生会館	1
寮	コマツ寮	1
	民間の寮	1
	その他の寮	1
その他	親戚	1
	生協ホステル	1
	下宿	1
	ゲストハウス	1
	職員宿舎	1
	アパート	1

問 20. 現在取得を希望する生活用品 n=569, 回答率 75.9%

	回答数
テレビ関連 (液晶TV、衛星TV、ケーブル TV、大画面液晶モニタ、	72
洗濯機	66
コンピュータ、ノートパソコン	65
DVDプレーヤー・ DVDレコーダー	36
電子レンジ	19
カメラ(ビデオカメラ、デジカメ)	16
冷蔵庫	16
エアコン	15
掃除機	14
ビデオ	11
オーブン	9
机、テーブル	8
自転車	7
電子辞書	7
暖房器具、こたつ	7
プリンター	6
風呂、シャワー	6
ゲーム機器	5
(任天堂DS,Wii,Play Station)	5
扇風機	5
mp3	5
ベッド	5
乾燥機	4
炊飯器	4
インターネット接続	4
車	4
アイロン	4
オートバイ、バイク、原付	4
椅子	3
書籍、自分の分野の書籍	3
本棚	3
トースター	2
コンロ	2
(ポータブル)ラジオ	2
iPod	2
iPhone	2

	回答数
上下水、風呂とトイレが ある住居	1
エスプレッソマシーン	1
DVD	1
食器棚	1
電池自転車	1
ノート	1
洗濯物干し場	1
マッサージチェア	1
プロジェクタ	1
たんす(衣服用)	1
スピーカー	1
除湿機	1
ミキサー	1
ステレオ	1
ドライヤー	1
上等の毛布	1
アンテナ	1
ピアノ	1
オーディオ機器	1
冷房	1
i-tough	1
ゲーム	1
電気ポット	1
ソファ	1
浄水器	1
運転免許証	1
ビデオ／カメラ両用	1
デジタルVTR	1
オーブン電子レンジ	1
メディアセンター	1
論文生産器	1
”パンをつくるもの”	1
ハンドオーブン	1
何も欲しくない／いいえ	2

問 23a.
留学先として希望していた国

【第一志望】

第一志望		
国名	人数	割合(%)
日本	47	62.7
アメリカ合衆国	23	30.7
カナダ	2	2.7
ドイツ	1	1.3
オーストラリア	1	1.3
イスラエル	1	1.3
合計	73	100.0

問 23a.
留学先として希望していた大学

(75ケース)

第一志望大学	回答数
日本(47人)	
東京大学	34
慶應義塾大学	3
早稲田大学	2
京都工芸繊維大学	2
同志社大学	1
名古屋大学	1
福岡大学	1
鹿児島大学	1
東京工業大学	1
大阪大学	1
アメリカ合衆国(23人)	
スタンフォード大学	4
ハーバード大学	3
マサチューセッツ工科大学(MIT)	2
イリノイ大学(UIUC)	2
カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)	1
カリフォルニア大学	1
シンシナティ大学	1
テキサス大学オースティン校	1
ニューヨーク州立大学(SUNY)	1
ジョンズホプキンス大学	1
カリフォルニア工科大学(Caltech)	1
無回答	5
カナダ(2人)	
マギル大学	1
トロント大学	1
ドイツ(1人)	
ダルムシュタット大学	1
オーストラリア(1人)	
オーストラリア国立大学	1
イスラエル(1人)	
テルアビブ大学	1

【第二志望】

第二志望		
国名	人数	割合(%)
日本	22	29.3
アメリカ合衆国	5	6.7
イギリス	5	6.7
カナダ	1	1.3
中国	1	1.3
ドイツ	1	1.3
シンガポール	1	1.3
合計	28	48.0

(36ケース)

第二志望大学	回答数
日本(22人)	
京都大学	10
東京大学	6
慶應義塾大学	2
立命館大学	1
名古屋大学	1
大阪大学	1
神戸芸術工科大学	1
アメリカ合衆国(5人)	
マサチューセッツ工科大学(MIT)	3
カリフォルニア大学Berkeley校	1
カリフォルニア工科大学(Caltech)	1
イギリス(5人)	
ケンブリッジ大学	4
オックスフォード大学	1
カナダ(1人)	
マギル大学	1
中国(1人)	
北京大学	1
ドイツ(1人)	
無回答	1
シンガポール(1人)	
シンガポール国立大学	1

【第三志望】

第三志望		
国名	人数	割合(%)
日本	21	28.0
アメリカ合衆国	8	10.7
イギリス	1	1.3
フランス	1	1.3
合計	30	41.3

(31ケース)

第三志望大学	回答数
日本(21人)	
京都大学	7
大阪大学	4
東京工業大学	3
名古屋大学	2
東京大学	1
神戸大学	1
北海道大学	1
一橋大学	1
札幌大学	1
アメリカ合衆国(8人)	
カリフォルニア大学	2
スタンフォード大学	1
マサチューセッツ	1
マサチューセッツ工科大学(MIT)	1
イエール大学	1
無回答	2
イギリス(1人)	
無回答	1
フランス(1人)	
マルセイユ大学	1

問 31. 母語 n=569, 回答率 95.1%

	回答数	割合(%)
中国語	203	35.7
韓国語	57	10.0
タイ語	34	6.0
英語	30	5.3
スペイン語	20	3.5
インドネシア語	18	3.2
アラビア語	15	2.6
フランス語	14	2.5
ベトナム語	12	2.1
ドイツ語	11	1.9
ポルトガル語	11	1.9
ネパール語	9	1.6
ヒンディー語	6	1.1
モンゴル語	6	1.1
ウイグル語	5	0.9
オランダ語	4	0.7
ハンガリー語	4	0.7
ペルシャ語	4	0.7
ベンガル語	4	0.7
マレー語	4	0.7
ミャンマー語	4	0.7
ロシア語	4	0.7
タガログ語	3	0.5
フィリピン語	3	0.5
ブルガリア語	3	0.5
ウルドゥー語	2	0.4
漢語	2	0.4
台湾語	2	0.4
台湾語・中国語	2	0.4
タミル語	2	0.4
バングラ語	2	0.4
ヘブライ語	2	0.4
マンダリン語	2	0.4

	回答数	割合(%)
アラビア語(チュニジア語)	1	0.2
アラビア語／アルメニア語	1	0.2
アルバニア語	1	0.2
ウクライナ語	1	0.2
英語・スワヒリ語	1	0.2
英語・中国語	1	0.2
英語・マンダリン語・マレー語	1	0.2
広東語	1	0.2
カンボジア語	1	0.2
クメール語	1	0.2
サモア語	1	0.2
シンハリ語	1	0.2
スウェーデン語	1	0.2
スロバキア語	1	0.2
スワヒリ語	1	0.2
セルビア語	1	0.2
ソマリ語	1	0.2
ダリー語	1	0.2
チェコ語	1	0.2
中国語・英語	1	0.2
朝鮮語	1	0.2
朝鮮語、中国語	1	0.2
テレグ語	1	0.2
トルコ語	1	0.2
ネワール語	1	0.2
ネワール語(Newar)Nepal Bhasa	1	0.2
パンガシナン語	1	0.2
フィリピン語(イロンゴ語)	1	0.2
フィン語	1	0.2
ブラジル系ポルトガル語	1	0.2
フランス語・英語	1	0.2
フランス語・ドイツ語	1	0.2
北京語・台湾語	1	0.2
ポーランド語	1	0.2
マケドニア語	1	0.2
マラーティー語	1	0.2
ラーオ語	1	0.2
無回答	28	4.9
合計	569	100.0

◆◆ 「その他」項目への回答 ◆◆

以下は各設問において「その他」を選択したものの中で、記入があった回答である。それ以外の項目への回答は「2008年度 留学生アンケート 調査票・単純集計」を参照のこと。

[編集にあたって]

- ・ 記述内容の末尾に、(身分・所属部局)の順に属性を記載した。
- ・ 留学生アンケートの自由記述については、「(特に)なし」といった回答を有意味な回答と判断し、回答率に含めているが、以下では、設問によっては記載を省略している。したがって、回答率と掲載ケース数が異なる設問もある。
- ・ 類似の回答は省略して掲載している場合がある。(身分・所属部局)はすべてに記載している。
- ・ 回答に個人名が含まれている場合は、すべてXXとした。

問21 その他、日本を留学先に選んだ理由は何ですか。

(回答率16.3%)

【日本に興味を持ったから：日本文化】

- ◆武術、武道 (院・工)
- ◆合気道 (院・工)
- ◆日本人女性 (院・情報)
- ◆文化や生活に魅了されたから (院・ウイルス研)
- ◆違ったものの考え方に興味があるから (研究生・国際セ)
- ◆日本の文化と次文化が大好きだから (研究生・防災研)

【日本に興味を持ったから：日本語】

- ◆日本語を勉強したかったから (研究生・工) (院・理) (KUINP・不明) (KUINP・不明)
- ◆日本語に興味があるから (研究生・経済研)
- ◆言語能力の向上 (KUINP・工)
- ◆言葉の勉強 (KUINP・文)

【経験を積むため】

- ◆一人で頑張ってみたいから (学部・工)
- ◆さらに他国への跳び板として可能だから (院・経)
- ◆経験を積むため (院・理)
- ◆国際的な経験を積むため (院・理)
- ◆異国で心身を磨くため (院・薬)
- ◆すでに4年間も暮した出身大学の大学院に推薦され進学するのはつまらなくて、環境を変えて、別の体験がしたかったから (院・人環)
- ◆海外の生活を体験したいから (院・人環)
- ◆私にとっては良い機会だから (研究生・工)
- ◆留学する機会があったから (研究生・国際セ)
- ◆卒業するまでに1度は外国に住んでみたかったから (KUINP・総人)
- ◆やりがいのある経験だから (KUINP・工)

【家族や恋人がいるから】

- ◆日本人と婚約したから（院・生命科学）
- ◆家族（夫）も日本で研究しているから（院・地環）
- ◆昔の彼氏も日本で勉強したがついていたから（院・再生医研）
- ◆配偶者が日本で仕事をしているから（研究生・医）

【日本での就職を考えているから】

- ◆日本での就職を考えているから（一般交換・総人）
- ◆日本での就職を考えていたが、実際に住んだことがないから（一般交換・経）

【研究が日本に関連するから】

- ◆日本語を専門とするから（院・文）
- ◆日中の学術交流に役割を果たしたいと考えているから（院・法）
- ◆個人的な興味である日本の美術を学ぶため（研究生・国際セ）
- ◆研究分野に対する興味（漆）（研究生・国際セ）
- ◆研究内容が日本の文化に関連するから（研究生・文）
- ◆日本の哲学（研究生・文）
- ◆日本語教育を専門にしているから（研究生・AA）

【日本の研究水準の高さ、独自性】

- ◆資本主義先進国の教育を受けたいから（院・法）
- ◆世界経済における日本の位置／東ヨーロッパのプロジェクトに関わる日本の投資／日本のビジネス社会やヨーロッパの同僚たちが機会と経験を得るのは難しいであろうアジアの経済環境と関わりを持つ機会／（日本に留学することによって有利になる）（院・経）
- ◆日本の医療技術が高度なレベルだから（院・薬）
- ◆研究分野である環境工学は、日本が世界の中でも優れているから（院・工）
- ◆今の研究は日本でしか出来ないから（研究生・文）

【京都大学で勉強したかったから：研究分野での知名度の高さ】

- ◆バイオエネルギーに関する研究は京都大学が有名だから（院・エネ科）
- ◆自分で選んだこの研究室では、自分の興味のある研究をすることができ、教授はこの分野において世界でも有数の研究者だから（院・理）
- ◆霊長類研究所も指導教員も有名だから（院・理）

【京都大学で勉強したかったから：研究、教育環境の良さ】

- ◆指導教員（院・法）
- ◆質の高い教授陣（院・農）
- ◆自由な学風、研究だけに集中できるから（院・地環）
- ◆ここで研究する同僚たち（特研・農）

【生活しやすい国だから】

- ◆治安がよい国だから（学部・工）
- ◆留学費用がより安いから（院・法）
- ◆自分や家族にとって安全な国だから（院・医）
- ◆イスラム教の人が日本で自由に暮らせるから（院・情報）

【その他】

- ◆制度が原因で、母国で大学入試を受ける資格がなかったから（学部・経）
- ◆日本の先生に勧められたから（学部・経）
- ◆高卒後すぐに来た。当時の考え方は甘いこと（学部・農）
- ◆自分の家族のために貯金したいから（院・農）
- ◆日本で研究するために母国の奨学金をもらっているから（院・エネ科）
- ◆別のプログラムで以前日本に来たことがあるから（研究生・情報）
- ◆イギリスで所属していたコースで必要だったから（KUINEP・不明）

問22 その他、京都大学に留学した理由は何ですか。

(回答率14.6%)

【有名な大学だから】

- ◆名門だから（院・文）
- ◆東京に次いで日本で2番目の大学だから。あるいは特定の分野では1番だから（院・医）
- ◆有名な大学だから（院・薬）
- ◆世界的に有名な大学だから（院・農）
- ◆自分の興味のある分野では有名だから（研究生・工）
- ◆日本で一番有名な大学だから（KUINEP・不明）
- ◆京都大学は日本で有名で優れた大学だと聞いたから（日研・国際セ）

【京都が魅力的だから】

- ◆京都が好きだから（学部・経）
- ◆京都市が美しいから（院・エネ科）
- ◆京都で生活をしたいから（研究生・医）
- ◆京都が一番好きだから（研究生・防災研）

【学風が優れているから】

- ◆学生の質（学部・経）
- ◆自由な学風に憧れたから（学部・農）
- ◆学術的に優れた環境だから（院・文）
- ◆学風が好きだから（院・地環）

【プログラムが良いから】

- ◆研究の環境が完璧だから（院・生命科学）
- ◆自分の研究にぴったりのプログラムがあったから（院・地環）
- ◆日本哲学研究科（研究生・文）
- ◆英語で勉強できるプログラムであるから（KUINEP・工）

【優れた指導教員がいるから】

- ◆指導教員が大阪大学から京都大学へ移ったから（院・文）
- ◆自分の研究計画に関連する分野において連絡を取りたいと思った教授のいるトップレベルの大学であることと、その教授が自分に連絡をとってくれて（かつ後で受け入れ許可の手配をしてくれた）日本を代表する専門家である唯一の人だったから（院・経）
- ◆興味のある専門分野を研究する先生がいったから（院・経）

- ◆私が研究したいことについてよく分かる先生がいるから (院・工)
- ◆現在の指導教員のもとで研究をしたいとずっと思っていたから (院・エネ科)
- ◆有名な教授がいるから (院・エネ科)
- ◆私の教授が京都に移ったから。ただし、それについて非常に嬉しく思っている (院・ウイルス研)
- ◆XX 先生と研究がしたかったから (院・再生医研)
- ◆指導教員の研究的興味 (院・霊長類研)
- ◆指導教員が自分の研究分野の専門家だから (研究生・情報)

【紹介されたから】

- ◆母国の修士課程の指導教員は京都大学との関係がいいから。私は日本語ができるし、日本に興味を持っているので、日本で博士課程をするのは素晴らしいことだと思う。母国の修士課程の指導教員は京大との近い協力関係にあるので、私を京大と現在の指導教員に紹介してくれた。他の日本の大学については考えなかった (院・理)
- ◆日本の教授に勧められたから (院・工)
- ◆教授が選んでここに私を送ったから (KUINEP・不明)

【母国でのプログラムとの関わりがあるから】

- ◆以前イギリスで行っていた研究プロジェクトとの協力 (研究生・理)
- ◆自分の大学との協定があるから (KUINEP・工)

【留学生が多いから】

- ◆国から来た先輩や友達が多いから (学部・工)
- ◆一般交換留学が多いから (学部・工)

【未分類】

- ◆豊富な資料があるから (院・法)
- ◆夫が京大の院生だから影響された (院・経)
- ◆母国で最高の学歴として認められるから (院・経)
- ◆東京大学か京都大学かという基準で選んだ (院・理)
- ◆現在の研究の興味 (院・工)
- ◆石油・ガソリン産業に関連した研究分野 (院・工)
- ◆京都は文化的に強い関係があるから (院・情報)
- ◆都市にあるトップレベルの大学でありながら、東京や大阪に比べて生活費が安いから (院・地環)
- ◆研究室で、自分の探していたものが見つかったから (研究生・国際セ)
- ◆文部科学省から言語を学ぶように指定されたから (研究生・国際セ)
- ◆私のチューターが自分の分野の専門家だから (研究生・文)
- ◆韓国の民事法を研究するため (研究生・法)
- ◆他の選択がなかった (KUINEP・法)
- ◆日本語が話せなくても母国の機関との交換留学ができる唯一の手段だった (KUINEP・経)

問23-b その他、第一志望の大学は、京都大学と比べて、どの点で優れていますか。

(回答率13.0%)

- ◆友達がいるから。同じ都市が良かった (学部・経)
- ◆親戚がいった大学だから (院・経)

- ◆学生にとって国際的な環境だから (院・工)
- ◆英語を使うことができるから (院・工)
- ◆京都大学にはないようなプログラムが充実しており、ウェブページへのアクセスも充実しているから (研究生・国際セ)
- ◆そこに住んでいる友人がいるから (KUINEP・経)
- ◆学生生活が充実しているから。色んな学生がいる。受験して入学した人、中・高からエスカレーター式で入学した人など (一般交換・総人)

問24 その他、母国にいたとき、京都大学についての情報はどこから得ましたか。

(回答率9.3%)

【インターネット】

- ◆インターネット (院・理) (院・医) (院・医) (院・工) (院・工) (院・エネ科) (研究生・国際セ) (研究生・薬)
- ◆BBS の留学情報 (院・工)
- ◆ウェブでの大学ランキング (院・エネ科)

【京都大学の卒業生】

- ◆京都大学の卒業生 (院・情報)
- ◆母国の大学にいた京都大学の卒業生が薦めてくれた (研究生・医)

【学術出版物】

- ◆PubMed の出版物 (院・医)
- ◆研究成果、学術誌 (院・薬)
- ◆雑誌タイムズ (院・工)
- ◆インターネットのPubMed (研究生・医)
- ◆国際論文 (研究生・エネ科)
- ◆学術論文 (研究生・情報)

【他大学の先生方など】

- ◆東京外国語大学の先生 (学部・文)
- ◆日本の高校の先生、予備校 (学部・経)
- ◆高専の先生にすすめられた (学部・工)
- ◆学部生のときから日本だったので、学部のときの先生からすすめられた (院・理)
- ◆日本語の先生 (院・薬)
- ◆日本の教授 (院・工)
- ◆教授が私の母国を訪れた (院・工)
- ◆岡山大学の教授に薦められた (院・農)
- ◆日本語学校からの紹介 (院・エネ科)
- ◆日本の他の大学の教授 (研究生・国際セ)
- ◆ケニアの JICA で働いていて現在は退職した教授から (研究生・国際セ)
- ◆他の地理学者と話して (研究生・工)

【母国の事務・その他の機関】

- ◆国際財団 (院・経)

- ◆JICA 事務局 (院・医)
- ◆JASSO (研究生・国際セ)
- ◆The Japanese University House (KUINEP・経) (KUINEP・不明)
- ◆母国の大学の国際事務 (KUINEP・工) (KUINEP・不明)

【情報なし・知らなかった】

- ◆母国にいたとき、京都大学について全然知らなかった (学部・理) (学部・農)
- ◆京都大学の情報は何も受け取っていない (学部・工) (研究生・国際セ)
- ◆母国では情報は得ていない (院・文)
- ◆知らなかった。中国では、東大・早稲田・慶應が有名 (院・文)
- ◆具体的な情報はなかった (院・法)
- ◆聞いたことがなかった (研究生・国際セ)

【未分類】

- ◆父親の先生が京大出身であった (院・経)
- ◆母国の大学で勉強しているとき、よく聞いていた (院・経)
- ◆母校で教えられていた京都大学の研究 (院・理)
- ◆母国で行われた京都大学のセミナー (院・工)
- ◆メディア (院・エネ科)
- ◆自分で見つけた (院・地環)
- ◆以前、京都大学に1年いた (研究生・文)
- ◆該当なし (研究生・農)

問25 その他、京都大学に関する次の情報は十分でしたか。

(回答率7.9%)

→問 28 欄に記載

問26 その他、指導教員をどのように探しましたか。

(回答率16.5%)

【自分自身で探した】

〔電子メールでやりとりを通して〕

- ◆研究計画を送るまでお互いのことを知らなかったけれど、(これからの) 指導教員はとても親切で私を彼の学生として受け入れてくれた (院・文)
- ◆電子メールで (院・工) (院・情報) (研究生・国際セ) (研究生・情報)

〔インターネット検索を通して〕

- ◆ウェブサイトを直接見た (研究生・国際セ)
- ◆インターネット検索、ウェブサイト (研究生・国際セ)
- ◆大阪大学のホームページを通じて (院・文)
- ◆研究所のホームページを見なければならなかった (院・工)
- ◆インターネットで (京大のホームページではなく) (学部・工)
- ◆ホームページ (院・エネ科)
- ◆研究室のホームページと先生のホームページを見て (院・情報)

〔その他の手段を通して、自分で探した〕

- ◆カリキュラムを見て（学部・経）
- ◆京都大学に来る、直接にインタビューした（院・工）
- ◆自分自身で（院・工）
- ◆日本人と同じく、大学院入試を受けてから選んだ（院・工）
- ◆ジャーナル（院・工）

【指定された】

〔大学・学部による指定〕

- ◆学部から指定された（学部・経）（学部・経）（学部・工）
- ◆大学の方から決められた（学部・経）
- ◆抽選（院・薬）
- ◆地理学研究所の科長が現在の指導教員を私の担当に任命したから（研究生・工）

〔KUINEP による指定〕

- ◆ KUINEP によって指導教員が割り当てられた（KUINEP・総人）（KUINEP・総人）（KUINEP・文）
（KUINEP・法）（KUINEP・経）（KUINEP・経）（KUINEP・理）（KUINEP・工）（KUINEP・不明）
（KUINEP・不明）（KUINEP・不明）（KUINEP・不明）（KUINEP・不明）（KUINEP・不明）

〔文部科学省による指定〕

- ◆文部科学省によって指定された（院・医）（院・エネ科）（院・AA）（日研・国際セ）

〔その他、自動的に指定された〕

- ◆自動配属（学部・工）（研究生・国際セ）（研究生・工）
- ◆自分で選ばなかった（学部・文）（一般交換・経）
- ◆今、指導教員は学科の学科長です（学部・工）
- ◆以前在籍していた学生との交換（研究生・国際セ）
- ◆自分で探す必要がない（日研・国際セ）
- ◆日研生（日研・国際セ）
- ◆指導教員は日本に着いてから任命された。私は選んでいない（一般交換・総人）

【紹介された】

〔教員による紹介〕

- ◆前回の留学時の指導教員の紹介で（院・経）
- ◆有名で頭の切れる教授とはここで出会い、紹介された（院・薬）
- ◆他の日本の教授を通して（院・工）
- ◆岡山大学の教授の助けを借りて（院・農）
- ◆京都大学で研究して、中国に戻った先生の紹介で（院・地環）
- ◆他の大学の教授を通して（研究生・国際セ）
- ◆XX 教授を通して（研究生・文）
- ◆前の指導教員（研究生・農）

〔その他の機関からの紹介〕

- ◆JICA 事務局（院・医）
- ◆ポスドク研究者の 1 人（院・工）
- ◆奨学金団体（研究生・人文研）

◆チューター (KUINEP・経)

【以前に出会っていた】

〔母国で〕

- ◆教授が私の母国を訪れたことで (院・工)
- ◆指導教員がネパールに来て修士課程で教えていた (院・工)
- ◆母国での先生 (院・工)
- ◆母国で行われた、彼の講演を聴きに行った (院・エネ科)
- ◆母国で指導教員と知り合いました (研究生・経済研)

〔学会・セミナー等で〕

- ◆京都大学が主催したセミナーを通して (院・工)
- ◆国際学会で出会った (院・地環)

〔連携プロジェクトで〕

- ◆以前働いていた提携先の研究所 (院・生命科学)
- ◆母国で所属していた機関との共同プロジェクト (研究生・理)

〔授業を受けたことがある〕

- ◆授業を受けたことがある (院・法) (KUINEP・不明)
- ◆学部1年生の時、指導教員の授業を受けて、今の研究分野に興味をもった (院・経)
- ◆学部生のとき出会った先生でした (院・工)
- ◆学部生の時も京大生だから (院・農)

〔見学・説明会等で〕

- ◆研究室紹介 (学部・工)
- ◆大学入試説明会で (院・理)
- ◆研究室見学後選んだ (院・工)
- ◆入試説明会に参加した (院・エネ科)
- ◆オープンキャンパスに参加して (院・情報)

〔その他、以前出会っていた〕

- ◆前回の留学中に知り合った (院・文)
- ◆指導教員が別の大学から移ってきたから (特研・農)

【指導教員が誰だか分からない】

- ◆実は私は今の私の指導教員が誰だかまだわからない (学部・工)
- ◆指導教授ってどなたでしょうか (学部・農)

【該当なし】

- ◆該当なし (研究生・国際セ) (KUINEP・経)
- ◆学部生ですのでないです (学部・農)

【その他】

- ◆指導教員が私の研究プログラムに興味を持った (研究生・国際セ)

問 34 その他、あなたは日本語能力について、どのような必要性を感じていますか。
(24 ケース：「その他」を選択せずにその他欄に回答した 2 ケースを含む)

- ◆日本人よりも上手にならないといけない (院・経)
- ◆授業をほぼ理解できる程度の日本語が必要、授業で質疑応答ができる程度の日本語が必要、ほとんどのものが英語で利用できる学科 (例えば経済学、コンピュータ科学、医学) にいる時、あるいは教授が英語を話せることができる場合は聞いたり話したりする能力は十分 (院・経)
- ◆一緒に仕事をしている人が英語にあまり長けていないので、私が日本語で話す必要がある。そのため高い日本語能力が求められる (院・理)
- ◆日常生活とゼミ (院・理)
- ◆日常生活。授業で資料を読むことはあるが、書く必要はない (院・医)
- ◆論文やプレゼンテーションのスライドショーを読んで理解できること (院・医)
- ◆教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の日本語が必要。ひらがなとカタカナは勉強しやすいし覚えやすい。けれども漢字はとても難しくて 2, 3 年は必要になる。そのため日本語の漢字に堪能になること (読んで書くことができるようになること) (院・医)
- ◆日常生活や授業で日本語が必要である (院・医)
- ◆日本で生活すれば、いつでも必要だ (院・工)
- ◆教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の日本語、レポートを書き、授業で質疑応答ができる程度の日本語、論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度の日本語が必要 (院・工)
- ◆論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度の日本語・漢字が必要である (院・工)
- ◆日常生活ができれば、授業・研究では日本語はほとんど必要ない。テキストや他のものを読めるようになりたい (院・工)
- ◆教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の日本語が必要。日本語能力はとても重要だが、悲しいことに 6 ヶ月の学習は十分ではない (院・工)
- ◆日常生活では日本語が必要 (院・工)
- ◆日本人友達と冗談が言える程度 (院・工)
- ◆日本で生活すれば、いつでも必要だ (院・工)
- ◆研究には必要ないが、自分のために日本語能力を向上させたい (院・工)
- ◆教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の日本語が必要である。個人的には日本語を習得することは将来の職業生活において有益だと思う。日本にいる間に日本語を習得できるように挑戦する機会を作りたい。時間があればいいと思う (院・農)
- ◆日常生活において必要で、講義や研究も日本語で理解できればなお良い (院・農)
- ◆教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の日本語が必要である。また、少なくとも自分の研究内容を説明できる程度には必要である (院・農)
- ◆日常生活ができれば、授業・研究では日本語はほとんど必要ない (院・地環)
- ◆理論上は卒業には必要ないが、実際は研究室のゼミは日本語で行われるので、日本語ができないことで私は多くの機会を失っている (院・地環)
- ◆日本語は日常生活で必要性があり、同僚たちとのコミュニケーションにおいて必要。また、研究室での話し合いにも貢献することができるようになれば、そこから得られることは大きいだろう (研究生・医)
- ◆日常生活ができれば、授業・研究では日本語はほとんど必要ない。もっと長くいるなら、論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度の日本語ができることがもっと適していると思う (研究生・情報)
- ◆授業では必要ないが、地域の人たちとの交流では必要 (KUINEP・経)

問 36 指導教員との関係が「うまくいっていない」「どちらかといえばうまくいっていない」と答えた方にお尋ねします。どういう点で困っていますか。それをどのように解決していますか。
 ※全回答数 569 のうち「うまくいっていない」「どちらかといえばうまくいっていない」と答えた 35 名 (6.2%) の記述回答

所属	問 36 b どういう点で困っているか。 (35 ケース)	問 36 c どのように解決しているか。 (33 ケース)
(学部生・文)	おそらくまだ彼と頻繁に会う必要はないのかもしれない。そのため、1 度しか会っていないが、連絡はとりやすいようにしている	
(学部生・工)	あまり会ったことがない	
(学部生・工)	まったく指導教員とコミュニケーションしてないです	コミュニケーションしたことがないから
(学部生・農)	4 月に授業が始まってから、1 回しか会っていない	なし
(学部生・不明)	あまり会わない	
(院・経済)	研究分野が異なること。共通の話がほとんどない	来年から、他の先生の指導を求めよう
(院・経済)	先生がいつも忙しくて、なかなか深く相談できません	よくメールで先生と話し合いしていますけど、まだ足りないと感じます。
(院・経済)	交流上、先生に会う機会がすくない。うまく敬語ができないので、先生と話す時に、言葉に気をくばりすぎ、ついつい失礼していないかと心配	どちらかというとは解決できてない。
(院・医)	交流	まだ解決していない。
(院・薬)	言葉の問題。話していると、彼は神経が高ぶってきて私を激しく非難する	あまり彼と話さないようにする
(院・工)	①よくすぐに怒る②時々ひどい言葉を言う③日本語で書かれた論文を読むように言うが、私には難しい	①もっと親切になって尊敬して欲しい②はっきりとした研究計画を教えて欲しい③小さな間違いをしたときに怒らないでほしい
(院・工)	コミュニケーションが足りない	日本語を勉強する
(院・工)	コミュニケーションが足りない	対話
(院・工)	特に困ってはいないが、もっと会って話す機会があってほしい	
(院・工)	交流が少なく、言葉に壁がある	日本語を習う
(院・農)	時間 (十分な時間がとれない)	ミーティングの予定を立てる
(院・人環)	自分の研究は指導教員の研究とは少しずれがある。日本人、特に先生との付き合いの仕方をあまり知らない	できるだけ多く話をする。報告してアドバイスを頂く。周りの先輩に相談する。普段はよく観察し、慣れるように努力する
(院・人環)	私の教授はとてもシャイで、優れた人ではあるが、私のことを怖がっているようだ	他の教授から助言をもらっている

(院・人環)	私は人間として、人間関係を円滑に進めるのが苦手である。研究に集中したい。折角日本に来たので	分っていない。できるかぎり研究に集中して、できるだけ早く卒業して京大を離れたい。
(院・エネ研)	私は直接話したいが、指導教員はそうは思っていない。指導教員は、みんなが、嘘で歪んでいると分かるような学生を手助けしようとする	理性をもつ
(院・エネ研)	①英語でのコミュニケーションができるのに十分なレベルにない、②研究でストレスやプレッシャーをかけてくる	①研究での問題点を他の人と話し合う、②もっと努力する
(院・エネ研)	教授はとても忙しいので話す時間がない	電子メールを使ったコミュニケーションでこの問題は解決する
(院・生命科学)		自分の日本語がもっと上手になれば、互い交流もうまくなると思う
(研究生・経済)	連絡しにくい	ちょうど巡り会った
(研究生・経済)	ほとんど交流しません	仕方がありません。先生は忙しいからです
(研究生・工)	会話が足りない	まだです
(研究生・農)	隠れた意図が多すぎる	話し合いの場を持つ
(研究生・情報)	ちょっと先生の希望がわかりません	解決していない。しばらく自分の勉強を中心に頑張っている
(研究生・生命科学)		先生と相談して解決する
(研究生・人文研)	指導教員と会ったことがない	ない。なぜ問題が生じるのか？
(KUINP・総人)	2回会った。KUINP で再び	ない
(KUINP・総人)	指導教員はとても忙しい人なので、今までに1度しか会ったことがない	チューターとよく会うようにして、進捗状況について指導教員に知らせてもらうようにしている
(KUINP・経済)	何も連絡がない	何をすればいいんだ？
(KUINP・経済)	何もない。連絡がない	何も必要ない
(KUINP・経済)	今年で2回しか会っていない	何もしないつもりだ
(KUINP・工)	どちらも会おうとする自発性がないこと。教授の引率するグループに加わって現地調査に連れて行ってもらえると約束していたのだが、声をかけられることはなかった	ない
(KUINP・不明)	そんなに会うことがない	会う必要がない

問 37 その他、あなたの指導教員は、研究活動をするための日本語能力について、あなたにどの程度のレベルまで期待していると思いますか。（その他に回答した 27 ケースのうち記入のあった 25 ケース）

- ◆レポートを書き、授業で質疑ができる程度の日本語、論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度の日本語が必要である（院・文）
- ◆論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度の日本語が必要であると思うが、よくわからない（院・経済）
- ◆授業をほぼ理解できる程度の日本語と授業で質疑応答ができる程度の日本語が必要（院・経済）
- ◆私は日本に来る前に、母国で今の指導教員に会った。だから彼は、私の日本語レベルを知っていたから、先生の要求水準とは関係なく、常に日本語を使っている（院・理）
- ◆今のところ不満はないが、私の日本語がもっとうまければ指導教員は喜んでくれると思う（院・理）
- ◆日常生活やゼミを日本語でこなせることが必要である（院・理）
- ◆毎週のミーティングでの日本語の意味を理解すること（院・医）
- ◆日常生活や授業で日本語が必要である（院・医）
- ◆分からない。何も気にしていないように感じる（院・医）
- ◆話したり読んだりすること（院・薬）
- ◆何も問題は起こっていないが、もっと日本語がうまければさらにメリットがあるだろう（院・工）
- ◆レポートを書き、授業で質疑ができる程度の日本語と。論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度の日本語が必要である（院・農）
- ◆教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の日本語が必要。もし教授が英語に長けていたら問題ない（院・エネ研）
- ◆日常生活において必要。講義を理解する（院・AA 研）
- ◆研究や研究室にとって非常に重要（研究生・医）
- ◆ないが、日本語能力は見ている（研究生・情報）
- ◆知るか（研究生・その他）
- ◆おそらく何も期待していない（KUINEP・文）（KUINEP・法）
- ◆分かりません（学部生・文）（学部生・工）（学部生・工）（学部生・工）（院・理）
- ◆該当なし（KUINEP・総人）

問 38. その他、留学終わった後、どういった進路をとりたいと考えていますか。
（「その他」に回答したもの 22 ケース、そのうち記述のあったもの：19 ケース）

- ◆決めていない・分からない（院・農）（院・エネ科）（院・エネ科）（院・工）（院・工）（院・理）（院・情報）
- ◆母国に帰る（院・工）（院・情報）（KUINEP・総人）
- ◆中国に帰る（院・医）（院・工）
- ◆進学か就職か迷っているところです（院・工）
- ◆ネパールで仕事を続ける（院・工）
- ◆奨学金をもらえば博士の単位を取りたいです（院・地環）
- ◆仕事にもどる（研究生・法）
- ◆母国で博士課程を続けたい（研究生・情報）
- ◆graduate（KUINEP・文）
- ◆ボランティア（KUINEP・不明）

問 38-a.1 その他、学生として研究を続けると答えた方にお尋ねします。どこで研究を続けたいですか。（「その他の国」に回答したもの 27 ケース、そのうち記述のあったもの：26 ケース）

- ◆アメリカ（学部・経）（学部・経）（学部・工）（学部・工）（学部・工）（学部・工）（院・薬）
（院・工）（院・情報）（研究生・工）（研究生・農）（KUINEP・薬）
- ◆カナダ（学部・工）
- ◆ドイツ（KUINEP・経）
- ◆シンガポール（KUINEP・工）
- ◆今は分からない（研究生・医）（院・人環）

【複数の国・地域】

- ◆ドイツかスイスカイギリス（学部・文）
- ◆欧米などの国（学部・工）
- ◆日本かアメリカ（学部・工）
- ◆できればアメリカ、イギリス（学部・農）
- ◆ヨーロッパあるいはアメリカ（学部・農）
- ◆ドイツ／イギリス／アメリカ（院・文）
- ◆ドイツ・イギリス（院・法）
- ◆EU、アメリカ（院・医）
- ◆アメリカかオーストラリア（KUINEP・不明）

問 38-b. その他、就職すると答えた方にお尋ねします。どこで就職したいですか。（「その他の国」に回答したもの 43 ケース、そのうち記述のあったもの：41 ケース）

- ◆アメリカ（院・経済）（院・理）（院・理）（院・理）（院・医）（院・医）（院・薬）（院・薬）（院・工）
（院・工）（院・工）（院・農）（院・農）（院・農）（院・情報）（院・エネ科）（院・エネ科）
（研究生・ウイルス研）（研究生・工）
- ◆ヨーロッパ・EU（院・医）（院・工）（院・農）（研究生・農）
- ◆カナダ（院・工）
- ◆ドイツ（院・工）
- ◆今はわからない・決めていない（院・経）（院・理）（院・医）（院・医）（院・工）（院・生命科学）
（院・生命科学）（院・霊長類研）（研究生・文）（研究生・理）（研究生・情報）（研究生・情報）
- ◆どこでもよい（院・理）（院・農）（院・エネ科）（院・生命科学）（院・地環）

【複数の国・地域】

- ◆ヨーロッパ、アメリカ（院・理）
- ◆アメリカあるいはオーストラリア（院・理）
- ◆発展途上国、特にアジアと南アフリカ（院・医）
- ◆他の英語圏の国（院・農）
- ◆イギリス、オーストラリア（院・エネ科）
- ◆ドイツか他のヨーロッパの国（院・不明）
- ◆ヨーロッパかアメリカ（研究生・国際セ）

問 38-c. その他、母国で就職すると答えた方にお尋ねします。（「その他」に回答したもの 23 ケース、そのうち 8 ケースは国名を記入していたので問 38-b に記載した）

- ◆（前は就職していなかった）就職する（院・文）
- ◆政治家になる（院・経）
- ◆留学前に就いていた職に復職する、新たに就職する（院・理）
- ◆日本での研究を持ち帰って、自分の大学の研究分野を発展させる（院・医）
- ◆仕事を見つける（まだ働いたことがない）（院・工）
- ◆大学教授として働く（院・工）
- ◆自分で事業を始める（院・工）（院・農）
- ◆就職歴なし（院・人環）
- ◆日本を除くアジア各国あるいはヨーロッパ（院・地環）
- ◆スペインに近いヨーロッパの国でポストドクター研究員（院・再生医研）
- ◆どんな可能性にも開放的だ（研究生・国際セ）
- ◆自分の研究分野で専門家として働くこと（研究生・国際セ）
- ◆母国の大学で教えること、あるいは母国で会社に勤めること（研究生・薬）
- ◆仕事を見つけられる場所（研究生・工）
- ◆まだ決めていない（院・工）（院・医）（院・地環）（研究生・国際セ）（研究生・医, 化研）
- ◆分からない（院・人環）

問 39. その他、どのような機会に日本人学生と知り合いましたか。（「授業」を選択したものうち、具体的な授業名を記述してあるもの 59 ケース、そのうち記述のあったもの：34 ケース、ただし、問 38-c への回答を記載しているもの 6 ケースは問 38-c に記載した。）

- ◆英語 IR（学部・経）
- ◆外国語（学部・経）
- ◆クラス指定科目など（学部・工）
- ◆心と表情、心理学のアプローチ（学部・工）
- ◆僕が受ける殆どの授業（学部・工）
- ◆学部のクラス（学部・農）
- ◆English, 第 2 外国語（学部・農）
- ◆研究室で、学内のパーティ・イベントなどで（院・文）
- ◆中哲史・演習／講義（院・文）
- ◆文学部の授業（院・文）
- ◆行政学、政治過程論など（院・法）
- ◆東洋法制史、日本法制史等（院・法）
- ◆教職（院・経）
- ◆院生発表のゼミ（院・理）
- ◆材料工学の講義（院・工）
- ◆専門の授業、般教など・・・（院・工）
- ◆主に専門の授業（院・工）
- ◆人・環院生のゼミ（院・人環）
- ◆大学院の演習、ゼミ（院・人環）
- ◆「講座の授業で」（院・人環）
- ◆ゼミ（院・地環）

- ◆国際視野から見た日本ビジネスなど、KUINEP の授業で（一般交換・経）
- ◆色々（学部・農）（学部・農）（院・法）（KUINEP・理）
- ◆すべて（学部・理）（院・医）

問 39. どのような機会に日本人学生と知り合いましたか。（その他） （32 ケース）

- ◆KUINEP（KUINEP・工）（KUINEP・不明）（KUINEP・不明）
- ◆アルバイト（院・法）（院・工）（研究生・経）（日研・国際セ）
- ◆寮（院・経）（院・工）（院・エネ科）（研究生・医）
- ◆ゼミ（院・工）（研究生・農）
- ◆KIZUNA（院・工）（研究生・文）

【その他】

- ◆友人たちを通じて（研究生・理）（研究生・情報）
- ◆偶然の出会い（院・文）
- ◆友達の紹介で、他分野の人と（院・文）
- ◆理学研究科の国際交流室（院・理）
- ◆教会（京大や他の大学の日本人の学生である）・母国で知り合った日本人の京大生（京大に入学する前から）（院・理）
- ◆祭り（院・医）
- ◆大学のいたるところで（院・工）
- ◆学祭（院・農）
- ◆ルネ（院・人環）
- ◆サッカーをしている人（院・エネ科）
- ◆大学院の工学やGES の授業（院・地環）
- ◆サッカーグラウンド（院・不明）
- ◆専門の授業（研究生・国際セ）
- ◆ドイツ語学（KUINEP・文）
- ◆チューターの紹介で（一般交換・経）

問 40 - a. その他、あなたの心配事や悩みについてお尋ねします。ア. 専門の研究に関する心配事・悩みについて（「12. その他」を選択したもの 26 ケース、そのうち記述のあったもの：20 ケース）

- ◆准教授（院・医）（院・エネ科）
- ◆相談する相手はいない（院・文）
- ◆他の教授たち（院・医）
- ◆研究室のメンバー（院・工）
- ◆研究室の同僚たち（院・工）
- ◆先輩たち（院・農）
- ◆京都大学以外の教授（院・人環）
- ◆他教員（院・人環）
- ◆彼女（院・エネ科）
- ◆研究室の友人たち（院・情報）
- ◆研究室の研究者（院・情報）

- ◆他の学生（院・情報）
- ◆フランスにいる友達（院・情報）
- ◆指導教員（研究生・国際セ）
- ◆母国での友人（研究生・国際セ）
- ◆同じ国からの友達（研究生・文）
- ◆KIZUNA（KUINEP・法）
- ◆パーティー（KUINEP・不明）
- ◆論文の構成に対しての心配（日研・国際セ）

問 40 - a. その他、あなたの心配事や悩みについてお尋ねします。イ. 人間関係に関する心配事・悩みについて（12. その他を選択したもの 40 ケース、そのうち記述のあったもの：34 ケース）

- ◆友達（院・薬）（院・薬）（院・人環）（研究生・エネ科）
- ◆日本人の友達（院・文）（院・農）
- ◆寮生（学部・工）（院・医）
- ◆母国出身の友人たち（院・文）
- ◆カウンセリングセンター（院・文）
- ◆相談する相手はいない（院・文）
- ◆母国にいる友人（院・法）
- ◆違う国からの留学生を含む友人たち（院・経）
- ◆バイト先のマスター、おかみさん（院・経）
- ◆研究室の人たち（院・理）
- ◆日本人と外国人の友だち。京大で知り合った友だちと、別のところで知り合った友だち（院・理）
- ◆同僚（院・医）
- ◆研究室の同僚たち（院・工）
- ◆心配ない（院・工）
- ◆学生以外の友人たち（院・工）
- ◆何のアドバイスも要らない（自分自身でどうにかする!）（院・工）
- ◆自分（院・工）
- ◆相談しない（院・農）
- ◆彼女（院・エネ科）
- ◆日本人の友人たち（院・エネ科）
- ◆研究室の友達（院・地環）
- ◆日本人の友人たちと昔からの友人たち（院・ウイルス研）
- ◆同じ国からの友人、違う国からの友人、日本人の友人（研究生・国際セ）
- ◆タイの先輩（研究生・国際セ）
- ◆母国での友人（研究生・国際セ）
- ◆誰もいない（研究生・経）
- ◆母国出身の友人たち（研究生・工）
- ◆秘書（一般交換・経）

問 40 - a. その他、あなたの心配事や悩みについてお尋ねします。ウ. 日本での生活に関する心配事・悩みについて (12. その他を選択したもの 39 ケース、そのうち記述のあったもの : 33 ケース)

- ◆日本人の友人たち (院・理) (院・エネ科) (院・情報) (院・地環) (院・ウイルス研)
- ◆友人 (院・経) (院・経) (院・薬)
- ◆寮生 (学部・工)
- ◆相談する相手はいない (院・文)
- ◆チューター以外の日本人学生を含む友人たち (院・経)
- ◆バイト先のマスター、おかみさん (院・経)
- ◆日本人と外国人の友だち。京大で知り合った友だちと、別のところで知り合った友だち (院・理)
- ◆研究室の同僚たち (院・工)
- ◆秘書 (院・工)
- ◆研究室の秘書 (院・工)
- ◆何のアドバイスも要らない (自分自身でどうにかする!) (院・工)
- ◆自分 (院・工)
- ◆心配ない (院・工)
- ◆指導教員と友人たち (院・農)
- ◆彼女/友人たち (院・人環)
- ◆母国の友達 (院・人環)
- ◆彼女 (院・エネ科)
- ◆学生 (院・エネ科)
- ◆研究室の友達 (院・地環)
- ◆ホストファミリー (院・地環)
- ◆学生ではない日本人 (院・不明)
- ◆友人たち (研究生・国際セ)
- ◆母国での友人 (研究生・国際セ)
- ◆タイの先輩 (研究生・国際セ)
- ◆同じ国からの友人、違う国からの友人、日本人の友人 (研究生・国際セ)
- ◆バイト先の友達 (研究生・経)
- ◆日本人の知り合い (KUINEP・総人)

問 40 - a. その他、あなたの心配事や悩みについてお尋ねします。エ. 心身の健康に関する心配事・悩みについて (12. その他を選択したもの 65 ケース、そのうち記述のあったもの : 46 ケース)

- ◆医者・病院 (院・文) (院・経) (院・医) (院・工) (院・農) (院・農) (院・人環) (院・エネ科) (院・情報) (研究生・国際セ)
- ◆友人 (院・薬) (院・人環) (KUINEP・不明) (研究生・国際セ) (研究生・エネ科)
- ◆自分自身 (院・工) (院・工) (院・エネ科)
- ◆日本人の友人たち (院・農) (院・農)
- ◆学生ではない日本人 (院・不明) (院・不明)
- ◆彼女 (院・理) (院・エネ科)
- ◆保健管理センター (学部・経)
- ◆保健室 (学部・工)
- ◆カウンセリングセンター (院・文)
- ◆相談する相手はいない (院・文)
- ◆母国にいる友人 (院・法)

- ◆所属する研究センターのオフィスの人たち、特に指導教員の秘書（院・理）
- ◆京都大学医療センター（院・工）
- ◆研究室の同僚たち（院・工）
- ◆秘書（院・工）
- ◆何のアドバイスも要らない（自分自身でどうにかする!）（院・工）
- ◆日本人の友人たちや医者（院・工）
- ◆母国の友達（院・人環）
- ◆教会（院・人環）
- ◆寮監（院・人環）
- ◆日本にいる外国人の友人（院・エネ科）
- ◆友達があまりいない（院・情報）
- ◆ホストファミリー（院・地環）
- ◆研究室の同僚たち（院・再生医研）
- ◆形式的にはいた（院・霊長類研）
- ◆タイの先輩（研究生・国際セ）
- ◆同じ国からの友人、違う国からの友人、日本人の友人（研究生・国際セ）
- ◆バイト先の友人（研究生・経）
- ◆母国出身の友人たち（研究生・工）

問 41ーb. その他、チューターがいる／いたと答えた方にお尋ねします。どれくらいの頻度で会っていますか。／会っていましたか。（7. その他に回答したもののうち記述があったもの 24 ケース）

- ◆全然会ってない（院・薬）（院・工）（院・エネ科）
- ◆ほとんど会っていない（学部・工）
- ◆1年に1回しかない（学部・工）
- ◆全く会っていなかった（学部・工）
- ◆必要がある時（院・文）
- ◆最初は週に一回程度、後は月に1～2回程度（院・文）
- ◆何か問題があるとき（院・理）
- ◆一回会いました（院・医）
- ◆会うのは毎日会ったけど、相談がなかったです（院・薬）
- ◆チューターとはいえ、同じ研究室のメンバーでしたが（院・薬）
- ◆修士1回生の時にチューターシステムに登録したが、正式に会ったことはない（院・農）
- ◆チューターと相談するのは必要に応じて。特に決めていない（院・農）
- ◆研究生の間は1週間に1度（院・農）
- ◆必要があるなら（研究生・情報）
- ◆1回だけ（KUINP・薬）
- ◆初めの頃に2回会った（KUINP・工）
- ◆今までに3回会った（KUINP・不明）
- ◆会ったことがない（KUINP・不明）
- ◆ここに来てから2回しか会ったことがない（KUINP・不明）
- ◆今学期で1回しか会っていない（KUINP・不明）
- ◆初めはスタディをやって会ったが、終わってからは全然会ってない（日研・国際セ）

問 41 - c. その他、チューターとはどのような相談をしていますか。していましたか。(7. その他を選択したもの) 26 ケース

- ◆レポートとか持って行って教えてもらったりした (学部・工)
- ◆授業内容でわからない部分 (学部・工)
- ◆授業内容について (学部・農)
- ◆入試対策 (院・文)
- ◆英語の使えない日本語の記入 (院・経)
- ◆受験勉強 (院・経)
- ◆一緒に勉強をしていた (院・経)
- ◆学会の準備 (院・理)
- ◆チューターとは何も話し合っていない (院・医)
- ◆相談がなかったです (院・薬)
- ◆まったくチューターの意味を感じなかった (院・薬)
- ◆日本語の書類 (院・工)
- ◆作用あまりない (院・工)
- ◆ほとんどない! (院・人環)
- ◆公式文書や記入用紙について、日本語で (院・地環)
- ◆もし何か問題が起これば (院・地環)
- ◆物の入手の方法についてのアドバイス (研究生・国際セ)
- ◆趣味 (研究生・国際セ)
- ◆ミーティングや電子メールでの連絡 (研究生・文)
- ◆英語で話すことによって、チューターの英語力が高まる (研究生・工)
- ◆特に仕事に関して (KUINEP・不明)
- ◆1回しか会っていないので何も話し合っていない (KUINEP・不明)
- ◆京都、関西で行われている行事、イベント (一般交換・総人)
- ◆ない (院・農) (院・エネ科) (日研・国際セ)

問 42. その他、国際交流センター・留学生課をどのように利用していますか。該当するものにすべて○をつけてください。(16. その他に回答し、具体的に記入のあったもの : 27 ケース)

【奨学金・ビザなど書類・手続きに関して】

- ◆奨学金のサイン (院・文) (研究生・医)
- ◆医療費補助の申請 (院・文)
- ◆健康保険 (院・工)
- ◆留学生住宅保証制度を利用したとき (院・工)
- ◆ビザ・資格の更新など (院・エネ科)
- ◆学生ビザ関連 (院・生命科学)
- ◆日本の生活に関わる手続きの手助け (KUINEP・理)

【利用したことがない】

- ◆利用していない (学部・工) (院・経) (院・理)
- ◆利用したことがない (院・理) (研究生・農)
- ◆今まで、理解することがない。どうやって利用するのかはわからない (学部・工)
- ◆利用しない (院・文)

- ◆特になし (院・法) (院・情報)
- ◆交流センターのことはよくわかりません (院・経)
- ◆犬山市にいますので、センター・留学生課に言わない (院・理)
- ◆チューター制度については聞いたことはあるが、医学部では誰もそのことについて教えてくれなかった。もしそういう制度があるならば助かると思う (院・医)
- ◆記述なし (院・工)
- ◆まったくないです (院・人環)
- ◆行く機会ない (院・人環)

【その他】

- ◆アドバイス・情報を得る。スタッフの皆様はとても優しくて、いつもいいアドバイス・情報を教えてくれる (院・理)
- ◆困る学生は奨学金ない、困らない学生は奨学金あり。留学生の生活はよく調査されないと思う (院・工)
- ◆掲示板 (院・エネ科)

問 44 - b. その他、留学生相談室の利用方法について (4. その他に回答して具体的に記入のあったもの : 5 ケース)

- ◆面談+電話 (院・文)
- ◆日本を離れる人で物を売りがっている人についての掲示を探す (院・医)
- ◆奨学金のサイン (院・AA)
- ◆とても良い! (研究生・国際セ)
- ◆インターネット設備 (研究生・薬)

問 44 - c. その他、今後、留学生相談室を利用するとすればどのような場合でしょうか。相談したいと思われる項目にすべて○をつけてください。 (13. その他に解答し、記述のあったもの : 7 ケース)

- ◆ビザや移住に関して (院・医)
- ◆大家との問題 (院・医)
- ◆これから生じる問題による (院・工)
- ◆面談と電子メールで相談 (院・工)
- ◆カナダの学資ローンについて (私の研究所はカナダ政府の要望には対応できなかった) (院・霊長類研)
- ◆ない (院・不明)
- ◆公的なことに関して (研究生・農)

◆◆ 自由記述 ◆◆

以下は「自由記述欄」に寄せられた回答である。

[編集にあたって]

- ・ 記述内容の末尾に、(身分・所属部局)の順に属性を記載した。
- ・ 留学生アンケートの自由記述については、「(特に)なし」といった回答を有意義な回答と判断し、回答率に含めているが、以下では、設問によっては記載を省略している。したがって、回答率と掲載ケース数が異なる設問もある。
- ・ 類似の回答は省略して掲載している場合がある。(身分・所属部局)はすべてに記載している。
- ・ 回答に個人名が含まれている場合は、すべてXXとした。

問27 留学前にどのような情報をどのような方法で提供してほしかったですか。

(回答率64.1%)

[集計にあたって]

- ・ 求められる情報の内容別にまとめた。内容が多岐にわたる場合は、【多岐にわたる情報の希望】とした。
- ・ 内容別にまとめたため、希望する提供方法の別については、◇◆によって区別した。◇はホームページ・Eメールで情報提供を希望する記述、◆はそれ以外である。
- ・ 郵便での情報提供を求める記述は69 ケースあった。

【指導教員の詳細情報】

- ◇ (ホームページで) 各教員についての詳しい情報 (院・経) (日研・国際セ)
- ◇ (ホームページで) 各先生の研究についての概略と代表的な研究論文 (院・工)
- ◇ (ホームページで) 各研究科の教員の情報 (院・人環)
- ◇ 先生たちの研究課題や連絡先をホームページに直ちにアップする (院・人環)
- ◆ 教授についてのより詳しい情報 (院・法)

【授業・研究に関する情報】

- ◇ (ホームページで) 単位制度と卒業に必要な単位数 (学部・文)
- ◇ (ホームページで) 詳しい研究内容／分野を、英語で (学部・農)
- ◇ (郵便やメールで) 学部生なので、学科の簡略なカリキュラム (学部・農)
- ◇ (メールで) 日本語能力のレベルについてはきちんと知らせるべき／指導教員や学部が留学生に求めることを具体的な言葉で／誰がチューターになるのか／(これらはとても具体的なことで、おそらく指導教員だけが伝えることができるものだと思う) (院・文)
- ◇ (ホームページで) 各研究室の情報 (院・文)
- ◇ (それぞれの学科のホームページで) 留学生が英語で受けられるコースがあるかどうか、また英語を話す留学生が自分の指導教員からどのような援助が得られるかということについての詳細 (ヨーロッパやアメリカからの研究生のほとんどは、研究生の間は京都大学で英語を使いながら国際的な勉強ができる環境があり、学術的な援助や指導を受けられるという幻想を抱いて来ているようだ) (院・経)
- ◇ (インターネットで) ここでの研究のレベルや方法 (院・薬)
- ◇ 留学前に京都大学の情報、特に今の専門について、兄から教えてもらったが、京都大学のホームページでの提供がほしかった (院・薬)

- ◇研究テーマの情報はとても少なかった。こういう情報を大学のホームページで提供してもらいたい (院・工)
- ◇メールか郵便の方が簡単。大学のホームページは定期的に確認できない。言語に関連する問題については最初に知らせておくべきだ (院・工)
- ◇ (ホームページで) 研究生や、より上の学位をとるための過程についての詳細 (院・農)
- ◇ (ホームページで) 各分野授業の科目、単位など (院・農)
- ◇ (ホームページで) 各研究分野の情報 (院・農)
- ◇ (郵便かホームページで) 自分に合う学校についての情報、研究テーマの詳細 (院・エネ科)
- ◇ (ウェブで) 各分野の説明。特に理学で、実験的な研究か理論的な研究か明らかにしてほしい (院・情報)
- ◇ (郵便やメールで) 履修登録の予定、歓迎会、授業の開始など (院・地環)
- ◇ (ホームページで) 異なる研究室について、英語で (研究生・国際セ)
- ◇ (ホームページで) 専攻に関わる本 (研究生・経)
- ◇ (ホームページで) 学位をとるための学術面での水準 (研究生・理)
- ◇ (ホームページで) カリキュラムの詳細を、英語で (研究生・理)
- ◇ (ホームページで) 研究室の詳細 (研究生・工)
- ◇ (ホームページで) わかりやすいところに、学部生たちが使っている教科書の書名を提供してほしい (研究生・工)
- ◇ (ホームページで) 異なるプログラム、学科、大学院について、英語で (KUINP・不明)
- ◆実際の授業風景のビデオ (Youtube 上でのオープンキャンパスのように) (学部・工)
- ◆ (郵便で) 授業の内容、勉強のすすめの方法、サークル、先輩たちの経験やアドバイス、大学に関しての情報、研究分野、これからの課題など (学部・工)
- ◆入学したら具体的にどういうふうに自分の研究を進めるのか。授業のやり方など (院・文)
- ◆カリキュラム (院・経)
- ◆留学生としてどれくらいの学力が期待されるのか。あるいは留学生として何が期待されているのか全く分からない (院・理)
- ◆修士課程で教えられる講義やコースのカリキュラム (院・理)
- ◆日本の職場環境 (院・医)
- ◆日本語クラス (院・医)
- ◆ (郵便で) 研究室、授業、ゼミ、ミーティングなど毎日の活動について (院・医)
- ◆英語での学習課題 (院・医)
- ◆博士課程を修了できるまでにどのくらいの期間かかるのか (院・工)
- ◆教育制度について (指導教員からは何の情報もない) (院・工)
- ◆研究科ごとの最新情報 (学会発表など) をまとめたパンフレットがあれば助かる (院・工)
- ◆ (郵便で) 学生便覧 (院・農)
- ◆指導教員や大学が留学生に対して何を求めているか、受講可能なコース (院・人環)
- ◆京都大学での研究のレベルは特に博士課程ではそう簡単にはいかない。博士号を取得するのに3年では十分でないことがある (院・エネ科)
- ◆日本でどうやれば良い研究者になれるか (院・エネ科)
- ◆ (郵便で) 京都大学や教育環境について (院・地環)
- ◆時間割表、講義などの概要 (研究生・国際セ)
- ◆プログラムのカリキュラム (研究生・工)
- ◆ (郵便で) 専攻に関する紹介 (研究生・工)
- ◆受験科目の紹介、専攻ごとに (研究生・情報)
- ◆研究の状況 (KUINP・経)
- ◆他の学部の授業内容 (KUINP・薬)

- ◆日研生のプログラムについてあまり情報がない（日研・国際セ）
- ◆（郵便で）カリキュラム（日研・国際セ）

【研究に必要な日本語能力に関する情報】

- ◇（ホームページで）特に、特定のプログラムや学科では日本語が必要であること。文部科学省を通じて来ている学生には特に日本語がある程度できることが求められるということ。日本語クラスが必須であること（院・地環）
- ◇ここで勉強するにあたって求められる日本語能力についての詳細。私の所属する学科が持っている英語のウェブページを見る限りでは、全てのカリキュラムが英語で行われるという認識をしてしまう（院・地環）
- ◆日本語が必要であること（院・医）
- ◆日本語能力がどれくらい必要かということ（院・工）
- ◆学部によって求められる日本語能力に差があること（院・地環）
- ◆日本では日本語でコミュニケーションをとらなければいけないので、母国で日本語の勉強をしておく必要があったことを強調して欲しかった（研究生・国際セ）

【奨学金・入試情報など】

- ◇（ホームページで）入試についての詳しい情報（研究生・国際セ）（研究生・経済研）
- ◇（ホームページで）合格率や面接情報（学部・工）
- ◇（ホームページで）過去問（学部・工）（院・経）
- ◇（ホームページで）特に、研究生の入学手順、要件を簡潔明瞭に（院・法）
- ◇（ホームページで）入学の申請資料をダウンロードできるようにしてほしい。そうすれば海外でも簡単に資料を手に入れられる（院・経）
- ◇（ホームページで）奨学金の情報等（院・医）
- ◇（ホームページで）入学するために必要な情報（院・工）
- ◇（ホームページで）入学試験の資料など（院・工）
- ◇（ホームページで）日本に来る前に、奨学金の削減について（院・工）
- ◇（ホームページで）留学、入学の問い合わせ方法を公開（院・工）
- ◇（ホームページで）研究生になる方法（院・工）
- ◇（ホームページで）入試科目の説明など（院・工）
- ◇（ホームページで）入学情報を目立つところに。例えば「・・・研究科の・・・試験受付中」等（院・人環）
- ◇（ホームページで）学位取得の条件や手続きについて（院・エネ科）
- ◇出願方法は研究室ごとに異なるのに、ウェブ上の英語バージョンでは詳細が載っていなかった（院・生命科学）
- ◇（ホームページで）入学についての情報（研究生・国際セ）
- ◇（ホームページで）入学試験の方法、範囲など（研究生・経）
- ◇（ホームページで）入学試験の方法、奨学金など（研究生・医）
- ◇（ホームページで）留学生の受入条件、試験状況内容等（研究生・薬）
- ◇www.emb-jp.co.th→文部科学省奨学金の詳細（研究生・工）
- ◆どの学部が実際に留学生に開放されているかを事前に知ることができていれば、もっとよく入試対策を立てたと思う（学部・経）
- ◆（郵便で）奨学金について（院・工）
- ◆外国人のためのワンストップ・センター／そうすれば出願がもっと簡単になる（院・工）
- ◆京都大学に留学する一連の流れがほしかった。すごいところは何か、など（院・農）
- ◆奨学金の採用は透明ではない（院・人環）
- ◆入試の過去へのアクセスが容易ではなかった（院・人環）

- ◆願書をダウンロードする期日 (院・エネ科)
- ◆ (郵便あるいは電話で) ビザの情報 (院・エネ科)
- ◆入学試験の情報 (院・情報)
- ◆試験の内容 (院・地環)
- ◆ (郵便で) 研究生になる方法 (研究生・理)

【生活についてアドバイス】

- ◇ (ホームページで) 留学前、準備すべきこと。例えば、住まい、交通手段など (院・法)
- ◇ (メールかウェブサイトで) 大まかな生活費について (院・理)
- ◇ (郵便かメールで) 関西空港到着についての詳細 (院・理)
- ◇住宅に関する問題。例えば大学の寮は事前の予約が必要であること。また連絡の取り方について。／大学から近かろうが遠かろうが学生にとってより安く生活できる可能性。可能であればメールアドレスを日本に来る前に知っていた (院・医)
- ◇ (メールで) 府営住宅への申し込みに必要なこと (院・工)
- ◇ (ホームページで) 日本での社会生活について (院・工)
- ◇ (ホームページで) 住居、交通、基本的な文化的なこと (院・工)
- ◇ (ホームページで) 寮 (留学生団体) などの情報 (院・工)
- ◇ (ホームページで) 物価などの生活情報 (院・農)
- ◇ (ホームページで) 居住や家庭用品の買い方に関する情報 (院・農)
- ◇ (ホームページで) 京都での生活費と、日本の習慣や文化全般について (院・人環)
- ◇ (メールで) 日本での生活や京都での研究生生活についての詳細 (院・人環)
- ◇ (ホームページで) 必要最低限の生活費と、標準的な生活費のこと (院・エネ科)
- ◇ (ホームページで) 生活や文化、学校の環境について (院・エネ科)
- ◇ (郵便かメールで) 学生寮の写真 (院・エネ科)
- ◇ (ホームページのリンクで) 関西空港から京都大学までの地図 (院・エネ科)
- ◇ (ホームページで) 日本での生活費について (院・情報)
- ◇京都大学のホームページはもう少し改善する必要がある。情報はホームページ上にも載せるべきだし、メールでも送るべきだ。また、生活費や賃貸料、レストランのなどについても知らせるべき (院・ウイルス研)
- ◇ (ホームページやメールで) 日本での生活費について。その他の方法でも良い (研究生・国際セ)
- ◇ (ホームページやメールで) 住宅、交通について (研究生・国際セ)
- ◇ (ホームページやリンクで) 日本での生活 (住宅、交通、費用) (研究生・医)
- ◇到着日程について郵便で知らされたが非常に遅かった。メールで、かつもっと早く情報を提供した方が良い (KUINP・文)
- ◇銀行のシステムについて理解するのがとても難しく、未だに使い方が分からない。メールだと助かる (KUINP・経)
- ◇ (ホームページのアドレスやリンク) 関西での交通機関 (KUINP・理)
- ◇ (ホームページで) 住居やホストファミリーについて (KUINP・不明)
- ◆来日前と日本滞在中における、他の留学生が抱えていた問題 (院・文)
- ◆物価の例、学生の1ヶ月の出費の例 (院・文)
- ◆月々の生活費 (ただ、必要な情報はすべて提供してもらった) (院・理)
- ◆買い物の場所／自分の宗教での祈る場所／日本にある母国のコミュニティ (院・工)
- ◆ (郵便で) 日本での生活に関する情報 (院・工)
- ◆日本での生活スタイル、生活費、その他 (院・工)
- ◆日本の物価、留学生の住むところ、空港から大学までの交通など (院・工)
- ◆気候や気温 (院・工)

- ◆必要な情報はすべて提供してもらった。しかし交通や自分の地域周辺の生活支援についてもっと教えてもらえれば良かった。／問 25 に書いてあるような京都大学に関する情報は教授が教えてくれるので知らない (院・工)
- ◆ (郵便で) 天気に関する情報 (院・農)
- ◆ (郵便で) 日本文化の悪いところ (院・農)
- ◆日本での生活費がこんなに高いことを知っていたら、日本に来て最初の数ヶ月をもっと快適に過ごすために、もっとお金を持ってくることができたのに (院・農)
- ◆外国人のアルバイトの機会 (院・エネ科)
- ◆月々の生活費、銀行、京都の気候 (院・エネ科)
- ◆住居に関する情報 (院・地環)
- ◆ (郵便で) 住宅環境 (院・霊長類研)
- ◆京都での日常生活についての情報 (研究生・国際セ)
- ◆ (郵便で) 到着初日の交通 (研究生・国際セ)
- ◆ (郵便で) 京都や日本での日常生活について (研究生・国際セ)
- ◆ (郵便で) 外国人登録、健康保険、銀行預金口座についての詳細 (研究生・国際セ)
- ◆学生の生活 (研究生・人文研)
- ◆キャンパスの地図や京都や日本での生活に関する基本的情報 (研究生・医)
- ◆ (郵便で) 京都の公共交通 (研究生・工)
- ◆お昼に事務が閉まることを教えて欲しかった！ (KUINEP・法)

【メール・インターネット・ホームページ (情報提供の方法のみに言及した回答)】

[京都大学のホームページ・インターネットの充実を求めるもの]

◇京都大学のホームページ

(学部・経) (学部・経) (学部・工) (学部・工) (学部・工) (学部・工) (学部・工) (学部・農)
 (学部・農) (学部・農) (院・文) (院・文) (院・文) (院・文) (院・法) (院・経) (院・経)
 (院・医) (院・医) (院・薬) (院・薬) (院・薬) (院・薬) (院・薬) (院・薬) (院・工) (院・工)
 (院・工) (院・工) (院・工) (院・農) (院・農) (院・人環) (院・人環) (院・エネ科)
 (院・エネ科) (院・エネ科) (院・情報) (院・情報) (院・情報) (院・情報) (研究生・教育)
 (研究生・法) (研究生・経) (研究生・工) (研究生・工) (研究生・農) (研究生・エネ科)
 (院・エネ科) (研究生・エネ科) (研究生・エネ科) (研究生・情報) (研究生・情報)
 (研究生・生命科学) (研究生・原子炉実験所)

◇京都大学のホームページをもっと詳しくしてほしい (学部・工) (院・法) (院・医) (院・工)

◇インターネット (院・経) (院・人環) (院・地環) (院・ウイルス研)

◇京都大学のホームページでもっと情報を探しやすいしてほしい (学部・工)

◇京都大学のホームページにもっと詳しく、いろんな情報を探やすく、アップデートしてほしい (学部・農)

◇留学前に、詳細情報を京都大学のホームページで提供してほしい (院・医)

◇ホームページの内容をより充実させほしい。今のホームページのデザインがあまり好きではない。中途半端な感じがする。前のほうが長い歴史を持った名門の大学のイメージがある (院・人環)

◇ホームページ。早い、安心できるから (院・エネ科)

◇ホームページの内容の更新がもっと早ければよかった。一週間前はちょっと厳しかった (院・エネ科)

◇ホームページにもっと多くの情報を公開してほしい。ホームページのインターフェース及びアクセス方法が不便で、情報を調べるのも不便である (院・エネ科)

◇ホームページの内容が散らかっているのもっと整理してもらえると助かる。留学生向けの郵便などがあれば助かる (研究生・経)

◇京都大学のホームページを見て、ある程度の情報を得たい (研究生・経)

- ◇京都大学のホームページで欲しい情報を全部知ることができれば一番いい。(たとえば、各研究科学部の先生のメールアドレスなど) (研究生・経)
- ◇大学のホームページは情報提供にはいちばんの資源だ。(特研・農)

[メールでの問い合わせ・アドバイス]

- ◇同じ国出身の先輩たちのメールによるアドバイス (院・工)
- ◇メールで問い合わせできるようにしてくれると良い (院・情報)

[複数の手段での情報提供を求めるもの]

- ◇郵便、メール (院・理) (院・工) (院・農) (研究生・法) (KUINEP・不明) (日研・国際セ)
- ◇郵便、ホームページ (院・農) (院・農) (院・AA) (研究生・経済研)
- ◇郵便、ホームページ、メール (院・法) (院・農) (院・情報)
- ◇郵便、ホームページ、説明会 (学部・工)
- ◇ホームページ、先輩 (学部・工)
- ◇ホームページ、パンフレット (学部・工)
- ◇メール、ホームページ、郵便、パンフレット (院・工)
- ◇研究所のホームページ、郵便、指導教員のホームページ (院・エネ科)
- ◇ホームページとインターネット (研究生・理)
- ◇ホームページやメール (研究生・農)

【多様な言語での情報提供】

- ◇ (ホームページで) 英語で書かれていない情報を仕上げる (院・理)
- ◇ (ホームページなどで) 留学前だから母国語で書いてくれたらいいと思う (学部・工)
- ◇大学のホームページと研究室のホームページの英語版 (院・農)
- ◆母国語で提供してほしい (学部・工)
- ◆入学資格に関する情報がすべて日本語だった (院・医)
- ◆英語での説明! この大学では十分な英訳バージョンがなく、ほとんど全てが日本語 (院・工)

【多岐にわたる情報の希望】

- ◇ (メールで) 日本の教育制度 (単位の取得など)、大学の成績評価 (試験やレポートや平常点など)、京都での生活など (住まいなど) (学部・文)
- ◇充実した先生のホームページや自己紹介欄。学校教育の具体的な進行の仕方の紹介。ゼミ生の状況 (院・経)
- ◇ (ホームページで) 住宅、学問に関する規則 (院・理)
- ◇ (ホームページで) カリキュラムの詳細、将来の指導教員、生活費 (院・理)
- ◇ (ホームページで) 奨学金、住宅 (院・理)
- ◇ (ホームページで) 学術研究や日本の日常生活等の情報 (院・医)
- ◇ (ホームページで) アカデミックカレンダー、出願方法と日程、学費と奨学金 (最新情報であることが重要!) (院・医)
- ◇ (ホームページで) 入学条件、先生の紹介 (院・医)
- ◇ (ホームページで) 学術的な情報、奨学金 (院・工)
- ◇ (メールで) 電気工学専攻の資料と先生の資料 (院・工)
- ◇ (ホームページで) 京都大学での研究や生活の準備に関する情報 (院・工)
- ◇ (メールで) 求められる日本語能力、(ホームページか郵便で) 入学試験の情報 (院・工)
- ◇ (ホームページや郵便で) 出願方法、指導教員と専攻、学位の必要条件、奨学金 (院・工)

- ◇ (メールで) 奨学金の期間、奨学金の削減、住居、学習プログラム、週の労働時間、規則と利益 (院・工)
- ◇ (ホームページで) 奨学金や学生寮の詳細を、英語で (院・農)
- ◇ (ホームページで) 専攻や学位に必要な情報、指導教員のこと、学術上の手続きについて (院・農)
- ◇ 住居に関する情報 (多くの選択肢と詳細) / 日本語の重要性 (メールで)。私たちは英語で十分であると予想して来たが、必要最低限の日本語を知っていることが明らかに重要だ (院・農)
- ◇ (ホームページで) 学校との連絡の取り方、各分野の詳しい情報、留学生の実際の体験談等。最新情報がほしい (院・人環)
- ◇ (ウェブサイトで) 問 25 に書かれていること。英語で (院・不明)
- ◇ (メールで) より詳細な地図、以前在籍していた学生からの意見やコツ、中古店の位置が示された地図 (研究生・国際セ)
- ◇ (メールで) 日本では手に入りにくかったり高価であったりする物のリスト、他の留学生と一緒にする仕事量や、日本語クラスの日程についての詳細、京都の気候について (研究生・国際セ)
- ◇ (メールで) 日本語クラスなど、日本に来てから分からないことが多すぎたので、日本に来る際に準備しておくべきことについて具体的な情報 (研究生・国際セ)
- ◇ (ホームページで) 留学前に、入学試験の方法や授業料や指導教授など (研究生・医)
- ◇ (ホームページで) 居住、奨学金、日本のクラスや文化についての情報 (研究生・防災研)
- ◇ (ホームページで) 受講可能なコースや授業について、願書に関する詳細、住居に関する情報。英語で (KUINEP・不明)
- ◇ (メールで) 銀行口座の開設や振り込みの方法、(他学部などの) 講義の履修方法 (一般交換・総人)
- ◆ 郵便でのパンフレット送付、かつ歓迎文があれば良かったと思う! / 研究室の他の学生からの連絡先 / 入学試験のトピックに関する情報 (院・医)
- ◆ (郵便で) 入学試験、住宅、月々の生活費について (院・医)
- ◆ 日本文化や社会に関する説明、大学に関する説明 (院・薬)
- ◆ (郵便で) 住居のことや京都大学での学習プログラムについてもっと明確な情報 (院・工)
- ◆ (郵便で) 日本での日常生活、文化や伝統、研究の環境に関する情報 (院・工)
- ◆ 入学試験の方法、授業料、学位取得の条件、奨学金 (院・工)
- ◆ 入学受け入れ許可書、奨学金の送金、航空券、入学手続きの書類、宿泊施設の確認書 (院・エネ科)
- ◆ 日本での研究や生活に関する情報すべて (院・AA) (院・AA)
- ◆ 興味深い研究分野、業績、有名な教授の名前 (院・情報)
- ◆ 自分が所属することになるであろう研究室、アパート、寮の場所 (院・生命科学)
- ◆ (郵便で) 願書手続き、奨学金、大学のランク (研究生・国際セ)
- ◆ 修士課程の詳細、4ヶ月の日本語コース、日本や京都での生活費 (研究生・国際セ)
- ◆ (郵便で) 寮に関すること、生活、入学試験の概念、京都市の地図など (研究生・国際セ)
- ◆ アフリカ人が日本に住むことについて (問題点や期待されること)、正規の大学院に入学するための試験について (研究生・薬)
- ◆ 京都での生活や京都大学について、特にカリキュラムに関する全ての情報。私が受け取った情報はどれも不十分だった! (KUINEP・総人)
- ◆ 何の奨学金ももらえなかった理由、他の住居やアパートの情報、KUINEP プログラムのスケジュール (年によって変わるので) (KUINEP・経)
- ◆ 住居、奨学金、地図 (KUINEP・工)
- ◆ コースのカリキュラムと授業内容、学生生活と生活費、仕事やアルバイトの機会 (KUINEP・不明)

【その他、情報に関して】

- ◇ (ホームページで) 京都大学にいる留学生へのインタビュー (学部・工)
- ◇ (京都大学のホームページで) 留学生の進路情報 (学部・工)
- ◇ 京都大学の学科の種類や研究室の研究分野などの情報を、京都大学のホームページで見ましたが、提供してほしくなかったです (学部・工)
- ◇ (ホームページや郵便で) 留学生の先輩や留学生組織についての情報 (学部・農)
- ◇ (ホームページなどで) 学風など (表しにくいかもしれないが、他の大学との雰囲気と比較など) (院・法)
- ◇ 文部科学省のパフレットには「日本での生活と研究」を PDF でダウンロードできる (院・工)
- ◇ (ホームページで) 来日予定の留学生に対するサポートに関する情報 (院・人環)
- ◇ 国別の学生情報を。メールや連絡先 (院・エネ科)
- ◇ (メールで) 京都大学にいる母国出身の学生 (院・不明)
- ◇ 情報はメールで受け取りたかった。日本に来る前に留学生に関する情報は十分に受け取った。しかしウェブページや連絡先が容易には解読できなかったため、教授を探す時に多くの問題に直面した。メールもあまり利用できなかった。指導教員について、私がその情報を必要としていた去年 (2007 年) よりウェブページが改善されている。そのため、「時期が遅かった」とコメントしておく (研究生・国際セ)
- ◇ メール (英語) で京大に質問したけど、返事がなかった (研究生・文)
- ◆ 郵便 (院・文) (院・文) (院・経) (院・工) (院・農) (研究生・文) (研究生・工) (一般交換・総人)
- ◆ (郵便で) 京都大学のパンフレット (院・法) (研究生・文)
- ◆ どれでもいい (学部・農)
- ◆ 日本の政府や行政機関は史料もデータも公開しないこと (院・文)
- ◆ 関係者が、その国まで行って直接説明してほしい (院・文)
- ◆ 京都大学の説明会 (院・法)
- ◆ 中国の有名大学で入学 (留学) 説明会を行ってほしかった (院・経)
- ◆ 卒業した留学生の進路情報に関する資料 (院・経)
- ◆ 京都大学のパンフレットを外国の大学の日本語科窓口などで配布したら効果的だと思う (院・経)
- ◆ 郵便でいい。また、初めて海外に行くのは非常に不安だった。できれば、京都大学の教員や先輩の留学生が、私たちの国で、京都大学の生活と研究の紹介をしてほしい (院・理)
- ◆ 大学に入ってから生活の状況が分からなかった。日本の大学は外国と違うので、どういう生活環境・研究環境なのかを知っていれば、失望したり、とまどったりする事が少ないと思う。実際に留学する前に、一度見学したり、体験入学したりするのが良いと思う (院・理)
- ◆ 就業機会 (院・工)
- ◆ ない。ここに来る前に概要は聞いていた。郵便で受け取りたい (院・工)
- ◆ (郵便で) 英語で書かれたオリエンテーションの情報 (院・地環)
- ◆ (郵便で) 資料や申請書など (研究生・国際セ)
- ◆ 小冊子があつて欲しかった (研究生・文)
- ◆ すでに京都大学に 1 年間いたので、何が期待できて何をすべきか知っていた (研究生・文)
- ◆ 日本や京都での研究にかかる費用は高すぎる。京大生であるメリットがない (研究生・医)
- ◆ (郵便で) 祇園の案内 (研究生・防災研)
- ◆ (郵便などで) パンフレットをもらえたらよかった (たしかもらえるはずだったが Santa Barbara の人達がいつになっても送ってこなかった) (一般交換・経)
- ◆ (郵便で) 留学生が直面しやすい問題についての説明 (KUINEP・総人)
- ◆ 情報を電子コピーで提供してもらえると良かった (KUINEP・不明)
- ◆ 私の学校 (ストラスブールのビジネス学校) に京都大学のパンフレットを置いておいてほしかった (KUINEP・不明)

【情報は十分】

- ◇京都大学のホームページは充分（学部・工）
- ◇メールで、特に不便さを感じなかった（院・薬）
- ◇ウェブページを通じて必要な情報はすべて提供してもらった（院・不明）
- ◇情報は良かった。メールで（KUINEP・経）
- ◆今のままで充分（院・経）（院・情報）
- ◆京都大学についての情報が書かれた小冊子を留学生課から送ってもらい、十分な情報を得ることができた（院・理）
- ◆私には良かった（院・工）
- ◆京都大学の情報提供については満足している。全てが明確だった（院・農）

【情報入手した方法】

- ◇建築学科について、ホームページを見て、工学部要覧も読んだ（学部・工）
- ◇京都大学のホームページ、母国の先生の紹介（学部・工）
- ◇母国の先生から、京大のホームページなど（院・文）
- ◇京都大学の歴史、研究のレベル、生活費。これらの情報は大学のホームページと母国の教授から提供してもらった（院・工）
- ◇ホームページを見た後、直接訪問した（他大学であったが、学部の時から滞在）（院・工）
- ◇必要な情報はすべて日本に来る前に大学のホームページを通じて提供してもらった（院・農）
- ◇留学に関する全般的な情報を、京都大学の先生及び在籍中の留学生を通じて、郵便・メール及び電話を通じて提供を受けた（院・エネ科）
- ◇大学のホームページ、JASSO、大学の国際交流センター（院・エネ科）
- ◇京都大学のホームページで情報を集めて、その後で教授にメールで連絡をとった（研究生・医）
- ◆在籍している留学生からほとんど聞いた（学部・経）
- ◆同じ高校出身の京都大学に留学している先輩からもらった（学部・工）
- ◆郵便で情報を送ってもらったが、とても役に立った（院・理）
- ◆必要な情報は全て指導教員から提供してもらった（院・医）
- ◆高校の先生からもらいました（院・工）
- ◆母国の大学における日本語学科などや、あるいは留学生センターや国際交流センターから（院・人環）
- ◆母国の先生と京都大学の先生から電話やメールで情報を受けた（院・エネ科）
- ◆教授陣の名前。学科のウェブサイトを探すためにGoogleで検索（研究生・国際セ）
- ◆文部科学省に関する情報をインドの日本大使館から提供してもらった。必要な情報はすべてメールを通じて先生から受け取った（研究生・国際セ）

問29 京都大学の教育・研究環境について、満足している点は何ですか。（回答率71.7%）

【研究の質・研究環境】

- ◆研究の質、研究水準の高さ（院・文）（院・法）（院・医）（院・薬）（院・薬）（院・工）（院・人環）（院・エネ科）（院・エネ科）（院・エネ科）（院・エネ科）（院・情報）（院・情報）（研究生・国際セ）（研究生・文）（研究生・文）（研究生・医）（研究生・工）（研究生・農）（研究生・エネ科）（研究生・原子炉実験所）
- ◆環境（学部・工）（学部・農）（院・医）（院・薬）（研究生・医, 化研）（研究生・防災研）（KUINEP・文）
- ◆指導教員の指導（学部・工）（学部・工）（学部・工）（院・文）（院・経）（院・エネ科）
- ◆自由に研究できる（院・経）（院・工）（院・農）（院・地環）
- ◆自分の興味のある研究をとことん追及できること（院・理）（院・医）

- ◆やりたい研究ができる (院・工) (院・工)
- ◆高い質の学生、教員がそろっているため、得たい情報がすぐに手に入る (学部・経)
- ◆選ぶことが可能な授業が多くて、十分な自由がある (学部・工)
- ◆研究レベルが高い。自分がいろいろ勉強できるところ (学部・工)
- ◆かなり高水準な教員がいること、「自由＝自己責任」 (学部・工)
- ◆学科での自由があることと、学科が共同指導体制をとっており、全ての教授が全ての学生に対してアドバイスができること (院・文)
- ◆指導教員の指導、研究水準、大学院、研究室の雰囲気が好き (院・文)
- ◆特に先生たちの指導水準が高く、確実な知識を得ることができると思う (院・文)
- ◆指導教員 (院・文)
- ◆研究資料が充実であること。指導教員の指導 (院・法)
- ◆指導教員は専門家だけではなく、教育家であること (院・法)
- ◆指導教授の研究水準と学生に対する態度 (院・法)
- ◆人脈・蔵書が豊富 (院・法)
- ◆教授が優れている、資料が豊富、国際セミナーが多い (院・経)
- ◆先生の研究水準が高く、周りの日本人の学生もレベルが高い (院・経)
- ◆先生の質が高い、他の大学との交流がたくさんある (院・経)
- ◆キャンパスの設備、日本語クラス、研究室の雰囲気などといった研究の環境にはおおかた満足している (院・理)
- ◆研究テーマの多様性 (院・理)
- ◆院生の発表のゼミはとてもいい事だと思う (院・理)
- ◆病院のキャンパスでのみ研究していること (院・理)
- ◆京都大学は外国人学生が勉強するには良いところだと思う (院・理)
- ◆とても恵まれた環境でアイデアを膨らませたり研究したりできること (院・理)
- ◆研究室に 24 時間いつでも入れること (院・医)
- ◆研究テーマを自由に選べること (院・医)
- ◆ダイナミックな研究分野とディスカッション (院・医)
- ◆教育や研究の環境が素晴らしい (院・医)
- ◆教授たちと相談ができること (院・医)
- ◆指導教員の学術レベルが高く、すごく真面目で、研究環境が良い (院・医)
- ◆京都大学の研究条件、実験室の管理及び日常運営は非常に秩序がある (院・医)
- ◆研究の質が高いので、多くを学べること (院・医)
- ◆研究環境がとてもいい。外の研究室との交流もときどきあるので、いろいろ勉強になる (院・医)
- ◆まじめ (院・薬)
- ◆京都大学は良い研究、教育、設備がある (院・薬)
- ◆優れた教授、研究室、機器類があること。とても良い大学にいると思う (院・工)
- ◆研究発表するチャンスが多い。交流するチャンスが多い。新しい情報を受けるのは早い (院・工)
- ◆研究水準が高い、指導教員が丁寧に教えてくれる (院・工)
- ◆自分の研究分野で多くの経験と知識が得られたこと (院・工)
- ◆ゼミ (院・工)
- ◆研究室や図書館の設備など、学術的な環境がとても良い (院・工)
- ◆京都大学の教授の質がとても良いこと。ほとんどが英語を話せる (院・工)
- ◆研究環境は理想的で、良い研究をするために足りないものというのが何もない (院・工)
- ◆指導教員から素晴らしい指導を得られること (院・工)
- ◆研究はおもしろいし、水準が高い (院・工)

- ◆研究や学会に関して経済的な支援があること、書籍、資料、コンピュータが全員に支給されること (院・工)
- ◆資料が十分です (院・工)
- ◆学生が自由に研究している。強制ではない (院・工)
- ◆自分で考えて問題を解決させるようにする (院・工)
- ◆指導教員の指導力と研究水準がとても高いから (院・工)
- ◆研究には満足している (院・工)
- ◆米国水準のトップレベルの研究 (院・工)
- ◆学校が個人の研究スペースをちゃんと提供すること (院・農)
- ◆研究の質の高さと、発見のために急成長する努力 (院・農)
- ◆はっきりとした説明 (院・農)
- ◆研究や教育の設備のほとんどが完璧で便利であること (院・農)
- ◆整った研究環境 (院・農)
- ◆先生たちが専門的な知識を持っている (院・農)
- ◆自由的に尚且つ意欲的に、知識を吸収することができる所 (院・農)
- ◆自分の目標を自由に設定でき、研究できること (院・農)
- ◆他の大学に比べて自由に研究ができる (院・人環)
- ◆自分で興味を持っている授業が選べるだけではなく、素晴らしい研究水準の環境で研究情熱が高まった (院・人環)
- ◆先生のレベルも高く、施設と研究環境が充実している (院・人環)
- ◆ほとんどの教授が英語に優れていて、外国人学生に高い日本語能力を求めないこと (院・エネ科)
- ◆京都大学の研究の資質が優れていることと、名声があること (院・エネ科)
- ◆この大学での研究は非常に影響力がある (院・エネ科)
- ◆研究室の仕事にすぐに加わることができ、必要条件もすべて整った (院・エネ科)
- ◆計画的思考を与えてくれることと、プロの研究者になるための準備をしてくれること (院・エネ科)
- ◆自由に、責任感を持って、自分がやりたい事ができる (院・エネ科)
- ◆やりたい研究に惜しまず投資する (院・エネ科)
- ◆幅広い研究の土台が研究を円滑に進める (院・エネ科)
- ◆案内／研究 (院・エネ科)
- ◆良い支援があること (院・エネ科)
- ◆研究の自由性、柔軟なカリキュラム (院・情報)
- ◆勉強の充実度 (院・情報)
- ◆研究指導 (院・情報)
- ◆留学生を受け入れる開かれた環境 (院・情報)
- ◆出張費、事務員の親切さ、共同研究の機会 (院・情報)
- ◆オープン、交流が頻繁に行われることで、専門分野だけではなく、視野を広げることができる (院・情報)
- ◆研究が進んでいること (院・生命科学)
- ◆研究だけに集中できるからよい (院・地環)
- ◆研究室に莫大な資金があるおかげで私たちはお金に困らずに研究ができること／国際学会 (院・地環)
- ◆日本の学術環境が西洋のものとはだいぶ異なるということを知る機会が得られたこと (院・地環)
- ◆質の高い先生たち (院・不明)
- ◆学術研究のための素晴らしい構造、勉強するのに良い環境 (美しい、静か)、良い教師陣 (研究生・国際セ)
- ◆学術研究の質が良い、研究室の作業環境が良い、留学生に対するサービスも良い (研究生・国際セ)
- ◆学生に対する知識の影響力に重点を置いていること (研究生・国際セ)

- ◆勉強や情報提供の助けとなること、質の良い資源が利用可能なこと（研究生・国際セ）
- ◆まだ自分の研究を始めているが、研究室で、研究が国際水準に達している様子や学生同士がトピックについて議論している様子などを見ることができる（研究生・国際セ）
- ◆適時に的確な指導を指導教員から受けられること（研究生・国際セ）
- ◆教育の質が良いこと（研究生・国際セ）
- ◆献身的な先生方、カリキュラムがうまく組み立てられている（研究生・国際セ）
- ◆学生の学校生活についての支援がよく整備されている（研究生・国際セ）
- ◆優れた教育研究指導・充実した研究環境（研究生・国際セ）
- ◆長い学問の伝統をもっている学校（研究生・文）
- ◆研究水準、教員の指導（研究生・法）
- ◆教育水準の高さ（研究生・経）
- ◆指導教員の高い研究水準、ゼミの雰囲気（研究生・経）
- ◆環境がいいし、雰囲気が大好き（研究生・経）
- ◆環境がよく整っていて、利用しやすく、親しみやすい（研究生・理）
- ◆学生がそれぞれの研究室に所属していること（研究生・工）
- ◆指導教員とのディスカッション、研究テーマの広さ、研究態度が真面目（研究生・工）
- ◆自律的な研究（研究生・工）
- ◆研究条件、計画性、研究室の雰囲気（研究生・農）
- ◆柔軟性のある組織（研究生・情報）
- ◆教授のレベルが高く、とても優しい。研究環境がとてもいい（研究生・情報）
- ◆ここの人たちは非常に創造的思考のできる人たちで、日本では珍しい！（研究生・人文研）
- ◆数多くの研究分野を引っ張っていること（KUINP・総人）
- ◆チューター制度が良い（KUINP・経）
- ◆教授自身のレベルがとても高い（KUINP・経）
- ◆全体的に情報は行き届いているし、仕事量もバランスがとれている（KUINP・工）

【授業・教育の質】

- ◆国際交流センターの日本語授業（研究生・国際セ）（研究生・経）（KUINP・不明）（一般交換・エネ科）
- ◆授業の多様性（学部・経）（研究生・文）
- ◆専門の授業が良い（学部・経）
- ◆授業の質（日研・国際セ）（院・法）
- ◆京大総合博物館のパブリック・エデュケーションの活動は素晴らしいと思う（院・理）
- ◆京都大学の国際交流センターが提供している日本語クラスが好き（院・医）
- ◆セミナーや講座がいろいろある（院・医）
- ◆日本語の訓練プログラムが充実していることと、国際会議のレベルが高いこと（院・工）
- ◆他研究科の授業がきけて満足している（院・工）
- ◆セミナー（院・工）
- ◆シンポジウムなど充実していること（院・人環）
- ◆授業や講義の水準が高い（院・エネ科）
- ◆日本語クラスのレベルの高さ（研究生・国際セ）
- ◆授業は決まった時間に行われ、専門的であること。先生たちが愛情と情熱をもって教えてくれること（研究生・国際セ）
- ◆授業、講義（研究生・文）
- ◆セミナーや会議が感動できるものであること（研究生・薬）
- ◆講義のレベルの高さ（研究生・防災研）
- ◆留学生課が提供している見学旅行、国際交流センターの日本語クラス（KUINP・不明）

- ◆体系的日本語教育システム (KUINP・不明)
- ◆日研プログラムの多彩な文化体験がよかった (日研・国際セ)

【支援体制・人的交流】

- ◆教員はみんな責任感が強く、留学生にやさしい (学部・経)
- ◆留学生担当教員の応援に満足している (学部・経)
- ◆素晴らしい教授陣と学生たち (学部・経)
- ◆自由で、頑張る人は頑張るし、いい加減な人もたくさんいるが、よりマイペースで進んでいける (学部・工)
- ◆指導教員の指導はいつも優しく、研究の水準も高い。事務室の先生達はいつもいろいろな問題を親切に説明してくれた (学部・工)
- ◆先生と先輩が優しく指導してくれる (学部・工)
- ◆研究環境と勉強の雰囲気がよい (学部・工)
- ◆雰囲気がとても自由な点 (学部・工)
- ◆工学部の学生として、講義を受けたのは、とてもよかったと思います。分からないときは、教員や TA 達が親切に教えてもらってとても楽しく勉強できた (学部・工)
- ◆先生が多くて、優しくて、わからない問題があったら何回も教えてくれる (学部・工)
- ◆多くの先生が優しく、幅広い知識を学ぶことができる (学部・農)
- ◆色々な交流活動がある (学部・農)
- ◆勉強の雰囲気がいい (学部・農)
- ◆先生たちがすばらしい (学部・農)
- ◆自由な気風と親切な教員と学生たち (院・文)
- ◆研究室が親しみやすい環境であること (院・文)
- ◆皆まじめですごい人たちで、お互い刺激し合うところ (院・文)
- ◆先生たちが留学生の論文の日本語の修正までしてくれる。自分の好きな研究ができる。先生たちが学生の人格・意見を尊重している (院・法)
- ◆指導教員の指導、学生支援 (院・法)
- ◆勉強の雰囲気がよい (院・法)
- ◆チューターや指導教員が勉強や生活をサポートしてくれる (院・経)
- ◆研究室の雰囲気と指導教員の指導に満足している (院・経)
- ◆研究の雰囲気 (院・経)
- ◆先生方が優しい (院・経)
- ◆私の研究センターは学生がとても融和的で、常に私の生活が快適にいつているかどうか気にかけてくれる (院・理)
- ◆他の人から聞く話とは違うが、私の場合はとても親しみやすい指導教員がいること (院・理)
- ◆指導教員たちにいつも世話になった。研究室の雰囲気に満足している。事務室担当はいつも丁寧にサポートしてくれる (院・理)
- ◆院生や先生や事務のスタッフは優しくて、いいコミュニティーだと思う (院・理)
- ◆研究室の同僚たちが助けになってくれること (院・医)
- ◆知っている教授たちはみんな親切で勤勉で、それぞれの分野において優れていること (院・医)
- ◆指導教員の指導や心配りは最高だ (院・医)
- ◆先生が助けになってくれること (院・医)
- ◆指導教員が指導してくれることと、研究室の他の学生の助けがあること (院・薬)
- ◆先生たちからの丁寧な指導、研究の雰囲気がいい (院・薬)
- ◆指導教員の指導はすごい。研究室の雰囲気もいい (院・薬)
- ◆研究の雰囲気がよかった (院・薬)

- ◆薬学部の教務係の先生はとても親切 (院・薬)
- ◆研究室の雰囲気 (院・工)
- ◆協力的で家庭的な環境 (院・工)
- ◆研究や学習の雰囲気が素晴らしい (院・工)
- ◆いつも研究指導してくれる素晴らしい教授たち (院・工)
- ◆教授が親切で、研究に対して非常に印象的であること。研究に関連する先生の講義やハンドアウトは実に素晴らしい (院・工)
- ◆研究室の雰囲気もいいし、分からない時、みんな一緒に相談する (院・工)
- ◆留学生関係の情報は携帯までかけてくれるのでとても役立ちます。すごい教授が多い (院・工)
- ◆適切な指導教員の指導 (院・工)
- ◆指導教員の素晴らしい指導 (院・工)
- ◆研究の状況／留学生は十分な日本語能力がないという認識を持っている学生の協力 (院・工)
- ◆研究の雰囲気と協力 (院・工)
- ◆研究経費などが十分で、周りに勉強に熱心な人が集まっていて、雰囲気がとてもよい (院・農)
- ◆助けを求めれば学生たちがとても協力的であること (院・農)
- ◆研究室の皆様がやさしいこと (院・農)
- ◆京都大学の職員や先生、学生たちはとても親切でいつも助けようとしてくれること (院・農)
- ◆研究室は楽しいし、協力的である (院・人環)
- ◆教員と学生の雰囲気 (全体的に個性豊かな人が多い) (院・人環)
- ◆研究の雰囲気 (院・人環)
- ◆素晴らしい研究の雰囲気 (院・人環)
- ◆指導教員の指導力がとても良く、レポートの書き方まで丁寧に教えてくれた (院・人環)
- ◆指導教員の責任感。研究室の人間関係。勉強・研究の雰囲気 (院・人環)
- ◆社会生活ではほとんどの人がとても親切だ。研究者たちのほとんどは科学に関して優れたレベルであり、助けになってくれる (院・エネ科)
- ◆研究室の環境は良い (院・エネ科)
- ◆指導教員と研究室の仲間たちがいつもとても助けになってくれること (院・エネ科)
- ◆研究室の人たちは親切でとても助けになる (院・エネ科)
- ◆全体的に良い雰囲気であること (院・AA)
- ◆予想していたよりも親しみやすい。ほとんどのメンバーが研究の特定の分野に関して情熱的に思える (院・情報)
- ◆良い指導、素敵な人々、きちんと準備されたスタッフ (院・情報)
- ◆指導教員は非常に厳しく、日常生活ではとても親切だ。スタッフも全員親切なので、研究データを取りやすい (院・情報)
- ◆指導教員は非常にいい。研究をととても熱心に教えてくれる (院・情報)
- ◆真面目に研究し、みんな研究に精一杯に頑張る (院・生命科学)
- ◆指導教員や同僚たちが非常によくしてくれること (院・生命科学)
- ◆先生の指導や研究室の皆様との交流が活発。留学生へのサポートに心から感謝している (研究会や講演会などがたくさんある (^)) (院・地環)
- ◆研究室の人たちはとても素敵な人たちだ (院・ウイルス研)
- ◆先生の指導 (院・不明)
- ◆留学生課の人たちの情熱 (研究生・国際セ)
- ◆指導教員とスタッフが素晴らしい (研究生・国際セ)
- ◆基本的に良い雰囲気 (研究生・国際セ)
- ◆人々が親切で協力的だ (研究生・国際セ)
- ◆理論と実践において優れた相互関係が築かれていること (研究生・国際セ)

- ◆先生たちが私たちに理解を示し、興味を持って支えになってくれること（研究生・国際セ）
- ◆人の国際的な交流（研究生・文）
- ◆先生たちが親切（研究生・文）
- ◆人々のやさしさ（研究生・文）
- ◆自由な雰囲気がよくて、勉強の雰囲気が良い（研究生・経）
- ◆周りのみんなが真面目に勉強する雰囲気（研究生・経）
- ◆指導教員のご指導はとても優しく、とても役に立っています（研究生・経済研）
- ◆先生たちがとても優しい（研究生・医）
- ◆研究に関する十分な話し合いとたくさんのアドバイスを与えてくれること（研究生・医）
- ◆学術的であり親しみの持てる環境であること（研究生・医, 化研）
- ◆指導員の指導や、研究室の雰囲気などに満足している（研究生・医）
- ◆研究も進み、指導教員も親切で、本当に満足している（研究生・工）
- ◆みんなが仕事を楽しんでいるので、勤務時間中の雰囲気は自分にとって励みになる（研究生・工）
- ◆指導教員と研究室の皆さんは親切。生活も便利（研究生・農）
- ◆良い雰囲気（研究生・農）
- ◆研究室の雰囲気にも指導教員にもとても満足している（研究生・農）
- ◆設備や言語クラスがとても良く、みんなが京都大学で私の滞在が良いものになるように気にかけてくれている（研究生・情報）
- ◆周りの環境と雰囲気がよくて、ずっと実験室で夜遅くまで実験できる（研究生・ウイルス研）
- ◆雰囲気がよい（研究生・ウイルス研）
- ◆先生たちがとても親切（KUINEP・薬）
- ◆雰囲気、指導（KUINEP・工）
- ◆留学生課はとても助けになっていて、私たちが新しい環境に慣れるために問題があれば積極的に助けてくれる（KUINEP・不明）
- ◆留学生課のサポートが素晴らしい（オリエンテーション、見学）（KUINEP・不明）
- ◆先生やスタッフが親しみやすい（KUINEP・不明）
- ◆一生懸命研究する雰囲気（KUINEP・不明）
- ◆先生がとてもすばらしい（日研・国際セ）
- ◆先生達のサポート（日研・国際セ）
- ◆色んな方と話ができたのが、嬉しかった。KUINEP の講義や学部の授業などで会った先生方と授業外で話すのが楽しかった（一般交換・総人）
- ◆日本の文化を知るために、国際交流センターはいろいろと企画してくれて助かる（一般交換・経）
- ◆京都大学は素晴らしい研究環境が整っていて、特に先生たちが親切で協力的だ（特研・農）

【施設・設備】

- ◆設備が整っていること（院・文）（院・医）（院・工）（院・工）（院・エネ科）（院・エネ科）（院・不明）（研究生・国際セ）（研究生・国際セ）（研究生・工）（研究生・農）（研究生・情報）（研究生・防災研）（KUINEP・総人）（KUINEP・文）（KUINEP・法）（KUINEP・経）（KUINEP・経）（KUINEP・工）（KUINEP・不明）
- ◆実験設備（院・医）（院・薬）（院・薬）（院・工）（院・工）（院・工）（院・工）（院・エネ科）（院・エネ科）
- ◆研究設備（学部・工）（学部・工）（学部・工）（院・理）（院・薬）（院・工）（院・工）（院・工）（研究生・エネ科）
- ◆図書館（学部・経）（院・文）（院・法）（研究生・文）（研究生・文）
- ◆機器・機械類（院・工）（院・工）（院・農）（院・農）
- ◆図書館、KULASIS（学部・経）（院・人環）

- ◆情報メディアセンターの便利さ (学部・工)
- ◆研究室や実験室の設備が整えている (学部・工)
- ◆図書館、情報設備 (学部・工)
- ◆大きな図書館、KIZUNA (学部・工)
- ◆図書館が 10 時ぐらいまで開いていることに満足している (学部・農)
- ◆設備がいい。図書館などは、いつも利用している (学部・農)
- ◆実験室の設備が充実している (学部・農)
- ◆図書館の設備に満足している。特に付属図書館のメディア・コモンは大好きな場所の一つ (学部・農)
- ◆図書館などの設備がいい (学部・農)
- ◆豊富な蔵書・便利な利用制度 (院・文)
- ◆資料が比較的整っている点 (院・法)
- ◆研究に必要な資料がある程度そろっている (院・法)
- ◆図書館の蔵書が多くて、利用しやすい点について、大変満足しております (院・法)
- ◆図書館やコンピュータ設備が使用しやすい (院・経)
- ◆図書館の本は充実している (院・経)
- ◆図書館に資料が多い (情報量が多い) (院・経)
- ◆本、論文などの研究資源が沢山あります (院・経)
- ◆図書館など、研究環境がいい (院・経)
- ◆図書館の便利さに満足しています (院・経)
- ◆図書館に本が多くて、また電子ジャーナルを通じて、必要な論文を安易に入手できる (院・経)
- ◆研究のための機器類や書籍の多さ (院・理)
- ◆図書館で専門資料が充実していること (院・理)
- ◆研究環境や施設は整っているので、非常に満足している (院・理)
- ◆ (図書館などの) 設備が整っていること (院・理)
- ◆利用や資源 (ジャーナルなど) がすぐに利用できるのも、研究が行いやすい (院・理)
- ◆研究室で提供されている設備 (院・理)
- ◆実験室の条件や設備が先進的で、もっと重要なのは協力と実験設備機器を一緒に使えることである (院・医)
- ◆機材、書籍、ジャーナルへのアクセスなどの設備も満足いくものだ (院・医)
- ◆研究の資源が良いこと。Science and Nature に投稿している研究室もいくつかある (院・医)
- ◆実験経費の充実 (院・薬)
- ◆実験設備が安全、最新 (院・薬)
- ◆測定機械などを自由に使えること (院・工)
- ◆京都大学の印象は、幅広いジャーナルがあること、図書館の設備が整っていること (院・工)
- ◆実験設備、建物 (院・工)
- ◆設備やサービスなどは良い (院・工)
- ◆設備や備品が優れていること (院・工)
- ◆最新設備が使える (分析装置など) (院・工)
- ◆研究設備、図書館、ジャーナル、その他 (院・工)
- ◆他研究科の図書館が利用できて何より満足しています (院・工)
- ◆図書も充実しています (院・工)
- ◆研究施設、図書館 (院・工)
- ◆キャンパスの設備 (図書館と研究室) (院・工)
- ◆良い環境、キャンパス内のフィットネス、コンピュータやインターネット (院・工)
- ◆研究を進める上での設備 (院・工)
- ◆書籍、図書館、インターネット、ジャーナル (院・農)

- ◆研究資料はたくさんあります (院・農)
- ◆図書館と研究設備 (院・農)
- ◆図書の量が多いです (院・農)
- ◆研究を進めるための十分な機器類が研究室に備わっていること (院・農)
- ◆研究の設備と機器類 (院・農)
- ◆機器類、ゼミ、図書館などの素晴らしい資源 (院・農)
- ◆図書館など充実している (院・人環)
- ◆資料を手に入れやすい。図書館の設備がいい (院・人環)
- ◆日本で外国人が書いた 19 世紀の書籍が多いこと (院・人環)
- ◆ほとんどの研究科、学部 of 図書館 (室) が利用できる点 (院・人環)
- ◆図書館の所蔵 (院・人環)
- ◆図書の量と質 (院・人環)
- ◆研究するのに必要な書類や情報などが十分あります (院・人環)
- ◆京都大学のハードウェアに満足している。研究室とか、図書館とか (院・人環)
- ◆とても良い。機器類や資金が充実していて、論文検索システムも優れている (院・エネ科)
- ◆図書館のシステムが良いこと (院・エネ科)
- ◆研究室のコンピュータ設備は完善しています。また図書館など、資料の提供もいいです (院・エネ科)
- ◆研究に十分な機器と設備が整っている (院・エネ科)
- ◆機器類の設備が整っていて必要な時に使える (院・エネ科)
- ◆研究装置がいい (院・エネ科)
- ◆研究室の設備が整っていること (院・エネ科)
- ◆研究の設備と案内 (院・AA)
- ◆優れた機器 (研究生・情報)
- ◆素晴らしい機器 (院・情報)
- ◆論文の電子図書 (院・情報)
- ◆研究する環境と整った設備 (院・情報)
- ◆最新の機器類があること (院・地環)
- ◆調査に必要ないろんな道具や機械があるから満足している (院・地環)
- ◆研究室や図書館などの設備や環境が整っていること (院・地環)
- ◆図書館とオンライン資源が良いこと (院・地環)
- ◆図書館の雰囲気 (院・ウイルス研)
- ◆私の知る限りでは学生全員が研究を円滑に進めるための設備がある (院・霊長類研)
- ◆学術データや資源にアクセスできること (院・不明)
- ◆図書館の雰囲気 (研究生・国際セ)
- ◆設備や機器類が満足いくものであること (研究生・国際セ)
- ◆研究室や図書館の設備が整っていること (研究生・薬)
- ◆研究室の設備がよく整備されていると思います (研究生・国際セ)
- ◆自分の研究分野に関して必要な書籍はすべて手に入れることができる (これまではあまり大学の設備には頼っていなかった) (研究生・文)
- ◆図書館といろいろな本について満足している (研究生・文)
- ◆図書館の蔵書 (研究生・教育)
- ◆情報端末の利用 (研究生・経)
- ◆図書館、コンピュータ設備 (研究生・経)
- ◆図書館の利用の便利さ (研究生・経)
- ◆資料や情報が十分揃っている (研究生・経)
- ◆便利です (研究生・経済研)

- ◆研究の設備が外国人学生にとって役に立つこと (研究生・理)
- ◆インターネット、図書 (研究生・理)
- ◆学生が利用可能な機器類の手入れがよく行き届いていて、最先端であること (研究生・医)
- ◆図書館、実験設備 (研究生・薬)
- ◆図書館の設備が良く、相互貸借制度が良い (研究生・工)
- ◆充実した施設 (研究生・工)
- ◆ここでは、以前は閲覧できなかったソフトウェアや書籍などが利用できる (研究生・工)
- ◆整備が充足している (研究生・エネ科)
- ◆コンピュータ設備がしっかりしている (研究生・AA)
- ◆研究室の設備は十分。研究生の私さえ自分の席がある。ありがとう (研究生・情報)
- ◆図書館が便利な使用 (研究生・人文研)
- ◆素晴らしい図書館／空調設備 (研究生・人文研)
- ◆いくつかの機器類は新しく快適だ。京都大学は確かに幅広い機器類を提供している (KUINEP・理)
- ◆充実した図書館設備 (日研・国際セ)

【学風・(地理的) 環境】

- ◆自由な学風 (学部・工) (学部・農) (院・法) (院・法) (院・経) (院・人環)
- ◆自由 (院・工) (院・工) (研究生・生命科学)
- ◆自由な雰囲気 (でも、ちょっと自由すぎる) (院・文)
- ◆京大の雰囲気 (院・医)
- ◆自由な教育環境で勉強できる (院・農)
- ◆好きなことがのびのびと (自分勝手に?) できる (院・農)
- ◆キャンパス内の美しい木々 (研究生・国際セ)
- ◆学校の雰囲気 (研究生・教育)
- ◆学風や雰囲気が良い (研究生・経)
- ◆キャンパスが美しい (KUINEP・総人)
- ◆キャンパスが良い (KUINEP・不明)

【その他】

- ◆とても国際的であること (学部・経)
- ◆国際理解 (院・医)
- ◆問 28 に書かれていること (院・工)
- ◆日本の人たちの優しさ、自分の家族と一緒に住んでいること (院・工)
- ◆指導教員のいうことにしっかり注意を払うこと (院・AA)
- ◆問 28. 以外では、多様な講演会の実施 (時計台で開催される特別講演会など) (院・情報)
- ◆大学で勉強する前はよく京都まで通っていた (院・生命科学)
- ◆重視されている感じがします (研究生・国際セ)
- ◆地元のクラブと連絡がとれること (KUINEP・法)
- ◆図書館のコンピュータの使い方など、学期の初めに講義を通して全て説明してもらった (KUINEP・経)

【全体的に満足】

- ◆全部 OK です (院・経)
- ◆素晴らしい (院・工)
- ◆すべて良い (院・工)
- ◆満足している。問題は言葉の壁だ (院・AA)
- ◆全てについてほとんど満足 (院・情報)

- ◆ほとんど全て順調 (院・情報)
- ◆すべてにおいて満足している (研究生・国際セ)
- ◆思っていたよりもずっと全てが順調 (研究生・工)

【特になし】

- ◆分からない (院・人環) (研究生・医)
- ◆特になし (学部・工) (学部・工) (院・薬) (院・工) (院・工) (研究生・国際セ) (研究生・国際セ) (研究生・文) (研究生・防災研)

問 30 京都大学の教育・研究環境について、不満を感じている点は何ですか。 (回答率 64.7%)

【研究に関する不満】

- ◆学部間のつながりががないため、学部をこえた内容に関する研究で、他学部の学生や教員と交流が必要な時に困る (学部・経)
- ◆学生さんは自由すぎる (学部・農)
- ◆全体的に自由すぎる感じで、教授たちはあまり指導をしてくれない。ちょっと冷たい感じ (院・文)
- ◆プレッシャー、ストレス、不健康な環境 (院・文)
- ◆実践が少ない (院・法)
- ◆学問に熱意を持っている学生に対する支援が足りない (院・法)
- ◆もし英語でのコースを設けて、より多くの外国人教授を招けば、多くの学科で、更なる国際化の利益を受けることができる。例えば、私が知っている限りでは、法学部の国際法コースは英語での受講はまだ可能でないようだ。実際にここではまだ英語だけのコースは存在しない。皮肉にも京都議定書はこの京都で署名された。／現在の指導教員も研究生の期間の指導教員もどちらも素晴らしかった。しかし、実験をする学科を除いては、一般的に日本では指導教員との関わりは非常に限られている (院・経)
- ◆学際的な協力の欠如 (院・理)
- ◆日本人学生と同等に指導してもらえない体制 (院・医)
- ◆ストレスを感じさせる課題や研究環境 (院・医)
- ◆研究へのサポート (院・医)
- ◆教授の指導が不十分 (院・薬)
- ◆自分の研究についての具体的な計画がないこと、教授が明確な要求を説明してくれないこと、教授が日本語の論文を読むように言うこと (院・工)
- ◆他の研究室の研究との交流が少ないこと (院・工)
- ◆学風が自由すぎる。学生と研究に対して教授の組織力が足りない。他に、院生同士の協力研究も足りない。大きなプロジェクトの場合、他の研究室との間、あるいは、同じ研究室内の学生の間で合理的に段取りを分け、常に交流を行うといい (院・工)
- ◆似たような研究分野であっても他の研究室との交流が少ないこと (院・工)
- ◆もっと世界に開かれるべきだと思う。世界的に有名な学者を呼んで彼らの業績を発表してもらおうなど (院・工)
- ◆ストレスが多い環境であること (院・工)
- ◆他の国や文化圏との学術的な交流 (院・農)
- ◆先生たちは忙しくて、教えてくれない (院・農)
- ◆指導教員の指導能力 (院・農)
- ◆協力して研究することが少ないです (院・農)
- ◆あまりにも自由で、まとまった標準が分かりにくい。自己評価もやりにくい (院・農)

- ◆もっと活発な雰囲気のほうが研究にいいと思っています (院・人環)
- ◆放任主義に不満を感じる (院・人環)
- ◆留学生にとって、心が癒されるかどうか大切であると思う。特に研究室で留学生へのいじめ、指導教員との関係 (不正待遇等) (院・人環)
- ◆指導教員はインチキな人の手助けをする (院・エネ科)
- ◆他の研究室との交流がほとんどないこと (彼らが何をしているのか、どんなトピックに関して情報交換をしているのか?) (院・地環)
- ◆規則や規範について英語ではうまく話されていないこと。友好的ではなく競争的であること。自立した研究というのは、失敗を取り上げて指導しないといったものではない (院・不明)
- ◆修士や博士課程に関する情報がほとんどないこと (研究生・国際セ)
- ◆自分の研究をするためのお金がないこと (研究生・医)
- ◆研究の状況、選択の自由 (KUINP・経)
- ◆自分の専門分野の勉強をする機会や、指導教員から学ぶ機会が十分に与えられていないような気がする (KUINP・不明)
- ◆自由すぎる (日研・国際セ)

【授業・教育に関する不満1：全般的】

- ◆言語クラスの人数が多すぎて効果的でないこと (学部・文)
- ◆わかりにくい講義、何が言いたいかわからない講義が少なくない (学部・経)
- ◆授業をする教授は「ただ授業をするだけ」のタイプが多い。学生に本当にわかってもらいたいと思う教授が少ない (学部・工)
- ◆授業の質はばらつきが著しい。話さない先生・宿題出さない先生・落とさせない先生を初めて知りました (学部・工)
- ◆クラスの学生が多すぎる。先生の説明がわかりにくい (学部・工)
- ◆授業をもっとおもしろく、魅力的にやってもらえば・・・ (学部・工)
- ◆カリキュラム、1・2回生の時にもっと専攻に必要な基礎知識を勉強したかったです (学部・農)
- ◆一方的に行われる授業が多い (院・経)
- ◆教育がない。授業や講義は、単位取得だけのためにあるものが多く、全くためにならない。一方通行で、学生によるフィードバックがなく、先生もそれを望んでいるように思える。また、カリキュラムが無茶苦茶で、違う講義で同じ内容をカバーしている。リレー講義では先生間のコミュニケーションが全くない。大学の研究環境では、留学生への考慮がなく、日本人学生と同様にあつかわれる。お互いに「留学生」である意味・メリットがない (院・理)
- ◆博士課程では外国人学生のためのコースワーク (クラス) がない (院・理)
- ◆メインキャンパスから遠くて日本語講座を受けられない (私たちの日本語は下手です) (院・理)
- ◆大学院の授業が不足。たとえば医学部の技術、統計などの授業がない (院・医)
- ◆系統だった授業はない (院・薬)
- ◆講義の質はばらばらである。良いものもあれば、聞いても意味がないものもある (院・工)
- ◆講義 (院・工)
- ◆必要な単位数が多すぎる (院・工)
- ◆教育制度を向上させるべきだ (院・工)
- ◆一方的に注入 (討論が良い) (院・工)
- ◆留学生向けの日本語教育のコースが継続的でないので、できればまとまった教材で、継続的な日本語の授業を受けたい (院・工)
- ◆ある教員の授業はあまりよくない。学生さんが発表する時、教員は寝ていて、意見やコメントを伝えるとき、非常にいい加減だ (院・農)
- ◆日本語クラスに関して初級の2段階目、3段階目のクラスでも英語の話せる先生がいたほうがいい (院・

エネ科)

- ◆講義は、もっと応用を利かせ、研究室の研究との関連があるべきだ (院・エネ科)
- ◆授業や講義があまり実用的ではなく、多くの学生 (特に日本人) は講義中いつも寝ている (院・エネ科)
- ◆日本語クラスの集中講義の期間が短すぎる。大学院 (修士課程) でのクラスはあまり多様性がなく、選択の幅も狭いし、自分の研究分野に関して十分な知識を提供するものではない (院・情報)
- ◆大学院コース、ちょっと役に立たない (院・ウイルス研)
- ◆日本語の集中クラスが詰め込みすぎであること (研究生・国際セ)
- ◆日本語クラスは短期間に詰め込みすぎである。あまり関係のない授業もある (研究生・国際セ)
- ◆日本語を含むいくつかの補講が専門とは関係がない (研究生・国際セ)
- ◆教育理論 (研究生・文)
- ◆日本語の授業の数が多ければ、ありがたいです。せっかく日本にうかがいましたので、日本語をもっと勉強したいと思います。特に上級クラスでは、経済知識、社会学などを日本語で教えた方がいいのではないかと思います。このような授業も国際交流センターが導入すべきだと思います (研究生・経済研)
- ◆日本語クラスが1週間に3回だけというのは少ない。私は日本語が下手なので日本人学生との交流ができない。自信がなくなる (研究生・医)
- ◆特に KUINEP のプログラム。私の研究には役に立たなかった (KUINEP・総人)
- ◆学部レベルの講義はあまり刺激がなく、努力が必要ない (KUINEP・総人)
- ◆英語の KUINEP コースは満足のいくものではなかった。専門分野とは無関係なのに KUINEP コースで時間を多く割かれた (KUINEP・文)
- ◆KUINEP の学生に英語のクラスを要求するべきではない (KUINEP・法)
- ◆KUINEP のクラスは簡単すぎる (KUINEP・法)
- ◆KUINEP プログラムに関して言うと、先生たちは私たちがすべてのクラスにおいて専門であることを期待するので、コースのすべてを理解するのが難しい (KUINEP・経)
- ◆KUINEP のコースが多すぎる。内容が面白くなく、講師の英語が理解しにくい (KUINEP・経)
- ◆あまり満足していない。KUINEP プログラムで十分に勉強しているとは思えない (KUINEP・経)
- ◆(KUINEP の) 日本語クラスが難しすぎる (KUINEP・経)
- ◆KUINEP に関して言えば、(国際的な) 学術的水準は必要ないと思う (講義も単位がもらえる) (KUINEP・経)
- ◆KUINEP の英語の授業。あまり学べていない。理由の1つは、先生たちの何人かは英語で表現することに問題がある。別の理由としては内容が十分でない (KUINEP・薬)
- ◆KUINEP のコースはストレスが多く、時間を多く割かなくては行けない (KUINEP・不明)
- ◆一般のコースは物足りない (KUINEP・不明)
- ◆KUINEP のクラスはあまり良くない (KUINEP・不明)
- ◆自分の興味に関係ない講義が多い (日研・国際セ)
- ◆母国の授業より自由な講義、教え方に最初はとまどいました (一般交換・総人)

【授業・教育に関する不満2：英語での講義】

- ◆(教授を含めて) 先生たちが英語で授業ができるほどの能力がない (学部・工)
- ◆本当の意味での国際的なプログラムがない。講義やゼミを英語で行ってくれるようなプログラムを留学生に提供して欲しい (院・理)
- ◆英語で行われる講義が少ない。COE プログラムなど、他の教授を招待してほしい。PhD コースが全て日本語で行われること。しかし何人かの先生たちはスライドを英語だけで書いてディスカッションを日本語でやってくれる。留学生にとっては可能性を制限され、恩恵を十分に受けられない (院・医)
- ◆講義が日本語であること (院・医)

- ◆留学生のために英語で授業をやってくれないこと (院・工)
- ◆英語での講義があればより助かる (院・工)
- ◆講義の方法には満足しているが、英語でやってほしい (院・工)
- ◆もっと英語を使って欲しい (院・農)
- ◆英語での講義 (院・農)
- ◆グローバル化に向けて、京都大学はもっと英語での講義を増やすべきであること (院・エネ科)
- ◆京都大学は真の国際的な大学であることを売りにしているが、実際は授業や学会に関する情報が英語で提供されることは稀である (院・地環)
- ◆博士課程の学生に対して英語でのセミナーや講義がない！ (院・理)
- ◆英語で行われる講義がほとんどないので、外国人学生にとってはとても難しい (研究生・国際セ)
- ◆英語で行う授業がもっとあればよい (研究生・工)
- ◆教授たちが基本的には英語で講義を行えないこと (KUINEP・工)
- ◆ほとんどの授業が退屈。何人かの教授たちはあまり上手でない英語を話すし、ネイティブでないと理解するのが難しい。レポートが多すぎる (KUINEP・不明)

【設備・環境・支援に関する不満】

〔施設・設備一般〕

- ◆施設などの閉館／利用不能な時間帯が多い (院・文)
- ◆期末テスト前後、自習室が不足する (院・法)
- ◆学生が利用できる教室がちょっと少ない気がしますが (院・法)
- ◆研究室と休憩する所が少ない (院・経)
- ◆十分な場所がない。特に事務室 (院・工)
- ◆場所が限られている (院・工)
- ◆研究室の机が一人当たり一個にならないし、せまくて研究室で勉強できない (院・人環)
- ◆実験のための場所が十分でないこと (院・エネ科)
- ◆建物が古い (院・情報)
- ◆食堂がない (研究生・国際セ)
- ◆建物内に食事をしたりくつろいだり勉強したり交流したりする場所が十分にはないこと。大きな学生のラウンジの建物があるべきだ (研究生・国際セ)
- ◆研究生の研究室がない (研究生・経)
- ◆キャンパス内の標示が少ない。ハンドソープがないトイレもある (研究生・情報)
- ◆手入れの行き届いていない建物があり、特にトイレと講義室が不快だ。研究室は小さいし混み合っている (研究生・情報)
- ◆トイレをもうすこし明るく、きれいにしてほしい (研究生・ウイルス研)

〔インターネット・パソコン〕

- ◆インターネットのファイアウォールの設定が高すぎて、学外の画像資料にアクセスしにくい (院・法)
- ◆パソコンの数が少ない。研究室にも設置して欲しいです (院・法)
- ◆コンピュータが古すぎた (院・経)
- ◆メディアセンターからのコンピュータのアクセスがばかづけている (院・医)
- ◆コンピュータ設備 (キャンパスのネットワーク、特に電子メールシステム) (院・工)
- ◆ネットのスピードとパソコンの性能。アップグレードが遅い (院・エネ科)
- ◆コンピュータの性能が低く、インターネットの速度がとても遅い (院・エネ科)
- ◆学内ワイヤレスインターネットや図書館内のインターネット (ラップトップ) 設備が信じられないくらい足りない (院・地環)
- ◆学生が使えるコンピュータが少ないのが残念。母国では、学生が買うのではなく、研究のために与え

られている (研究生・医)

- ◆コンピュータのサービスが悪い、外部にアクセス可能なサービスがない、コンピュータ・サービスのスタッフが誰か分からず、ヘルプデスクがない (研究生・情報)
- ◆無線 LAN につながれる場合が少ない。それに電波がかなり弱い (研究生・情報)
- ◆ネットワーク管理が不必要な問題を引き起こすことがある。学生用のコンピュータが古い (KUINEP・理)
- ◆IT 設備、IT システム、研究のための IT の援助が乏しい (KUINEP・工)

[事務手続き・書類・情報 1 : 全般]

- ◆国際交流センターや留学生課の事務サービスなどのことがよくわからない。こういう機構は私費留学生にとって働きがあるからかも知れない。私は今年の新入生だけど、国際交流センター留学生課の事務サービスについて何も知らない。自分が京大に入ってから、留学生じゃなくて日本人学生として見られると感じる。何か悩みや心配事があっても相談する人もいない。本当に苦しいと思う (学部・工)
- ◆国際交流センターの留学生相談制度はまだ充分ではないと考える。留学生は様々な国から来ているので、それぞれの経済能力をもっと考えて、より多くの情報を積極的に提供していただきたい (院・文)
- ◆サービスが良くないです。カウンセリング室行って、多対一の交流になっちゃって、はずかしくて、こわい感じで、交流の余裕がなくなっていました (院・経)
- ◆窓口の態度が冷たいし、学生に対するサポートが足りない (院・経)
- ◆大学での事務書類が多すぎる。同じ情報に関する書類を 3 回以上も違う事務に提出しなければいけないこともあった (院・人環)
- ◆事務サービスをもう少し積極的に、丁寧にしてほしい (院・人環)
- ◆特に私の学科では、西洋人の学生があまりいない気がする。そのため記載などの基準や西洋人に対する対応が不十分ないように見受けられる (院・情報)
- ◆何を提供しているのか分からない部署がある。きっと自分のせいだろう (院・情報)
- ◆より多くの情報がすぐに入手できると良い。例えば「How to」の情報 (研究生・国際セ)
- ◆手続きが多すぎる (研究生・農)
- ◆「ひどい」指導管理。留学生課の人たちは不親切で、ある人は奨学金に関する嘘の情報を教えた。講義に関する情報提供については「本当にひどい」！私はカリキュラムやシラバスを送ってもらったことがない！ (研究生・人文研)
- ◆留学生課の事務は時々助けになってくれない (KUINEP・法)

[事務手続き・書類・情報 2 : 英語での情報提供]

- ◆特に学部レベルにおいて英語で得られる情報の少なさ (留学生課の職員の方がずっと役に立つ) (院・医)
- ◆ほとんどの情報は日本語であること (院・医)
- ◆書類などの多くが日本語だけで書かれている。すべての書類をせめて日本語と英語の 2 言語で書いて欲しい (院・工)
- ◆留学生のためのメール設備が整っていないこと。2 年間のうち留学生課から英語でメールをもらったことはなく、日本語だけだった。京都大学がもっと国際的になるためには、このことを気にかけていくべきだ (院・工)
- ◆留学生に関連する情報であっても日本語だけで書かれている場合が多い (院・工)
- ◆京都大学は情報を英語で提供してくれれば良い (院・工)
- ◆少なくとも私のいるキャンパスでは留学生への情報が十分ではない。多くの情報を受け取りはするが、日本語なので理解できない。例：講義の評価が日本で書かれている (院・工)
- ◆英語での案内 (院・農)
- ◆与えられる情報が日本語に限られていること (院・農)

- ◆情報の多くが日本語だけでしか利用できないので、分かりにくい (院・AA)
- ◆公文書や申込用紙などがほとんど日本語で書いてあること (院・情報)
- ◆手続きや事務で英語が使えないこと (院・情報)
- ◆学術的な案内書のいくつかは日本語しか載っていないこと (院・生命科学)
- ◆重要な書類はすべて日本語で書かれているので、常に誰かの助けが必要になってしまうこと (院・地環)
- ◆研究科内での情報やお知らせを英語で書いてくれればもっと良くなる (院・霊長類研)
- ◆情報が日本語のみで発行されることがあるので、留学生にとっては何が起きているのかを知ることができない (研究生・薬)

[図書館のシステム・蔵書]

- ◆図書館の印刷枚数は非常に少ない (学部・経)
- ◆図書館が 24 時間ではないということ (学部・経)
- ◆桂キャンパスの図書室の本は吉田に送ってもらえないこと (学部・工)
- ◆図書館が 10 時までですが、もっとながく開いてほしいです (学部・農)
- ◆図書館が 22 時までしか開いてないのは不満 (韓国の大学図書館は 24 時間使える所が多い) (学部・農)
- ◆図書館の利用法がばかっている (院・医)
- ◆付属図書館の蔵書検索システムは使いにくすぎます。桂キャンパスで吉田キャンパスの本を借りたい場合、不便がたくさんあります (院・工)
- ◆英語を媒体とした書籍を図書館にもっと十分に揃えるべき (院・工)
- ◆図書館に英語の書籍が十分でないこと (院・農)
- ◆図書館 (室) の閉館時間が早い点 (院・人環)
- ◆図書館の書籍の貸し出し期間が短い (院・人環)
- ◆新しい書籍は図書館に保管されていること (院・人環)
- ◆図書館のシステムが古すぎる。いくつかの図書館は閉まっている日もあって、これはばかっているし不親切だ！ (院・人環)
- ◆大学院生の図書の貸出期間が短いです (院・エネ科)
- ◆図書館の新書購入はほとんどしていない。図書館の席が足りない (院・情報)
- ◆京都大学の論文講読は十分でないから (院・霊長類研)
- ◆留学生はほんの短期間しか書籍を借りられないこと (だいたい 1 週間) (研究生・国際セ)
- ◆書籍の貸出期間が 2 週間しかないこと (研究生・国際セ)
- ◆唯一の問題は、所属していない図書館からは限られた数の書籍しか借りられない。また、教授は 1 年以上も借りられるということも納得がいかない (研究生・工)
- ◆図書館の電子ジャーナルのアクセスの講義が月に 1 回しか行われないこと (研究生・農)
- ◆図書館の利用時間 (短い) (KUINEP・不明)

[奨学金]

- ◆奨学金が充分ではない (院・法) (院・経) (院・情報)
- ◆一般入試で工学部に入って嬉しかったが、学部で 1 年生通年で奨学金を申請することはできないと言われて、やや不満。仕方なく、支出をなるべく減らして生活を送っています (学部・工)
- ◆奨学金の申請や推薦は、不透明かつ不公正！学科によって締め切りをすぎた申請を受け入れたり、受け入れられなかったりする (学部・工)
- ◆奨学金 (院・文)
- ◆奨学金の国別の制限が厳しい (院・法)
- ◆留学生への資金援助が少ない (院・経)
- ◆奨学金の基準が学術成績よりも日本語能力に左右されていること (院・工)

- ◆工学研究科・留学生の奨学金が不満だ。とても取りにくいから（院・工）
- ◆厳しくなっている授業料免除制度や奨学金制度に対して、不安を感じております（院・農）
- ◆奨学金、奨励金などもう少し充実してほしい。少なくとも選抜（申込み）の仕組み（同時に2つは申し込めないetc）を変えてほしい（院・人環）

【言語・コミュニケーション・人的支援】

- ◆日本人学生との交流する機会が少ない（院・文）（院・経）（院・工）（院・農）（研究生・国際セ）（研究生・法）（研究生・経）（研究生・理）（研究生・医）
- ◆地域との交流が不十分（院・経）（院・農）（院・人環）（院・エネ科）（研究生・薬）
- ◆学生間の交流が少ない（院・法）（院・工）
- ◆チューターということは自分より日本に長い間住んでいる人でなければならないと思います。それでサポートができると思います。その前（昨年）のチューターは日本の学生だったけど、お金だけほしかったみたいです。ぼくの同期生、先輩みんながチューターに不満を感じていると思います。ちゃんとしたチューターを選んでください（学部・工）
- ◆チューターのサポート（学部・工）
- ◆あまり留学生との交流がないと思います（学部・農）
- ◆チューター以外、勉強について相談にのってもらう先生はいません（学部・農）
- ◆チューターさんがいなかった（学部・農）
- ◆論文を日本語で書かなければならないので、自分の研究分野よりも、日本語の文法に時間や労力を費やさなければならないこと（院・文）
- ◆女性で、おまけに留学生である以上、研究室やゼミでの無力を感じつつ、日々周囲から疎外されている（院・経）
- ◆就職活動は自分でやらないと支援してくれない（院・経）
- ◆留学生と日本人の研究と勉強上の交流（院・経）
- ◆英語を十分に話せない学生が多い（学生として世界中のどこでも必要なことなのに）（院・理）
- ◆研究者になるための指導は十分ですが、大学教員になるための指導は少ないです（院・理）
- ◆チューター制度は1年以上続けるべきだ（院・理）
- ◆正直に言うと、日本のトップレベルの大学なのに、コミュニケーションの雰囲気が悪く、講座内でのコミュニケーションやディスカッションは、西洋の大学と比較すると二流だ（院・理）
- ◆時々英語でのコミュニケーション（院・理）
- ◆すべてが日本語であること。いくらかは英語であってほしい（院・医）
- ◆百家争鳴、自分の意見を述べるべきである。学生たちがあまり自分の考え方を述べないし、教授の違う意見への態度が理解できない（院・医）
- ◆日本語能力の欠けている外国人留学生はなかなか仲間に入りきれない。一部の先生が留学生に偏見を持っている（院・医）
- ◆個人のコミュニケーションの乏しさ（院・医）
- ◆留学生と日本人学生間の交流は少ないです。留学生間の交流も少ないです（院・薬）
- ◆薬学部では、就職活動や奨学金などに関して大学側からの支援が足りないように感じます（院・薬）
- ◆交流（院・薬）
- ◆ほとんどの授業や活動で英語が使えないこと（院・薬）
- ◆日本語がうまく話せないこと（院・工）
- ◆研究室の人間関係や指導教員の指導に少し不満を感じたりすることがある（院・工）
- ◆英語はあんまり使っていない（院・工）
- ◆英語の教科書はちょっと少ないと思う（院・工）
- ◆日本人学生や地域の人たちともっとコミュニケーションをとる必要がある（院・工）
- ◆実際のところ、私は日本語を勉強することを拒否しなかったが、日本人は英語を話す人が嫌いなよう

だ。日本人はそういった点ではあまり良くないと思う (院・工)

- ◆先輩の指導 (院・工)
- ◆コミュニケーション不足 (院・工)
- ◆ゼミなどで英語を使うこと (院・農)
- ◆研究員や研究室の人たちとのコミュニケーション不足 (院・農)
- ◆研究室間の交流 (院・農)
- ◆学生たちがあまり話好きではなく、彼らに遠慮なく喋ってもらうには努力が必要であること (院・農)
- ◆チューター制度 (院・農)
- ◆英語でのコミュニケーション (院・農)
- ◆日本語にまだうまくなれなかった段階では、日本人の学生との交流が大変だった。皆 (日本人学生) あまり話を聞かなかったです。それも日本語の勉強を促進する動力かもしれません (院・人環)
- ◆日本人学生があまり英語で会話できないこと (院・エネ科)
- ◆新しく来た人、特に日本語が分からない人には説明が不十分 (院・エネ科)
- ◆仲間の学生たちとの言葉の違い (院・エネ科)
- ◆チューターのサポートをうけたことがない。留学生相談室といっても、先生中心では意味がない (院・エネ科)
- ◆指導教員の何人かは研究をする上での英語が十分なレベルに達していない人がいる (院・エネ科)
- ◆指導教員はもっと学生と話をする時間をとるべきであり、研究室の管理のバランスを考えるべき (院・エネ科)
- ◆学生同士のフィードバックややり取りがもう少し必要 (院・エネ科)
- ◆ゼミのほとんどが日本語なので、理解するのが難しいこと (院・エネ科)
- ◆ゼミやワークショップで日本語を使うのは留学生にとっては良くない。理解できない (院・情報)
- ◆学生と先生の関わりが少ない (院・地環)
- ◆言葉の壁があるので自分の望む程度には研究の話し合いができないこと (院・地環)
- ◆自分が選んだプログラムは英語で受けられるプログラムだと思っていた。誤解を招く情報だった。京都に住むことは嬉しいし、研究室のみんなは素晴らしい。しかし日本語ができないという壁がある。ここでの生活を送るにあたって日本語の知識が非常に重要であるということを明確にした方がいいと思う (院・地環)
- ◆霊長類研究所には英語の使える組織がないから (院・霊長類研)
- ◆スタッフは英語でコミュニケーションがとれるべきだ (研究生・国際セ)
- ◆研究室の日本人学生はあまり私と話してくれない。しかしおそらく彼らにとっては英語で話すことが居心地の良いものではないことだと理解した。それにしても孤独だ (研究生・国際セ)
- ◆一般的に英語力が乏しいこと、日本人学生とのコミュニケーションが不可能であること (研究生・国際セ)
- ◆英語が話されていないので、学校の図書館や生協、事務を利用したいときは問題が多かった。留学生が直面する問題について、チューターはあまり知らなかった (研究生・国際セ)
- ◆①日本人学生との交流が少ないこと②チューターのサポートが全然ないこと (研究生・文)
- ◆チューターがないし、大学の手続など、いろいろなことについて聞く人もないし、教える人もない。来日ばかりの時、茫然としていた (研究生・経)
- ◆就活の支援が足りないような気がする (研究生・経)
- ◆日本語の能力があまりないので、研究の話し合いに参加することが非常に難しい (研究生・医, 化研)
- ◆話し合いはほとんど日本語で行われるのは理解するのが難しいこと (研究生・医)
- ◆自身の日本語ではなんでも、だれとでも交流できないこと (研究生・工)
- ◆文化的相違のために研究グループの中で衝突が起こることもあるが、そんなにひどくはない (研究生・工)
- ◆特に研究室の日本人学生とのやりとり (研究生・工)

- ◆日本語でのコミュニケーションは難しく、はっきりと理解するのが難しい (研究生・工)
- ◆時々教授が学生話を聞いていないことがある (研究生・農)
- ◆教授は学生に対してもっと注意を傾けるべき (研究生・農)
- ◆チューターがいないです (研究生・農)
- ◆研究においてひどく孤独感を感じる (研究生・情報)
- ◆交流の機会があるが、まだ十分ではないと思う (研究生・生命科学)
- ◆日本語の勉強は不便です。日本人と交流するのは、一寸むずかしいと思う (研究生・原子炉実験所)
- ◆チューターが英語を話せないこと (KUINEP・工)
- ◆学部事務の職員が時々つらく当たっているように思えた (一般交換・経)

【その他】

- ◆食堂は人が多い (学部・工)
- ◆三つのキャンパスの間の距離が遠い点です (学部・工)
- ◆他大学にくらべて、個人に対する研究費などがすくない。たとえば同志社大学の場合、博士課程は研究費が出るらしいですよ！ (院・文)
- ◆最近研究の方で精一杯で、他のことにあまり関心を持たなくなってきました (院・文)
- ◆あまり新しく人と会えないこと (院・文)
- ◆学生寮など (院・文)
- ◆交流の内容とか、より豊富にしていればうれしいと思います (院・法)
- ◆最近、キャンパス内で暴走族が現れた点。学生たちがオートバイを所々走らせている点。学生たちのマナーが悪い点 (自由の意味を良く分かってないらしい) (院・法)
- ◆留学生のニーズがわかっていない (院・経)
- ◆霊長類研究所には、外国人研究者はXX人以上います。ただ本部から離れていることに、不便を感じます (院・理)
- ◆京都大学の学生寮は汚い (院・医)
- ◆もし (指導教員や学生の) 助けがなければ、学科や学部の事務で処理しなければならなかっただろう (院・薬)
- ◆留学生が留学生として扱われていない (院・工)
- ◆吉田から桂までのシャトルバスの時刻表 (院・工)
- ◆宇治キャンパスは都市部から完全に離れているので、研究以外の生活がない (院・工)
- ◆桂キャンパスは市街地からとても離れているので、セブンイレブンやファミリーマートなどのコンビニエンスストアが必要 (院・工)
- ◆桂キャンパスはあまり好きではない。行くのが大変で、店やレストランが少ない。特に早朝と午後 5、6 時以降 (院・工)
- ◆ (桂) 食堂が少ない (院・工)
- ◆自分の研究だけに没頭する (院・工)
- ◆ (全然) 満足していない (院・工)
- ◆桂には留学生寮がないこと (院・工)
- ◆工学研究科は桂に移りましたが、吉田に残っている部分もあります。今吉田キャンパスにいますが、週 1 回以上桂へ授業に行きます。ちょっと不便です。(大学と関係ないですが) スクールバスがなくなったら、桂から吉田にもどるのには時間がかかります (院・工)
- ◆桂キャンパスなので、生活には非常に不便。桂キャンパスには学生寮はないですか？ (院・工)
- ◆授業のため、宇治と桂の移動はしんどい (院・工)
- ◆ジムがない。交通が不便 (院・工)

- ◆今は宇治キャンパスにいますが、授業や講義などは全部本部にある。行く時はバスが非常に混んでいる。授業が終わったら、バスもうない。すごく不便だと思います（院・農）
- ◆文化に馴染むのは幾分難しいこともある。しかしまだ快適に過ごしている（院・農）
- ◆家から京都大学までは遠すぎるので、大学へ行くまでに時間がかかること（院・農）
- ◆東大と厚生福利の差、あまりにも大きい！（院・人環）
- ◆すべての院において女性の教授がすぐにでも必要である（院・エネ科）
- ◆生活上の支援が悪いです（院・エネ科）
- ◆教授の案内はもっと積極的にやるべきだ（この事実に関して非常に懸念している人も何人かはいるけれど）（院・エネ科）
- ◆キャンパスが分かれていること（院・エネ科）
- ◆設備投資に関しては申し分ないが、大学が学生の生活費のための固定給を出してくれればいいと思う（院・生命科学）
- ◆冬（研究生・国際セ）
- ◆研究生だから、時々利用できないところがある。例えば学部の図書館（研究生・国際セ）
- ◆桂キャンパスは遠すぎる。交通もあまり良くない。シャトルバスは早く止まりすぎる（研究生・国際セ）
- ◆学生寮だけではなく、京都の他の地域に移ることについてアドバイスをもらえればとても助かる（研究生・国際セ）
- ◆文化的相違に慣れるのに苦労することがある（研究生・理）
- ◆工学研究科は桂キャンパスにあるので、毎日坂を登るのは大変です（研究生・工）
- ◆（KUINEP）留学生はKUINEPの建物にいたので日本人と出会う機会がほとんどない（KUINEP・不明）
- ◆時間割りを自分で決めたかったです（日研・国際セ）
- ◆留学生はいろいろな面で非正規生の扱いをされて、大学に対して所属感がない。日研生プログラムは授業を選びようがない（日研・国際セ）

【あまり不満はない】

- ◆ 特にない (学部・経) (学部・工) (学部・工) (学部・工) (学部・工) (学部・工) (学部・工) (学部・工) (学部・工) (学部・工) (学部・工) (学部・農) (院・文) (院・法) (院・経) (院・経) (院・経) (院・理) (院・医) (院・医) (院・医) (院・医) (院・薬) (院・薬) (院・工) (院・工) (院・工) (院・工) (院・工) (院・工) (院・工) (院・工) (院・工) (院・工) (院・農) (院・農) (院・人環) (院・人環) (院・人環) (院・人環) (院・人環) (院・人環) (院・エネ科) (院・エネ科) (院・エネ科) (院・エネ科) (院・エネ科) (院・AA) (院・情報) (院・情報) (院・情報) (院・情報) (院・情報) (院・情報) (院・情報) (院・地環) (院・不明) (院・不明) (研究生・国際セ) (研究生・国際セ) (研究生・国際セ) (研究生・国際セ) (研究生・文) (研究生・文) (研究生・文) (研究生・文) (研究生・文) (研究生・教育) (研究生・経) (研究生・経) (研究生・経) (研究生・経) (研究生・経済研) (研究生・理) (研究生・工) (研究生・工) (研究生・エネ科) (研究生・エネ科) (研究生・エネ科) (研究生・エネ科) (研究生・人文研) (研究生・防災研) (研究生・防災研) (日研・国際セ) (特研・農)
- ◆今のところない (学部・農) (院・人環) (院・情報)
- ◆何もない！京都大学での教育や研究の環境には、初日から今日にいたるまで非常に満足している (院・生命科学)
- ◆京都大学には満足している。最高の決断をした (研究生・国際セ)
- ◆ほとんど満足しています (研究生・国際セ)
- ◆まだ自分の研究を始めていないので、答えられない (研究生・理)

問 40 - b. 心配事や悩みは解決できていますか。心配事や悩みに関して、何かお書きになりたいことがあれば、御自由にお書きください。(230 ケース)

【解決できていない】

- ◆いいえ (院・工) (院・情報)
- ◆多分、解決できない (院・工)
- ◆できていません (院・人環)
- ◆解決中である (院・情報)
- ◆残念ながら京都大学の助けでは解決していない (研究生・人文研)

【生活費・学費】

- ◆高い日本の物価で、生活のことを時々ちょっと心配している (学部・工)
- ◆私は今、奨学金を持っていますが、来年はどうなるか分かりません。京都大学の奨学金がちょっと少ないかなと考えています (学部・工)
- ◆私費留学生なので、学費を払うのがきついです。全額免除を受けられればいいと思います (学部・工)
- ◆生活のためのアルバイトと勉強の矛盾 (学部・工)
- ◆授業料どう払います！ (学部・工)
- ◆経済的な問題があり、現在も解決できていない (院・文)
- ◆勉強とバイトを両立するのが難しいですが、個人の状況によって、生活上にちょっとだけでも援助をもらえるならいいと思います (院・法)
- ◆奨学金のことですね。日本語学校にいる時、成績、勉強の態度などで奨学金をもらっていたが、京都大学に入ってから、一度ももらったことがない。やむをえず、アルバイトを増やしています。生活と学習に余裕をもてなくなりました。もっと研究に時間を注ぎたいけれども、非常に残念に思う。その反面、人間として強くなっていくかも (院・法)
- ◆夫と同時に入学したため、入学費と授業料を払うので、貯金を全部使う他に、借金もしなければならぬ。二人とも奨学金がないから、勉強も忙しくて、バイトではお金が稼げなくて、これからの生活と学業を、どう続けるか、すごく悩んでいます。京大の奨学金制度が不公平と不備だと考えています。例としては、私の学部の学習奨励費は全部、社会人入学の方に与えた。でも、その方は、入学成績もないし、収入・貯金もあるし、学校の判断・評価基準は一体何でしょう！！？？ (院・経)
- ◆授業料の負担が大きく、勉強に集中できない時がある。逆に早く仕事につきたいと思うようになる (院・経)
- ◆お金がないと研究を続けることができない (院・経)
- ◆奨学金が毎年減っていることを悩んでいる。特に今年ことのほか減った。奨学金が足りない感じがした。研究のため、アルバイトをまだしていないので、以前の貯金を使っている (院・理)
- ◆住宅が高いこと (院・薬)
- ◆来年、妻と一緒に住みたいが、まだ奨学金を受けることができなくて、とても心配になる (院・工)
- ◆経済的な問題が心配。家族も多く、生活費がかかる。学費が十分でない (院・工)
- ◆早めに奨学金の援助をもらいたい。現在博士課程で、研究調査をよく行いますので、経済面の問題で非常に悩んでいます (院・農)
- ◆文系は奨学金を受けにくいので、進学したいが、学問に専念することと生活費などをかせぐことをなかなか両立できない (院・人環)
- ◆研究に関することは先生と相談して解決できる。生活上の悩みは全て経済関係で、友達につつこんで話しをしても解決できなく、ただの情緒緩和。両親は授業料のみの負担だけでもそろそろ限界で、奨学金をもらえない以上、自分でバイトをするしかない。心身健康の問題は、心配をかけたくないので、決して両親と相談しない (院・人環)

- ◆専門の研究に関しては経費、日本での生活に関しては物価、心身の健康に関しては野菜が高いこと。京大にいる4年半、奨学金は一回ももらえていないです（院・人環）
- ◆解決したのもあるし、解決できていないものもあります。今一番悩んでいるのは人環の文系学生は奨学金をほとんど受けていないことです。ちょっと不公平な感じ（院・人環）
- ◆今は生活がきついので、今年まだ奨学金がもらえるかどうか心配しています（院・エネ科）
- ◆忙しいのに、奨学金がないと大量の時間バイトをしなければならない。研究テーマがなかなか決まらない。就職に関していろいろ（院・情報）
- ◆研究と婚約者との関係の継続についての問題。ほとんど経済面での問題（院・生命科学）
- ◆経済問題（研究生・法）
- ◆国際交流会館のような留学生が住める施設をもっと増やしてほしい。そして安い家賃で提供すること（研究生・ウイルス研）

【授業・研究・卒業後の進路】

- ◆はい。しかしまだ研究に関しては非常に悩んでいる（学部・文）
- ◆専門の研究に関して、どこが一番自分に合っているか。将来の進路に役立つか、うまくいけるか。人間関係に関して、知らない人と交流しにくい。嫌いな人と会いたくない。彼氏のできた親友とだんだん離れていく。日本での生活に関して、アルバイト・家賃。心身の健康に関して、生活リズム・目が悪くなった。一人暮らしなら、問題はあると覚悟している。別に解決しなければならないわけではないと思う（学部・工）
- ◆1、授業の内容が60%理解しにくい。2、京都大学で私費留学生になり、住める寮がない。3、日本人学生と交流するチャンスがほとんどない。4、実は今、授業の内容はほとんど自分で勉強している。苦しいですよ（学部・工）
- ◆就職・博士号の取得（院・法）
- ◆将来の進路（院・法）
- ◆指導教員との関係がうまくいっていないと日本での研究もうまくいけないと思う。しかし、留学生がうまくしようと努力しても、必ずしもうまくいけるのではない（院・経）
- ◆就職が難しい（院・経）
- ◆卒業後にどこで何をするかということはあるが、ほとんど悩みはない（院・理）
- ◆日本にいる私費留学生や医学研究者にとって勉強（卒業）及び生活の圧力は本当に大きい（院・医）
- ◆博士課程に行くけど、指導教員がもうすぐ定年退官になること。また自分が困った時、同情してくれないこと（院・薬）
- ◆将来のことについて悩みがありますが、ポジティブで行きます（院・工）
- ◆博士まで行く予定ですけど、日本では女性の博士、しかも外国人は就職しにくいかな、など。すごく心配しています（院・農）
- ◆将来や経歴、仕事について悩んでいる。解決するために最善を尽くすつもりだ（院・農）
- ◆大学院を卒業できるかどうかは指導教員との関係次第であることを心配して悩んでいる（院・人環）
- ◆私の研究室はメインキャンパスから遠くて孤立した場所にある。研究や社会的な問題があるとき、話ができそうな相手が見つからない。ここにいる人はみんな忙しい！（院・エネ科）
- ◆研究に関してはまだ議論中のものもある（院・エネ科）
- ◆まだ解決できていません。今研究生として勉強しているし、来年2月にテストを受けるから、アルバイトをする時間も全然ないです。学費とか、生活費のため悩んでいます（院・地環）
- ◆研究交流が少ない（院・地環）
- ◆向こうの大学を卒業したら、また京大に戻って、院に入りたいと思っていますが、どうすればいいかは分からないので、教えていただきたいです（研究生・国際セ）
- ◆一人で受験勉強をしているので、問題点があれば教えてくれる人がない（研究生・経）
- ◆正式な院生に受かるために頑張っています。やはり、今専門の研究に関する心配事です（研究生・経）

- ◆チューターがいないと、勉強について、ちょっと不便だと思います（研究生・経済研）
- ◆入学試験が心配。病気になったらどうすればいいか（研究生・医）
- ◆研究生なので、入学試験に合格できるかどうか、入学したら勉強と研究をうまくできるかどうか（研究生・工）
- ◆入学試験（研究生・エネ科）（研究生・エネ科）

【言語・コミュニケーション】

- ◆日本人の話しは、たまに入りにくい。かつ考え方の違いで、自分の行動がふさわしいか、という不安（学部・工）
- ◆母語やせめて英語であればカウンセリングが役に立つだろうが、日本語だとそれができない（院・文）
- ◆ほとんどは。ただ、言葉のせいで解決できていないこともあり、文化や環境の違いの問題もある（院・理）
- ◆外国人学生にとっては（税金や健康保険を含む）日本語の郵便を扱うことはやや難しい。私は秘書が助けになってくれることができたので運が良かった（院・理）
- ◆はい、今まですべての問題を解決できています。しかし、日本語に関連した問題は難しいことがあります。例：保険、家の契約、チケットなど（院・工）
- ◆部屋を借りる時、保証人を探しにくい（院・工）
- ◆論文に関する連絡事項が日本語のみである（院・工）
- ◆解決できているのもありますし、できていないのもあります。日本語能力、日本への認識をもっと上げたいと思います（院・工）
- ◆はい。いつも（同じ国出身の）友人たちと話したり、（母国にいる）両親と話したりしている。日本人の学生と話すのは、文化や考え方の違いがあるので少し難しいことがある。実際のところ、悩みというのは日本人学生との関係についてである（院・工）
- ◆（同じ研究室の）日本人の学生とうまくいってないこと（院・エネ科）
- ◆控えめに言っても、修士の学生で外国人であることは、日本の大学には慣れにくいストレスを強く感じる（院・情報）
- ◆同じ建物の研究室の人たちがお互いに挨拶したり話をしないこと。自分の国とは違う（院・不明）
- ◆完全には解決していない。大学という文化・規範・体制ではコミュニケーションが不足している。問題や失敗が起こった後にだけ、そのことを知らされ、事前に知らされるということはない。そうすべきでなかったということ、後になってからしか知らされない（院・不明）
- ◆主な問題は、私が会った人のほとんどが英語を話せず、理解すらできない人もいることだ（研究生・国際セ）
- ◆とても孤独な期間だった。友達ができたが、彼らと会うためのお金と時間と労力がなかった。みんな忙しすぎる（研究生・国際セ）
- ◆はい。今までは日本人、特に研究室の日本人の友達と日本語でコミュニケーションをとることで悩んでいた（研究生・工）
- ◆日本人の学生と友達になりにくい（研究生・工）
- ◆①チューターがいらない②日本語がまだまだうまくできない（研究生・農）
- ◆日常生活で、日本語で交流するのが下手です。進学したいですけど、お金の問題もある（研究生・農）
- ◆日本人と交流のある先生の考え方は、たまに理解しにくいです（研究生・原子炉）
- ◆日本人の生活に溶け込みにくい。各国の留学生との付き合いは問題がない。主には日本語がうまくないからである（KUINEP・経）
- ◆日本社会は何かと変わっていて不安になる（KUINEP・経）
- ◆留学生の中には日本語が話せない人が多すぎて、自分は英語ができないので、それでみんなが集まる場で落ち込んでしまうことが多い。わざわざ日本まで来て英語ばかりしゃべってもったいない。彼らには日本語を習うやる気がまるでなさそうだ（日研・国際セ）

- ◆ほとんど解決済み。日本という全く違う文化の中で生活やコミュニケーションの違いに最初は戸惑ったが親密に気をかけてくれる指導教員や人々のおかげで楽になった（一般交換・経）

【その他】

- ◆自分の日本語能力の乏しさにまだ悩んでいる（学部・経）
- ◆全然解決していない。ア、学力低下、成績悪い、研究が難しそう イ、日本人の友達を増やしたかった ウ、奨学金・奨学金・奨学金・家賃・ゴキブリ エ、過呼吸、心理状態が悪い、生活リズムがくずれている（学部・工）
- ◆留学ってやっぱりむずかしいものですね（学部・農）
- ◆ある程度解決できました。まだ心配していることとしては、①学生寮（古い）に住んでいるから、万が一地震があれば、倒れそうなので、ちょっと心配です。②日本で人間ドックを受けたいのですが、なかなか安くていいところの情報がないので紹介してほしいです（学部・農）
- ◆簡単に解決できるなら、悩まなくてもいいだろう（学部・農）
- ◆根本的に解決することができないかもしれない。①経済的プレッシャー②日本語のレベルがまだ不十分だと思う（院・文）
- ◆勉強とアルバイトのバランスについてよく悩みますが、頑張っているうちに解決しつつ、です（院・法）
- ◆ある程度解決しているが、個人的な問題を他の人に打ち明けるのは簡単なことではない（院・理）
- ◆所属する研究センターのオフィスの人たち、特に指導教員の秘書（院・理）
- ◆はい。しかし日本の人間関係は権威者たちとそのことについて話すことは難しい（院・理）
- ◆勉強すればできる（院・工）
- ◆自分で解決できません。カウンセリングセンターに行ってもなかなか効果がありません。もしよければ、外の病院のカウンセリングへ行くためのサポートがもらいたいです（院・工）
- ◆日光や花粉などによる目や肌の季節的な病気（院・工）
- ◆はい、もちろん。何事も自分で解決しなければいけない。私の悩みはほとんどが研究のことと家族のことだ（院・工）
- ◆地震が心配で、仮に地震が起こったらどうすればいいかわからない（院・工）
- ◆この調査は役に立つのか？（院・工）
- ◆日本に長く住んでいる友人たちと話す（院・工）
- ◆問題があるときはたいい教授が力になってくれる（院・農）
- ◆大体自分で何とかストレス解消をしています。学校では、研究・就職別々の相談所、或いはカウンセラーがいてくれれば幸いです。後、相談に乗りやすい雰囲気作りを工夫してほしいです（院・人環）
- ◆専門家と相談してみたい（院・人環）
- ◆日本に来たとき、研究室の秘書がいろいろな問題を扱ってくれた（院・エネ科）
- ◆すべての問題が解決しているわけではないが、支えになってくれている友人が日本にいる（院・エネ科）
- ◆自業自得の考え方で、自分の問題を自分で解決しています（院・情報）
- ◆解決できることもあるし、そうでない時もある（院・地環）
- ◆すべてではないが、日に日に慣れてきている。大学に来て最初の年は相談できる人もなく、とても厳しい状況だった（院・地環）
- ◆全てが解決したわけではない。例えば、ゴミ（靴や化学製品の捨て方）、日本の医療制度（研究生・国際セ）
- ◆母国での友人（研究生・国際セ）
- ◆私費留学生にはチューターがないこと（研究生・文）
- ◆チューターはとても頼りになる／寮で問題が起こった時、寮監がいなかったので何をどうすべきかわからなかった！（研究生・文）

- ◆アルバイトの申請をすること（研究生・経）
- ◆だいたいのは解決している。ただ問題なのは、女性の場合、男性の先生と個人的なことを話し合うことは難しい（研究生・医）
- ◆はい。京都大学に来てから、交通事故など日本人とのトラブルの解決法について教えられるべきだ（研究生・医）
- ◆30代になったら、心配事や悩みがたぶん自分で解けます（研究生・工）
- ◆チューターがない。いろいろな相談ができない（研究生・情報）
- ◆留学生は京都大学内の保健所について知らされるべきだ。ほとんどの人がその利用法を知らない（KUINEP・総人）
- ◆自分の体の免疫性がおとろえた気がする（日研・国際セ）
- ◆相談して解決できるようなものは解決できています（一般交換・総人）

【悩みは解決できている】

[悩みは解決できている]

- ◆はい、解決できています（学部・経）（院・文）（院・文）（院・文）（院・法）（院・経）（院・理）（院・理）（院・医）（院・医）（院・医）（院・薬）（院・工）（院・工）（院・工）（院・工）（院・工）（院・工）（院・工）（院・工）（院・農）（院・農）（院・農）（院・農）（院・人環）（院・人環）（院・エネ科）（院・エネ科）（院・AA）（院・AA）（院・地環）（院・再生医研）（院・霊長類研）（院・霊長類研）（研究生・経）（研究生・情報）（研究生・国際セ）（研究生・国際セ）（研究生・国際セ）（研究生・国際セ）（研究生・国際セ）（KUINEP・経）（KUINEP・不明）（日研・国際セ）（日研・国際セ）
- ◆はい。指導教員がいつも助けてくれる（院・工）
- ◆はい。だいたいいつも友人たちと話して解決している（院・エネ科）
- ◆はい。京都大学で勉強している同郷の友人がいて、いつも話をしながら悩みを解決しています（院・情報）
- ◆今のところ全て順調（研究生・理）
- ◆はい。チューターに感謝します（研究生・医）

[悩みはあるにはあるが、なんとか解決できた。／なんとか解決できそう。]

- ◆最後の最後になんとなくできます（学部・経）
- ◆あるにはあるのですが、なんとか解決できると思う（学部・工）
- ◆自分で解決できる（院・文）
- ◆基本的に自己解決（院・理）
- ◆教授から良いアドバイスをもらった（院・医）
- ◆部分的には（院・工）
- ◆自分の心配事や悩みは自分で解決する（院・工）
- ◆はい。試行錯誤を繰り返していろいろと学んだ（院・工）
- ◆はい。たくさんの人の助けを借りて（院・工）
- ◆ある程度は。他の留学生に感謝したい（院・農）
- ◆はい。しかし自分の問題を解決するときにはいつもチューターや日本人の友人たちにも相談している。特に日本での生活について（院・人環）
- ◆時々。だけど自分で問題に向き合わなければならない（院・AA）
- ◆いろいろ心配事や悩みがあったが、その度なんとか解決できた（院・情報）
- ◆はい。ほとんどの悩みは自分で解決した（研究生・国際セ）
- ◆ある程度は解決した（研究生・国際セ）（研究生・薬）
- ◆心配事はすべて解決することができており、日本での生活を楽しんでいる（KUINEP・工）

- ◆今のところは解決している。解決していないものもあるが、あまり悩んでない (KUINEP・不明)
- 【悩みはない】
- ◆特に悩みはない。(学部・工) (学部・工) (学部・工) (学部・工) (学部・農) (院・文) (院・文) (院・経) (院・理) (院・医) (院・医) (院・薬) (院・薬) (院・薬) (院・工) (院・工) (院・工) (院・工) (院・農) (院・農) (院・農) (院・農) (院・エネ科) (院・エネ科) (院・エネ科) (院・情報) (院・情報) (院・生命科学) (院・不明) (研究生・国際セ) (研究生・国際セ) (研究生・国際セ) (研究生・国際セ) (研究生・文) (研究生・法) (KUINEP・文) (KUINEP・不明)
- ◆問題はあまりないが、私は京都大学に来る前に3年間日本に住んでいたの、他の人たちには大変なことだと思う (院・理)
- ◆悩みがないです。毎日楽しいです (学部・工)
- ◆そこまで悩みが多くない (院・農)

問 41 - d. チューター制度についての意見をご自由にお書きください。 208 ケース

【役立つ】

- ◆とても良いシステムだと思う (院・理) (院・工) (研究生・法) (院・文) (院・法) (院・工)
- ◆チューター制度はとても効果的である (学部・経)
- ◆とても良い (学部・工) (学部・工) (院・経) (院・経)
- ◆本当に助かる (院・法) (院・人環) (院・エネ科) (研究生・工)
- ◆助かる (学部・経) (院・法)
- ◆とても役立つ (学部・工) (KUINEP・農)
- ◆いいと思います (院・地環) (院・情報)
- ◆本当に満足しています (学部・経)
- ◆留学生の助けになるのでいいと思う (学部・工)
- ◆チューターがいて、本当にいろいろなことが助かりました (学部・農)
- ◆学生さんを助ける制度 (学部・農)
- ◆入学試験の準備で役に立った (院・法)
- ◆必要且つ拡大すべき制度 (院・経)
- ◆とてもいい制度と思います。日本人の考え方、生活への理解に大変役に立っています (院・経)
- ◆良いことだと思う。ドイツにもこの制度がある (院・理)
- ◆チューター制度は、最初は自分で状況を整えることができない留学生にとってはとても有益な制度だ (院・理)
- ◆良い。ただ、日本に初めて来たときなどもっと早ければ良かった (院・理)
- ◆とても有益である (院・工)
- ◆チューター制度は留学生にとっては非常に助かる制度だ (院・工)
- ◆新しい環境に慣れるためにはチューター制度はとても良い (院・工)
- ◆良い。チューターにはよく助けてもらった (院・工)
- ◆去年はチューターがいた。現在は研究室の友人たちが問題解決の手助けをしてくれる。チューター制度はとても良い (院・工)
- ◆素晴らしい考えだ (院・工)
- ◆互いが助け合ういい制度 (院・工)
- ◆すばらしい制度です。学部の最初の時期に他の日本人と比べて、チューターと多くしゃべれて良かったです (院・工)
- ◆非常に有意義だと思います (院・工)
- ◆素晴らしい (院・工)

- ◆いい制度で、私の留学生活に対して大変助かりました。二年前、私のチューターを担当した先輩はもう就職しましたが、今、仲がよく友達です（院・農）
- ◆チューター制度は留学生にとってはとても役に立つ（院・人環）
- ◆チューターができてよかったです。日本で初めて日本人と頻繁に交流できました（院・人環）
- ◆とても支えになってくれている（院・エネ科）
- ◆チューターはとてもとても良い（院・エネ科）
- ◆初めての留学生は先に話し掛ける事がまずくなる場合があるので、良いと思います（院・エネ科）
- ◆必ず必要な制度だと思う（院・エネ科）
- ◆日本に初めにきた時にチューターから、日本での生活や研究室の雰囲気等に慣れるまでいろいろと教えてもらい、このような制度がもっと充実すれば、外国人の助けになると思う（院・エネ科）
- ◆良い考えだと思うので、すべての留学生が利用するべきだと思う（院・情報）
- ◆日本の制度に慣れることができるので、新しく来る人にはとても良い制度だと思う（院・霊長類研）
- ◆良い（院・不明）
- ◆新しく来た人にとってはこのようなサポートがあるのはとても良い考えだ（院・不明）
- ◆日本語の文法をもチェックしていただいて、日本語の勉強のためにとてもいい制度だと思います（研究生・国際セ）
- ◆手頃な価格での買い物の場所について教えてもらえたのでとても役に立った（研究生・国際セ）
- ◆日本での生活に慣れるためにはとても役に立つ制度だと思う（研究生・国際セ）
- ◆ここに来てから、今までのところで最も良い制度だ（研究生・国際セ）
- ◆日常生活において重要な判断をする時には特に良い助けになっている（研究生・国際セ）
- ◆留学生に利くと思います（研究生・経）
- ◆しっかりと機能していて、すごく助けになるし楽しい（研究生・理）
- ◆すごい！（研究生・医）
- ◆チューターは本当によくしてくれるので、とても便利です（研究生・工）
- ◆留学生にとって、役立つと思う（研究生・工）
- ◆いい制度です。ぜひ続けてください（研究生・情報）
- ◆日本での生活や大学に慣れるためにはこの上ないサポートだと思う（KUINEP・経）
- ◆日本人学生とこんなに近い関係になれることはとても助かるし嬉しいことだ（KUINEP・経）
- ◆私のチューターはとても助けになってくれていて、私が学科の心理学のクラスに参加できるように積極的に働きかけてくれている（KUINEP・不明）

【役立たない】

- ◆お金だけもらって、それ以外は何もしてもらえない人もいるので、必要な制度ですが、責任感の強くない人には不向きだと思います（学部・経）
- ◆残念なことに、私のチューターは思っているほど役に立っていない（院・医）
- ◆あまりよくない（院・医）
- ◆自分のチューターとはコミュニケーションするのが難しい。彼は英語が話せないし、私は日本語が話せない（院・工）
- ◆留学生の期待に沿うようなチューター制度はない（院・工）
- ◆チューター制度で得をしたことがない（院・工）
- ◆形式のみ。意味なし（院・工）
- ◆あまり効果がない制度です（院・工）
- ◆いたが、1回目の紹介で会ってそれきりだった。あまり役に立っていないかもしれない（院・農）
- ◆よく分らないですが、周りの話しでは、それほど重要ではない。或いは期待通りに役に立つとは言えない（院・人環）

- ◆良い考えだとは思いますが、役に立つと思ったことはあまりない。もっと早く始めるべきだ（研究生・国際セ）
- ◆悪いけれど、チューター制度は私には役に立たなかった。1人のチューターに何人もの学生が割り当てられていて、毎週決まった時間に会わなければならなかったが、私の場合、会うときには問題が起これなかった。あるいは問題があっても、次に会う時まで待てなかった。だからチューターに会うときには自分の問題は自分で解決してしまっていた。問題解決にはほとんど多くの時間がかかる。しかもその後で、本を読んだり研究に当てられる時間を、意味もなく同僚やチューターと一緒にいて話をしたりすることに時間を割かなければいけない（研究生・国際セ）
- ◆何かあれば相談しろと言うが、実際に相談すると、答えられなかったり何もできなかったりするし、気晴らしに買い物に行かせようとする（研究生・工）
- ◆必要ですが、効果はあまり良くない（研究生・原子炉）
- ◆私のチューターは、自分が私の手助けをしなければいけない義務があると思っていない。だから本質的には私にはチューターはいない（研究生・人文研）
- ◆私の場合は役に立っていない。私には日本人でないチューターがいた。日本人であることの付加価値が欠けている（KUINEP・不明）
- ◆良い考えではあると思うが、多くのチューターが留学生のことなど気にかけず、お金のためのチューターである。私のチューターは一度も私に連絡をくれたことがない（KUINEP・不明）
- ◆どうやって留学生に割り当てるチューターを選んでいるのか分からない。私のチューターは英語を話せないし、ここに来た時の私の日本語はゼロだった。チューターは何の助けにもなれなかった。ほとんどの場合、問題は自分で解決している。次は英語の話せる人をチューターに選んで欲しい。少なくとも最初の頃はその方が良い。後になって私の日本語も上手くなってはきたが、チューターとは仲良くなれなかったし、今でも友達になる必要はない。それに出会ったとき、彼女は妊娠7ヶ月だった！（KUINEP・不明）

【チューターがほしい、いない】

- ◆私に配置されていない（院・文）
- ◆私の院では私費留学生はチューターがいない。これは不公平だし、私費留学生と公費留学生との間に敵対意識を作ってしまう（院・文）
- ◆私費留学生にはチューターがいない。でも国費留学生にはいる（院・文）
- ◆チューターほしいです（院・経）
- ◆チューター制度については知っているが、私にはチューターはいない（院・農）
- ◆新しい場所では利用できるチューターがいない（院・エネ科）
- ◆私はチューターが欲しいです（研究生・教育）
- ◆自分のチューターがほしいけど、チューターがない。それにチューター制度に関する情報が不足である（研究生・経）
- ◆チューターがいないので書くものなし（研究生・経）
- ◆私は来たばかりの留学生ですが、チューターもいません。原因も知らなかった。ずっと困っています（研究生・経）
- ◆チューターがほしいです。生活と研究について相談したい（研究生・農）
- ◆どうしてチューターがいないのですか。ぜひほしいです（研究生・情報）

【チューター制度を知らない・情報が足りない】

- ◆チューター制度について、自分で聞いてみないと分からない。もうちょっとこのことについて、留学生にはっきりと教えてください（学部・農）
- ◆多くの留学生はチューター制度について十分な情報を得られておらず、私もチューターがどこにいるか知らないし、彼らがどうやって援助を提供してくれるのかも分からない（院・経）

- ◆チューター制度について十分な情報をもらっていない (院・理)
- ◆そもそも桂キャンパスにありますか? (院・工)
- ◆チューター制度はとても良いと思うし、チューターがいなくて寂しい。今現在、チューターがほしい (院・理)
- ◆私たちはどちらもチューターが何をすべきかについて詳しくは知らない。大学の問題だけを手助けするのか? 研究の問題? 日常生活? (院・医)
- ◆期間の終わりに自分にチューターがいたことを知った。彼が何をすべきだったのかは知らない (院・工)
- ◆そもそもチューターがいるかどうか分からないし、自分の意思と関係するものなのかも分からないです (院・工)
- ◆指導教員に教えていただくまで、チューター制度を知らなかった (院・人環)
- ◆私のチューターが誰なのかを知らせてください。終わるまで知りませんでした。ないと思った (院・エネ科)
- ◆チューターが外国人学生に何をすべきかについて知らない (院・情報)
- ◆指導教員はチューターについて何も教えてくれなかった。チューターについて知っていることと言えば、「日本での生活について相談するため、また勉強するために、研究室内にチューターがいる」ということ、タイの日本大使館で教えてもらった (研究生・国際セ)
- ◆なぜチューターがいる人がいて、いない人がいるのかがわからない (研究生・工)

【改善を求める意見／その他の要望】

- ◆もっと多く会えたほうが良いと思う (学部・工) (学部・工)
- ◆チューターの他に、先生方からのサポートも欲しいです。同じ学部の留学生を集めて、担任の先生を設備した方がよいと思う (学部・工)
- ◆まだまだ充実していく必要があると思う (学部・工)
- ◆(問30と同回答)チューターということは自分より日本に長い間住んでいる人でなければならないと思います。それでサポートができると思います。その前(昨年)のチューターは日本の学生だったけど、お金だけほしかったみたいです。ぼくの同期生、先輩みんながチューターに不満を感じていると思います。ちゃんとしたチューターを選んでください (学部・工)
- ◆新入生になったばかりの時、もっと積極的にいろいろ教えてほしかった。院生ではなく、学部生の方がいいかも (学部・工)
- ◆私のチューターは桂キャンパスに所属しているから地理的な理由で、会うのが難しいです。できればこれから同じキャンパスの人をチューターにしてほしいです (学部・工)
- ◆チューターは博士でえらい人だと思いますが、私の学年とは差が大きすぎるせいか、教えてほしいものはすでに忘れた気がする。自分との学年の差が小さいチューターがいれば、助かると思います (学部・工)
- ◆チューターはいままでいないので、特に意見がありませんが、留学生にとって、大学に入ったばかりの時に、チューターがいれば、安心かもしれません (学部・農)
- ◆できれば卒業までチューターがいれば日本生活、日本語などの面では非常に助かります (院・文)
- ◆二年目以上の留学生にもチューターをつけてほしい (院・文)
- ◆継続してほしい (院・文)
- ◆たまにある現象である：チューターは相手に教える立場なのに、相手に英語等を教えてもらいたい意識が存在する。これは制度的にはっきりしてほしい点でもある (院・法)
- ◆留学生のレベルにあったチューターを提供する必要がある (院・法)
- ◆学術面は同研究科(学部)の先輩に、生活面は同じ国からの留学生先輩に、分けたほうがよいと思う (院・法)

- ◆もっと留学生のチューターを入れたらどうでしょう？日本人チューター／留学生チューターの選択肢があっても良いと思う（院・理）
- ◆学生とチューターとの間には良い関係が築かれるべきだ（院・理）
- ◆チューター制度はとても良いと思いますが、チューターを選ぶのも、責任感があって熱心な人が良いと思います（院・薬）
- ◆責任ある人がチューターについてほしい（院・薬）
- ◆チューターを指定される前に「どのようなチューターがほしいか」と聞かれたほうがいい。例えば、勉強中心／サークル中心／バイト中心など（院・工）
- ◆チューターはもっとオープンになってお互いに話をしていくべきだ（院・工）
- ◆どちらも制度についての詳細を知るべき。可能であればチューターの枠組みを知るための例を挙げてほしい（院・工）
- ◆チューター同士での集いがあれば、意見交換・などができると思います（院・工）
- ◆システム自体は良い。ただ、チューターになる人のことはもっと関心を向けるべきだ。留学生の手助けをできるほど準備が整っていない人もいるし、中には留学生に近づけない人もいる（院・農）
- ◆私以外の留学生のほとんどは毎月 1 回もチューターと会えないのです。実質的にチューターはいないということです。というのは、学部生にとって、博士や修士がチューターになったら、つながりはすくなくないです。同級生の優秀な日本人の学生に担当していただいたら、より助かるのです（院・農）
- ◆もうちょっときちんとした監管制度が必要（院・農）
- ◆学校側からだけでなく、受け側にある留学生の意見も聞いたほうがいいのか（院・人環）
- ◆ほとんど会うことができないので、改善する必要がある。おそらく日本人学生よりも他の外国人学生の方が良いだろう（院・人環）
- ◆留学生が自らチューターを選択できれば良いだろう（院・エネ科）
- ◆チューターは助けを必要としている人に対してもっと積極的になるべき（院・エネ科）
- ◆研究生もチューターがいればいいと思います（院・地環）
- ◆1 人のチューターにつき学生数は 2、3 人を超えるべきではない（研究生・国際セ）
- ◆日本にしばらく住んでいる留学生に担当してもらう方がいいい。その方が問題を理解してくれると思う（研究生・国際セ）
- ◆もっと多いほうがいい（研究生・国際セ）
- ◆明確なプログラムや日程を作るべきだ（研究生・国際セ）
- ◆チューターは、日本に馴染むのに同じような過程を経た外国人が良いと思う。日本人はそういう点ではあまり助けになれない。彼らにとっては、日本は自然な環境だから（研究生・国際セ）
- ◆私費留学生もチューターが必要だと思います（研究生・文）
- ◆とてもいい制度だと思います。しかし留学生もチューターを選ぶことに参加した方がいいかもしれません。つまり、留学生の意見も聞くべし（研究生・経済研）
- ◆専門分野でのチューターがいればさらに役に立つ（研究生・薬）
- ◆チューターの正確な仕事内容について学生に説明するべき！（KUINEP・法）
- ◆日本語の話せない学生には英語の話せるチューターを割り当てる必要がある（KUINEP・工）
- ◆制度を改善した方がいいと思います。私の場合では、チューターと 8 ヶ月間 2 回だけ会えました。他のチューターも大体同じそうです。色んな情報はむしろチューターじゃなくて日本人の友達からもらいましたね（KUINEP・不明）
- ◆もっと緊密な関係でいてほしい（日研・国際セ）
- ◆日研生の場合、チューターは 5 人に 1 人くらいで、勉強以外は関係がない。同じことを専門にしている大学院生と勉強以外の深い人間関係を作れるのは、とてもうらやましい。日本語が上手でも、日本での生活は初めてだから、日研生にもチューターは必要だと思う（日研・国際セ）

- ◆とても良いと思います。外国から来ている方にとったら心強い存在です。しかし、チューターと一度も会ったことがないという学生もいました。チューターから積極的に接して欲しいです（一般交換・総人）
- ◆名前だけのチューターがいる。彼は1度も私と話し合ったことはないのだ。日本語能力を高めるためのチューターがほしい（一般交換・エネ科）

【未分類】

- ◆連絡の回数が少ない（学部・工）
- ◆チューターによって親切度のバラつきがかなりある（学部・工）
- ◆所属学科に関して何でも聞ける先輩がいると保証されている感じです（学部・工）
- ◆一回生の時、チューターとはあまり会ってなかったが、二回生の時のチューターはよく会ったり、遊んだりしました（学部・工）
- ◆一回生の時、ほしかったのに...（学部・農）
- ◆実際に機能していないのでは？（院・文）
- ◆わからない（院・文）
- ◆時間がちょっと短い（院・法）
- ◆人によって違います。いいチューターがいますけど、責任感がないチューターもいます（院・経）
- ◆自分がチューターです。4回（半年間）やっています（院・経）
- ◆あまり了解してないけど～（院・経）
- ◆形式的である（院・経）
- ◆一年間じゃ足りない（院・経）
- ◆ちょっと短いかな（院・経）
- ◆チューターは日本語で書類を書く際に必要だ（院・理）
- ◆他の学生との関係において良くない影響がある（院・医）
- ◆チューター制度は留学生にとって良いことだと思うが、チューターを必要としている時に彼らを探すのが難しいことがある（院・医）
- ◆留学の初め、いろいろ悩みがあっても相談してなかったから。意見というか別にないです（院・薬）
- ◆この制度が良いかどうかは、チューターによる（院・工）
- ◆責任能力があるチューターはいいチューター。人によってチューター制度についての意見は違います（院・工）
- ◆京都大学での最初の年にチューターがいた（院・エネ科）
- ◆チューターは責任感がないと思う（院・エネ科）
- ◆私は良いチューターに恵まれ、たくさん助けてもらったのだが、知り合いの留学生はあまり助けてもらえなかった（院・情報）
- ◆留学生はチューターに多くの助けを求めたいと思うので、学生間の関係に緊張感を持たせてしまうことになる（院・霊長類研）
- ◆チューターはシャイで遠まわしな言い方で話す。（率直ではない）（おそらく基本的な日本人の性格だろう）（研究生・国際セ）
- ◆時々あまりに疲れすぎてチューターのためにそこにい続けることができなかった（研究生・国際セ）
- ◆チューター制度になれていないので、相談するのが珍しい（研究生・文）
- ◆文部省の留学生として、まず京都大学でチューターを探す必要があった（研究生・文）
- ◆チューター的人数はちょっと少ないです（研究生・経）
- ◆十分だ（研究生・医）
- ◆日本語で受け取った書類を読むのを手伝ってくれる（研究生・薬）
- ◆チューターが若くて、ちょっと不満です（研究生・工）

- ◆私の担当をしているチューターには満足している。しかしチューターは仕事内容に関する詳細を知らないように見受けられた (KUINEP・総人)
- ◆私のチューターは真面目だったが、そうでもない場合があると聞いた (KUINEP・総人)
- ◆チューターの責任とは? (KUINEP・経)
- ◆一部分のチューターは責任感が強く、また一部分のチューターは忙しいため、あまり連絡をくれない (KUINEP・経)
- ◆とても良い人がいたり怠ける人がいたり、チューター間で役割に大きな開きがある (KUINEP・理)
- ◆チューターの英語が十分ではなく、私の日本語も不十分なため、何も話し合っていない (KUINEP・工)
- ◆何人かのチューターはおかしい。おそらくアジア人よりも西洋人が好きなようだ。だから私のチューターは私と連絡をとりたがらない (KUINEP・不明)
- ◆いい制度だとは思ったが、日常生活での日本語では困らない私には必要性をあまり感じなかった。どちらかと言うと、最初にできた友達のようなもの (一般交換・経)
- ◆特になし (学部・工) (院・文) (院・法) (院・工) (院・エネ科) (院・エネ科) (院・情報) (研究生・工) (KUINEP・不明)

問 44 - d. 留学生相談室についての感想、要望をお書きください。(回答数 111 ケース)

【留学生支援サービス全般】

- ◆個人情報確保していただきたいです (学部・経)
- ◆実際、相談しても問題解決になるかどうか疑問 (院・法)
- ◆新入生に対して、日本の慣習や生活や勉強方法などの指導を希望する (院・法)
- ◆学部の留学生相談室をまた利用すると思いますが、留学生センターの留学生相談室はあまり利用しないだろうと思います (院・法)
- ◆話しやすい環境を作っていただきたいが、この前カウンセリング室行ったが、多対一の話し方が、ちょっとはずかしくて、言いたいと言えなくなった (院・経)
- ◆もし悩むことがあったら、一度留学生相談室に行きたいと思う (院・経)
- ◆できれば留学生相談室のご担当者様は、霊長研 (犬山市) に年一度か二度で来て欲しい。霊長研の外国人研究者は 10 人以上いるのに、みんな相談室を利用したことないと思います (院・理)
- ◆実用的なことをして、積極的に外国人留学生と連絡を取ってほしい (院・医)
- ◆自分の力で解決不可能のことがあるから、相談しにいくという留学生の行動が考えられる。留学生相談室の制度には、この点を参考にしてほしい (院・薬)
- ◆宇治のキャンパスにありませんから、使いたい。でもなかなか機会がありません (院・工)
- ◆留学生相談室は留学生にとっては非常に重要なものなので、今後も続けてもらいたい (院・工)
- ◆国際的なカウンセラーが必要だ! (院・工)
- ◆心理的な問題を解決するために、外国人カウンセラーが必要だと思う。薬ではなく心理セラピーカウンセリングができるサービスがあると良い (院・人環)
- ◆あるのに知名度が低いのでは・・・気軽に声をかけるような、親切に問題に応じて適切なアドバイスを頂ける相談室であるといいね (院・人環)
- ◆あまり深いイメージを持っていません。でももし本当に困ったことがあれば尋ねると思っています (院・人環)
- ◆留学生全員が相談室を知り、利用できるように工夫して下さい (院・人環)
- ◆いつでも行けるような場にしていただきたいです (院・エネ科)
- ◆相談により、悩みを解決できるかどうかあまり自信がありません (院・エネ科)
- ◆聞くだけではなくて解決策を提示して欲しい (院・AA)

- ◆別の学科の友人たちと違って、なぜ私の学科の留学生担当教員は、私と連絡をとろうとしないのか分からない (院・情報)
- ◆もう少し京大の他の学部との連結があればうれしい。別々の組織として動いていたので、いちいち聞きに行かないと (学部) 行けなかった (院・情報)
- ◆心理学者を依頼した際、アドバイザーのリストを渡されたが、(精神科医の名前はいくつかあったものの、) 心理学者の名前はなかった。このリストは理解に苦しんだ。友達が手を貸してくれたが、心理学的な援助が得られないので、このサービスはもう使わないと決めた (院・再生医研)
- ◆もっと積極的にやってもらえれば (研究生・教育)
- ◆中国語で相談してもいいか (研究生・医)
- ◆必要です (研究生・生命科学)
- ◆相談室の先生はどのような人が担当しているのか、ちょっと知りたいです (研究生・原子炉)

【日本語教育】

- ◆日本語を勉強することを助けるなどをしてもらいたかったです (院・薬)
- ◆日本語添削の講義とか (院・地環)
- ◆日本語の問題、奨学金・就職・医療・家族問題・人間関係に関連すること、事故・事件に遭遇した場合等について相談したい (研究生・情報研)

【日本人との交流】

- ◆日本人の友達を作りたいので、そのことに対して力を貸してもらいたい (院・工)

【情報提供】

- ◆場所教えてください (学部・工)
- ◆利用方法がよく分からないのです (学部・農)
- ◆詳しい情報等 (院・法)
- ◆このアンケートで初めて聞いた。もっと宣伝した方がいい (院・工)
- ◆説明のパンフレットとか読ませていただきたいのですが (院・工)

【あまり知らない・利用しない】

- ◆あまり行ったことがない (学部・工)
- ◆留学生相談室を利用したことがないから・・・ (学部・工)
- ◆実は、どうやって利用するのはわからない。だから今まで利用したことがない。新入生として京大の留学生についてのサービスはよく知らない。この方面について、もっと多くの説明をしたほうがいいと思う (学部・工)
- ◆すみません。よくわかりません (学部・農)
- ◆必要な方が利用できればよいと思います (院・経)
- ◆今は分からない。ただ、もし何かアドバイスが必要になったら連絡をとりたいと思う (院・理)
- ◆利用していないので、感想はあまりないです (院・工)
- ◆桂キャンパスにいるから、何とも言えないところがある (院・工)
- ◆留学生相談室ってどんな仕事をしているかよくわからないので、時に桂キャンパスの留学生がほとんど利用していないと思う (院・工)
- ◆相談作用は分からない。経験がないから (院・工)
- ◆何も知らないで、今のところなし (院・人環)
- ◆留学生相談室を利用したことがない (院・エネ科)
- ◆相談したことがない。知らない人と相談することは一般的な人にとってやっぱり難しい (研究生・経)

- ◆留学生相談室を知っているけどあまり利用しません。日本語が下手ですから、あまり交流がうまくないと思います (研究生・薬)
- ◆私は指導の先生とよく相談しますから、それは留学生相談室利用しないです。でもほかの人は重要だと思います (研究生・工)
- ◆資格ない (院・エネ科)
- ◆特になし (学部・工) (学部・工) (学部・工) (学部・工) (院・文) (院・文) (院・文) (院・文) (院・法) (院・経) (院・経) (院・医) (院・医) (院・医) (院・工) (院・農) (院・人環) (院・エネ科) (院・エネ科) (院・エネ科) (院・エネ科) (院・エネ科) (院・エネ科) (院・情報) (院・生命科学) (院・不明) (研究生・国際セ) (研究生・文) (研究生・経) (研究生・経) (研究生・経) (研究生・経) (研究生・経済研) (研究生・工) (研究生・エネ科) (KUINEP・不明) (一般交換・経)

【奨学金・医療】

- ◆奨学金の選考基準はなんですか (院・人環)

【その他】

- ◆留学生交流をしたいです (学部・農)
- ◆消極的な意見を聞いたことがあるので、私は利用したくない (院・文)
- ◆普段の生活 (院・工)
- ◆詳しく知りたい！ (院・エネ科)
- ◆生活関連のサポートをしてほしいです (研究生・情報)
- ◆扱いに困る文化的な相違がたくさんある。それを相談できる相手がいると助かる。時々、自分が不適切なことをしたと思うことがあるが、日本人は直接注意してくれないので、自分で知らないうちに間違いを繰り返している気がする (院・地環)

【プラス評価・謝辞】

- ◆すごくやさしい先生がいっぱいます。何かの事故・事件がある場合、頼りになる感じ (学部・工)
- ◆先生がとてもやさしく教えてくれて、よかったと思います (学部・工)
- ◆今、満足している (学部・農)
- ◆今後、更に最もよいアドバイスを提供していただければ、と念じています (院・文)
- ◆相談室を利用したことがないけれども、これから利用したいと思っています (院・経)
- ◆私は他の大学を卒業しましたが、非常に親切な京都大学留学生相談室に非常に感動しました (院・経)
- ◆良い (院・工)
- ◆サービスが素晴らしい (院・工)
- ◆良い機会で、今後利用したいです (院・工)
- ◆利用したことがないからよく分からないけど、今後期待しています (院・農)
- ◆卒業する前に、一回行ってみたい！ (院・人環)
- ◆素晴らしい仕事をしています！ありがとう！ (院・情報)
- ◆想像していたよりも完璧な環境だ (院・不明)
- ◆留学生にもっと宣伝したいと思います (研究生・経)
- ◆良い (研究生・医)
- ◆学生の個の問題であっても、丁寧にやさしく教えてくれるので、本当にいいと思う (研究生・エネ科)

問 45. 京都大学における留学生生活、教育、研究環境全般について、感想・要望などをご自由にお書きください。(回答数 253 ケース)

【留学生受け入れ・支援体制】

- ◆京都大学は留学生が多いこともあって、やりやすいが、放任主義なところがあるので、何をどうすればいいかわからずに困っている留学生もみかけたことがある。前に、学部の教務に日本語のわからない研究生が質問していたが、教務の方が英語を理解できず、研究生の方が困っていた。留学生が多くいる環境なのだから、それをサポートする体制をより充実させてほしいと思った(学部・経)
- ◆見学旅行などを(人数を含めて)増やしてほしい。奨学金、住居、アルバイトなどの情報を広く公開してほしい。情報は学科・研究科の事務室の掲示板(身近な場所)に公開してほしい。留学生に関する情報は市内の情報だけではなく、全国の情報も公開してほしい(学部・工)
- ◆夏休みや春休みなどの期間中に、留学生向きの研修旅行(新入生に限らず)をたくさん行ってもらいたいです(学部・工)
- ◆京都大学における留学生生活、教育、環境について、いいと思います。ただ、日本人学生と交流するチャンスが少ないと思います。そして留学生向き学生寮はない。それは私費留学生にとってとても不便だと思う。特に今年、京都大学に合格したということを知った後で、部屋を探すとき、私費留学生のためのアパートやマンションがすくない。吉田寮・熊野寮の居住環境はほんとに悪い。国費留学生と私費留学生の差別が多いと思う。また学部の留学生の勉強についてもっと関心を持ってくれたほうがいいと思う(学部・工)
- ◆京都大学での留学生生活が随分充実しておりますが、一つだけ足りないと思っています。即ち、他国の大学との交流が、まだ少ない気がします。これについての制度をより完備していただければ完璧だと思います(院・法)
- ◆要望：①セミナーや講義では、留学生に配慮して、討論を簡単にしたり、レベルの低い議論へ変えたりする現象が見られている。従って、セミナーや講義のレベルや質が低くなっている。私としては、京大の本来のペースでやってほしく、またこれも京大を選んだ理由の一つである。②校内の自転車やオートバイの走行の秩序を改善してほしい(院・法)
- ◆京都大学で勉強するのは楽しいですが、京都という都市で生活するのは楽ではないです(物価は高いけど、給料は安い)。留学生の現実の生活を理解して、留学生のために現実の援用をいただけるならありがたいです(院・法)
- ◆多様性しか重視していない留学生法学研究環境は、「大学」という研究の「場」の分割に関連していると思う。→留学生世界と日本人学生世界、共通性も重要。留学生課の留学生への態度の改善。留学生は中国人留学生、西洋留学生やアラブ系留学生だけではない(院・経)
- ◆結局、留学相談室のためにこのアンケートを実施なさったのですか？正直、このアンケートを作った方々は、あまり留学生のことがわからないのですね！！せめて、私費と国費の留学生を区別するくらいでも……。しかしとりあえず、アンケートして、留学生の実態を知ろうとする動きでも、とても感謝しますよ。お疲れ様です。今後、京大に入ってくる留学生のために、頑張ってくださいたいです。(実は、現在、大学にいる留学生をもっと大事にして欲しいですが)(院・経)
- ◆図書館の書籍はすべてリスト化してほしい。そのリストに載っている本はすべての学生が利用できるようにしてほしい。それが可能でないなら、その書籍はリストから削除しておくべきだ(オンライン)(院・医)
- ◆1、京都大学の中国国内での知名度を高めてほしい。京都大学に留学している中国人の学生は多いが、中国の一流大学の学生が少ない。2、十分な奨学金を提供して、一流の中国人の学生が日本に留学にくるようにする。実際、中国国内の北京大学、清華大学、復旦大学等の一流の学生はアメリカの大学しか知らず、京都大学についてあまり分からない。また、京都大学も十分な条件(例えば、奨学金)が提供できず、中国の学生に魅力があまりない。3、校内の奨学金選抜を公平に行ってほしい。京大校内での選抜は主に所属研究室と教授を重要視している(院・医)

- ◆チューター制度は役に立つものだと思う。まじめに仕事をするチューターもいるが、全く来ない人もいる (院・医)
- ◆京都大学の学風は自由すぎる。教授の院生に対する指導を強め、特にプロジェクトの段取りと協力を進めてほしい (院・工)
- ◆私は桂キャンパスにいるのだが、新しいキャンパスなのでサービスがあまり充実しておらず、学生の生活は活発なものではない。新しいジムは週末には開いていないので、平日に頑張って働いた後に頭を休ませてリフレッシュする機会がない。週末も開けるように考えてください (院・工)
- ◆京都大学の DEEP mail システムは本当にうんざりする。中国語のメールはいつも誤って表示される。スパム対策の選択肢もない。さらには自宅からメールを送ることができない。まったく理解できない (院・工)
- ◆日本のシステムはストレスを感じる。プレッシャーが大きく、たいして意味のないセミナーや土曜日が休みでないことは本当に大変だ (院・工)
- ◆研究に関連した仕事で、留学生は留学生として扱われるべきだ。日本人も留学生も同等の機会が与えられるべきだ (院・工)
- ◆外国人留学生の生活を豊かにするために、イベントをたくさん考えてほしいです (院・工)
- ◆桂キャンパスの近くに寮 (留学生用) がほしいです。独居留学生のためにも、より安い下宿を用意してほしいです (家族用は結構安いのがあるのに...) (院・工)
- ◆全体的について不満はないですが、たまには研究が忙しすぎて、留学生向けのイベントにはなかなか参加する暇はなく、ちょっと残念だと思います (院・農)
- ◆PhDの学生向けのコースがあれば今のシステムよりも良くなると思う (院・農)
- ◆研究室における日本人学生が留学生へのいじめを解消できる対策に取り組んでください。毎年、留学生アンケート票を配って、調査して下さい。指導教員との関係が留学生に対してできる限りマイナスの影響を与えないように改善して下さい (院・人環)
- ◆学校の勉強の雰囲気がとても良いと思います。学校に来たいと思うし、勉強の意欲もあります。しかし留学生向けの活動力が前の大学に比べると少ない気がします (院・エネ科)
- ◆留学生向け就職支援制度があれば幸いです (院・エネ科)
- ◆京都大学は学生やこの大学で勉強する研究者に対して素晴らしい環境を提供している。しかしほとんどの活動やイベントはメインキャンパスで行われる。宇治キャンパスや桂キャンパスで学ぶ学生のためにもこのようなイベントをやればよいと思う (院・エネ科)
- ◆京都大学の国際交流センターは外国人留学生のためにもっと優れた役割を果たすべきだ。特に文部科学省以外の奨学金をもらっている学生や私費留学生に対して。学費やアパートの高額な賃貸料を払うためにお金を稼ぐことに苦労する学生もいる。京都大学は、外国人学生がかかえる住居や経済の問題について、イギリスの大学を見習うべきだ (院・エネ科)
- ◆キャンパスでは喫煙の制限を設けないで欲しい。少なくともカンフォーラのテラスではタバコを楽しみたい。／ (大学院生には) より理解しやすいように、自分たちの研究に関する講義は英語でやってほしい。／奨学金が打ち切られたり減らされたりしているときの大学からの援助が本当に必要だ。日本に来て研究を始めた頃に想定していただけた援助を期待している (院・エネ科)
- ◆仕事に関する相談 (研究生・情報)
- ◆短期留学生に対しての非正規生扱いは所属感を失わせる。授業の申込手続きはとてもめんどくさい。日研生の授業はなんとも言えない。扱う範囲が広すぎてあまり行けなくなる (興味がないのは)。でも日研生の文化体験プログラムは非常にいい (日研・国際セ)

【情報提供】

- ◆私は1回生だけど、すごく自分の学科の各々研究に興味をもっている。1回生のうちから、研究室を見せてもらう可能性はないでしょうか (学部・農)
- ◆すべての留学生にメールを送るなどしてもっと宣伝するべきだ (院・理)

- ◆留学生のための交流会館の情報が欲しい。そして交流会館の設備が使える機会に恵まれると嬉しい (院・農)
- ◆アンケートにやや厳しく評価させていただいた部分が多いと思いますが、それはなぜかという、この大学はその高名なブランドにふさわしい、学生にとってはよりよい大学であってほしいからなのです。せっかく留学生への思いやりで収集してくださる情報、または創立してくださった相談室があるのに、情報伝達の手段に限られるため、あまり知られていないことは残念に思います。チューター制度も私の知る限りでは、それほど目的に達成した役割は果たしていないようです。学生同士の話合いの「場」も不足しています。研究、就活、留学生にとっての生活について (院・人環)
- ◆京都大学の自由な学風が好きです。ここでもっと質が高い教育を受けられて、嬉しいです。情報の知らせなどが遅れる場合がありますが、充分に情報を得られるようにサポートしてもらいたいです (院・人環)
- ◆部活・サークル活動について、誰もそのことについて教えてくれなかったし、大事な情報を欠くことになった (院・地環)
- ◆私は医学部の研究生ですが、もっと京都の歴史、伝統、文化についての活動に参加したい。入学試験の相關指導を教えて欲しい (研究生・医)
- ◆どんな情報でもメールでもらいたい (研究生・防災研)
- ◆もっと情報を提供するべきだ！ (KUINEP・総人)
- ◆どの問題に関してどこへ相談に行けばいいのかわからない (KUINEP・総人)
- ◆留学生相談室について何も情報をもらっていない！ (KUINEP・文)

【言語の問題】

- ◆大学の書店でもっと外国語関連の雑誌があれば良いと思う。もし可能であれば (特に言語のクラスは) クラスサイズをもっと小さくしてより効果的に学べるようにして、学生同士のやり取りを増やして欲しい (学部・文)
- ◆もしできれば、学期が始まる前に、留学生の会があれば、いいなと思っています。そうすると、新生の留学生は先輩たちと交流できて、色々な情報が得られると思います。例えば、今、僕はいくつかの A 群科目の授業を受けていますが、そのうちの 2 つの授業の内容が全く理解できないのです。それは日本語の問題だと思います。履修登録する前に、日本人の友達に聞くと、その 2 つの授業は楽勝だそうですが、今、日本人の楽勝は、留学生の楽勝ではないと気が付きました (学部・理)
- ◆皆それぞれ日本語能力がちがうと思うので、事務の方の対応が「留学生向けの対応」の仕方になるのだと思います。それはしょうがないですが、未だに慣れていないのは「あなた、あなた」と呼ばれることです。書類とかを見ながら (名前を知っている上で) 会話しているのに、「あなた」はちょっとひっかかります。先生や周りの人たちは「あなた」と呼ばれていないのに (院・文)
- ◆修士課程の実質的な情報を英語で提供すれば国際的な人気も高まり、国際的なアクセスを発達させることもでき、応用の利いた教育の必要性にも貢献できると思う (院・経)
- ◆留学生にとっては、授業の案内、授業、(学部課程、修士課程、PhD など) それぞれの課程での単位制度などについて、英語で利用できれば助かる (院・理)
- ◆京都大学での滞在や生活に関して特に深刻な問題はない。ただ、名のある大学なので、私たちがここで勉強することで十分に恩恵を受けることができるように講義のいくつかは英語で行われるべきだ (院・医)
- ◆京都大学に来る前と来た直後は、学業に日本語は必要ないと聞いていた。しかし、人間関係を築く上で大きな違いが生じることに気づいた。そして私の学部では情報も講義もすべて日本語なので、がっかりした。そのため、授業に出て学んだり他の人とディスカッションしたりするのは、目的にそぐわない (院・医)
- ◆世界でも有名な大学なので、大学のスタッフや学生はもっともっと英語ができるようになることを期待する (院・薬)

- ◆前にも書いたが、留学生は講義のことやミーティング、公式文書など、多くの情報を日本語で受け取る。大学での生活を楽しむためにも、フォーマットや手続きを英語でもやるべきだと思う（院・工）
- ◆授業やセミナーを（100%）英語で行って欲しい。国際的研究者をそのセミナーに呼んでほしい。グローバル COE プログラムはその目標への良いステップではあるが、これではグローバルでも国際的でもない。他の国際機関のように国際的研究者を 80-90%に増やしてほしい（院・工）
- ◆特に工学や自然科学の分野で英語の講義をしてほしい（院・工）
- ◆留学生課は留学生が日本で快適な生活ができるように顕著な努力をしていると思う。言語の壁があることによって孤立してしまうことがよくあるので、研究室の中でもっと研究に関連した言語クラスがあれば助かる。どうもありがとう（院・農）
- ◆日本人学生と英語で会話できればもっと良いと思う（院・エネ科）
- ◆生活やサービスは良いようだが、日本語の知識がなければ、多くのことが少し難しく感じられる。いろいろなことが整っているが、言葉の問題がある。例えば図書館でのコンピュータの接続、年に 1 回行われる健康診断、図書館のカレンダー、食堂のサービス、生協の売店など、とても良い！（院・エネ科）
- ◆プレッシャーを感じずに、自由に、研究についての問題を話し合える相手が必要だ。かつその人は英語もできる必要がある（院・エネ科）
- ◆留学生が来て国際化する事は、単純に英語とか日本語で喋るだけじゃなく、お互いに専門の事の考えを交流するのが先だと思います。専門の事を話すためには、まず言葉が通じないといけない。留学生は、担当の先生だけではなく、学生や日本の学会で、知識を教えて貰います。ここは日本なので、英語だけ使うのは限界があると思う。だから本当に留学生が日本で留学するためには、まず日本語を習わなければならないと思います。普通の生活でも、ほぼ日本語が必要なので、実は英語と日本語が出来なければならないと思います（院・エネ科）
- ◆日本語の知識がなければ京都大学での生活は特に難しいと感じている。しかしこれは京都大学が作り出している環境というわけではなく、日本社会における外国人に対するものの見方、英語教育、社会的な能力などの問題だと思う。この環境に適応するのが困難だと捉える学生も多にいる（院・情報）
- ◆京都や京大に在籍することを嬉しく思う。研究室も本当に良いところだ。しかしコミュニケーションも研究に関しても英語ですんなりできるものだと思っていたので、最初の年は本当に厳しいものだった。ゼミなどが日本語で行われるとは知らなかった。とにかく、研究室や卒業に必要なことでないと言われても、入学前にある程度以上の日本語能力が求められるということを学生に知らせてあげてほしい。／チューター制度に関して研究室からのチューターがいるが、言葉の壁があるし、何を聞けばいいかわからない。彼は常に忙しくしているし、よく約束を忘れる（院・地環）
- ◆博士課程の学生には英語での講義を（院・ウイルス研）
- ◆去年の入試は英語と日本語など 2ヶ国語でやってほしかった。英語で行う授業を増やして欲しい。国際交流会館の滞在期間を延長させて欲しい（研究生・工）
- ◆京都大学での研究の質は非常に高い。ここで研究活動ができることは楽しいが、日本人学生にはがっかりしている。特に、私のことを「外国人」としてみるし、自分たちの英語力を伸ばすために必要な時だけ私に話しかける（研究生・工）
- ◆京都大学での日常はとても良いが、日本語が使えるようになればもっと良くなると思う。今の自分の日本語力は日常生活でもまだ十分ではない。できれば、日本語をもっと勉強して、特に会話力をつけたい（研究生・工）
- ◆京都大学で研究ができることや、研究室の素敵な人たちとの出会いを非常に嬉しく思う。ただ、日本語を勉強するための十分な時間がないことと、それによって日常生活に支障があることだけが問題だ（研究生・農）

【日本語授業】

- ◆留学生生活にほぼ満足している。最初、授業の内容がわからなかったが、最近はだんだん慣れた。だが A 群のような授業はわからない場合もゼロではないと思う (学部・農)
- ◆日本国政府奨学金を受けている学生として、研究生の期間は日本語クラスに関連して、授業に参加したり講義内容を理解したりできるように、(週に 3 日だけではなくて週 5 日にして、もっと集中的に、学術的な科目で使うような漢字のクラスなど) もっとクラスを増やして欲しい。例えば午前 9 時から午後 4 時まで (院・農)
- ◆私はおおかた大学を楽しんでいるが、そうでない人も多いと思う。その理由の 1 つとして、研究室や指導教員に対する虚無感、それに指導教員からの期待に対する虚無感がある。私たちのニーズに対する教育がもっと必要だと思う。また、日本語クラスは改善すべき。特に集中講座はそんなに集中的に行われていない (院・人環)
- ◆日本語の授業をもっと狭い範囲で分類し、能力に適切な教育をしていただきたい (院・エネ科)

【KUINEP】

- ◆KUINEP の英語講義は色々な研究分野に触れて、おもしろそうですが、半分以上の講義で教授の英語が聞きづらかったか、わかりませんでした。どちらかという、やさしい日本語で講義を行って欲しい (一般交換・総人)
- ◆KUINEP の科目が多く、あまり興味のないものを選択しなければならない。講師の英語のレベルを高め、日本語の授業を増やしてほしい (KUINEP・経)

【奨学金・生活】

- ◆自分の大学は、京都大学というところで誇りを持っていますが、授業が思ったよりつまらない点は、がっかりでした。寮の条件も悪すぎます。奨学金、特に学部生の申請できる奨学金が少なすぎます。例をあげます。一橋大学、毎年学習奨励費を申請する人はいなかった。なぜならほぼ全員月 10 万ぐらいの奨学金を持っています。けど、京大の留学生は学習奨励費を手に入れることさえすごく難しいです (学部・工)
- ◆家が貧乏な留学生達は、アルバイトをしてお金を稼がなければならないので、勉強の時間は少なくて、成績も他の人より悪くなるかもしれません。それで成績のせいで授業料も免除されなくて、奨学金も受けられませんでした。そのため、ますますアルバイトしなければならなくなります。勉強の時間はまた減ってしまいました。これでは悪循環になると思います (学部・工)
- ◆私費留学生向けの奨学金はちょっと少ないと思います。私費留学生の経済の面において、もっとサポートしてほしいです (学部・工)
- ◆留学生 (特に私費留学生) がより勉強に専念できるように経済的なサポートがほしいです (奨学金とか授業料免除とか留学生寮など) (学部・工)
- ◆私費留学生と国費留学生の格差が大きい。今、中国の平均給料は、日本の物価と比べて、非常に低いです。日本に来た留学生は、みんなが金持ちとは言えません。たくさんの留学生は、自分で授業料と生活費を稼がなければなりません。アルバイトをするのは、非常に時間を費やすことがわかるけど、生活のために、それをしなければなりません。それが原因で、成績が悪くなって、授業料免除が不許可になり、授業料を稼ぐために、しっかり勉強できなくなる悪循環を引き起こしてしまいます。安心して勉強できる環境を作って、授業料を免除してほしい (学部・工)
- ◆私費留学生で、学費・生活費用は、自分で負担しなければならない。授業料は 3 回とも半額免除、奨学金は今年もらえなかったです。経済的に困っています。まわりの留学生を見たら、皆さん必死にアルバイトしています。学費、帰国のチケット、国民健康保険、家賃などプレッシャーを感じています。ああ。これは前に考えていた留学生生活とは、違っていますが、経験にもなっています。強くなりました。問 37 は、指導教員とはあまり交流したことないからわかりません (学部・工)
- ◆日本人との文化の違いが、留学生として、外国人として理解できないのが多いです (学部・農)

- ◆授業や学科のカリキュラムにはだいたい満足しています。質問などがあるときにも先生たちはよく応答してくれますし、他の日本人学生との意見交換も活発に行っています。しかし、やはり授業と関係のない所では、母国からの留学生たちと過ごす時間が多いです (学部・農)
- ◆いいこと：①まじめな先生がたくさんいる。中国の大学と根本的な違い。②「自由な学風」。京大の自慢できること。③視野がある。資本主義と社会主義。先進国と途上国。残念なこと：①英語を忘れた。悲しい事実だ。高2でTOFEL620点の自慢できる成績をとったが、今たぶん中3よりレベル低い。②生活しづらい⇒勉強に集中できない。08年4月から物価も高くなっていく。早く就職しないと生活できないかも。③単位をとる≠勉強する。社会の中の「偽」は大学から始まったではないか (学部・農)
- ◆奨学金をもっと充実してください (院・文)
- ◆奨学金が受けられたり、授業料免除になったりすると助かる。先進工業国の出身 (アメリカ) だが、個人的な経済状況は平均的なものよりもずっと低い。／国際交流センター・留学生課について、意識してその存在に気づけなかった。つまり、そういった施設は、留学生として来て間もない私にとってはそんなに重要ではなかった (院・文)
- ◆京大の施設が一番いいとおもう。留学生と日本人の交流がちょっと少ないので、日本の生活にとけこみにくい (院・文)
- ◆奨学金の選考方法を見なおす必要があると思います (院・文)
- ◆私一人に限らず、たくさんの留学生がアルバイトと研究を両立させながら、がんばっています。奨学金制度について、博士3・2・1から修士2・1という順番で決めるのではなくて、実際にどの学生が生活困難であり、どの学生がもっと補助が必要であるか、ということを考えてほしい。私の場合、英語があまりできないので、英語・専門の勉強を同じにしているので、本当に時間の大切さがわかるが、生活のためにやむをえずアルバイトで時間をむだに費やさなければならない。とても残念。せつかくの京大、せつかくの留学……。でもあかるくがんばっています (院・法)
- ◆ようやく京都大学に入ったのに、いろんなことで、勉強や生活が思ったより大変だと思います。とくに、奨学金がないので研究に没頭できませんが、研究がすごく忙しくてバイトの余裕がなくなりました。生活を維持するため、バイトをやらなければならないが、いっぱい時間を投入してしまうと勉強時間が少なくなり、成績が悪くなって、奨学金をとれない。したがって、いっぱいバイトをやるというふうには悪循環に陥ってしまいました (院・経)
- ◆勉強と生活が両立できないことです。すごく悩んでいます。学校の奨学金に何回も申し込みをしたけど、なかなか推薦をもらえなかった。理由も一切教えてくれなかった。もし入学成績がよくないせいでもらえないなら、周りの社会人入学の方は入学試験もないし、成績だけで判断基準にはならないでしょうか。または、万一、成績で評価するなら、成績悪くて奨学金なしで、生活のため、勉強はあまりできずにバイトしなきゃ。よって、成績がもっと悪くなってしまう。これは悪循環に陥ってしまっただ。「法律は誰にとっても平等なもの」が何で、奨学金は平等になっていないのでしょうか (院・経)
- ◆(私の指導教員である) XX 教授の、私が生活や研究面で快適に過ごせるように手助けをしたり機会を与えてくれたりするやり方は、とても良いやり方で、他の教授たちも見習うべきだ。友人たちからは、私のように恵まれていないという話を聞くことがある。／外国人に日本語で講義をするのは素晴らしいことなのか? (院・理)
- ◆忙しい研究生活の中で限られた時間をいかに有効利用するか。どうすればもっとうまく時間を使えるか (院・医)
- ◆奨学金と授業料免除制度は充実しているとは言えません (院・薬)
- ◆キャンパス間のシャトルバスの運行を柔軟にしてほしい。例えば朝9時から夜9時まで (院・工)
- ◆学生間の研究紹介、交流をするチャンスを作ってほしいです (院・工)
- ◆研究室の日本人だけではなく、多様な日本人と交流がしたいが、桂キャンパスにいるし、他の日本人と出会うチャンスがないので、交流ができない (院・工)
- ◆深夜まで研究ができるように、交通がもっと便利になってほしい。遅くまで営業するカフェや食堂がいろいろできてほしい (院・工)

- ◆桂キャンパスでの生活は不便です (院・工)
- ◆すべていいと思う。ただ部屋を借りるのがすこし難しい (院・工)
- ◆私費留学生たちの経済的状況及び家族状況を正確に分かって、必ず必要な人に与えることができる環境が用意されたら良いだろう (院・工)
- ◆数週間前に同志社大学の食堂で昼食をとった。京大よりおいしく、健康的で、安かったし、建物もきれいで新しかった。京大でも食事に関する状況や重要性を高めることはできないのか? (院・人環)
- ◆京都大学は確かにいい大学です。ここでの留学生生活は幸せだと思うけど、ほんとにつらい時もあります。日本語の問題、専門研究の問題、あとは経済的にも苦しんでいます。一番解決してほしいのは、人環の留学生が奨学金を申請しにくいことです。よろしくお願いします (院・人環)
- ◆相談の状況をもっと自由にしてほしい (院・人環)
- ◆いいまちで、勉強にはすごくいい環境です。しかし、留学生の厚生福利を考えてもらいたいです。いい人材は東大に行っています・・・ (院・人環)
- ◆京都大学は学術の名門として、勉強や研究をするための雰囲気が良く、研究生活にとっても役立つと思います。ただ、留学生は家族と離れ、自立して違う環境で生活するというのは、まさに苦労といえますから、できれば留学生の立場からもっと留学生の生活を考えていただきたいと思います (院・人環)
- ◆理系の大学院生の場合、奨学金がないと研究と生活が両立するのは難しいです。奨学金を取れない人たちは、本当に京大からの支援を受けたいですが、逆に、奨学金をもらっている方は、授業料が全額免除で、一般の方は、半額免除となる場合もありました。公平のために、大学の方は、何とかを調査してから、より人間味化した結論を出してほしいです (院・エネ科)
- ◆奨学金制度についてもっと透明化してほしいです (院・エネ科)
- ◆研究施設及び研究活動においては学生に最高の環境を提供してくれていると思う。また、外国人研究者や留学生のための便宜及びイベントが多いと思うが、もっと普及してほしい。もう一つの希望としては、留学生が日本に来た時、一番大きな問題は住宅だと思うので、寮の滞在期限の延長や寮を増やすことなどを通じて、もっと多くの留学生が寮を利用できるようになればいいと思う (院・エネ科)
- ◆私のような留学生は、奨学金をもらっていないと、特に学費や家賃などの支払いが難しい。研究とアルバイトを同時にする時間もない。情報は日本語だけではなくて英語でも提供して欲しい (院・AA)
- ◆北大阪の吹田市で働いていて、もっと精力的な学生になりたいが、研究所と京都が離れすぎているために、京都での活動ができない。ただ、研究は本当に順調にいつている (院・生命科学)
- ◆自由に運動ができる所が多くない。研究以外に運動も必要だと思うが、自由に入れる運動場がない (院・生命科学)
- ◆京大での生活を楽しんでいるが、日本人学生があまりシャイでなければ良いと思う。また、必要なとき以外は空調を使わない方がいいと思う (院・地環)
- ◆何もかも彼らに頼るべきものではないということは分かるが、(友達の経験談を聞くと) チューターの人たちは、教授たちに比べるとあまり重視していないということが分かるし、彼ら自身が学生や教授と問題があるときには、チューターとしての仕事は限られてしまうということも分かった (院・地環)
- ◆文部科学省について。私は霊長類(屋久島)の現地調査員なので、毎月文部省に署名に行くことは難しい。屋久島の調査所が京都大学の一部なので、そこで署名ができれば、あるいは例外が認められれば、私は定期的に奨学金を受け取ることができる。いずれにせよ日本にいたるのだから。現地調査員が不利になるというのはあってはならないことだ (院・霊長類研)
- ◆今の留学生生活にはほとんど満足しています。しかし京都大学が世界的にも有名で、留学生も多いことに比べ、留学生向けの寮が足りないと思う (研究生・国際セ)
- ◆もうすぐ別の家に引っ越すので、いろいろ買わなくてはいけなくなり、生活費がかかる。しばらくはほとんど「自分で」研究しているが、研究テーマがきちんと決まったら、もっといろいろなグループ活動に参加したい (研究生・文)
- ◆黄檗分館は、建物はいいが場所は遠いので、毎日の行程が疲れる (研究生・文)

- ◆他の学部はわからないけど、経済学部にはちょっと冷たいイメージが残りました。研究生なので研究室がなくて、もし学生寮に住まなければ友達がほとんどできなくなります。私にはチューターがいないので、いろんな手続きのことがわからない。事務室は自主的に考えないし、来日したばかりの時、インターネットも携帯もないので、手続きや勉強のことで茫然な状態に陥れて、寂しくてつらかったです。ただ、京大の研究の雰囲気が好きで、特にゼミの雰囲気が大好きです。以上です (研究生・経)
- ◆日本人学生と交流したい。留学生向けの活動がもっと多くほしい。定期的に校内で、アドバイジング活動してほしい・・・(生活上での保険、医療、生活施設など、一般的な生活問題、問い合わせたい) (研究生・経)
- ◆日本へ来たばかりで、留学生活にはまだ慣れていません。ちょっと寂しいですが、友達と先生に助けていただいて、ちょっと心強くなる (研究生・経)
- ◆京都大学の研究環境はとてもよく、施設も整っていて、実験設備も先進的である。ただ、研究室の間での交流が少なく、他の留学生の状況等があまりわからなく、交流が難しい (研究生・薬)
- ◆相談室にはまだ慣れない部分がある。定期的に訪れることを促したり、義務的に訪れさせたりするようになった方がいい (研究生・薬)
- ◆とても優れた研究環境が整っていて大変すばらしい所だと思う。ただ、交換留学で来ている自分としては、これらを直接体験できなかったのが、そこが残念 (研究生・工)
- ◆毎日歩いて山に登るのは大変です (研究生・工)
- ◆研究環境が一番好きである。何の干渉もなく研究に集中することができる。今、一番困っているのは、お金である。京都ではバイトがなかなか見つかりにくいし、これは自分の日本語がまだよくないからであると思う。学校での日本語クラスは一ヶ月で終わり、あまり役に立たなかった。研究が忙しくて、今毎日研究室の日本人の学生と交流をとり、他の友達が少ない。他には、同じ大学から来た中国人の先輩である。来学期からはどうすればいいか迷っている。続けて研究生をやるなら、お金も問題である。とにかく今はバイトで解決し、来年修士受験に望みたい (研究生・農)
- ◆京都大学での滞在を楽しんでいる。特に言語クラスは本当に助かっている。ただ不便なのは (大阪の) 国際交流会館が吉田キャンパスから非常に離れていて部屋がとても狭い。そのため吉田キャンパスの近くに引っ越した (研究生・情報)
- ◆住居問題以外はすべて順調です。安くて、比較的に条件のいいところに住めると助かります (研究生・ウイルス研)
- ◆私は、留学生課は信用していない。過去に嘘をつかれた (研究生・人文研)
- ◆留学生活について、大体満足しています。特に研究中心の雰囲気がよさそうです。でも図書館の利用時間が短いし、学部事務所の教職員があんまり親切ではありません (KUINEP・不明)

【その他】

- ◆日本人学生と会う機会を増やしてほしい。以上 (学部・経)
- ◆日本人の友達を作りたいけれど、ほとんど、日本人の友達がいない (学部・工)
- ◆京都大学にある施設、いい制度をいままで利用したことがなかったです。もっとそれに関心をもって利用するように努力します (学部・工)
- ◆京都大学は自由な学風の大学と先進的な研究機構として非常に満足しています。外国人としてまったく不愉快なことにあったことはありません。しかし、日本のトップレベルの大学として、まわりの日本人のモチベーションについてはちょっとびっくりした。だいたい遊ぶ人多くて、授業の出席率も低い、先生もやさしすぎて単位はふってくるかんじ。少子化のせいかな? (学部・工)
- ◆京都大学では留学生に関して一律の方針が定まっていないことに驚いた。それぞれの院には異なる規則があり、多くの院では留学生を相手にした適切な資源や考え方が欠けている (院・文)
- ◆優れた研究設備と環境は学業及び研究を進める上で、十分整っていると思う。ただ、キャンパス間の距離が遠く、ほとんどの行政機関が本部に集中しているので、他のキャンパスからの往来が少し不便だと思う (院・エネ科)

- ◆社会情報学が専門なので、最新の本を読まなければならない時がある。京大図書館の蔵書はこのよう
なニーズに全然対応できていないと思います。他大学の図書館（同志社）などを利用しようとしても、
館内利用しかできないので、本当に困っています（院・情報）
- ◆チューターとは何ですか？聞いたことがない（研究生・理）
- ◆いろいろな活動を通じて、留学生の間の交流を強めてほしい（研究生・生命科学）
- ◆留学生活・教育などはよいと思うが、京大の国際性が足りないと思っている。日本人は親切でし、
いろいろ助けてもらいました。研究がすごく自由ですばらしいです。たまに交流が足りないと思う（研
究生・原子炉）
- ◆特になし（学部・工）（院・文）（院・理）（院・薬）（院・工）（院・工）（院・工）（院・農）
（院・人環）（院・エネ科）（院・エネ科）（院・エネ科）（院・エネ科）（院・情報）（研究生・国際セ）
（研究生・国際セ）（研究生・文）（研究生・文）（研究生・経）

【プラス評価・謝辞】

- ◆留学生に対するサポートにはとても感謝しています（学部・経）
- ◆京都大学は大学らしい大学だと思いますし、努力さえすれば、誰もが大きく成長できる恵まれた環境
だと思います（学部・経）
- ◆京大で 3 ヶ月ぐらいの生活を経て、これからも京大で勉強したり、遊んだりして大学生の生活を送れ
るのはよかったね、という感じです。見た目できびしい先生もおりますが、まあ、自分が頑張れば何
とかなります。これからこそ、よろしくお願いします（学部・工）
- ◆京大はさすが世界でも有名な大学だと思います。自由な研究、勉強の雰囲気が大好きです（学部・工）
- ◆毎日、充実した生活を送っています。日本は勉強もでき、遊べる所です。しかも、なんと日本第 2 位
の京都大学に入学しました。これから頑張りたいと思っています（学部・工）
- ◆京都大学に入って、とても良かったと思います。いろいろな人とであって、知りあいになってとても
楽しかったです（学部・工）
- ◆とても満足している（学部・工）
- ◆工学部工業化学事務室の教員たちがすごく熱心で、私たち留学生を助けていろいろな情報を提供して
下さって、ほんとにありがとうございます（学部・工）
- ◆京都大学における留学生活にだんだん慣れていきます（学部・工）
- ◆入ったら、「さすが京大ですね！」という感じがした。授業の内容も充実し、先生たちも優しいです。
思ったより、生活しやすく、つまらなかったです。とりあえず、京大で勉強できることは自分の光栄
だと思います（学部・工）
- ◆京都大学での生活には満足していますし、京都という町も好きです（学部・工）
- ◆京大に入ってよかったと思います。いつのまにか 4 回生になりまして、もうちょっと勉強したかった
なあ、と後悔しています（笑）。でも、大学院にも入りたいので、まだまだ頑張れると思います。それ
に、京都はすごく暮らしやすいので、うれしいです。先生や事務の人たちはやさしくて、感謝してい
ます。そして、奨学金をいただいたことも、大変助かりました。安心して勉強できるようになりました
ので、心より感謝しています（学部・農）
- ◆最初は友人の紹介で名古屋大学に入り、本格的な日本語を勉強し始めたが、半年後、専門のことをし
だいに考えるようになり、悩み続けました。しかし、その後、京都大学に入ることを決断してやって
きました。今、京大に入ってよかったなあ、と思っています（院・文）
- ◆大阪大学にいたときと比べると、京都大学は留学生同士の強いつながりがない。理由は分からないが
（院・文）
- ◆今まで自分が希望した研究・学習環境を与えられてきた。また、留学生活を通して貴重な経験も獲得
した。今後とも大事なチャンスをきちんと把握していきたいと思っています（院・文）
- ◆優れた研究環境だと思います。私は満足です（院・法）

- ◆京大の自由な雰囲気がとても好きです。新しい考え方を持つ先生がたくさんいますし、学生も個性があります。ところが、日本人学生と知り合う機会がちょっと少ないです。それから日本語ももっと上手になるようにがんばって、日本人の友達をたくさん作りたいと思います (院・法)
- ◆とても良い勉強・研究環境をご提供いただき、ありがとうございます (院・経)
- ◆大変満足している。充実した研究・生活ができています。卒業生の就職・進路についてもっと力を入れると良いなと思います (院・経)
- ◆京都大学への留学は、満足すべき価値があると感じています。私の人生で一番価値ある選択でした (院・経)
- ◆周りの人が、優秀な人ばかりで、自分も努力しないとついていけないことを常に意識しています。結構プレッシャーがあるけど、充実した毎日を過ごしています。京大に留学することができて、本当に幸せだと思います (院・経)
- ◆素晴らしい！感動した！事務的な問題はあまりない。母国の大学の経験では、事務的な問題はいっぱいあるので、京大の事務的な経験は新鮮で、感動している。京大のスタッフ (色々な事務室・先生・京大の店・掃除するスタッフなど) は、優しく、いつもいい人間的な関係ができています (院・理)
- ◆京都大学は研究するために素晴らしい環境を整えてくれているので、不平や要望はない。ここでは自信を持つことができ、非常にうまくいっている (院・理)
- ◆五年間の京都大学における留学生生活に満足しています。そろそろ卒業が近いので、私の指導教員・XX 教授に心から感謝しております。京都大学・日本の文部省・そして日本人の友たちに感謝しております (院・理)
- ◆良い。何も困っていることはない (院・理)
- ◆私の研究を進めるための素晴らしい場所 (院・医)
- ◆京都大学にきてよかったと思います (院・医)
- ◆私は日本 (京都) に約1年いて、ここでの生活を楽しんでいる。それに研究もうまくいっている。こんな素晴らしい国に来られたことを感謝している (院・医)
- ◆京都大学はいい大学です (院・医)
- ◆京都大学で留学することは後悔ではない。いい学校です。大満足です (院・医)
- ◆京都大学は世界中で学術レベルが高く、教育研究指導が優れており、施設・研究環境が充実していたところです。私は京都大学医学研究科病理診断部で、自分が好きなテーマを選んで、実験をしておりますが、実験がすごく進んでいて嬉しいです。感謝で胸がいっぱいです (院・医)
- ◆楽しんでいます (院・薬)
- ◆時々留学生活が苦しく感じても、自立するために自分でよく考えて、自分で決断するのが一番重要なことです。教育・研究環境が完全でいろいろ研究ができ、勉強になるから非常に満足です (院・薬)
- ◆ありがとう！今は何も問題はない。教授や他の学生には感謝している。ありがとう (院・薬)
- ◆京都大学での留学の生活はとても楽しいです。来てからいろいろ先生と学生に助けいただきました。去年、日本語の授業も受けました。研究は毎日忙しくて、たくさんの技術が身につきます。京大の雰囲気が好きです (院・薬)
- ◆非常に充実した研究生活をしています。これからも頑張りたいと思います (院・工)
- ◆京都はいいところです。そして京都大学にはいい研究環境がある。いい研究ができると思う (院・工)
- ◆異なる国に来て、異なる人・異なる文化などに会ってとまどう場合もありましたが、将来こういったチャンスはこれからもっと増えていくだろうと思ひまして、真の意味での国際化というものが、何かを考えさせてくれました (院・工)
- ◆日本で生活はすべてが快適。ほとんどの日本人が私や私の家族に対して親切で礼儀正しい。日本で生活する中で本当に素晴らしい経験をたくさんしている。母国に帰った後にここでの経験を活かしたい (院・工)
- ◆京都大学は学業や研究のための設備がすべて行き届いているのでとても良い大学だ。勉強や研究する環境はとても良い (院・工)

- ◆このような名のある大学の博士課程で勉強する機会を与えていただけたことに感謝したい。京都大学の素晴らしい研究環境でとても多くの利益を得た (院・工)
- ◆京都大学での日常生活はとても良く、研究に関しても素晴らしい環境を提供してもらっていると思う (院・工)
- ◆日本での生活と京都での研究を楽しんでいる (院・工)
- ◆京都大学の学生になれたことは素晴らしいことだと思っている。「留学生が初めに選ぶ大学」として京都大学がやらなければならないことはまだあると思う (院・工)
- ◆学術・研究面における設備が素晴らしい (院・工)
- ◆サービスが良い (院・工)
- ◆留学生活は忙しくて楽しいです。京都大学はいい大学だと思っています。これから京大生としてずっと頑張っていきたいと思っています (院・工)
- ◆良い環境で研究できるのは感謝します (院・工)
- ◆過ごしやすい (院・農)
- ◆充実した研究生生活で”自分が生きている”ことを深く感じています。毎日が楽しいです (院・農)
- ◆日本も京都も自分の目標を達成するためには良い環境で、学術的にも個人的にも成長させてくれるものだ。このような独特な経験をさせてもらえることに常に感謝したい (院・農)
- ◆教育・研究環境が一番良い (院・農)
- ◆京都大学が「家族の集まり」を促進するものであればありがたい。ありがとう (院・農)
- ◆いい研究条件とサービスの提供を感謝します。自分の言語のために、交流は今まで問題がありました。でも先生とか学生とかが手伝ってくれた。本当に感謝したいです (院・農)
- ◆京都大学の人たちはとても親切で、とてもいいところだと思います (院・農)
- ◆京都大学における留学生活はどちらかといえば、よくいっています。研究環境についてとても満足していると思います。学位を得るために頑張っています (院・農)
- ◆京都に来てよかった。京大に来てよかった (院・人環)
- ◆入ってよかった。優秀な大学です。奨学金なしで大変だろうが、頑張ります (院・人環)
- ◆京都大学は研究するのに素敵な場所だ。ここにいられて嬉しく思う。もっと日本語がうまく話せるようになりたい (院・エネ科)
- ◆京都大学はとても良い大学だ。良い印象を抱いている (院・エネ科)
- ◆サポートが十分で快適 (院・エネ科)
- ◆とても良い (院・AA)
- ◆研究科内では、本当に自由・活発な雰囲気で、勉強と研究に取り組む上で最高なところだと思います (院・情報)
- ◆京都大学が大好きだ。ここでやりたいことが全てできるくらいの時間があればいいのに。パーティーなど学生たちと会える機会が多ければいいと思う。京都大学にはダンスクラブやバーなどが必要だ。新しいジムも必要だ。ありがとう！ (院・情報)
- ◆京都大学は十分留学生を支えてくれていると思います。良い研究施設もありますし、教授の指導は良いと思います。京都大学を留学先として選んだことに非常に満足しています (院・情報)
- ◆2002 年 4 月から 2008 年 3 月まで、文科省の奨学金をいただき、研究させていただいた。また 2008 年 4 月からは、RA をしながら、博士研究の仕上げに取り組んでいる。深く感謝しています (院・情報)
- ◆京都大学でのすべてのことが素晴らしい。ゼミやワークショップで日本語を使うことを除いては (院・情報)
- ◆今のところ京都大学での生活には非常に満足している。ありがとう！ (院・生命科学)

- ◆私は今、地球環境学舎で研究生として勉強しています。今は研究生の学生と一緒にゼミに参加し、指導教員と毎週 1 回調査しに行きます。今いろんな論文の書き方とか、調査方法とか機械の使い方を学んでいます。研究環境は素晴らしいと思いますので、京都大学の大学院生になりたいのです。教育の施設がいうえ、指導の先生もいろいろ教えてくれます。研究室のみなさんも優しく、ここは勉強にちょうどいいところだと思います (院・地環)
- ◆学風が自由。研究に対する交流が活発。勉強できる事が山ほどあります。留学生 (学生) にサポートしています。ありがとうございます (院・地環)
- ◆私には京都大学で勉強したいという秘めた熱意がある。京都大学のことは本当に大好きだ。その幸せを日に日に感じ取っていくだろう (院・地環)
- ◆いい環境で、研究ができて、ありがとうございます (院・ウイルス研)
- ◆素晴らしい環境である (院・不明)
- ◆日常生活が日に日に良くなっていったほしい。日本に来てからは挑戦の毎日だけど楽しむことができる。博士課程を修了するまでに、自分の研究を 11 本のジャーナルに発表したい (院・不明)
- ◆今のところ良い (素晴らしい) (研究生・国際セ)
- ◆勉強のためによい環境で、勉強で疲れる時も、心を癒す穏やかな所がたくさんあります (研究生・国際セ)
- ◆京都大学は素晴らしい。先生たちは親切にしてくれたし、日本人の先輩もやさしい。図書館もいい。キャンパスも大きい、こんな所で勉強して、私はとても嬉しい (研究生・教育)
- ◆留学している外国人の学生に関心を傾けているし、日本語の授業も充実しているので、満足しています (研究生・法)
- ◆今のところ楽しんでいるが、まだ自分の研究が始まっていないので、来学期から環境に適応できずに問題が起こるのではないかと懸念している。ただ私はそれは自然なことだと思ひ、国際交流センターや京都大学での知合いが助けになってくれると思っている。悩んだりはない (研究生・理)
- ◆全体的に見ればやりたいことがやれる環境が整っていると思う (研究生・経)
- ◆京大の研究設備・環境は十分進んで、図書館や経済図書室の資料も望むより揃っている。とても満足でした。先生、京大の人員、及び先輩たちも親切で、楽しかった一年の留学生活です (研究生・経)
- ◆京都大学は私の第一志望の学校です。いままで、学校のすべての環境・設備なども満足です (研究生・経済研)
- ◆京都大学に来たのが嬉しくてたまりません。今の生活でとても充実しています。自分の研究を頑張っていきたいと思います。京都大学を選んだのは、私のベストチョイスだと思います (研究生・経済研)
- ◆大学には非常に歓迎されていると思う！ (研究生・医)
- ◆十分に良い (研究生・医)
- ◆忙しいですが、本当にいいと思います (研究生・医)
- ◆この 2 年間の京都大学での留学生活はとってもいいです。研究室の雰囲気がとてもいいです。学生さんは頭のいい人が多い。世界で超一流大学です。学部のなかで交流が多い。企業との交流も多いです。ただし研究ルートでした (研究生・工)
- ◆研究環境はいちばんよくて、留学生活はたのしいと思っています (研究生・工)
- ◆とても優秀な大学だと思います。色々な知識を勉強するようになります。ありがとうございます。将来の人生のなかで、いつかもう一度、京大に行きたいですね！ (研究生・文)
- ◆学風は自由で、学習環境のいい大学である。完全な教育システムがあり、特に研究に対する学校の制度がとてもいいと思う (研究生・工)
- ◆いま、どんどん慣れていきます (研究生・農)
- ◆満足 (研究生・エネ科)
- ◆教育がよくて、研究環境もよくて、留学生活は楽しいです (研究生・エネ科)
- ◆京大の教授は人間的に素晴らしく、技術もその分野でハイレベルである。そして研究室の設備も整っていて、学生たちも非常に努力して勉強するので、研究と勉強にいい所だと思う (研究生・エネ科)

- ◆すごくいい学校です。優秀な人材が集まっていて、いろいろ勉強できる場所があります。充実な研究設備をご提供いただく。まことにありがとうございました（研究生・情報）
- ◆京大はとてもいい学習環境を提供してくれた。これからもより一層の発展を祈る（研究生・情報研）
- ◆日本で楽しく暮らしている（研究生・人文研）
- ◆こんな素晴らしい学校で勉強ができることが嬉しい。自分の研究と日常生活で存分に最善を尽くそうと思う。アンケートありがとうございました（研究生・防災研）
- ◆とてもいい勉強、生活の環境を提供していただいて、感謝の気持ちを抱く（日研・国際セ）
- ◆将来日本で就職するかどうか決めるにあたって十分な経験を得られたと思う。日本人学生との交流の中で考えや文化の違いを感じとることができ、改めて世界は広いと思えた。日本人学生の普通の授業はある一部を除いてわかりにくい所もあったが、いろいろな先輩とのコネクションなどでカバーができ、最後の方は日本人らしさを出せたと思う（一般交換・経）

国際交流と留学支援制度に関する調査のお願い

<日本人学生対象>

2008 年 6 月

京都大学国際交流センターでは、この度、本学に学ぶ学生・大学院生のみなさんを対象に、国際交流および留学に関する実態調査を計画しました。みなさんのご意見をもとに本学の国際交流の現状をよりよく把握し、本学の留学支援体制の改善と今後の国際交流の推進に役立てたく思います。みなさんの留学経験、これからの留学希望、京都大学の留学支援体制への要望などについて、率直なご意見をお教え下さい。

この調査の結果は報告書及び学術論文として学内外に公開します。なお、調査票は無記名です。調査で得られたデータは記号化して統計的に処理しますので、みなさんのプライバシーが侵害されることはありません。

以上の主旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

締め切り： **7月18日(金)**

なお、本調査に関するご質問やご意見は以下までお寄せ下さい。

京都大学国際交流センター アンケート調査班
問い合わせ先：kawai@intl.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

(ここには何も記入しないで下さい)

整理番号

—

回収日

月	日
---	---

記入上の注意

質問には、選択式の質問と記述式の質問があります。

選択式の質問について

- ① 該当する答えの番号を、直接○で囲んでください。

(例) 性別

1. 女性

2. 男性

(例)

不十分 あまり充分でない ある程度充分 充分

1 ————— 2 ————— 3 ————— 4

該当しない

8

- ② 「その他」を選んだ場合は、具体的にご記入ください。

記述式の質問について

- ① の中に具体的にご記入下さい。

どうしても答えにくい場合は、その質問をとばしていただいて結構です

***** 回答後は、次のいずれかの方法で回収に協力してください。*****

- ① 担当の先生から指示がある場合は、その指示に従ってください。
- ② 上記以外の場合は、各自、学内便*にて「国際交流センター アンケート調査班」まで御返送ください。

***学内便は、学科事務室か学部事務室などに願ひ出てください。「学内便です。」とお渡しください、利用できます。**

問1. 性別 **n=511**

1. 女性(31.5%)

2. 男性(68.3%)

無回答(0.2%)

問2. 年齢 **n=511**

7月1日現在

満

平均 21.42

歳

無回答 0.2%をのぞく

問3. 所属学部・研究科 **n=511**

1. 国際交流センター	(-)	2. 総合人間学部	(2.0%)
3. 文学部・文学研究科	(14.9%)	4. 教育学部・教育学研究科	(2.9%)
5. 法学部・法学研究科	(9.8%)	6. 経済学部・経済学研究科	(4.5%)
7. 理学部・理学研究科	(3.7%)	8. 医学部・医学研究科	(10.0%)
9. 薬学部・薬学研究科	(5.1%)	10. 工学部・工学研究科	(32.1%)
11. 農学部・農学研究科	(9.2%)	12. 人間・環境学研究科	(0.0%)
13. エネルギー科学研究科	(0.4%)	14. アジア・アフリカ地域研究研究科	(0.4%)
15. 情報学研究科	(2.2%)	16. 生命科学研究科	(2.2%)
17. 地球環境学	(0.4%)		
18. 研究所・センター（具体的に：			(0.2%)
			無回答(0.2%)

問4. 文系／理系 **n=511**

1. 文系(32.9%)

2. 理系(65.0%)

3. 文理融合型(2.2%)

4. 未決定(0.0%)

問5. 専門の研究分野（具体的にご記入下さい） **n=511**

回答率 69.9%

問6. 京都大学における身分 **n=511**

- | | | | | |
|-----------------|---------|---|--|----|
| 1. 学部の正規学生 | (71.8%) | } | <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 40px; display: inline-block;"></div> | 回生 |
| 2. 大学院修士課程の正規学生 | (22.9%) | | | |
| 3. 大学院博士課程の正規学生 | (2.9%) | | | |
| 4. 研究生・聴講生 | (0.0%) | | | |
| 5. 科目等履修生 | (0.2%) | | | |
| 6. 研修員 | (0.2%) | | | |
| 7. その他 | (0.0%) | | | |

(具体的に：

)

無回答(2.0%)

問 7. あなたにもっともなじみのある外国語は、以下のうちどれですか。あてはまるものに一つだけ○をつけてください。 **n=511**

- | | | |
|-----------------|---------------------------|---------------|
| 1. 英語(95.7%) | 2. ドイツ語(0.0%) | 3. 中国語(1.8%) |
| 4. フランス語(1.2%) | 5. その他（具体的に：_____）(1.2%) | |

無回答(0.2%)

付問 7-a. 問 7 で選んだ外国語を、どのくらい話せますか。あてはまるものに一つだけ○をつけてください。 **n=511**

- | | |
|--|---------|
| 1. ほとんど話せない | (13.9%) |
| 2. 身近なこと（ものごとの「好き」・「嫌い」など）についてやりとりができる | (52.6%) |
| 3. 日常生活での話題についてやりとりができる | (29.4%) |
| 4. 社会性の高い話題（時事問題など）についてやりとりができる | (3.7%) |

無回答(0.4%)

付問 7-b. 問 7 で選んだ外国語を、どのくらい書けますか。あてはまるものに一つだけ○をつけてください。 **n=511**

- | | |
|--------------------------------------|---------|
| 1. ほとんど書けない | (6.3%) |
| 2. 身近なこと（ものごとの「好き」・「嫌い」など）について文章を書ける | (33.3%) |
| 3. 日常生活での話題について文章を書ける | (49.5%) |
| 4. 社会性の高い話題（時事問題など）について文章を書ける | (10.4%) |

無回答(0.6%)

付問 7-c. 問 7 で選んだ外国語を、どのくらい聴きとれますか。あてはまるものに一つだけ○をつけてください。 **n=511**

- | | |
|-------------------------------------|---------|
| 1. ほとんど聴きとれない | (16.6%) |
| 2. 身近なこと（ものごとの「好き」・「嫌い」など）について聴きとれる | (46.0%) |
| 3. 日常生活での話題について聴きとれる | (30.7%) |
| 4. 社会性の高い話題（時事問題など）について聴きとれる | (6.1%) |

無回答(0.6%)

付問 7-d. 問 7 で選んだ外国語を、どのくらい読めますか。あてはまるものに一つだけ○をつけてください。 **n=511**

- | | |
|---|---------|
| 1. ほとんど読めない | (2.3%) |
| 2. 身近なこと（ものごとの「好き」・「嫌い」など）について書かれた文を読める | (11.7%) |
| 3. 日常生活の話題について書かれた文章を読める | (38.2%) |
| 4. 社会性の高い話題（時事問題など）について書かれた文章を読める | (47.2%) |

無回答(0.6%)

問 8. 問 7 で選んだ外国語を用いる場合、学問的・専門的な話題について以下のことはどのくらいできますか。 **n=511**

	できない	どちらかといえば できない	どちらかといえば できる	できる	無回答
1. 話す	(47.0%)	(38.2%)	(12.5%)	(1.8%)	(0.6%)
2. 書く	(21.5%)	(41.5%)	(32.1%)	(4.1%)	(0.8%)
3. 聴く	(35.8%)	(39.5%)	(20.7%)	(3.3%)	(0.6%)
4. 読む	(7.4%)	(23.1%)	(48.9%)	(20.0%)	(0.6%)

問 9. これまでに受けた語学検定と、その結果をお書きください。語学検定を受けたことがない人は「なし」とお書きください。 **n=511**

例) TOEFL PBT557 点, 中国語検定 1 級

回答率 66.7%

問 10. あなたご自身のことについてうかがいます。

付問 10-a. あなたのご出身の高校では、どのくらいの割合の人が大学・短大に進学しましたか。 **n=511**

- | | |
|-------------|---------|
| 1. ほとんど全員 | (85.1%) |
| 2. 7割から8割程度 | (10.6%) |
| 3. 半数くらい | (3.3%) |
| 4. 2割から3割程度 | (0.0%) |
| 5. ほとんどいない | (0.2%) |
| 6. わからない | (0.6%) |

無回答 (0.2%)

付問 10-b. あなたのご出身 (15 歳までにすごした主なところ) はどのようなところですか。 **n=511**

- | | |
|---------------------------|---------|
| 1. 人口 100 万人以上の都市 | (33.3%) |
| 2. 人口 50 万人から 100 万人未満の都市 | (9.8%) |
| 3. 人口 25 万人から 50 万人未満の市 | (15.3%) |
| 4. 人口 10 万人から 25 万人未満の市 | (16.4%) |
| 5. 人口 10 万人未満の市 | (13.5%) |
| 6. 町 | (9.6%) |
| 7. 村 | (0.6%) |

無回答 (1.6%)

付問 10-c. 日本の世帯平均所得は 563 万円という調査があります。これとくらべてあなたの親（保護者）の世帯収入は以下のうちどれくらいですか。 **n=511**

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. 平均よりかなり少ない | (9.8%) |
| 2. 平均より少ない | (8.4%) |
| 3. ほぼ平均 | (18.8%) |
| 4. 平均より多い | (46.8%) |
| 5. 平均よりかなり多い | (13.3%) |
| | 無回答 (2.9%) |
-

問 11. あなたの子どもを思い出してお答えください。次のようなことはどのくらいありましたか。

付問 11-a. 子どものころ、日本人以外の人と交流する機会がありましたか。 **n=511**

- | | |
|------------|---------|
| 1. なかった | (54.2%) |
| 2. あまりなかった | (19.2%) |
| 3. ときどきあった | (17.6%) |
| 4. よくあった | (9.0%) |

付問 11-b. 子どものころ、家族の誰かがあなたに本をよんでくれましたか。 **n=511**

- | | |
|------------|---------|
| 1. なかった | (7.0%) |
| 2. あまりなかった | (14.3%) |
| 3. ときどきあった | (33.9%) |
| 4. よくあった | (44.8%) |

付問 11-c. 小学生のころ、家族につれられて美術展や博物館に行ったことがありましたか。 **n=511**

- | | |
|------------|---------|
| 1. なかった | (12.9%) |
| 2. あまりなかった | (25.8%) |
| 3. ときどきあった | (41.1%) |
| 4. よくあった | (20.2%) |

付問 11-d. 小学生のころ、外国のメディア（本やテレビなど）にふれることがありましたか。 **n=511**

- | | |
|------------|---------|
| 1. なかった | (48.9%) |
| 2. あまりなかった | (26.8%) |
| 3. ときどきあった | (14.7%) |
| 4. よくあった | (9.6%) |
-

問 1 2. これまでに、海外に行ったことがありますか。 **n=511**

1. ある (68.9%)

2. ない (31.1%)



付問 1 2-a. それはどのような形態でしたか。その形態と、回数があるものについては回数もお答え下さい。(すべてに○) **n=352**

- | | | |
|---------------------------------------|-------------|--------------------|
| 1. 海外で生まれた | (1.4%) | 無回答(0.3%) |
| 2. 子どもの頃、家族と一緒に海外に居住していた | (14.2%) | 無回答(0.3%) |
| 3. 留学(語学や専門研究などのキャリアアップを目的とした海外渡航)をした | | |
| * 高校での留学も含む | →合計 () 回 | (22.4%) 無回答(0.6%) |
| 4. ツアーで旅行をした | →合計 () 回程度 | (36.3%) 無回答(2.9%) |
| 5. 個人で旅行をした | →合計 () 回程度 | (44.1%) 無回答(3.5%) |
| 6. ボランティア活動をした | →合計 () 回程度 | (2.3%) 無回答(0.3%) |
| 7. 主に働いた | →合計 () 回程度 | (0.6%) 無回答(0.3%) |
| 8. その他(具体的に:) | | (17.3%) 無回答(0.3%) |

問 1 3. あなたのご両親*の海外留学経験についてお尋ねします。

付問 1 3-a. あなたの父親は、6ヶ月以上の海外留学経験がありますか。 **n=511**

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 海外留学経験がある | (10.6%) |
| 2. 海外留学経験がない | (78.5%) |
| 3. わからない | (10.4%) |
| | 無回答(0.6%) |

付問 1 3-b. あなたの母親は、6ヶ月以上の海外留学経験がありますか。 **n=511**

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 海外留学経験がある | (3.3%) |
| 2. 海外留学経験がない | (85.7%) |
| 3. わからない | (10.2%) |
| | 無回答(0.8%) |

※ ご両親として、実父母のほか、養父母等の保護者をお持ちの方は、あなたがこれまで最も長くかかわった方についてお答えください。

問 1 4. 今後、海外に行ってみたいと思いますか。 **n=511**

1. はい (93.3%)

2. いいえ (6.3%)

無回答(0.4%)



付問 1 4-a. どのような形態で海外に行きたいですか。(すべてに○) **n=479** 無回答(0.6%)

- | | |
|--|---------|
| 1. 留学(語学や専門研究などのキャリアアップを目的とした海外渡航)をしたい | (60.5%) |
| 2. ツアーで旅行をしたい | (29.9%) |
| 3. 個人で旅行をしたい | (78.5%) |
| 4. ボランティア活動をしたい | (14.2%) |
| 5. 働いてみたい | (32.6%) |
| 6. その他(具体的に:) | (1.3%) |

問15. これまで学内の留学生と知り合ったことがありますか. n=511

1. はい(64.4%) 2. いいえ(35.6%)



付問15-a. どのように知り合いましたか. (すべてに○) n=329

1. 授業で（授業名を分かる範囲でお答えください：） (41.6%)
2. 部活・サークル活動で (37.1%)
3. チューターとして (3.6%)
4. 研究室で (38.9%)
5. 学内のパーティ・イベントなどで (13.7%)
6. その他（具体的に：） (9.1%)

付問15-b. 留学生の影響についておたずねします。あてはまるところに○をつけてください。n=335 (問15で「いいえ」を選び且つ下記に回答した6名を含む)

- | | どちらかといえば | | どちらかといえば | | |
|--|----------|---------|----------|---------|---------|
| | あてはまらない | あてはまらない | あてはまる | あてはまる | 無回答 |
| 1. 学問的な面で刺激をうけている | (24.5%) | (29.6%) | (29.3%) | (15.5%) | (1.2%) |
| 2. 学問的な面で刺激をあたえていると感じる | (40.6%) | (41.5%) | (12.8%) | (3.6%) | (1.5%) |
| 3. 外国の文化に興味をもつようになった | (16.4%) | (23.9%) | (35.8%) | (23.0%) | (0.9%) |
| 4. (留学生に紹介することなどを通して)
自国の文化に興味をもつようになった | (21.2%) | (33.1%) | (31.6%) | (12.8%) | (1.2%) |
| 5. 留学生と一緒に授業を興味深いと感じる | (24.2%) | (25.7%) | (32.8%) | (15.5%) | (1.8%) |

付問15-c. その他、留学生から受けている影響、あるいは留学生に与えている影響についてなにかあれば自由に記述してください。 n=511

回答率 12.3%

問16. これまでに留学してみたいと思ったことはありますか. n=511

(これまでに留学したことがある人は、それ以降の希望についてお答え下さい)

1. 思ったことがある → 問 17 (次ページ) におすすみ下さい (66.9%)
2. 思ったことはない → 問 34 (13 ページ) におすすみ下さい (30.1%)
3. 現在、留学が決定している → 問 39 (16 ページ) におすすみ下さい (2.7%)
- 無回答 (0.2%)

問 17. 今後、留学するなら、いつ留学したいですか。(1つだけに○) **n=342**

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 大学学部で | (24.9%) |
| 2. 大学卒業後 | (25.4%) |
| 3. 大学院修士課程で | (19.9%) |
| 4. 大学院修士課程修了後 | (10.8%) |
| 5. 大学院博士課程で | (7.6%) |
| 6. 博士学位取得後 | (6.1%) |
| 7. その他(具体的に:) | (5.3%) |

問 18. 留学するとすれば、どのくらい留学したいですか。(1つだけに○) **n=342**

- | | |
|----------|---------|
| 1. 1ヶ月程度 | (9.4%) |
| 2. 3ヶ月程度 | (12.9%) |
| 3. 6ヶ月程度 | (17.0%) |
| 4. 1年程度 | (34.5%) |
| 5. 2年程度 | (13.2%) |
| 6. 3年程度 | (7.0%) |
| 7. 4年程度 | (1.8%) |
| 8. 5年程度 | (1.2%) |
| 9. 6年以上 | (3.2%) |

問 19. どの国に留学したいですか。あれば第3希望まで、国名でお答え下さい。 **n=342**

第1希望	第2希望	第3希望
回答率 93.6%	回答率 77.5%	回答率 56.4%

問 20. 留学するなら、どういう目的で留学したいですか。下記から3つまで選んで順にお答えください。 **n=342**

一番目の目的	二番目の目的	三番目の目的
回答率 99.7%	回答率 95.3%	回答率 89.2%

- | | 第1希望
n=342 | 第2希望
n=327 | 第3希望
n=306 |
|------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 1. 専門分野での勉強・研究に役立てたい | (45.9%) | (14.4%) | (12.4%) |
| 2. 外国語能力を高めたい | (34.8%) | (38.5%) | (13.4%) |
| 3. 海外を経験したい | (8.2%) | (18.3%) | (20.3%) |
| 4. 異文化交流をしたい・異文化を理解したい | (6.1%) | (14.4%) | (24.8%) |
| 5. 見聞を広げたい | (3.5%) | (12.5%) | (27.8%) |
| 6. その他(具体的に:) | (1.2%) | (1.5%) | (1.0%) |

問 21. 留学先を選ぶとすれば、次のうちどの機関がいいですか。(1つだけに○) **n=342**

- | | |
|----------------|------------|
| 1. 大学 | (36.8%) |
| 2. 大学院 | (42.7%) |
| 3. 研究所 | (10.2%) |
| 4. 語学学校・語学研修所 | (7.6%) |
| 5. 専門学校 | (0.0%) |
| 6. その他(具体的に:) | (2.3%) |
| | 無回答(0.3%) |

問 22. 留学するとしたら、日本の学校の学籍はどうしたいですか。(1つだけに○) **n=342**

- | | |
|---------------------------|------------|
| 1. 休学したい | (20.8%) |
| 2. 休学はしたくない | (33.3%) |
| 3. どちらでもいい | (26.3%) |
| 4. 該当しない(大学院修了後に留学したい人など) | (19.3%) |
| | 無回答(0.3%) |

問 23. 留学するとしたら、留学先で得た単位はどうしたいですか。(1つだけに○) **n=342**

- | | |
|-------------------------------------|------------|
| 1. 日本の大学(大学院)の、卒業に必要な単位として認定して欲しい | (52.3%) |
| 2. 日本の大学(大学院)の、卒業に必要な単位として認定されなくてよい | (3.5%) |
| 3. どちらでもいい | (26.9%) |
| 4. 該当しない(大学院修了後に留学したい人など) | (17.0%) |
| | 無回答(0.3%) |

問 24. 留学するなら、留学先で学位を取得したいと思いますか。(1つだけに○) **n=342**

- | | |
|------------|---------|
| 1. 取得したい | (59.9%) |
| 2. 取得しない | (5.0%) |
| 3. どちらでもいい | (35.1%) |

問 25. あなたが留学したとしたら、その経験は、帰国してから、つぎのことに役立つと思いますか。(それぞれに○) **n=342**

- | | 役立たない
と思う | あまり役立たない
と思う | ある程度役立つ
と思う | 役立つ
と思う | 無回答 |
|---|--------------|-----------------|----------------|------------|---------|
| 1. 就職 | (3.5%) | (15.8%) | (47.1%) | (32.7%) | (0.9%) |
| 2. 今後の研究活動 | (2.6%) | (11.7%) | (35.7%) | (49.4%) | (0.6%) |
| 3. 外国語能力の向上 | (0.0%) | (0.3%) | (26.3%) | (73.1%) | (0.3%) |
| 4. 国際的な視野を持つこと | (0.6%) | (2.3%) | (31.3%) | (64.9%) | (0.9%) |
| 5. 友人・知人関係 | (1.5%) | (7.3%) | (41.1%) | (49.6%) | (0.6%) |
| 6. 日本の国際交流 | (5.8%) | (28.1%) | (40.4%) | (25.1%) | (0.6%) |
| 7. その他留学経験が役に立つだろうと思うことがあれば、具体的にお書き下さい。 | | | | | |

回答率 6.4%

問 26. 以下に挙げる条件は、あなたが留学を実現するのに、どの程度関係があると思いますか。 (それぞれに○) **n=342**

実現には…	関係が ないと思う	ある程度関係が あると思う	かなり関係が あると思う	無回答
1. 奨学金	(6.4%)	(31.0%)	(62.0%)	(0.6%)
2. 単位認定制度	(28.7%)	(49.4%)	(21.3%)	(0.6%)
3. 交換留学制度	(27.5%)	(47.4%)	(24.3%)	(0.9%)
4. 日本と海外の学期の調整	(19.6%)	(46.8%)	(33.0%)	(0.6%)
5. 京都大学での学業・研究との両立	(15.2%)	(39.8%)	(44.4%)	(0.6%)
6. 事務的な手続きのしやすさ	(8.8%)	(41.5%)	(49.1%)	(0.6%)
6. 留学に関する京都大学の サポート体制 (悩みの相談, 情報提供など)	(9.4%)	(42.1%)	(48.0%)	(0.6%)
7. 日本と受け入れ国の関係	(9.1%)	(39.5%)	(50.9%)	(0.6%)
8. 自分自身の外国語能力	(2.9%)	(21.1%)	(75.7%)	(0.3%)
9. 自分自身の興味・関心	(0.9%)	(16.7%)	(82.2%)	(0.3%)
10. 親の理解	(13.7%)	(43.0%)	(42.7%)	(0.6%)
11. 友人, 知人の紹介・つて	(30.1%)	(50.9%)	(18.7%)	(0.3%)
12. 偶然の要因・縁	(17.0%)	(52.9%)	(29.2%)	(0.9%)
13. その他, 留学を実現するために重要だと思うことがあれば, ご自由にお書き下さい.				

回答率 8.5%

問 27. 以下に挙げる情報が充分であったら, 留学は, どの程度実現しやすくなると思いますか。 (それぞれに○) **n=342**

実現には…	関係が ないと思う	ある程度関係が あると思う	かなり関係が あると思う	無回答
1. 受け入れ機関の施設・設備	(2.0%)	(31.6%)	(66.1%)	(0.3%)
2. 受け入れ機関の授業カリキュラム	(5.6%)	(38.9%)	(55.3%)	(0.3%)
3. 受け入れ機関の指導教員・教員	(3.5%)	(38.0%)	(58.2%)	(0.3%)
4. 受け入れ国の文化・風土・歴史	(5.8%)	(49.7%)	(44.2%)	(0.3%)
5. 受け入れ国の経済状況	(5.6%)	(52.6%)	(41.5%)	(0.3%)
6. 受け入れ国の生活環境	(1.8%)	(31.9%)	(66.1%)	(0.3%)
7. その他, 留学を実現するために知りたいと思うことがあれば, ご自由にお書き下さい.				

回答率 5.3%

問 28. 外国語の学習を行うとしたら、以下に挙げた場所・方法をどの程度利用したいと思いますか. **n=342**

	利用したくない	ある程度利用したい	かなり利用したい	無回答
1. 日本国内の語学学校	(33.3%)	(53.5%)	(12.0%)	(1.2%)
2. 短期の海外語学研修	(27.5%)	(40.9%)	(30.4%)	(1.2%)
3. 会話サークル	(39.2%)	(47.1%)	(12.6%)	(1.2%)
4. 京都大学が行う授業・講義	(15.2%)	(51.2%)	(32.7%)	(0.9%)
5. ラジオ・テレビの講座	(18.1%)	(55.6%)	(25.1%)	(1.2%)
6. 市販の本	(13.5%)	(57.9%)	(27.5%)	(1.2%)
7. インターネット	(17.5%)	(45.3%)	(36.0%)	(1.2%)
8. その他	(6.7%)	(0.0%)	(0.0%)	(93.3%)

(具体的にお書き下さい)

回答率 6.7%

問 29. 以下に挙げることがらについて、あなたのお気持ちに近いものに○をつけてください. **n=342**

	不満足	どちらかといえば 不満足	どちらかといえば 満足	満足	無回答
1. 京都大学の講義	(7.9%)	(36.3%)	(47.1%)	(8.2%)	(0.6%)
2. 京都大学の研究環境	(2.0%)	(10.5%)	(58.8%)	(24.6%)	(4.1%)
3. 学生生活	(1.5%)	(12.9%)	(58.2%)	(26.6%)	(0.9%)
4. 大学以外の生活	(1.8%)	(18.7%)	(52.0%)	(26.6%)	(0.9%)
5. 指導教員	(3.8%)	(21.9%)	(51.8%)	(20.8%)	(1.8%)
6. 現在の友人・知人関係	(1.8%)	(8.5%)	(45.3%)	(43.6%)	(0.9%)

	悲観的	どちらかといえば 悲観的	どちらかといえば 楽観的	楽観的	無回答
7. 卒業後の展望	(4.4%)	(21.6%)	(52.9%)	(15.5%)	(5.6%)

問 30. いま現在、留学に向けて具体的に準備をしていることがありますか. (すべてに○)

n=342 無回答(3.2%)

1. 奨学金など経費の確保	(6.1%)
2. 留学に関する情報の収集	(21.9%)
3. 受け入れ先の確保	(4.1%)
4. 外国語の学習	(42.4%)
5. 周囲の説得	(4.1%)
6. その他(具体的に:)	(1.5%)
7. 特に何もしていない	(49.4%)

問 31. あなたの所属学部・研究科では、留学に関する以下のサポートを行っていますか。

n=342

	行っている	行っていない	行っているかどうか知らない	無回答
1. 単位認定制度	(9.9%)	(6.1%)	(80.4%)	(3.5%)
2. 奨学金制度	(13.7%)	(3.5%)	(79.2%)	(3.5%)
3. 交換留学制度	(18.1%)	(3.5%)	(74.9%)	(3.5%)
4. 留学情報の掲示	(25.4%)	(4.4%)	(66.7%)	(3.5%)
5. 留学（送り出し）相談	(10.8%)	(4.1%)	(80.7%)	(4.4%)
6. その他、行われているサポートがあれば、具体的にお書き下さい。				

回答率 2.9%

付問 31-a. 留学に関して、所属学部・研究科にサポートして欲しいことはありますか。
ご自由にお書き下さい。 **n=342**

回答率 15.2%

問 32. 京都大学国際交流センター・留学生課では、国際交流・海外留学支援に関する以下のような活動を行っています。利用・参加したことがあるものにすべて○をつけて下さい。

n=342 無回答(10.2%)

1. 留学・英語講義 (KUINEP)・インターンシップ・英語教育についての説明会 (43.0%)
2. センター教員による個別相談 (4.4%)
3. ホームページ (19.6%)
4. 海外留学・国際交流に関するメーリングリスト (26.0%)
5. センター教員提供のポケットゼミ・A 群科目 (33.0%)
(英語の鬼、英語勉強力、科学記事で英語の四技能を高める、アメリカの大学院)
6. センター教員提供の多文化間交流クラス (4.1%)
(Science Today, Science Tomorrow, 英語圏留学のためのフルコース)
7. センター主催の講演会 (3.5%)
8. ミニ留学フェア international week (センターにて 6 月昼休みに開催) (8.5%)
9. 国際交流科目 (全学共通科目 A 群として提供されている海外研修を含む科目.) (5.0%)
10. ラウンジ (KIZUNA) の利用又はラウンジ (KIZUNA) 主催のイベント (9.6%)
11. どれも利用・参加したことがない (30.1%)

付問 32-a. 上記以外の目的で、国際交流センターを利用したことがありますか。あれば具体的にお書き下さい。 **n=342**

回答率 1.5%

付問 32－b. 留学に関して、国際交流センターにサポートして欲しいと思うことはありますか. ご自由にお書き下さい. **n=342**

回答率 10.8%

問 33. 京都大学の留学支援体制への要望・意見があれば, ご自由にお書き下さい. **n=342**

回答率 14.0%

京都大学生の留学に関するより詳細な調査のため, インタビューをさせていただく場合があります. もしご協力いただける方は, 差し支えない範囲で, お名前, 御連絡先を御記入いただければ幸いです. なお, 下記の情報は本目的以外には使用いたしません.

お名前

Email または電話番号:

ご協力ありがとうございました.

問 34～問 38 は、留学したいと思ったことがない人にお尋ねします。

問 34. 留学したいと思わない理由についてあてはまるところに○をつけてください。

n=154

	どちらかといえば あてはまらない		どちらかといえば あてはまる		無回答
1. 京都大学の授業に満足しているから	(20.8%)	(27.3%)	(40.3%)	(10.4%)	(1.3%)
2. 京都大学の研究環境に満足しているから	(16.2%)	(18.8%)	(48.7%)	(14.9%)	(1.3%)
3. 京都大学の教育・研究への満足度とは関係なく、 そもそも留学する必要を感じないから	(7.8%)	(20.3%)	(32.0%)	(39.2%)	(0.7%)
4. 留学の手続きが面倒だから	(22.7%)	(18.8%)	(35.1%)	(22.1%)	(1.3%)
5. 時間が足りないから	(13.6%)	(22.1%)	(36.4%)	(27.3%)	(0.6%)
6. お金が足りないから	(11.7%)	(16.9%)	(36.4%)	(33.8%)	(1.3%)
7. 外国語能力が不足しているから	(9.1%)	(21.4%)	(30.5%)	(37.0%)	(1.9%)
8. 海外での経験は、旅行などで充分味わたるから	(37.7%)	(39.6%)	(17.5%)	(3.9%)	(1.3%)
9. 留学という形式をとると、海外での行動が 制約されてしまうから	(40.9%)	(41.6%)	(14.3%)	(2.6%)	(0.6%)
10. 京都大学での学業・研究と両立できない	(23.4%)	(23.4%)	(35.7%)	(16.2%)	(1.3%)
11. そもそも、留学について考えたことがない	(20.1%)	(20.8%)	(35.1%)	(22.7%)	(1.3%)
12. その他（具体的に :	回答率 5.8%				()

問 35. 以下に挙げることがらについて、あなたのお気持ちに近いものに○をつけてください。
い. n=154

	どちらかといえば 不満足		どちらかといえば 満足		無回答
1. 京都大学の講義	(4.5%)	(29.2%)	(53.9%)	(12.3%)	(0.0%)
2. 京都大学の研究環境	(1.9%)	(14.3%)	(58.4%)	(25.3%)	(0.0%)
3. 学生生活	(2.6%)	(13.0%)	(56.5%)	(27.3%)	(0.6%)
4. 大学以外の生活	(1.9%)	(14.9%)	(55.2%)	(27.3%)	(0.6%)
5. 指導教員	(5.2%)	(18.8%)	(55.2%)	(20.1%)	(0.6%)
6. 現在の友人・知人関係	(1.3%)	(9.7%)	(53.2%)	(34.4%)	(1.3%)
	どちらかといえば 悲観的		どちらかといえば 楽観的		無回答
7. 卒業後の展望	(5.2%)	(20.8%)	(61.7%)	(11.7%)	(0.6%)

(次ページへつづく) ➡

問 36. あなたの所属学部・研究科では、留学に関する以下のサポートを行っていますか。

n=154

	行っている	行っていない	行っているかどうか知らない	無回答
1. 単位認定制度	(3.9%)	(3.9%)	(91.6%)	(0.6%)
2. 奨学金制度	(15.6%)	(1.3%)	(82.5%)	(0.6%)
3. 交換留学制度	(8.4%)	(3.2%)	(87.7%)	(0.6%)
4. 留学情報の掲示	(22.7%)	(1.9%)	(74.7%)	(0.6%)
5. 留学（送り出し）相談	(11.7%)	(1.9%)	(85.7%)	(0.6%)
6. その他、行われているサポートがあれば、具体的にお書き下さい。				

回答率 3.9%

付問 36－a. 留学に関して、所属学部・研究科にサポートして欲しいことはありますか。
ご自由にお書き下さい。 **n=154**

回答率 10.4%

問 37. 京都大学国際交流センター・留学生課では、国際交流・海外留学支援に関する以下のような活動を行っています。利用・参加したことがあるものにすべて○をつけて下さい。

n=154 無回答(20.8%)

1. 留学・英語講義 (KUINEP)・インターンシップ・英語教育についての説明会 (16.9%)
2. センター教員による個別相談 (0.0%)
3. ホームページ (3.9%)
4. 海外留学・国際交流に関するメーリングリスト (5.8%)
5. センター教員提供のポケットゼミ・A 群科目 (9.1%)
(英語の鬼、英語勉強力、科学記事で英語の四技能を高める、アメリカの大学院)
6. センター教員提供の多文化間交流クラス (0.0%)
(Science Today, Science Tomorrow, 英語圏留学のためのフルコース)
7. センター主催の講演会 (0.6%)
8. ミニ留学フェア international week (センターにて 6 月昼休みに開催) (0.6%)
9. 国際交流科目 (全学共通科目 A 群として提供されている海外研修を含む科目.) (2.6 %)
10. ラウンジ (KIZUNA) の利用又はラウンジ (KIZUNA) 主催のイベント (0.6%)
11. どれも利用・参加したことがない (54.5%)

付問 37－a. 上記以外の目的で、国際交流センターを利用したことがありますか。あれば具体的にお書き下さい。 **n=154**

回答率 3.9%

付問 37－b. 留学に関して、国際交流センターにサポートして欲しいと思うことはありますか. ご自由にお書き下さい. **n=154**

回答率 9.7%

問 38. 京都大学の留学支援体制への要望・意見があれば, ご自由にお書き下さい. **n=154**

回答率 7.8%

京都大学生の留学に関するより詳細な調査のため, インタビューをさせていただく場合があります. もし, ご協力いただける方は, 差し支えない範囲で, お名前, 御連絡先を御記入いただければ幸いです. なお, 下記の情報は本目的以外には使用いたしません.

お名前

Email または電話番号:

ご協力ありがとうございました.

問 39～問 47 は、留学が決定している方にお尋ねします。

問 39. どここの国に留学しますか。国名でお答え下さい。 **n=14**

回答率 100.0%

問 40. あなたの留学先での身分は、次のどれですか。 **n=14**

- | | |
|-------------------------|------------|
| 1. 京都大学との学術交流協定による交換留学生 | (42.9%) |
| 2. 上記以外の学部・大学院などの正規学生 | (7.1%) |
| 3. 研究生・聴講生など | (7.1%) |
| 4. その他（具体的に： | (28.6%) |
| | 無回答(14.3%) |

問 41. 奨学金を受けますか。 **n=14**

- | | | |
|----------------|-----------------|-------------|
| 1. 受ける (28.6%) | 2. 受けない (64.3%) | 無回答 (7.1%) |
|----------------|-----------------|-------------|



付問 41－ a. 奨学金名をわかる範囲で具体的にお書きください。 **n=4**

回答率 100.0%

(次ページへつづく) ➡

問 42. 今回の留学を決心するにあたって、重要であった要因を、以下の中から順に3つまで選んで下さい。 **n=14**

1 番目	2 番目	3 番目
回答率 92.9%	回答率 92.9%	回答率 85.7%

	1 番目	2 番目	3 番目
1. 奨学金を受けること	(0.0%)	(0.0%)	(7.1%)
2. 単位認定制度	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
3. 交換留学制度	(7.1%)	(14.3%)	(0.0%)
4. 日本と海外の学期の調整	(14.3%)	(0.0%)	(0.0%)
5. 京都大学の学業・研究との両立	(7.1%)	(7.1%)	(7.1%)
6. 事務的な手続きのしやすさ	(0.0%)	(7.1%)	(7.1%)
7. 留学に関する京都大学のサポート体制（悩みの相談、情報提供など）	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
8. 受け入れ機関の施設・設備	(0.0%)	(14.3%)	(0.0%)
9. 受け入れ機関の授業カリキュラム	(0.0%)	(7.1%)	(0.0%)
10. 受け入れ機関の指導教員	(14.3%)	(0.0%)	(0.0%)
11. 日本と受け入れ国の国家間交流	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
12. 受け入れ国の文化・風土・歴史	(7.1%)	(7.1%)	(7.1%)
13. 受け入れ国の経済状況	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
14. 受け入れ国の生活環境	(0.0%)	(0.0%)	(14.3%)
15. 自分自身の外国語能力	(14.3%)	(14.3%)	(14.3%)
16. 自分自身の興味・関心	(14.3%)	(21.4%)	(21.4%)
17. 親の理解	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
18. 友人、知人の紹介・つて	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
19. 偶然の要因・縁	(7.1%)	(0.0%)	(7.1%)
20. その他、重要であったことがあれば、ご自由にお書き下さい。	(7.1%)	(0.0%)	(0.0%)

回答率 7.1%

問 43. 留学が決定するまでに、最も苦労したことは何ですか。具体的にお書き下さい。 **n=14**

回答率 71.4%

(次ページへつづく) ➡

問 44. 以下に挙げることがらについて、あなたのお気持ちに近いものに○をつけてください。 **n=14**

	どちらかといえば		どちらかといえば		無回答
	不満足	不満足	満足	満足	
1. 京都大学の講義	(14.3%)	(28.6%)	(42.9%)	(14.3%)	(0.0%)
2. 京都大学の研究環境	(0.0%)	(14.3%)	(50.0%)	(35.7%)	(0.0%)
3. 学生生活	(0.0%)	(7.1%)	(64.3%)	(28.6%)	(0.0%)
4. 大学以外の生活	(0.0%)	(14.3%)	(57.1%)	(28.6%)	(0.0%)
5. 指導教員	(7.1%)	(7.1%)	(57.1%)	(21.4%)	(7.1%)
6. 現在の友人・知人関係	(0.0%)	(14.3%)	(35.7%)	(50.0%)	(0.0%)
	どちらかといえば		どちらかといえば		無回答
	悲観的	悲観的	楽観的	楽観的	
7. 卒業後の展望	(0.0%)	(35.7%)	(57.1%)	(0.0%)	(7.1%)

問 45. あなたの所属学部・研究科では、留学に関する以下のサポートを行っていますか。 **n=14**

	行っている	行っていない	行っているかどうか知らない	無回答
1. 単位認定制度	(35.7%)	(0.0%)	(64.3%)	(0.0%)
2. 奨学金制度	(35.7%)	(7.1%)	(57.1%)	(0.0%)
3. 交換留学制度	(42.9%)	(0.0%)	(57.1%)	(0.0%)
4. 留学情報の揭示	(57.1%)	(14.3%)	(28.6%)	(0.0%)
5. 留学（送り出し）相談	(7.1%)	(14.3%)	(78.6%)	(0.0%)
6. その他、行われているサポートがあれば、具体的にお書き下さい。				

回答率 0.0%

付問 45－a. 留学に関して、所属学部・研究科にサポートして欲しいことはありますか。ご自由にお書き下さい。 **n=14**

回答率 28.6%

(次ページへつづく) ➡

問 46. 京都大学国際交流センターでは、国際交流・海外留学支援に関する以下のような活動を行っています。利用・参加したことがあるものにすべて○をつけて下さい。 **n=14**

1. 留学・英語講義 (KUINEP)・インターンシップ・英語教育についての説明会 (50.0%)
2. センター教員による個別相談 (14.3%)
3. ホームページ (28.6%)
4. 海外留学・国際交流に関するメーリングリスト (14.3%)
5. センター教員提供のポケットゼミ・A 群科目 (14.3%)
(英語の鬼, 英語勉強力, 科学記事で英語の四技能を高める, アメリカの大学院)
6. センター教員提供の多文化間交流クラス (0.0%)
(Science Today, Science Tomorrow, 英語圏留学のためのフルコース)
7. センター主催の講演会 (0.0%)
8. ミニ留学フェア international week (センターにて 6 月昼休みに開催) (21.4%)
9. 国際交流科目 (全学共通科目 A 群として提供されている海外研修を含む科目.) (14.3%)
10. ラウンジ (KIZUNA) の利用又はラウンジ (KIZUNA) 主催のイベント (28.6%)
11. どれも利用・参加したことがない (28.6%)

付問 46-a. 上記以外の目的で、国際交流センターを利用したことがありますか。あれば具体的にお書き下さい。 **n=14**

回答率 14.3%

付問 46-b. 留学に関して、国際交流センターにサポートして欲しいと思うことはありますか。ご自由にお書き下さい。 **n=14**

回答率 7.1%

(次ページへつづく) ➡

問 47. 京都大学の留学支援体制への要望・意見があれば、ご自由にお書き下さい。 **n=14**

回答率 14.3%

京都大学生の留学に関するより詳細な調査のため、インタビューをさせていただく場合があります。もしご協力いただける方は、差し支えない範囲で、お名前、御連絡先を御記入いただければ幸いです。なお、下記の情報は本目的以外には使用いたしません。

お名前

Email または電話番号:

ご協力ありがとうございました。

問9. これまでに受けた語学検定と、その結果をお書きください。語学検定を受けたことがない人は「なし」をお書きください。

	人数	割合 (%)
検定資格あり	336	65.8%
検定資格なし	5	1.0%
無回答	170	33.3%
合計	511	100.0%

検定資格ありのうち、54名が2種類、14名が3種類、1名が5種類の検定資格を所有している。以下、語学検定のうちわけ（のべ422（＝336＋54＋14×2＋4）名）

	人数	割合 (%)
英語検定	199	47.2%
うち 1級	5	1.2%
準1級	21	5.0%
2級	88	20.9%
準2級	40	9.5%
3級	35	8.3%
4級	6	1.4%
5級	3	0.7%
不明	1	0.2%
TOEFL	69	16.4%
TOEIC	132	31.3%
その他	22	5.2%
合計	422	100.0%

TOEFL 成績統計表

TOEFL	人数	割合 (%)
iBT	47	68.1%
PBT	8	11.6%
CBT	9	13.0%
ITP	4	5.8%
不明	1	1.4%
合計	69	100.0%

具体的点数記述：

iBT		PBT		CBT		ITP		その他	
点数	人数	点数	人数	点数	人数	点数	人数	点数	人数
120	1	643	1	280	1	570	1	不明	1
102	1	612	1	250	1	527	1	合計	1人
96	2	600	2	230	1	517	1		
94	2	597	1	203	1	500	1		
89	1	580	1	200	1	合計	4人		
86	1	483	1	197	1				
82	1	380	1	190	1				
81	1	合計	8人	180	1				
80	2			74	1				
79	1			合計	9人				
75	1								
73	1								
70	1								
69	1								
68	1								
66	1								
65	1								
61	3								
60	1								
59	2								
58	1								
56	3								
53	2								
52	2								
46	1								
45	1								
44	1								
38	1								
37	2								
36	1								
35	1								
34	2								
32	1								
30	1								
不明	1								
合計	47人								

TOEIC 成績統計表

TOEIC	人数	割合 (%)
900点台	12	9.1%
800点台	23	17.4%
700点台	39	29.5%
600点台	37	28.0%
500点台	16	12.1%
400点台	2	1.5%
不明	3	2.3%
合計	132	100.0%

具体的点数記述：

	点数	人数		点数	人数
900点台	980	1	600点台	685	2
	970	1		680	6
	960	1		675	3
	945	2		665	1
	935	1		660	1
	930	2		655	1
	910	1		650	2
	905	2		640	2
	900	1		625	2
	小計	12人		620	6
800点台	895	1		615	1
	890	3		610	1
	875	2		605	2
	860	4		600	7
	850	1		小計	37人
	845	1	500点台	595	1
	835	2		590	2
	830	4		580	1
	825	1		570	1
	806	1		560	2
	800	3		550	4
	小計	23人		525	1
700点台	795	1		520	1
	790	3		510	2
	785	1		505	1
	780	2		小計	16人
	775	4	400点台	490	1
	770	2		420	1
	765	1		小計	2人
	760	3		不明	3人
	750	3	合計		132人
	745	1			
	740	1			
	735	1			
	730	5			
	720	1			
	710	4			
	705	2			
	700	4			
	小計	39人			

問 19. どの国に留学したいですか。あれば第3希望まで、国名をお答えください。

第一希望			第二希望			第三希望		
国名	人数	%	国名	人数	%	国名	人数	%
アメリカ合衆国	189	37.0%	イギリス	89	17.4%	イギリス	42	8.2%
イギリス	39	7.6%	アメリカ合衆国	35	6.8%	アメリカ合衆国	28	5.5%
オーストラリア	16	3.1%	カナダ	35	6.8%	オーストラリア	24	4.7%
ドイツ	15	2.9%	ドイツ	27	5.3%	ドイツ	20	3.9%
フランス	15	2.9%	オーストラリア	24	4.7%	カナダ	16	3.1%
カナダ	13	2.5%	フランス	17	3.3%	フランス	16	3.1%
イタリア	6	1.2%	イタリア	7	1.4%	中国	9	1.8%
中国	5	1.0%	中国	6	1.2%	イタリア	6	1.2%
韓国	4	0.8%	ニュージーランド	4	0.8%	スウェーデン	6	1.2%
スイス	4	0.8%	スペイン	3	0.6%	スイス	6	1.2%
インド	2	0.4%	オランダ	2	0.4%	ニュージーランド	5	1.0%
スウェーデン	2	0.4%	スイス	2	0.4%	韓国	3	0.6%
特になし	2	0.4%	ベルギー	2	0.4%	シンガポール	2	0.4%
アイルランド	1	0.2%	ヨーロッパ	2	0.4%	スペイン	2	0.4%
英語圏	1	0.2%	EU	1	0.2%	フィンランド	2	0.4%
欧米	1	0.2%	オーストリア	1	0.2%	タヒチ	1	0.2%
オーストリア	1	0.2%	韓国	1	0.2%	オランダ	1	0.2%
オランダ	1	0.2%	シンガポール	1	0.2%	タイ	1	0.2%
シンガポール	1	0.2%	デンマーク	1	0.2%	香港	1	0.2%
スウェーデン(等の北欧)	1	0.2%	台湾	1	0.2%	マレーシア	1	0.2%
スペイン	1	0.2%	トルコ	1	0.2%	ロシア	1	0.2%
フィンランド	1	0.2%	ノルウェー	1	0.2%	無回答	318	62.2%
無回答	190	37.2%	フィンランド	1	0.2%	合計	511	100.0%
合計	511	100.0%	ハワイ	1	0.2%			
			ベトナム	1	0.2%			
			無回答	245	47.9%			
			合計	511	100.0%			

◆◆ 自由記述 ◆◆

以下は、自由記述に寄せられた回答である。

[編集にあたって]

- ・ ◆は留学希望者を、◇は留学非希望者を、▲は留学内定者を、△は無回答者を示す。
- ・ 記述内容の末尾には（身分/所属部局）の順に属性を示した。
- ・ 類似の回答は、一つに省略する場合がある。その場合は、学部／修士／博士ごとにまとめて、記載した。

問 12_a_8. その他、海外渡航経験の形態と回数について具体的にお書きください。

(回答率 11.9%)

【ホームステイ】

- ◆ホームステイに2週間ぐらい行った。(学部/文)
- ◆高校の企画でニュージーランドに一週間ホームステイした。(学部/文)
- ◆中学校の時、ホームステイ研修(一週間)(学部/教育)
- ◆韓国にホームステイで1回(学部/理)
- ◆ホームステイ(学部/医)
- ◆個人的にホームステイで1回 一週間(学部/工)
- ◆短期ホームステイ(学部/農)
- ◇ホームステイ(学部/文)
- ◇高校のホームステイプログラム(学部/文)
- ◇ホームステイで2回(学部/工)
- ◇高校時、海外の姉妹校との交流で一週間程度ホームステイで1回(学部/農)
- ◆ホームステイ(無回答/工)

【家族旅行】

- ◆家族旅行(学部/理)(学部/工)
- ◆父親の海外へ出張(三ヶ月)(学部/医)
- ◇家族旅行 3回(学部/医)
- ◇家族と父親の仕事の同行という形で旅行した。(学部/工)
- ◆家族と1回(修士/工)

【修学・研修旅行】

- ◆修学旅行(学部/文)(学部/文)(学部/理)(学部/医)(学部/工)(学部/工)
- ◆高校の研修旅行(学部/農)
- ◇修学旅行(学部/文)(学部/文)(学部/文)(学部/法)(学部/薬)(学部/工)(学部/農)

- ▲高校の研修旅行（学部/農）
- ◆修学旅行（修士/文）（修士/法）（修士/工）（修士/工）
- ◆修学旅行で1回（修士/工）
- ◆研修旅行（高校）（修士/工）
- ◇修学旅行（修士/工）（修士/工）
- ◇修学旅行で1回（修士/工）
- ▲高校の修学旅行で1回（修士/工）

【交換交流】

- ◆学校での国際交流で一週間程訪問した。（学習）1回（学部/総人）
- ◆合唱団演奏・親善旅行5回（学部/文）
- ◆市の交換留学でスペインに行った。（学部/文）
- ◆タイにある姉妹校と交換留学（中学時代）（学部/農）
- ◆京都大学の国際交流科目で（学部/農）
- ◇姉妹町交流で一週間ほど。（学部/法）

【部活】

- ◆部活（サッカー）の遠征（学部/総人）
- ◇部活遠征（学部/工）
- ◆部活の遠征（修士/工）
- ◆課外活動2回（博士/生命研）

【学会】

- ◆国際学会 1回（修士/生命研）
- ◇学会（修士/薬）
- ◇学会、協同研究（修士/生命研）
- ▲国際学会で1回（修士/工）
- ◆学会発表 4回（博士/情報研）
- ◆学会参加 2回（博士/生命研）
- ◆学会に参加した。（博士/生命研）
- ◆学会発表（博士/生命研）
- ◆学会（博士/生命研）

【その他】

- ◆中学から 18 日間カナダに行った。(学部/薬)
- ◆子供の頃、三ヶ月ほど海外の伯母の家で暮らし、現地の学校へ行っていた。(学部/工)
- ◆大学院 GP 主催の企画に応募して行った。(博士/教育)
- ◇町の派遣事業 (博士/A・A 研)

問 14_a_6. その他、希望する海外渡航の形態について具体的にお書きください。

(回答率 1.2%)

【住む】

- ◆住みたい。(学部/文)
- ◆住みたい。(修士/文)

【学会】

- ◇学会で行きたい。(修士/工)
- ◆学会への参加 (博士/生命研)

【その他】

- ◇友人とツアーでない旅行がしたい。(学部/工)
- ◇調査 (博士/A・A 研)

問 15_a_6. その他、どのように留学生と知り合ったかを具体的にお書きください。

(回答率 5.9%)

【寮で】

- ◆寮で知り合った。(学部/文) (学部/理) (学部/農)
- ◆寮の相部屋、その他多数の知り合い。(学部/文)
- ◇寮で知り合った。(学部/工)
- ▲留学生用の寮に遊びに行ったときなど (学部/農)
- ◆学生寮で知り合った。(修士/工)

【授業・クラス】

- ◆学外の茶道教室で知り合った。(学部/法)

- ◆クラスメイト（学部/法）（学部/農）
- ◆英語勉強力、科学記事……中級、sustainable development（学部/工）
- ◇文学部社会学特殊講義（XX先生）、下宿の英語で話そう会で知り合った。（学部/文）
- ◇クラスで知り合った。（学部/工）

【第三者の紹介】

- ◆友人の友人（学部/文）
- ◆先輩のいところで外国人の人と知り合った。（学部/農）
- ◆友達の紹介（修士/工）（修士/文）

【バイト先】

- ◆バイトで知り合った。（学部/法）（学部/工）（学部/工）
- ◇アルバイト先で知り合った。（学部/医）（学部/工）
- ◆バイト（生協）で知り合った。（修士/工）
- ◇バイト先で知り合った。（修士/工）

【その他】

- ◆構内で話しかけられてお喋りした。（学部/法）
- ◆学外のイベントで知り合った。（学部/工）
- ◆学外で偶然知り合いになった。（修士/法）
- ◆内定者（修士/工）
- ◆会話練習相手の募集を掲示板に出した。（無回答/文）

問 15_c. その他、留学生から受けている影響、あるいは留学生に与えている影響について なにかあれば自由に記述してください。 （回答率 12.3%）

【語学学習】

- ◆英語の重要性が伝わってくる。（学部/工）
- ◆英語の重要性の認識。外国語学習へのモチベーションの増大（学部/農）
- ◇英語をもっと話せるようにならなければならないと思う。（学部/工）
- ▲語学を勉強する必要性を感じている。（学部/医）
- ▲様々な外国語を勉強しようという意欲が沸いてくる。（学部/農）
- ◆生の英語を聞ける。（修士/工）
- ◆英語で会話するようになってきた。（修士/工）

- ◆英語の必要性 (修士/工)
- ◆英語を勉強するモチベーション (修士/情報研)

【異文化への理解】

- ◆将来についての考え方等、国民性も反映されている気がする。同年代の外国人と「日常生活」について話すのが面白い。(学部/総人)
- ◆「国民性」等というものはないと思っていたが、多数の中国、韓国、ウイグル人と過ごしてみて、やはりあるのかもしれないと思うようになった。(学部/文)
- ◆感情などの考え方の違いで刺激をうけたと思う。(学部/工)
- ◇日本で暮らしていたら常識というか当たり前だと思っていることが外国だと全然違うというのがお互い分かって面白い。(学部/文)
- ◆東アジア諸国の政治的な日本への視線について、仲良くなると具体的意見が深いところまで聞ける。留学生からもメディアの影響の大きさ(自国の、日本のものに共に)についてのコメント、バイアスについての考え方を耳にすることができた。(修士/経営管理)
- ◆文化の違い (修士/薬) (修士/工)
- ◆文化や考え方の違いにとまどいを覚えることがある。(修士/工)
- ◆違った考え方やものの見方を教えられる。(修士/工)
- ◆留学生との考え方の違い、受けた教育、思想、宗教などのバックグラウンドの違いについて話すことがとても興味深い。(博士/生命研)

【精神的刺激・感心】

- ◆発言力という点で非常に影響をうけている。(学部/総人)
- ◆世界は広いなと感じる。(学部/文)
- ◆積極的に意見を述べること。努力しているのが分かる。「日本」での「当たり前」を見直すようになった。(学部/教育)
- ◆パソコンのソフト (Excel や Power point) を使いこなしていることに驚き、自分も慣れておこうと練習した。(学部/法)
- ◆日本人学生よりも勉強がよくできる。文系なのに数ⅢCを完璧に近いくらい理解していた。(学部/経)
- ◆完璧に日本語を理解しているわけではないのに、同じ専門科目を頑張って勉強しているのも、非常に刺激になる。(学部/経)
- ◆授業中に積極的に発言する姿勢に影響を受けた。(学部/医)
- ◆危機感を感じる (学部/農)
- ◆留学生は食欲。(学部/農)

- ◆留学を志そうと思ったきっかけはサークルに入ってきた留学生の影響が大きい。(学部/工)
- ◆生活費なども自己負担しているので、非常に衝撃を受けた。(学部/工)
- ◇学問に対するハングリー精神が強くて刺激になる。(学部/文)
- ◇留学生の先輩の大阪弁が非常にうまく、大阪文化(M-1 グランプリなど)に精通しており、留学生であるということを全く意識させないことにいつも驚かされる。(学部/文)
- ◇考え方がしっかりしていて、刺激になる。(学部/法)
- ◇他国の法律を学ぼうとする姿勢に影響を受けた。(学部/法)
- ◇まだそこまで深く関わったことがないので、これから色々と刺激を受けることができらばと思う。(学部/薬)
- ◇英語の文法ができないのに話せる力は勉強になった。(学部/工)
- ◆留学生は優秀な人が多いので、我々日本人学生は努力が足りない。彼らに負けていられないと常を感じる。(修士/農)
- ◇会話をしていて、地理をもっと勉強しておけばよかったなと思った。(修士/工)
- ◇言葉以外でのコミュニケーション、一芸を必要とを感じるようになった。(修士/地環)

【日本・日本語に対する再認識】

- ◆外国人にとって難しい日本語があるようで、誤ったその日本語の使用を通して、新たな日本語についての発見があった。(学部/総人)
- ◆留学生と話したい。日本のことを説明できるようになろうと思う。(学部/文)
- ◆留学生に日本語を問われることで自分の日本語について考えることが多くなった。(学部/工)
- ◆民族的厳しい状況に置かれている留学生の話を聞いて、日本の平和さに改めて気づいた。(修士/文)
- ◇日本語の文法知識、単語の意味などに意識的になった。(修士/文)

【特になし】

- ◆特になし(学部/法)(学部/医)(学部/薬)(学部/工)(学部/工)
- ◇特になし(学部/文)(学部/文)(学部/工)(学部/農)

【その他】

- ◆自分が楽しむ生き方を知っている人が多いなと感じた。(学部/総人)
- ◆教育調査方法Ⅰ・Ⅱの授業で知り合った。(学部/文)
- ◆話すことで新たな視点を得られることがある。(学部/法)
- ◆寮自治にほとんど参加していないので、いいイメージがない。(学部/理)

- ◆科学記事を英語で読む授業で知り合った。(中級)(学部/農)
- ◇世界情勢、歴史に対する考え方(学部/工)
- ◇国費留学生は真面目。(学部/工)
- ◆京都大学のサービスの悪さ、システムとしては整っていても、彼はその利を受けていない。(修士/教育)
- ◇外国生まれでも、日本生まれでも、大して違いはないということに改めて気づいた。(修士/工)
- ◆留学生だからどうこうと感じたことはない。文化や慣習の違いなら日本人同士でもある。留学生がいて唯一ありがたいのは、英会話の実践ができることぐらいである。(博士/工)

問 17_7. その他、いつ留学したいかについて具体的にお書きください。

(回答率 3.5%)

【就職後】

- ◆就職してから留学したい。(学部/文)(学部/法)(学部/工)(学部/農)
- ◆就職して経験を積んでから留学したい。(修士/教育)(修士/法)(修士/工)
- ◆仕事を始めて5年後(修士/農)
- ◆就職後(無回答/法)

【未定】

- ◆具体的には何も考えてはいない。(学部/文)(学部/医)
- ◆分からない(学部/薬)
- ◆決めてない。(学部/工)
- ◆時期は不明(修士/工)

【その他】

- ◆いつでもいい。(学部/法)
- ◆司法試験後(修士/法)
- ◆経済的に準備ができた時点(修士/経営管理)

問 20. その他、留学の目的があれば、具体的にお書きください。

(回答率各 0.8%、1.0%、0.6%)

【一番目の目的】

- ◆資格を取るため（学部/法）
- ◆仕事がしたい。（修士/工）
- ◆MBA（修士/農）
- ◆特徴のある人間になりたい。（修士/農）

【二番目の目的】

- ◆実際に留学して、留学するというのがどんなことなのか知りたい。（学部/理）
- ◆ラグビー（学部/医）
- ◆MBA（修士/工）
- ◆痛い思いをしたい。（修士/工）
- ◆海外の研究者と知り合う。（博士/工）

【三番目の目的】

- ◆自己を相対化する。（学部/理）
- ◆経済格差の解消に寄与したい。（学部/理）

問 21_6. その他、希望する留学先があれば、具体的にお書きください。

(回答率 1.6%)

【病院】

- ◆大学病院（学部/医）
- ◆病院（学部/医）（学部/医）

【企業】

- ◆企業（修士/工）（修士/工）

【その他】

- ◆職場（学部/法）
- ◆ロースクール（学部/法）

問 25_7. その他、留学経験が役に立つだろうと思うことがあれば、具体的にお書きください。
(回答率 4.3%)

【精神的成長・経験】

- ◆自分の生活圏としてどこが適しているか、将来どんな所でどのような生活をしたいか、
或いは何を実現したいのかなどについていろいろ考えたり決断したりするのに役立つ。
(学部/総人)
- ◆自分を見つめ直す。(学部/文)
- ◆自分の自信がつくと思う。(学部/文)
- ◆日本を外から見てみたい。(学部/教育)
- ◆物事にどうじることなく、自分の意志を明確に持って、物事に対処できるようになると
思う。(精神的自己啓発となる。)(学部/医)
- ◆異文化にふれることで視野が広がると思う。(学部/薬)
- ◆異文化交流によって、自分の人格が良い意味で形成される。(学部/工)
- ◆価値観を相対視できそう。(学部/工)
- ◆人生経験、ターニングポイント (学部/工)
- ◆語学等よりもあくまでも個人の人間性の方を大切にしたい。(学部/工)
- ◆異なる文化圏に行くことで、多様な考え方が可能になる。(学部/農)
- ◆経験値が増すことで、自信や自尊心もアップすると感じる。(学部/農)
- ◆言葉や文化など全てが違う世界で暮らすので、自分のキャパシティを広げられると思う。
(修士/工)
- ◆知識や行動力の向上に役に立つと思う。(修士/工)

【特になし】

- ◆特になし (学部/文) (学部/経) (学部/工)
- ◆特に思いつかない。(博士/教育)

【その他】

- ◆海外に行くことで日本社会のことを客観的に見られるようになり、それが日本をもっと
良い国にしていくことに役立つと思う。(学部/文)
- ◆MBA の取得 (学部/経)
- ◆パスカル研究を深め、キリスト教理解に役立つ。中・高校生対象の読み物など著作を通
じて社会貢献ができればと願っている。(修士/文)
- ◆海外での就職 (修士/経営管理)

問 26_14. その他、留学を実現するために重要だと思うことがあれば、ご自由にお書きください。
(回答率 5.7%)

【個人的要因】

- ◆（経済的にも、学業を続ける上でも）留学後のプランが重要だと思う。（学部/総人）
- ◆決意が重要だと思う。（学部/文）
- ◆やる気と勇気が重要だと思う。（学部/文）
- ◆気合と根性（学部/法）
- ◆自分の専門分野に関する知識（学部/経）
- ◆個人の努力が重要だと思う。（学部/工）
- ◆行きたい大学院に合格することが重要だと思う。（学部/工）
- ◆度胸（学部/農）
- ◆強い意志が重要だと思う。（修士/工）
- ◆何よりもまず自分の気力がもつかどうかだと思う。（修士/農）

【サポート体制など個人に外在する要因】

- ◆情報が重要だと思う。（学部/総人）
- ◆留学先を決定する際の資料・情報提供や（大学での）個別相談が重要だと思う。（学部/文）
- ◆文化面の近さが重要だと思う。（学部/文）
- ◆現地でのサポート、事前語学プログラムが重要だと思う。（学部/教育）
- ◆留学先の教員、研究施設が自分の希望に沿うことが重要だと思う。（学部/法）
- ◆好成绩（配慮していただけるといいと思う）（学部/法）
- ◆海外での生活環境（学部/経）
- ◆師事している教員の持っている「つて」と強いプッシュが必要だと思う。（学部/医）
- ◆留学先の治安が重要だと思う。（学部/工）
- ◆安全面、生活面（学部/工）
- ◆大学の講義でためになる英語講義がもっとほしい。（学部/工）
- ◆受け入れ国の治安、生活費用、学費負担、受け入れ校、（教員）とのコンタクト（研究テーマについてのやり取り）（修士/経営管理）
- ◆留学している間、結局その期間だけ卒業、就職が遅れて不利になるので、そこを良い方法に向かせる制度があってほしいと思う。（修士/工）

【金銭面に関する要因】

- ◆お金、時間が重要だと思う。（学部/文）

- ◆学費、滞在費の確保（できれば自分で出費したいので）が重要だと思う。（学部/文）
- ◆金銭的負担（学部/経）
- ◆やはりお金がかかることがハードルとなっていることが多いと思うので、その辺のサポートをしてもらえる機関などがあれば良いと思う。（学部/薬）
- ◆経済的なもの、お金と時間をかけただけの見返りが日本国内にあるかどうか重要だと思う。（修士/工）
- ◆家庭の経済力。家庭がもっと裕福だったらもっとゆとりを持てたのではないかと考えてしまう。（修士/農）

【特になし】

- ◆特になし（学部/文）（学部/工）

問 27_7. その他、留学を実現するために知りたいと思うことがあれば、ご自由にお書きください。（回答率 3.5%）

【留学先の情報】

- ◆外国人（留学生）の受け入れ状況、その国の社会情勢や文化的特徴、その国の教育水準等を知りたい。（学部/総人）
- ◆ロースクール自体の情報、出た後についての情報（学部/法）
- ◆その機関での国別の人口を知りたい。（学部/工）
- ◆留学先での生活スタイルや受け入れ機関のカリキュラム等を知りたい。（学部/工）
- ◆機関の研究体制を知りたい。（学部/工）
- ◆留学先での生活環境や、言葉や学問の差を埋められるサポートがあるのか、帰国してから研究はどうなるのかを知りたい。（修士/工）

【留学手続き・費用等の情報】

- ◆費用がいくらかかるかを知りたい。（学部/工）（学部/工）
- ◆留学にかかる資金総額を受け入れ機関ごとにある程度知りたい。生活費、渡航費、学費等。（学部/工）
- ◆どのような手順で受け入れ先と連絡を取ればよいのか、書類はどのような体裁にしなければならないのか、という事務的なことと、留学すれば社会にどのようにして貢献できるのかという広く受け入れられている考え方（願書等を書くときの参考になる）を知りたい。（修士/農）

【経験談】

- ◆留学経験者との交流（学部/経）
- ◆実際に留学した人の具体的経験談、受け入れ先が教育熱心かどうかを知りたい。（学部/医）

【その他】

- ◆生活のこと（学部/教育）
- ◆日本との経済関係、就職に関連性が高いかを知りたい。（修士/経営管理）
- ◆留学後の就職について知りたい。（学部/工）

【特になし】

- ◆特になし（学部/文）（学部/薬）（学部/工）

問 28_8. その他、語学学習の場として利用したものがあれば具体的にお書きください。

(回答率 4.5%)

【国内にいるネイティブ・スピーカー等との交流】

- ◆外国人の友人を作る。（学部/法）
- ◆外人の友人（学部/医）
- ◆海外在住の友人との電話（学部/薬）
- ◆留学生との交流（学部/工）
- ◆同研究室にいる外国人の方と話す。（学部/工）
- ◆ネイティブ・スピーカーと友人、知人になる。（修士/文）
- ◆その言語を母語とする友人、知人（修士/文）
- ◆外国の方と実際にしゃべる機会をつくる。（修士/工）
- ◆友人との会話、海外移住（修士/工）
- ◆外国の友人（修士/工）
- ◆研究室にいる外国人留学生との対話（博士/生命研）
- ◆外国人との交流の機会（博士/生命研）
- ◆日本に來ている留学生との相互学習（研修員/文）

【外国での習得】

- ◆海外の語学学校（学部/理）

- ◆日本で学べなくはないけど、やはり海外で生活しないと一日中英語を勉強するなんてことはできないと思う。だから、やはり海外が一番だと思う。(学部/工)
- ◆三ヶ月以上日本人が全くいない英語文化内で仕事をする。(修士/経営管理)

【メディアの活用】

- ◆海外メディア、TV 等を利用する。(学部/文)
- ◆海外のドラマ、アニメの視聴や海外のゲームプレイを利用する。(学部/理)
- ◆学習教材（通販など）を利用する。(学部/工)

【その他】

- ◆アメリカの大学が京都で提供しているアメリカ人・日本人と一緒に受講できる講座（学部/文）
- ◆一人で勉強する。(学部/理)
- ◆何かあれば利用したい。(学部/工)
- ◆現在よく利用するのは関西日仏学館の図書館だ。京都大学には自然科学系のフランス語で書かれた本が乏しい。(修士/農)

問 30_7. その他、留学に向けて準備をしていることがあれば、具体的にお書きください。 (回答率 1.0%)
--

【金銭面】

- ◆バイト（お金をためるため）(学部/文)

【専門知識】

- ◆専門分野における高度な技術の手得（学部/経）
- ◆専門分野の基礎固め（修士/農）
- ◆専門の勉強のため essay を書く。GPA を上げるべく授業の exam の勉強（無回答/工）

【手続き】

- ◆事務手続き（学部/医）

問 31_6. その他、所属学部・研究科で行われているサポートがあれば、具体的にお書きください。(問 36_6. / 問 45_6.)

(回答率◆2.0%、◇1.2%、▲0.0%)

【教員のサポート】

- ◆教員による語学力証明（フランス語）（学部/文）
- ◆教授個人の紹介（学部/医）
- ◆教員が随時、情報を伝えてくれている。（学部/医）

【語学】

◇語学研修のサポート（博士/A・A 研）

【特になし】

- ◆特になし（学部/医）（学部/工）
- ◇特になし（学部/文）（学部/工）（学部/工）

【不明】

- ◆知らない。（学部/文）
- ◆行っているかどうか知らない。（無回答/工）
- ◇わからない。（学部/文）
- ◇知らない。（学部/工）

【その他】

- ◆経済学部へ所属しているが、留学制度が十分でないと感じる。教授からの積極的な紹介などもっとあっても良い。（学部/経）
- ◆ランチタイムに英会話昼食会（学部/理）
- ◆受け入れに関しては（留学生が来ているので）あるかという程度（修士/経営管理）

問 31_a. 留学に関して、所属学部・研究科にサポートして欲しいことがあれば、ご自由にお書きください。(問 36_a、問 45_a)

(回答率◆10.2%、◇3.1%、▲0.8%)

【情報に関するもの】

- ◆学部内での留学相談、進路相談、留学経験者の報告書公用等に関するサポート（学部/総人）

- ◆どのような人のもとで学習ができるのかを知りたい。その人のもとで実際に教わった人の体験談等。(学部/文)
- ◆留学先の紹介等のサポート (学部/文)
- ◆研究分野に合った留学先の紹介や奨学金制度のお知らせ等があるとより留学を身近に感じられると思う。(学部/文)
- ◆自分が将来目指している職種に就くためには留学がどれほど重要となるか、専門分野の視点からあらゆる意見を聞きたいので、気軽に相談できたらいいと思う。(学部/法)
- ◆今までロースクールに留学された人もいでしょうから、その人達についての情報がほしい。人数、成績、行き先、出た後等を本当に知りたい。(学部/法)
- ◆留学セミナー、ガイダンス等説明会の積極的な開催 (学部/経)
- ◆情報をもっと提供してほしい。(学部/医)
- ◆受け入れ先での指導教員の確保。多くの教員が留学に理解を示し、強く後押ししてほしい。(学部/医)
- ◆留学後の進路、体験談などネットで公表してほしい。(学部/工)
- ◆留学するのに休学しなければならないのをどうかしてほしい。また戻ってきたときに、学年が変わらなくても良いようにしてほしい。(学部/工)
- ◆情報提供のサポート (学部/工) (学部/工)
- ◆留学について詳しく説明を受ける機会がほしい。(学部/工)
- ◆パンフレットなど積極的なアピール (学部/工)
- ◆海外の大学院の研究分野や良し悪しを書いた冊子 (頭いいところだけでいいので分厚くならないはず) つくってほしい。(学部/工)
- ◆〇〇大学ではこんなことをしていますといった内容を紹介してほしい。(学部/農)
- ◆留学に関する情報をもっと体系化して、分かりやすく公開してほしい。電子化をもっと進めるべきである。(学部/農)
- ◇大学の情報のサポートがほしい。(学部/工)
- ▲研究室配属、院試に関するサポート ; 交換される単位について、事前にアドバイスがほしい。(学部/農)
- ◇国際交流・海外留学支援に関する活動をもっと伝えてほしい。(修士/地環)
- ◆留学先の指導教官の紹介など (研究室の先生のとつだけでは限界があるので) のサポートがほしい。(研修員/文)

【事務的サポート】

- ◆留学先の大学、学部の推奨をサポートしてほしい。(学部/文)
- ◆推薦状等の準備をサポートしてほしい。(学部/理)
- ◆事務手続きを明確に知りたい。(学部/理)

- ◆事務手続きのサポート（学部/工）
- ◆積極的に学生を推薦してほしい。（学部/農）
- ◆推薦状を書いてほしい。（学部/農）
- ▲国際交流課と学部の事務所とそれぞれに書類を提出しなくてはいけなかったりとか、どちらに提出すればいいのか分かりにくかったりと、手続きが面倒なので、手続きする場所を一つにまとめていただきたい。（学部/経）
- ▲諸事務手続き（保険等）が煩雑で大変だ。（学部/医）
- ◆事務手続きのサポート（修士/工）
- ◇手続きのサポート（博士/A・A 研）

【経済的支援】

- ◆資金援助をしてほしい。たいていの奨学金は親の源泉徴収前の金額を参考にするが、源泉徴収後の金額で選ぶようにしてほしい。（学部/経）
- ◆お金とかのサポート（学部/医）
- ◆奨学金制度のサポート（学部/工）
- ◆金（学部/農）
- ◇学費（学部/工）
- ◆経済的負担軽減についてのアドバイスや情報提供（修士/経営管理）
- ◆金銭面の問題が一番心配なので、留学費用に関する強力なサポートがあれば心強い。（修士/工）
- ◇金銭面のサポート（修士/情報研）
- ◇資金激励のサポート（博士/教育）
- ◇資金（博士/A・A 研）

【語学学習のサポート】

- ◆英会話コース（初心者向け）のサポート（学部/文）
- ◆英会話のサポート（学部/文）
- ◆科学英語のフォローをしてほしい。（学部/理）
- ◆専門的な語学のサポート（学部/理）
- ◇語学教育をもっと厳しくしてほしい。（学部/工）

【単位制度】

- ◆単位認定制度のサポート（学部/文）（学部/医）
- ◆単位の認定と金銭面でのサポート（学部/薬）
- ◆単位認定制度のサポート（学部/工）

◇長期休暇中の短期留学のサポート（学部/工）

▲単位認定制度を充実してほしい。（学部/農）

◆三ヶ月程度の短期でいいので、大学の講義等配慮してほしい。修士は一年前期は単位取得、後期から就職活動で、二年は修士論文研究と忙しいので現実的には留年しないと無理かと考えている。（修士/工）

【特になし】

◆特になし（学部/文）（学部/経）（学部/工）

◇特になし（学部/文）（学部/文）（学部/法）（学部/工）（学部/工）（学部/工）（学部/農）（学部/農）

◆特になし（修士/農）（修士/工）

◆特になし（博士/工）（博士/教育）

◇なし（修士/工）

【その他】

◆交換留学相手大学、国を増やしてほしい。（修士/文）

◆就活、授業と両立できる時期のプログラムの設立と推進（修士/工）

◆帰国後の卒業要件や研究のサポート、留学後の就職について、留学時期の考慮（修士/工）

◆僕自身は独学でフランス語を勉強してきたので、今となってはどうしてもよいのだが、英語だけやっていたらよい、英語しか役に立たない、という学部全体の雰囲気を変えてもらいたい。（修士/農）

問 32_a.（問 32）以外の目的で国際交流センターを利用したことがあれば、具体的にお書きください。（問 37_a、問 46_a）（回答率◆1.0%、◇1.2%、▲0.4%）

◆短期留学や海外ボランティアなどの情報（パンフレット）を探しに行った。（学部/総人）

◆昼休み、CNN（学部/文）

◆特になし（学部/薬）（学部/工）

◆ない。（博士/教育）

◇2002 年前期、昼休みに FOX テレビを流しているのを見に行った。（修士/工）

◇なし（学部/文）（学部/工）（学部/工）（学部/農）

◇なし（修士/工）

▲KCJS&SCTI の受講にあたって利用した。（学部/経）

▲なし（修士/工）

問 32_b. 留学に関して、国際交流センターにサポートして欲しいと思うことがあれば、ご自由にお書きください。(問 37_b、問 46_b) (回答率◆7.2%、◇2.9%、▲0.2%)

【語学学習のサポート】

- ◆英語の勉強のための人材あっせん等（留学生と Language partner など）のサポート（学部/総人）
- ◆英会話のサポート（学部/文）
- ◆少人数の英会話クラスがあるといいと思う。（学部/理）
- ◆英語の講義を3限にもっと入れてほしい（学部/工）
- ◆外国語学習のサポート（学部/工）
- ◆日本にいる間の異文化の予習、言語能力の向上ができる場を分かりやすく参加しやすい形で提供してほしい。（修士/工）

【情報に関するもの】

- ◆外国でどのように先輩が過ごしていたのかを知りたい。勉強時間等。（学部/文）
- ◆英語が全然使えない人の為の語学留学案内のサポートがほしい。（学部/文）
- ◆31-a で書いたことは（今までロースクールに留学された人もいるでしょうから、その人達についての情報がほしい。人数、成績、行き先、出た後等を本当に知りたい。）法学部だけにやってほしいわけではなくて、国際交流センターにも是非やっていただきたい。（学部/法）
- ◆留学についての相談のサポート（学部/経）
- ◆留学経験者との積極的な交流が現在もあるが、回数を増やしてほしい。（学部/経）
- ◆学部、学科ごとに実際留学した人のコメントを聞きたい。（学部/医）
- ◆さらに細かく、具体的な情報を提示。実際に留学した人の金銭面を含めた経験談が聞きたい。（学部/医）
- ◆相談にのってほしい。（学部/農）
- ◆何に関しても「相談」すると、大抵の人は親切にも計画や動機についての粗探しの様なことをしてくれる。誰でもいいから元気の出る助言をしてもらいたい。（修士/農）
- ▲メーリングリストを機能させてほしい。（学部/農）

【経済的支援】

- ◆奨学金等経済的なサポート（学部/文）
- ◆奨学金はもう少しほしい。（学部/医）
- ◆お金とかのサポート（学部/医）
- ◆奨学金を取得する機会を増やしてほしい。（学部/工）

- ◆留学費免除（学部/農）
- ◆TOFEF の資金援助、留学への具体的手続きの説明（学部/無回答）
- ◇学費と様々な情報面（学部/工）
- ◇資金、手続きのサポート（博士/A・A 研）

【特になし】

- ◆特になし（学部/文）（学部/経）（学部/医）（学部/薬）（学部/工）
（学部/工）（学部/工）（学部/工）
- ◆特になし（修士/工）（修士/農）
- ◆特になし（博士/教育）（博士/工）
- ◇特になし（学部/文）（学部/文）（学部/法）（学部/工）（学部/工）
（学部/工）（学部/農）（学部/農）
- ◇なし（修士/工）（修士/工）

【その他】

- ◆手続きのサポート（学部/理）
- ◆授業時間外でのサポート（どうしても専門の授業の時間割とかぶってしまうので）（学部/医）
- ◆入りやすくしてください。（学部/農）
- ◆ML に入れてほしい。（修士/経営管理）
- ◇KUINEP でもっと生徒同士が交流できればよいと思う。（学部/工）
- ◇分からない。（学部/工）
- ◇そもそも国際交流センターの存在を知らなかった。影がうすいのではないか。（修士/地環）

問 33. 京都大学の留学支援体制への要望・意見があれば、ご自由にお書きください。

（問 38、問 47）

（回答率◆9.4%、◇2.3%、▲0.4%）

【情報に関するもの】

- ◆必要な成績の基準などもっと分かりやすくしてほしい。交換留学ができるのか、大学間協定があるだけなのか、よく分からないこともある。各大学についての情報も公用してほしい。（学部/総人）
- ◆学部在籍中に夏や春の休みを通じて参加できるプログラムがあるはずだが、日頃独立で調べるには限度があるので、そういう情報をぜひ紹介していただきたい。（学部/法）

- ◆研究分野ごとの詳しい派遣・留学先を示してほしい。(又、それぞれの詳しい情報)(学部/医)
- ◆・教員が留学をどんどん後押しできる体制を作してほしい。教育や留学に熱心な教員を援助してあげてほしい。・具体的な情報を提示してほしい。そのため、留学した学生からの情報収集を正確、適確に行い、開示してほしい。(学部/医)
- ◆留学先での体験や実状等をもっと公開してほしい。(学部/工)
- ◆もっと詳細な資料がほしい。(学部/工)
- ◆留学したい気持ちはあるが、忙しく、積極的に行動できないので、学科の掲示板などにもっと情報を貼り出してくれると嬉しい。(学部/工)
- ◆情報や枠からして、学部生にはあまり開かれていないように感じる。どう始めていいかわからない。誰に聞けばいいのかもよく知らない。つてがないと何もできないと思う。(学部/農)
- ◆留学情報が得にくいので、もっと一括した情報サイトを作してほしい。留学生課と学部で分かれている部分をもっと統合して分かりやすくしてほしい。(学部/農)
- ◆留学はまだ敷居の高いもののように思える。留学経験者の具体的な話等が聞ける場、もしくは冊子等があれば、不安も解消できそうな気がする。(修士/工)
- ◆あまり国際交流センターが行っている内容やその目的を理解していない人が多いと思う(私もその一人だが)ので、様々な所でもっとその存在をアピールした方がよいと思う。(修士/工)
- ◇全てにおいて説明や意欲が足りないと思う。そもそも、3年間いて、一人しか留学生と関わりのないような大学にいて、留学と言われてもピンとこないし、何の魅力も湧かない。(そのたった一人の留学生も普通に日本語の話せる東洋人なのでなおさらだ。)(学部/農)
- ◇希望するものだけでなく、興味がないものも、海外が苦手なものも思わず目をひくような仕掛けが足りないと思う。もっと学内で幅を効かせてほしい。(修士/地環)

【制度的サポート】

- ◆短期留学コースも作ってほしい。交換留学はハードルが高く、ある程度語学力のある人のためのもの。語学留学にも目を向けてほしい。私立大学にあって京都大学に無いのは残念だ。(学部/文)
- ◆留学制度を充実させてほしい。大学を通じての留学は費用が民間留学に比べ安く、学生にとってメリットがある。しかし、期間が長いものが多く、参加にはハードルが高い。例えば、短期交換留学(三ヶ月～六ヶ月)を充実させてほしい。あるのならば、もっと紹介していただきたい。もし、あれば、下記連絡先までお願いします。(学部/経)
- ◆留学中の単位が心配だ。(学部/理)

- ◆留学の手続きの際、英文での成績表や提出書類のフォーマットをもう少しフレキシブルに作成していただけたら、他の人も行きやすいかもしれないと思う。(学部/医)
- ◆夏休みなど長期休みの時の留学を支援(紹介)するようなシステムがあれば良いと思う。(現在の状況はあまり知らない)(学部/工)
- ◆行きたい大学と京大が提携しておらず、私費で留学した。そういう場合にも、何らかのサポート(単位とか)があつたら、留学する人はもっと増えるのではないか。(修士/教育)
- ◆夏休みなどの短期休暇を利用した留学制度があれば、良いと思う。(修士/工)
- ◇「留学」支援だけでなく、観光などを含めた海外渡航全般に範囲を広げてほしい。留学生センターから国際交流センターに変えになったものの、留学と名前がついている行事が多いため、単なる海外での学会発表や観光で海外渡航する者が「留学支援」を受けるのを躊躇してしまう。(修士/工)

【経済的支援】

- ◆より活発な奨学金制度の揭示などをしてほしい。(学部/文)
- ◆留学するためにはお金を能力がないと無理だと感じているため、留学したいという気持ちはあっても、行動を何か起こす前に飽きられてしまっている。留学したいと思っても、いざ留学するとなると、何をしたらいいのか全く分からないため、手も足も出ない状態である。かといって個人で旅行してもあまり得られるものは多くなく、(ただの観光になるため)できれば留学という学習の形で海外に行きたいが、自己の語学力や知識ではとうてい無理だと思っている。(学部/文)
- ◆奨学金制度がもっと充実するとよいと思う。収入の多い家庭でも、兄弟が多く、一人にあまりお金をかけられない場合がある。また、親にできるだけ負担をかけたくないので、留学を決心するのに二の足を踏むこともある。(学部/文)
- ◆可能であれば、さらなる金銭面の援助もしていただきたい。(学部/医)
- ◆留學費など、あと留学生との合同宿とかしてほしい。(学部/農)
- ◆TOFELの資金援助、留学への具体的手続きの説明(学部/無回答)
- ◇学費等のサポートがほしい。(学部/工)
- ▲京都大学から留学する学生に対する経済的な支援をもっと充実させてほしい。国際交流センターの方には親身になってくれるのでありがたい。(学部/農)

【語学学習のサポート】

- ◆イギリスの交換留学提携校をつくってほしい。英語Ⅰの授業だが、もう少し身近なところからはじめてほしい。というか、みにつく英語を教えてほしい。(学部/総人)

- ◆英語を話す、聞くことに不安があるので、まずは語学留学をと思ってしまう。大学に留学しても、語学力が伴わなければ、みじめ感がつるだけな気がする。できれば、語学→研究の二段階留学プランとか、学内での語学習得プログラム（できれば単位付）を用意してほしい。（学部/教育）
- ◆法学部はロースクールを目指す人（国Ⅰを目指す人）等は忙しく、語学学習意識を1、2年からもっていないと、留学は困難である。もっと広く公知してもよいと思う。（修士/法）

【特になし】

- ◆特になし（学部/文）（学部/経）（学部/経）（学部/経）（学部/理）（学部/工）
- ◆卒業後機会があればという程度の展望ですので、京都大学としての留学支援体制に特に意見はない。（学部/医）
- ◆体制のことを把握していないため、特に何とも言えない。（学部/薬）
- ◆現在、あまり留学をする気がないので、特に要望などはない。（学部/工）
- ◆特になし（修士/工）（修士/農）
- ◆特になし（博士/工）
- ◇特になし（学部/文）（学部/文）（学部/法）（学部/農）
- ◇なし（修士/工）
- ◇特になく、分からない。（修士/工）

【その他】

- ◆TOEFL、TOEIC で全然点が取れなくても、留学できるようにしてほしい。（学部/文）
- ◆これから利用していこうと思う。（学部/文）
- ◆もっと受け入れ先を増やしてほしい。（学部/経）
- ◆もっと留学生と京大生の交流が深まればいいと思う。（学部/経）
- ◆成績優秀者にかぎらず、もっと多くの生徒を留学させるべきであると思う。（学部/工）
- ◆僕の頭の中では（留学=+αの事柄）として受け取っている。海外での大学院における単位認定など、留学が自分の研究を進める上での気軽に選べる選択肢であればと思う。（学部/工）
- ◆もっとC群の語学を厳しくしてほしい。（学部/工）
- ◆留学させてください。（学部/医）
- ◆京都大学は日本でもトップの研究機関なので、留学先においてもその国でトップ、または世界に通用する研究機関で学びたい。留学中の単位認定や卒業、就職のフォローがないと留学したくても実行しにくい。（修士/工）

◆僕が留学を考えた一つのきっかけは「今の環境から逃げ出したい」というものだった。今のままなんとなく修士課程を出ても、何の特徴も身に付かないまま人生を終えてしまうのではないかととても恐ろしくなった。確かに外国で一旗上げたいという挑戦心も強いのだが、京都大学の中にいても特徴のある人間になれるならば外国に行かなくてもよいと思う。特徴のある人間になるには（少なくとも僕にとっては）四年では短すぎる。なのに、修士課程に入ってしまうえば何かの名目を付けて、ろくでもない研究をしなければならぬのだ。修士の単位なんていらぬから、とにかく勉強させてほしい。（ただ正規の課程を抜けてしまうと立場上不利になることが多くて困っている。）（修士/農）

◇留学した方の体験談とか知りたい。（学部/医）

◇もう十分力を入れていると思う。（学部/工）

▲留学に関して様々な不安というか不確定要素があるが、常に有益な情報を提供していただいているし、こちらが相談や質問もしやすいように接していただいていると感じている。（修士/工）

留学非希望者に対する設問

問 34_12. その他、留学したいと思わない理由があれば、具体的にお書きください。

(回答率 1.8%)

【経験あり】

◇経験済み（学部/工）

◇留学は十分充実した日々をすごしたので、留学という形で再び海外へ行こうとは思わない。（学部/工）

【他の形態】

◇研究で海外に行く場合があるので（修士/工）

◇調査として行きたいから。（博士/A・A研）

【不安】

◇言語の問題ではなく、外国で一人で生きられる気がしない。（学部/医）

◇会話の通じない場所に単身乗り込むことに不安（修士/工）

【その他】

◇広く研究の実態等を見てみたいが、自分の仕事として（将来的に続けるものとして）は違うと感じる。（学部/医）

◇必要性を今の所は感じない。(修士/教育)

◇得られるものが明確でない。(修士/工)

留学非希望者に対する設問

問 37_a. (問 37) 以外の目的で、国際交流センターを利用したことがあれば、具体的にお書きください。

→問 32_a を参照

留学非希望者に対する設問

問 37_b. 留学に関して、国際交流センターにサポートして欲しいと思うことがあれば、ご自由にお書きください。

→問 32_b 欄に記載

留学非希望者に対する設問

問 38. 京都大学の留学支援体制への要望・意見があれば、ご自由にお書きください。

→問 33 欄に記載

留学内定者に対する設問

問 39. どの国に留学しますか。国名をお答えください。

(回答率 2.7%)

留学先国	人数
カナダ	3
イギリス	3
アメリカ合衆国	1
オーストラリア	1
スウェーデン	1
フランス	1
台湾	1
イタリア	1
ドイツ	1
タイ	1
合計	14

留学内定者に対する設問

問 40_4. その他、留学先での身分を具体的にお書きください。 (回答率 0.8%)

【サマースクール】

▲サマースクールに参加 (学部/農) (学部/農)

【その他】

▲ポスドク (博士/生命研)

留学内定者に対する設問

問 41_a. 奨学金を受けるなら、奨学金名を具体的にお書きください。 (回答率 0.8%)

▲スカンジナビア・ニッポン・ササカワ財団からの助成金 (学部/経)

▲JASSO の短期留学 (第二種) (学部/農)

◆渡航費助成 (15 万円) (学部/文)

▲未定 (博士/生命研)

留学内定者に対する設問

問 42_20. その他、留学を決心するにあたって、重要であった要因があれば、ご自由にお書きください。 (回答率 0.2%)

▲研究テーマ (博士/農)

留学内定者に対する設問

問 43. 留学が決定するまでに、最も苦労したことはなんですか。具体的にお書きください。 (回答率 2.0%)

【手続き】

▲手続きの面倒くささで苦労した。 (学部/文)

▲Visa の手続きなどに必要な書類がすべて英語で、ニュアンスが分かりにくい文章などがあって苦労した。 (学部/経)

▲事務的手続き（ビザ申請）で苦勞した。（学部/医）

▲受け入れ先の大学（WATERLOO 大学）のアプリケーションのオンライン、記入、手続きで苦勞した。（修士/工）

【金銭面】

▲経済面で苦勞した。（学部/医）

【特になし】

▲特になかった。（学部/農）

【その他】

▲四年で卒業が可能か不可能か分からず、不安になった。（学部/文）

▲TOEFL iBT（学部/農）

▲ポスドクとして行くには論文が必要なので、論文をアクセプトしてもらうことで苦勞した。（博士/生命研）

留学内定者に対する設問

問 46_a.（問 46）以外の目的で、国際交流センターを利用したことがあれば、具体的にお書きください。

→問 32_a を参照

留学内定者に対する設問

問 46_b. 留学に関して、国際交流センターにサポートして欲しいと思うことがあれば、ご自由にお書きください。

→問 32_b 欄に記載

留学内定者に対する設問

問 47. 京都大学の留学支援体制へ要望・意見があれば、ご自由にお書きください。

→問 33 欄に記載

2008 年 11 月

京都大学 留学生の皆様

京都大学における留学生活に関するインタビュー調査へのご協力をお願い

本年の 6 月～7 月に国際交流センターが実施しましたアンケート調査「京都大学における留学生活に関する調査」にご協力くださりありがとうございました。

この度は、皆さんの本学における留学生活について、さらに詳しいお話を聞かせていただくために個別のインタビュー調査を計画しました。本学での皆さんの日常生活、本学での教育・研究活動などについて、現状と率直なご意見をお聞かせください。インタビュー調査の結果は、報告書及び学術論文として学内外に公開し、教育・研究環境の改善に役立てます。

インタビューにかかる時間は 30 分～1 時間ぐらいで、日時や場所は、皆さんと相談の上、決定します。このインタビュー調査は、先のアンケート調査に参加された留学生の中から、日常生活面での要望を記入され、且つ連絡先を提供してくださった方をお願いしています。

インタビューで得られたデータは、匿名で処理しますので、皆さんのプライバシーを侵害することは一切ありません。利害に関係することもあります。ご提供いただいた個人情報の管理につきましては、本学の基準を厳守します。

なお、皆さんのご承諾を得た上で、インタビューを録音させていただきます。録音された内容につきましても、上記の基準を遵守します。

以上の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

本調査に関するご質問やご意見は下記までお寄せください。

〒606-8501

京都市左京区吉田本町

京都大学国際交流センター

アンケート調査班（留学生インタビュー担当）

k52642+survey@sakura.kudpc.kyoto-u.ac.jp

電話：075-753-2569 (河合淳子研究室)

留学生向け「生活インタビュー」質問内容

0. 京都大学での所属、専門、身分

所属

専門

身分・回生

入学してから何年ですか／来日してから何年ですか。

1. 京都大学を留学先に選んだ理由は何ですか。

2. 留学生活を送る上で、不満や困っていること／これまでに困ったことはありますか。

3. 留学生活をめぐる経済状況についてお話しください。

1) 奨学金の状況と要望

2) 授業料免除の状況と要望

3) アルバイトの状況と要望

4) 住居の状況と要望

5) 来日前の貯金の有無と要望

6) 家族の経済的支援の有無と要望

4. 将来どのような進路をとりたいと考えていますか。

5. 国際交流センターや京都大学に望むことは何ですか。

インタビュー対象者について（留学生対象）

インタビュー内容	インタビュー 対象者※	学部・研究科	身分	取得希望 学位	文／理／ 融合系	出身地域
生活インタビュー	A	ウイルス研究所	研究生	博士	理系	アジア
	B	工学研究科	大学院生	博士	理系	アジア
	C	情報学研究科	大学院生	博士	融合系	アジア
	D	理学研究科	大学院生	博士	理系	アジア
	E	人間環境学研究科	大学院生	博士	理系	アジア
	F	工学部	学部生	博士	理系	アジア
	G	エネルギー科学研究科	大学院生	博士	理系	アジア
	H	人間環境学研究科	大学院生	博士	文系	アジア
	I	経済学研究科	大学院生	博士	文系	アジア
動機インタビュー	J	工学研究科	大学院生	博士	理系	アジア
	K	文学研究科	大学院生	博士	文系	中南米
	L	文学研究科	大学院生	博士	文系	アジア
	M	工学研究科	大学院生	博士	理系	中南米
	N	文学研究科	大学院生	博士	文系	欧州
	O	文学研究科	大学院生	博士	文系	アジア
	P	工学研究科	大学院生	博士	理系	アジア
	Q	工学部	学部生	博士	理系	アジア
	R	工学研究科	研究生	博士	理系	アジア
	S	工学研究科	ポス・ドク		理系	アジア
	T	工学研究科	大学院生	修士	理系	アジア
	U	文学研究科	大学院生	博士	文系	アジア
	V	文学研究科	大学院生	博士	文系	アジア
	W	文学研究科	大学院生	博士	文系	欧州

※順不同。各論稿では、本表とは別の番号を使用している。

2008 年 12 月

京都大学 学生の皆様

京都大学における国際交流と留学支援制度に関する
インタビュー調査へのご協力をお願い

京都大学国際交流センターでは本学の国際交流の推進と留学支援の充実を目指して、様々な調査を行っています。

その一環として、本年の 6 月～7 月にアンケート調査「国際交流と留学支援制度に関する調査」を実施しました。そして、今回はさらに詳しいお話を聞かせていただくために、京都大学学生の皆さんを対象としたインタビュー調査を実施することにしました。皆さんの海外経験・留学経験、留学希望、語学学習の状況、京都大学の留学支援体制への要望などについて、現状と率直なご意見をお聞かせください。

インタビュー調査の結果は、報告書及び学術論文として学内外に公開し、国際交流の推進及び留学支援の充実等に役立てます。インタビューにかかる時間は 30 分～45 分ぐらいで、日時や場所は、皆さんと相談の上、決定します。

インタビューで得られたデータは、匿名で処理しますので、皆さんのプライバシーを侵害することは一切ありません。利害に関係することもあります。ご提供いただいた個人情報の管理につきましては、本学の基準を厳守します。

なお、皆さんのご承諾を得た上で、インタビューを録音させていただきます。録音された内容につきましても、上記の基準を遵守します。

以上の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

本調査に関するご質問やご意見は下記までお寄せください。

〒606-8501

京都市左京区吉田本町

京都大学国際交流センター

アンケート調査班

(京大学生インタビュー担当：河合、野口)

k52642+survey@sakura.kudpc.kyoto-u.ac.jp

電話：075-753-2569 (河合淳子研究室)

日本人学生インタビュー項目

名前：

学年：

所属：

専門・専攻：

今後の進路について、進学か就職か、どちらを考えていますか。

（留学を考えている）：留学したいと考える一番大きな理由は何ですか？

（留学は考えていない）：留学したくないと考える一番大きな理由は何ですか？

外国語能力はどんな形で身につけましたか？

外国経験はいつ頃あったでしょうか？またどのような形態でしょうか？

周囲の人（家族・親類・友人など）に留学経験はありますか？ありませんか？

留学するとしたら（コミュニケーション面での）生活不安はありますか？ありませんか？

留学するとしたら学習・研究に対する不安はありますか？ありませんか？

子どものころの文化的な経験をおたずねします。

クラシックコンサートにつれていってもらったことはどのくらいありましたか？

習い事はどのような習い事をしていましたか？

あなたの人づきあいの仕方はどのような傾向がありますか。

大学側の留学サポートについて、どのようなサポートをしてほしいですか？

インタビュー対象者について（日本人学生）

インタビュー 対象者ID※	学部・研究科	学年	出身学部
J1	工学部	3回生	－
J2	総合人間学部	1回生	－
J3	文学部	4回生	－
J4	経営管理大学院	M2	他大学
J5	文学部	1回生	－
J6	農学部	4回生	－
J7	工学部	4回生	－
J8	工学部	2回生	－
J9	理学部	無回答	－
J10	情報学研究科	D1	農学部
J11	理学部	3回生	－
J12	農学部	3回生	－
J13	生命科学研究科	D4	理学部
J14	生命科学研究科	D2	理学部
J15	工学部	3回生	－
J16	生命科学研究科	D1	理学部

※J1-J5：アンケート回答者の中から選ばれた対象者

J6-J11：追加インタビュー調査の対象者

（詳しくは本報告書「調査の方法」を参照）

京都大学における国際交流の現状と発展に向けての問題提起
ー第3回アンケート・インタビュー調査報告書ー

平成20年度京都大学全学共通経費 I-2. 教育研究活動支援
「国際交流と留学支援体制に関する調査・研究」

2009年（平成21年）3月発行

編集 京都大学国際交流センター
アンケート調査班

発行 京都大学国際交流センター
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-2242

印刷 株式会社 田中プリント
TEL 075-343-0006

